

大阪公立大学

看護学部・大学院看護学研究科

2022 ～2024年度 年報



2026年2月

第1巻



大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

目 次

第1章	理念・目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1.	看護学部教育理念・教育目標	
2.	看護学研究科の教育目的・教育目標・教育理念	
第2章	教育研究組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
1.	教員組織	
2.	教員の採用	
第3章	教育研究組織の実施体制・・・・・・・・・・	11
1.	運営組織と委員会活動	
2.	管理運営・財政	
第4章	学生の受入・・・・・・・・・・・・・・・・・・	117
1.	入学者受入の方針	
2.	入学者選抜	
3.	入学試験運営委員会活動報告	
4.	入試広報	
第5章	教育課程における教育・学習活動・・・・・・・・	131
1.	カリキュラム・ポリシーとディプロマポリシー	
2.	教育課程の編成・授業科目の内容	
3.	教育内容と目標・評価方法	
4.	その他	
5.	臨地実習	
第6章	学生支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・	161
1.	学習支援	
2.	生活支援	
3.	就職支援	
4.	学生の安全管理の体制	
第7章	教育課程の評価と改革・・・・・・・・・・	176
1.	教育評価	
2.	雇用者・卒業生からの評価と改善	
3.	自己点検・評価システム	
4.	FD 活動	

第8章	研究活動・・・・・・・・・・・・・・・・	189
1.	研究体制及び支援	
2.	教員の研究活動	
3.	研究倫理委員会の活動	
第9章	地域貢献活動・・・・・・・・・・・・・・・・	192
1.	地域社会への貢献	
第10章	国際交流・・・・・・・・・・・・・・・・	200
1.	国際交流	

資料

大阪公立大学看護学部 大学院看護学研究科 教員業績一覧

第1章 理念・目的

1. 看護学部教育目的・教育目標

■看護学部教育目的

看護学部教育目的は、人々の生命と個人の尊厳を尊重できる豊かな人間性、看護学の専門的知識・技術と科学的根拠に基づいた適確な看護実践力、並びに保健医療福祉をめぐる社会の変化への柔軟な適応力を有し、看護と看護学の発展に寄与できる多様な強みを併せ持ち、全人的に人を理解し、倫理観をもって行動できる力、ケアをつなぎ適切な判断と課題解決能力をもって看護を実践する力、総合的な視野をもって看護を探究しながら自己を研鑽し、社会の変化に適応し、地域と国際社会に貢献する力を兼ね備えた看護職者となる人材を養成することである。

以上の教育目的は、大阪公立大学看護学部規程第179号第2条に示している。<https://srb08f9d7f3.legal-square.com/HAS-Shohin/jsp/SVDocumentView>

さらに学部要覧およびホームページに示し、学内外に広く周知している。<https://www.omu.ac.jp/nurs/>

また、教育目標は教育目的をふまえた教育実践により、卒業時には次のような能力を有し、看護職として広く社会に貢献できる人材を育成することと定められている。

■看護学部教育目標

- (1) 人間の生命の尊厳と価値観の多様性について深く理解し、幅広い教養とコミュニケーション力を身につけ、看護の対象となる人を生活者として全人的に捉える能力を養う。
- (2) 人々の権利を尊重し、看護職として倫理観をもって行動する能力を養う。
- (3) 看護に必要な知識と技術を修得し、科学的根拠に基づく適切な判断と課題解決能力をあわせ、看護を実践できる能力を養う。
- (4) 保健・医療・福祉・教育・地域など多様なフィールドにて、ケアの対象となる人々のニーズをふまえて、多職種とともにケアをつなぐ力を養う。
- (5) 看護学への関心を深め、必要な情報を自ら系統的に収集・分析する研究の基礎能力を修得し、社会で発展する看護を探究する力を養う。
- (6) 変化する社会の中で看護の役割と責務を展望し、社会の変化や医療技術の発展に対応でき、生涯にわたって自らのキャリアを発展させる能力を養う。
- (7) 地域と国際社会で活動し、貢献できる能力を養う。

2. 看護学研究科教育目的・教育目標・教育理念

■看護学研究科教育目的・目標

博士前期課程の教育目的は、人間の存在と生命の尊厳を深く理解し、広い視野に立ち、精深なる学識を深め、高い倫理観を持った変革者、リーダーとしての実践的能力、研究的能力を有する人材を育成することであり、教育目標を下記のとおり定めている。

- (1) 保健医療福祉に関する知を科学的に追及できる基礎的研究能力を養う
- (2) 保健医療福祉に関わる課題について地域性や個別性を考慮した分析能力を養う

- (3) 国際的な視点を持ち、研究成果を発信できる基礎的コミュニケーション力を養う
- (4) 保健医療福祉の課題に関わる社会現象や生体や行動に関するデータを分析・理論化し、活用する能力を養う
- (5) 保健医療福祉と看護を含むケアの課題を学際的な視点から、探求する思考力を養う
- (6) 看護に関わる現象を分析し、課題解決やエビデンス構築に向けて理論的に主体的に探究する能力を養う
- (7) 高い倫理観に基づき、関連する学問領域における知識や技術を高度な実践、看護管理や看護教育に適用する力を養う
- (8) 専門性の高い知識と技術に基づく看護ケアを提供するとともに、看護実践の質の向上を目指す改革を推進できる能力を養う

博士後期課程の教育目的は、豊かな学識を有し、看護学を含む保健医療福祉分野において学術的研究を推進し、その深奥を究め、高い倫理観を持ち、自立して研究活動を行い、看護学の知の創造に貢献できる能力を有する人材を育成することであり、教育目標を下記のとおり定めている。

- (1) 保健医療福祉の課題解決や看護学の発展に向けて、学際的に研究を推進できる能力を養う
- (2) 看護や関連領域の知識や高い倫理観に基づき、看護のエビデンスを実社会の中で、科学的に検証し、活用する方法を養う
- (3) 社会の変革に向けて、保健医療福祉、教育において新たな価値を創造し、施策などへ参画できる変革者としてのリーダーシップを養う
- (4) 研究成果をグローバルに発信できるコミュニケーション能力を養う

看護学研究科の教育目的は大阪公立大学大学院看護学研究科規程に示し、研究科要覧に示して周知している。また、教育理念を下記のとおり定めている。

(規程第195号第2条:<https://srb08f9d7f3.legal-square.com/HAS-Shohin/jsp/SVDocumentView>)

■看護学研究科の教育理念

生命と人権の尊重を基盤とし、保健医療福祉および社会の諸変化に対して人々のクオリティ・オブ・ライフ (QOL) を志向した創造性豊かな実践や研究をけん引できる実践者、研究者、教育者を育成し、看護学および地域の発展と国際社会に貢献する。

また、学びの特徴として高度先進医療の推進や大阪の健康長寿社会を支えるヘルスケアサポート人材の養成、保健・医療・福祉における革新的な研究の発信をめざし、1. 人々の健康と QOL を守り、2. 保健医療福祉に寄与することをめざし、3. 科学的、創造性、学際的視点に基づく研究力を培い、4. 高度な専門知識と技術に基づく自律的、創造的な実践力を備えた人材を養成している。(<https://www.omu.ac.jp/nurs/>)

第2章 教育研究組織

1. 教員組織

1) 学士課程の教員組織

看護学部 of 学士課程は学則に則って遂行され、教員は大学設置基準第7条に基づき確保している。

(<https://elaws.jp/view/331M50000080028>)

2024年10月1日現在、専任教員数69名（教授25名、准教授18名、講師24名、助教2名）で教育課程を遂行している。教員数、教員配置については、ホームページ上で公表している。

教員間の組織的な連携体制は、教育に係わる授業科目毎の担当者と責任者は、教務委員会、教授会を経て毎年度決定されシラバスに明示している。教員組織は学生自らの志向で選択可能な2つのコース（領域）で構成され、教育研究を推進している。各コース（領域）の教育課程上のコンセプトは次の通りである。先進ケア科学コースではケア科学の創造を追求し、研究のコンピテンシーの開発を基本コンセプトとしている。また、実践看護科学コースでは科学的なエビデンスを踏まえた看護実践を追求し共創的看護を基本コンセプトとして多様な場で確かな看護を実践できる力を養うコースになっている。

看護学部 of 教員は、専門性に基づき各領域に配置されて教育にあたっており、各々が研究と実践から培った能力を発揮するように構成されている。したがって、学士課程における教育研究の目的を達成する上で適切なものとなっている。

2) 大学院課程の教員組織

看護学研究科においては、大学院設置基準第3章に基づき、博士前期課程は59名、博士後期課程は42名の研究指導教員を確保している。なお大学院担当教員は、ホームページ上で公表している。

看護学研究科では、多様化、複雑化、高度化する社会環境の中で、生命と人権の尊重を基盤として、看護に求められる社会的使命を遂行し、看護学を実践的・創造的に発展させ、地域社会及び国際社会のあらゆる健康レベルの人々に貢献できる高度な看護分野の実践者、管理者、教育者、研究者育成するという大学院設置の趣旨・目的に基づいて、幅広い看護の領域を学修できるように専攻を構成している。

博士前期課程では、研究的取り組みを志向する修士論文コースと多様な側面から看護実践の質の向上を図ることに貢献する実践看護研究コースを置いている。修士論文コースでは研究的取り組みを志向することを目的として先進ケア科学領域と実践看護科学領域がある。先進ケア科学領域では看護師の資格保有の有無に関わらず、学際的に探究する思考力を有する人材を育成し、実践看護科学領域では、看護師の資格取得者を対象に主に看護に関わる事象を分析し理論的に探究できる能力を有する人材を育成している。

また、実践看護科学領域では家族看護学・小児看護学・精神看護学・老年看護学・在宅看護学・急性看護学・慢性看護学・がん看護学・感染看護学の9分野で専門看護師（CNS）コースを開設しており、看護管理学分野では看護管理実践者養成コース、看護教育学分野では看護教育者養成コースを開設している。

博士後期課程では、豊かな学識を有し看護学を含む保健医療福祉分野において学術的研究を推進し、その深奥を究め高い倫理観を持ち自立して研究活動を行い看護学の知の創造に貢献できる能力を有する人材を育成する。そのため専門領域を先進ケア科学領域には10分野、実践看護科学領域には4分野の多様で専門性の高い分野を配置している。

2. 教員の採用

1) 教員の選考方針・基準

大学の設置目的及び教育理念に基づき、教員の任期制、公募制及び外国人の兼任教員の確保が導入されており、教員組織の活動をより活性化するために、多様で透明性を確保した教員採用の措置をとっている。

看護学部教員の専任教員数、担当領域別専任教員数、男女構成等については、資料2-2-1～資料2-2-8に示す通りである。看護学部では、外国人教員1名を採用している。教員の採用に関しては任期制及び公募制を導入している。本学教員の任期に関する規程に基づき、任期制は助教の採用に適用し、任期は5年としている。

公募制は、本学教員人事規程に基づき、全教員の採用に適用している。公募方法は資格、経験年数等の条件を明示し、本学ホームページ、研究者・人材データベース JREC-IN を活用している。

教員の採用に関する事項は、本学教授会等規程 (https://www1.g-reiki.net/upc-osaka/reiki_honbun/u325RG00200535.html#e000000015) に基づき、教授会で審議し、公立大学法人大阪教員の人事に関する規程に基づき人事委員会で審議する。教育研究上の指導能力について審査を行い、本学教員選考基準により教員を選考している。具体的には、履歴書、教育研究業績書、主要な著書または論文、及び採用後の専門分野の研究と教育に対する方針等の書類審査、面接・プレゼンテーションにより評価する。

職位別専任教員数

資料2-2-1 看護学科の専任教員数 (名)

年度	教授	准教授	講師	助教	合計
2024	25	18	23	2	68
2023	25	21	21	2	69
2022	25	22	22	2	71

資料2-2-2 上記における看護実務経験を有する者の内数 (名)

年度	教授	准教授	講師	助教	合計
2024	23	17	23	2	65
2023	23	20	21	2	66
2022	23	21	22	2	68

資料 2-2-3 担当領域別専任教員数

2024 年度

領域	大分野	小分野	教授	准教授	講師	助教	合計
実践看護科学	基礎看護科学	看護技術学	1	1	2	0	4
		看護情報学	1	1	0	0	2
		看護管理学	1	1	0	0	2
		看護教育学	1	0	1	0	2
	看護科学 家族支援	母性看護・助産学	1	2	2	0	5
		家族看護学	1	0	1	0	2
		小児看護学	1	0	2	0	3
	看護科学 生活支援	地域看護学	1	1	3	0	5
		精神看護学	1	1	0	1	3
		老年看護学	1	1	2	0	4
		在宅看護学	1	1	2	0	4
	看護科学 療養支援	急性看護学	1	1	1	0	3
		慢性看護学	1	1	1	0	3
		がん看護学	1	1	1	0	3
		感染看護学	1	0	0	1	2
先進ケア科学	ケアシステム科学	ヒューマンケア科学	0	2	1	0	3
		療養ケア科学	1	0	1	0	2
		子ども・家族ケア科学	1	0	1	0	2
		地域包括ケア科学	1	0	1	0	2
		ヘルスプロモーションケア科学	1	0	0	0	1
	生体行動ケア科学	がん包括ケア科学	1	0	1	0	2
		高齢者生活行動ケア科学	1	1	0	0	2
		ウィメンズヘルスケア科学	1	1	0	0	2
		精神行動ケア科学	1	1	0	0	2
		健康支援基礎科学	2	1	0	0	3
		一般教養					0
		専門基礎					0
		合計	25	18	23	2	68

2023 年度

領域	大分野	小分野	教授	准教授	講師	助教	合計
実践看護科学	基礎看護科学	看護技術学	1	1	2	0	4
		看護情報学	1	1	0	0	2
		看護管理学	1	1	0	0	2
		看護教育学	1	1	1	0	3
	看護科学 家族支援	母性看護・助産学	1	3	2	0	6
		家族看護学	1	0	1	0	2
		小児看護学	1	0	1	0	2
	看護科学 生活支援	地域看護学	1	1	3	0	5
		精神看護学	1	1	0	1	3
		老年看護学	1	1	2	0	4
		在宅看護学	1	1	2	0	4
	看護科学 療養支援	急性看護学	1	1	1	0	3
		慢性看護学	1	1	1	0	3
		がん看護学	1	1	1	0	3
		感染看護学	1	0	0	1	2
先進ケア科学	ケアシステム科学	ヒューマンケア科学	0	2	1	0	3
		療養ケア科学	1	0	1	0	2
		子ども・家族ケア科学	1	0	1	0	2
		地域包括ケア科学	1	1	0	0	2
		ヘルスプロモーションケア科学	1	0	1	0	2
	生体行動ケア科学	がん包括ケア科学	1	0	0	0	1
		高齢者生活行動ケア科学	1	1	0	0	2
		ウィメンズヘルスケア科学	1	1	0	0	2
		精神行動ケア科学	1	1	0	0	2
		健康支援基礎科学	2	1	0	0	3
		一般教養					0
		専門基礎					0
		合計	25	21	21	2	69

2022 年度

領域	大分野	小分野	教授	准教授	講師	助教	合計
実践看護科学	基礎看護科学	健康科学	1	0	0	0	1
		看護技術学	1	1	2	0	4
		看護情報学	1	1	0	0	2
		看護管理学	1	1	0	0	2
		看護教育学	1	1	1	0	3
	看護科学 家族支援	母性看護・助産学	1	3	2	0	6
		家族看護学	1	0	1	0	2
		小児看護学	1	1	1	0	3
	看護科学 生活支援	地域看護学	1	1	3	0	5
		精神看護学	1	1	0	1	3
		老年看護学	1	1	2	0	4
		在宅看護学	1	1	2	0	4
	看護科学 療養支援	急性看護学	1	1	1	0	3
		慢性看護学	1	1	1	0	3
		がん看護学	1	1	1	0	3
		感染看護学	1	0	0	1	2
先進ケア科学	ケアシステム科学	ヒューマンケア科学	0	2	1	0	3
		療養ケア科学	1	0	1	0	2
		子ども・家族ケア科学	1	0	1	0	2
		地域包括ケア科学	1	1	0	0	2
		ヘルスプロモーションケア科学	1	0	1	0	2
	生体行動ケア科学	がん包括ケア科学	1	0	1	0	2
		高齢者生活行動ケア科学	1	1	0	0	2
		ウィメンズヘルスケア科学	1	1	0	0	2
		精神行動ケア科学	1	1	0	0	2
		健康支援基礎科学	1	1	0	0	2
		一般教養					0
		専門基礎					0
		合計	25	22	22	2	71

資料 2-2-4

2024 年度

	教授	准教授	講師	助教	合計	比率
70 代以上	0	0	0	0	0	0.0%
60 代	14	2	0	0	16	23.5%
50 代	9	7	3	0	19	27.9%
40 代	2	8	17	2	29	42.6%
30 代	0	1	3	0	4	5.9%
20 代	0	0	0	0	0	0.0%
合計	25	18	23	2	68	100.0%

専任教員の定年年齢：（ 65 歳）

2023 年度

	教授	准教授	講師	助教	合計	比率
70 代以上	0	0	0	0	0	0.0%
60 代	9	2	0	0	11	15.9%
50 代	14	10	2	0	26	37.7%
40 代	2	8	15	1	26	37.7%
30 代	0	1	4	1	6	8.7%
20 代	0	0	0	0	0	0.0%
合計	25	21	21	2	69	100.0%

専任教員の定年年齢：（ 65 歳）

2022 年度

	教授	准教授	講師	助教	合計	比率
70 代以上	0	0	0	0	0	0.0%
60 代	7	2	0	0	9	12.7%
50 代	16	10	2	0	28	39.4%
40 代	1	9	15	1	26	36.6%
30 代	1	1	5	1	8	11.3%
20 代	0	0	0	0	0	0.0%
合計	25	22	22	2	71	100.0%

専任教員の定年年齢：（ 65 歳）

資料 2-2-5 年度別看護学部 教員 男女構成

2024 年度

	教授	准教授	講師	助教	合計	比率
女性	22	15	20	1	58	85.29%
男性	3	3	3	1	10	14.71%

2023年度

	教授	准教授	講師	助教	合計	比率
女性	22	19	18	1	60	86.96%
男性	3	2	3	1	9	13.04%

2022年度

	教授	准教授	講師	助教	合計	比率
女性	22	20	19	1	62	87.32%
男性	3	2	3	1	9	12.68%

資料2-2-6 専任教員の充足率（名）

	2024年度	2023年度	2022年度
専任教員定数 ¹⁾ A	71	71	71
専任教員数 B	68	69	71
専任教員充足率 ² B/A*100(%)	95.80	97.20%	100.00%

資料2-2-7 専任教員一人当たりの学生数（名）

看護学部

	2024年度	2023年度	2022年度
専任教員数 A	68	69	71
学生数 B	665	680	694
専任教員一人当たりの学生数 B/A	10.20	10.10	10.20

看護学研究科

	2024年度	2023年度	2022年度
専任教員数 A	62	66	68
学生数 B	150	132	116
専任教員一人当たりの学生数 B/A	2.42	2.00	1.71

資料2-2-8 臨床教員数（名）

2024年度	2023年度	2022年度
41	37	29

2) 昇任の基本方針・基準

教員の昇任に関しては、本学教授会等規程に基づき、教授会で昇任の基準を決定し、選考委員会により昇任の是非を審議する。教育研究上の指導能力について審査を行い、本学教員選考基準により教員を選考している。

具体的には、履歴書、教育研究業績書、主要な著書または論文、及び採用後の専門分野の研究と教育に対する方針等の書類審査、面接・プレゼンテーションにより評価している。昇任の決定は、本学人事委員会規程に基づき人事委員会で審議される。

3) 教育支援者 特任教員 実習サポート

特任教員・教育支援者・実習サポートは、前年度に各小分野の申出と教育の質の担保から人事課と共有し必要な時間数を確保している。各分野からの雇用の申出により、教務委員会、教授会の承認を得て特任教員・教育支援者・実習サポートの採用をしている。

看護学科の特任教員数

年度	教授	准教授	講師	助教	実習 サポート	合計
2024	0	2	7	2	2	13
2023	0	0	8	2	2	12
2022	0	0	7	3	2	12

第3章 教育研究組織の実施体制

1. 運営組織と委員会活動

1) 審議機関（教授会）の構成

教育活動に係る重要事項を審議するために、教授会を最高意思決定機関と位置づけ、その下に教育活動に係る重要事項を審議するための委員会を設置している。各委員会は定期的に会議を開催し、それぞれの分掌事項を効率的に検討し、円滑に審議を進めている。

教授会は、教育課程の編成に関する事項、学生の入学、卒業又は課程の修了、学位の授与、学生の支援及びその身分に関する事項、教員人事に関する事項、教育又は研究に関する重要事項について審議する。教授会の下に教務委員会、臨地実習委員会、学生委員会等を設け、教育活動が円滑に行われるための必要な活動を行っている。資料3-1は看護学部・看護学研究科の運営組織図である。

教務委員会、臨地実習委員会、学生委員会等は毎月1回の定例の会議を開催している。特に、教務委員会では、教育課程に関すること、履修に関する規程の制定及び改廃に関すること、教育の実施及び運営に関することなどについて、臨地実習委員会では、教育の中の臨地実習の運営に関する事項を中心に、また学生委員会では、学生の相談・支援・福利厚生等に関する事項について検討し、その検討結果は教授会で報告し、重要事項については更に教授会で審議し、決定している。

2) 委員会規程・活動状況（活動報告）

看護学研究科・看護学部の委員会規程はその委員会に関し必要な事項をそれぞれ定めている。

(別紙参照)

委員会に於ける活動状況（活動報告）は年度ごとにまとめている。

各年度の活動概要

大阪公立大学 2024 年度

委員会名	学生委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 学生の休学、退学、復学、除籍に関すること。 (2) 学生の表彰及び処分に関すること。 (3) 学生の生活指導に関すること。 (4) 学生の福利厚生に関すること。 (5) 学生相談に関すること。 (6) その他学生生活に関すること。
活動概要	【第1回】2024 年 4 月 23 日（火）14 時～、遠隔会議(Teams) 1. 2024 年度学生委員会について 2. 2024 年度学生委員会年間スケジュールについて 3. 学籍異動について 4. 阿部野キャンパスにおける学生生活について 【第2回】2024 年 6 月 18 日（火）14 時～、遠隔会議(Teams) 1. 新学舎院生室使用上の取り決めについて 2. 現看護学舎（阿部野キャンパス）の利用時間について 【第3回】2024 年 9 月 19 日（木）10 時～、遠隔会議(Teams) 1. 学籍異動について 2. 課題のある学生に係る情報共有について 3. 大学院生スペースの使用について 【第4回】2024 年 11 月 22 日（金）14 時～、遠隔会議(Teams) 1. 大学院生スペースの使用について 2. 学部生の学生生活における諸注意(案) について 3. 教学アセスメントリストにおける年次点検評価報告について 【第5回】2025 年 1 月 21 日（火）14 時～、遠隔会議(Teams) 1. 大学院生スペースの使用について 2. 学部生の学生生活における諸注意(案) について 3. 2024 年度大阪府助産師会会長賞に表彰候補者の推薦について（依頼）
来年度の課題	課題を抱える学生に係る情報共有の在り方については、全学の動きに沿って慎重に検討する必要がある。これと関連して、アドバイザー制度については、状況に合わせて柔軟に検討し定着させる必要がある。

委員会名	FD 委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 教員の教育内容・授業方法の改善に関すること (2) 教員の教育・研究能力の向上に関すること (3) 教育・研究活動の評価の実施に関すること
活動概要	看護学部 FD 研修会として「看護教育カリキュラムの動向と改善に向けた取り組み」(参加者 68 名)、ならびに FD カフェ (Education Cafe) を 4 回実施した。詳細は、教育改革委員会宛に提出した。2024 年度部局 FD 活動報告は (P. 183～P. 184 参照) のとおりである。
来年度の課題	・教学アセスメントは、学部・大学院の評価であるため、FD 活動を実施する FD 委員会ではなく、部局評価委員会の所管事項と考える。そのため、部局評価委員会の構成員は、教務委員会、学生委員会、入学試験運営委員会等の委員長とこれらに関わる事務担当者であってほしい。 ・今年度から開始したエデュケーション・カフェはこれまでにない新鮮な取り組みであり、教育に関する情報を教員間で共有できることから、次年度も継続することが望ましい。

委員会名	入学試験運営委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 入学者選抜方法の基本方針・重要事項に関すること。 (2) 入学者選抜方法の実施・運営に関すること。 (3) 入学者選抜試験問題の作成及び採点に関すること。 (4) その他入学者選抜に関すること。
活動概要	第1回 (4/17) 審議事項：2024 年度委員の役割分担について 2025 年度大学院学生募集要項（第2校）について 2024 年度委員会予算について 2024 年度委員会開催日程について 報告事項：2025 年度看護学部研究科入試日程について 2025 年度看護学研究科入試の事前面談について 看護学部入試実施状況について 2023 年度委員会報告について(参考) 第2回 (5/22) 審議事項：大学院入試第1次募集に係る問題作成依頼及びスケジュール 2025 年度入学者選抜要項について 2025 年度学校推薦型選抜学生募集要項について 2025 年度私費外国人留学生特別選抜募集要項について 報告事項：入試関係業務の従事に関する申し合わせ事項について（参考） 入試評価部会 （入試分析の追加報告、入試アセスメントのアンケート実施） 学部入試（英語）解答確認委員の選出について 大学院入試（英語）問題作成委員の選出について 第3回 (6/19) 審議事項：看護学研究科入学者選抜試験に関する申し合わせ 及び口述試験要領の改正について 2025 年度大学院入試実施要領（案）について 研究科の入試アセスメントについて 第4回 (7/17) 審議事項：看護学研究科入学者選抜試験に関する申し合わせの改正について 2025 年度大学院入試実施要領（案）について 報告事項：学部の入試アセスメントについて（アンケート結果集計） 2024 年度大学院入試出願資格審査（6/24～28 書面審議）について 2024 年度大学院第1次募集出願登録状況（7/10～17 消印有効） 第5回 (8/7) 審議事項：助産師および保健師資格取得プログラム追加合格者決定手順

	博士前期課程特別選抜の書類採点者及び採点日時について 報告事項：2024 年度第 3 回入試推進本部会議（7/24 開催）について 2025 年度大学院入試実施要領（確定版）について 第 6 回（9/18） 審議事項：2024 年度大学院入試実施要領について【第 1 次募集からの修正点】 大学院第 2 次募集に向けた Web サイト掲載案について 大学院第 2 次募集に向けた作業スケジュール、問題作成依頼について 報告事項：2023 年度入学者の入試アセスメントについて （入試推進本部への回答案） 2024 年度入学者の入試アセスメントについて （大学院の新入生アンケート等） 第 7 回（10/16） 審議事項：2025 年度大学院入試実施要領（案）について 2025 年度学校推薦型選拔出願書類評価の運用について 2026 年度大学院入試の運営にかかる課題事項について 学生募集要項（一般選抜）及び個別学力検査等実施要領における訂正依頼箇所について 院生獲得のための提案について 第 8 回（11/20） 審議事項：2025 年度学校推薦型選抜の運用（12/26 実施）について 2026 年度大学院学生募集要項の周知事項について （認定看護管理者等） 本年度入試における大学院第 3 次募集の実施有無について 報告事項：2025 年度学校推薦型選抜の志願状況、採点委員数について 2025 年度大学院入試出願資格審査結果（10/22-28 書類審査） 2025 年度大学院入試出願状況（11/5-8 消印有効） 2025 年度大学院博士前期課程入試第 2 次募集（11/30 実施）の担当者配置について 第 9 回（12/18） 審議事項：本年度入試の従事依頼・実施要領の配付方法について 2025 年度大学院入試実施要領（2/8 実施）について 2026 年度大学院学生募集要項の周知事項について （認定看護管理者等） 報告事項：2025 年度大学院入試第 3 次募集の実施スケジュール、作問依頼について 看護学研究科第 2 次募集時に発生した問題訂正について 看護学研究科入試アセスメント調査結果の再提出について

	第10回 (1/22) 審議事項：2026 年度看護学研究科入試日程について 2026 年度大学院学生募集要項の周知事項について (認定看護管理者等) 2026 年度大学院学生募集要項案（初稿）について 2025 年度一般選抜前期日程実施要領（2/25 実施）について 報告事項：大学院入試アセスメント（2023 年度入学生）にかかる追加提出資料について 2025 年度私費外国人留学生特別選抜状況（12/26 必着）について 一般選抜受験上の配慮申請について 入試運営委員会の予算執行について 第11回(2/5) 審議事項：2026 年度大学院学生募集要項案（第2稿）について 2025 年度一般選抜前期日程試験実施要領（2/25 実施）について 2025 年度一般選抜後期日程試験実施要領（3/12 実施）について 報告事項：一般選抜受験上の配慮申請について 大学院入試第3次募集出願状況（1/28 消印有効）について 一般選抜出願状況（2/5 時点）について 第12回(2/19) 審議事項：2025 年度一般選抜後期日程試験実施要領（3/12 実施）について報告事項：大学院学生募集要項（分野紹介）について 大学入学共通テストの振り返り意見について 2024 年度の主な活動 ・学部・大学院の入試運営業務の検討と見直しを行い、随時修正を加えながら、学部と看護学研究科大学院の入試を実施した。 ・認定看護管理者認定審査受験資格要件の変更に伴い、募集要項を検討した。 ・博士前期課程修了後に取得できる資格を募集要項にわかりやすく記載することを検討した。
来年度の課題	【学部入試】 ・共通テストの責任学部となることから、十分な準備と適切な運営 【大学院入試】 ・「修士論文コース」と「実践看護研究コース」について確認 (修士論文と課題研究の違いの明確化)

委員会名	入試広報委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 入試広報に係る基本方針の策定に関すること。 (2) パンフレット、ホームページの作成に関すること。 (3) オープンキャンパスの企画立案に関すること。 (4) その他入試広報活動に関する必要な事項
活動概要	委員会は7回開催した（4/18、5/15、6/14、9/18、11/26、1/22、3/14）。 I. 広報行事 1. 大学院入試説明会 〔実施状況〕 1次募集に向けて、第1回大学院入試説明会を5/25（土）に阿倍野キャンパスにおいて対面で実施した。2次募集に向けては、第2回大学院入試説明会を9/28（土）にオンラインで実施した。各回のチラシ作成・配布、看護学研究科HP お知らせ掲載、大学院の概要・入試説明資料（PPT）作成、事前受付及び運営を担当した。 〔結果・評価〕 第1回説明会は98名（博士前期課程89名、博士後期課程9名）、第2回説明会は25名（博士前期課程24名、博士後期課程1名）であった。第1回説明会は想定を上回る参加者数であった。アンケート結果では、第1回、第2回ともに参加者は大学卒業または在学中の者、20～30歳代が多く、説明会の内容への満足度は高かった。 2. オープンキャンパス 〔実施状況〕 8/9（金）に看護学舎（B棟）、スキルスシミュレーションセンタ（SSC）および阿倍野医学図書館で実施した。2023年度（土・日開催）の参加者数、教職員や警備員の勤務日等を考慮し、今年度は平日1日の開催とした。 企画内容（定員と回数）は、看護学部説明会（150名/回 午前と午後の2回）、説明会・学舎見学・相談会（180名/回 午前と午後の2回）、SSC企画・阿倍野医学図書館見学（45名/回 午後4回）で、定員合計840名とした。 〔結果・評価〕 看護学部説明会275名、説明会・学舎見学・相談会318名、SSC企画・阿倍野医学図書館見学113名 合計706名であった。 アンケート結果では、内容に「興味をもてた」との回答がほとんどで、自由記載では「わかりやすかった」「模擬授業がよかった」「学生による相談会が参考になった」「体験がよかった」等の意見が記載されていた。 今年度の参加者数は2023年度より減少したが、参加者の満足度は維持でき、教職員等の負担は軽減できたと考える。来年度は看護学部C棟（新学舎）での実施となるため、改めて実施方法の検討が必要である。

	3. 高校ガイダンス・進学相談会 入試課より依頼のあった案件に対し、入試広報重点校の依頼は原則として参加とし、その他の高校からの依頼や進学説明会については、受験・入学実績や参加校の状況等を踏まえて参加の可否を決定し、積極的に広報活動に取り組んだ。入試広報活動担当者順番表に基づいて担当者を決定した。 〔参加実績〕 高校ガイダンス 5校 進学相談会 3回 Ⅱ. 広報用資料等の作成・修正 1. 高校訪問等で使用する資料の修正 高校訪問等で使用するスライド（PPT）の内容について、確認・修正を行った。 2. 看護学部案内冊子（パンフレット）2026 の作成 新カリキュラムの検討に合わせて大幅な改訂作業を行った。具体的には、研究科長メッセージ、カリキュラムの特徴や教育課程、キャンパスと看護学部棟の写真と説明、実習施設の図、大学院進学を図等を検討した。なお、4月に新学舎で撮影する講義風景等の写真を掲載し、5月に修正完了とする予定である。 3. 看護学研究科案内冊子（パンフレット）2026 の作成 看護学研究科の教育・研究組織の検討に合わせて大幅な改訂作業を行った。具体的には、各分野の特色、各分野HPや各種制度および募集要項等に接続するQRコード、キャンパスと看護学部棟の写真と説明等を検討した。なお、4月に新学舎で撮影する講義風景等の写真を掲載し、5月に修正完了とする予定である。 4. 大学院入試案内チラシの作成 大学院入試説明会の案内チラシを作成し、HPでの広報などに使用した。 5. 大阪公立大学案内冊子 2026 の作成 広報課からの依頼により、大学案内冊子の在学生メッセージ、看護学部・看護学研究科ページについて、新カリキュラムの検討に合わせて大幅な改訂作業を行った。在学生メッセージは新カリキュラム1コースに合わせて変更を検討した。看護学部ページは、新カリキュラムに対応した教育課程の図、実習施設の図を新規に作成、看護学研究科の説明を修正、掲載写真の差し替え等を検討した。なお、2025年4月に新学舎での講義等を撮影した写真を掲載し、修正完了とする予定である。 Ⅲ. HP 管理 広報課からの依頼により、大学HPにトピックスとして新たに設ける看護新棟完成ページの文案等を作成した。既存のページ内容や各イベント情報の掲載や更新を行った。具体的には、トップページの写真、教員一覧、就職・進路、オープンキャンパスの開催案内・報告や大学院説明会の開催案内等の学部・研究科の行事、受賞情報等のお知らせ

	等を検討した。なお、2025 年 4 月に新学舎での講義等を撮影した写真を掲載する予定である。
来年度の課題	1. 大学院入試の広報活動の強化 博士前期課程について、助産師と保健師の資格取得プログラムに加え、2026 年度からは全分野で認定看護管理者認定審査受験資格の取得可能、キャンパス集約による阿倍野キャンパスの利便性等の情報更新と周知に努め、広報活動の強化をはかる。 2. オープンキャンパスの充実 2025 年度のオープンキャンパスは、内容は新カリキュラムに基づき、実施場所は新学舎となるため、実施計画を大幅に見直す必要がある。なお、引き続き、参加者数の増加を目指し、参加型の体験・見学等企画の充実をはかる。 3. 看護学部・看護学研究科 HP の管理および充実 2025 年 4 月には大学 HP のトピックス看護新棟完成ページの確認、看護学部・看護学研究科ページの写真の更新等を行い、見やすく充実した HP を目指す。 4. 看護学部カリキュラム変更等の周知 看護学部の新カリキュラムをわかりやすく周知できるよう、詳細が決まり次第、必要に応じて広報行事や広報用資料等の内容を検討する。

委員会名	教務委員会
目的	委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。 (1) 学生の休学、退学、復学、除籍に関すること。 (2) 教育課程に関すること。 (3) 履修に関すること。 (4) 教育の実施及び運営に関すること。
活動概要	12回の委員会、随時のメール会議を開催し、下記の内容について実施した。 1. 退学、休学に関する申請者の確認 2. 時間割の作成 - 時間割作成フロー及び作成時の取り決めに従い、学部と大学院の授業と定期試験日の時間割を作成した。 3. 履修説明会、コース選択説明会の実施及びコース決定の審議 - 学部新入生に対して、入学時オリエンテーションを行い、全学年に関して9月（後期履修説明会）と、3月（前期履修説明会）をZoomにて実施した。研究科新入生に対しては4月に入学生オリエンテーションを実施した。2025年の学部・大学院の新入生オリエンテーションを企画した。 - 学部のコース選択については、1年次生に対しては、2月に2コースの特徴について動画による説明会を実施し、質問に対応した。2年次生に対しては前期に希望調査を行い、手順に従いコース決定案を作成し、教授会に提出した。 4. 既修得単位認定等各種履修申請に関わる審議 - 既修得単位の認定や学士・修士一貫プログラム、研究生の期間延長、長期履修申請者について審議し、結果を教授会に提出した。 5. 学部研究科目の分野履修学生の決定と提出論文に関する審議 - 学部2コースの研究科目の分野決定方法について確認、審議し、履修学生を決定した。また、卒業論文の作成要領や保管について審議した。 6. 履修要覧の見直し、修正 - 学生やカリキュラム運用の現状をふまえ、必要事項を加筆、修正した。 - 学部、研究科においての学校感染症等への授業、演習時の取り扱いについて看護学部、看護学研究科の方針を決定し、要覧等へも反映させた。 - また生成AI活用時の留意事項など検討し、要覧への加筆を行った。 7. 博士前期、後期課程修了者の修了判定案の作成、教授会への提出

	8. 教学アセスメント（教務委員会担当部分）の実施 学部、研究科の成績評価ガイドラインに基づき、2023 年度後期科目、2024 年度前期科目の GPC データに基づく評価を行い、教授会で報告した。また、授業担当教員と GPC 結果の学内ストレージ上で共有し、授業内容や評価方法などを改善できるよう対応した。 9. 全学の方針に基づく教学に関する活動の実施 全学教務委員会より依頼のあった看護学部、看護学研究科の教務依頼事項への回答について審議した（転学部・転学域の実施、副専攻も新規開設、他学部・他研究科学生が履修できる科目や大学コンソーシアム大阪への提供科目等）。また科目等履修生についての要項を見直し、募集を行った。 10. 非常勤講師、教育支援員任用および臨床教授、臨地実習教授等についての審議 規程や申し合わせに基づき申請者に係る確認、審議を行った。 11. TA に関する予算の要望のとりまとめと調整 次年度の TA 予算計画作成にあたり、各分野からの意見を取りまとめ、提出した。 12. 追試申請者の受理等についての審議 追試申請者の理由の適切性、また結果についての意義申し立てへの対応につて審議した。 13. 大学院生修士論文発表会の企画・運営のサポート 大阪公立大学と大阪府立大学の大学院修了生合同の学位論文発表会についての企画・運営をサポートした。
来年度の課題	公立大学完成年度となること、新学舎移転に伴う教育課程の運営方法について確認し、必要時、調整する。

委員会名	臨地実習委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 臨地実習の教育方針及び教育課程に関すること (2) 臨地実習の運営に関すること (3) 臨地実習の指導体制の整備に関すること (4) 臨地実習に関する規定の制定及び改廃に関すること (5) その他臨地実習の実施及び運営に関し必要なこと
活動概要	1. 主な委員会活動の実施状況 委員会 7 回、主な議題は、以下のとおりである。 実習配置表の修正と確定、1 年次生への実習オリエンテーション内容の検討、実習要項の検討、実習における感染対策周知、小児期抗体およびインフルエンザ接種の自己管理方法の説明、情報管理の説明、実習ガイドラインの作成、ユニフォーム申請、臨地実習検討連絡会開催等の準備についての会議を開催 2. 所管事項 1) ユニフォーム関係 ・ユニフォーム申し込みオリエンテーションと採寸相談会調整（4 月） ・学生と業者との直接申し込みに関する指導（5 月―7 月） 2) 感染自己管理関連 ・小児期抗体測定（1 年）抗体価検査の結果配布および自己管理システムへの入力指導とワクチン接種オリエンテーション ・ワクチン接種に関する相談メールと小児期抗体ワクチン接種状況確認 ・小児期抗体ワクチン接種の集合指導（1 年生 3 回、2 年生 1 回） 3) 実習要項関連 ・2024 年度配布用の実習要項検討（共通要項） ・実習要項、印刷部数確認と業者依頼 4) 臨地実習事故報告書関連等 ・インシデントレベル 0：3 件（個人情報・その他） - レベル 1：1 件（移動） - レベル 2：1 件（治療） ・感染報告：0 件 5) 実習計画表 ・2024 年度実習計画表変更・修正 ・2025 年度実習計画表調整 6) 学生オリエンテーション関連 ・1 年生、2 年生に情報管理について説明し、臨地実習における倫理的手続きと安全管理指導について、事故発生時の対応等、基本的な事項の説明 7) 教員オリエンテーション関係 ・新入職員と公立大学実習担当教員に対する情報管理の研修を実施

	・臨地実習ガイドラインを作成（文科省・厚労省ガイドラインを参考に）申し合わせ事項を全教員に明示できる仕組み作りとして大学の実習運営上の指針などを集約、教員と事務職が検索しやすく収納した。 8) 公文書と施設契約等 ・公文書発行や契約書等の管理など事務と調整して連携方法を確定した ・帰校日教室の調整方法を事務と調整し協力を得た。 9) 大阪公立大学付属病院と府立機構病院等主な実習病院との連絡検討会規約制定後に臨地実習検討委員会開催（3月・4月）
来年度の課題	1. 小児期抗体自己管理について、学生指導を強化し各論実習に備える必要がある。 2. 感染対策と事故発生に対し、学生への指導を行う必要がある。 3. 臨地実習に関する情報管理の教員研修を継続する必要がある。 4. 臨地実習の在り方について、感染状況を見ながら施設側と打ち合わせを継続実施。 5. 先進ケア科学コースと実践看護科学コースの実習状況を把握して課題を速やかに解決し、対応ができるように仕組みを充実させる必要がある。 6. 事務との連絡・調整を密に行う必要がある。

委員会名	部局評価委員会
目的	委員会は、次に掲げる職務に必要な計画及び評価を行うものとする。 (1) 中期計画、年度計画のうち看護学部・研究科の運営に関すること。 (2) 法人評価のうち学部・研究科の運営に関すること、認証評価および自己点検・評価に関すること。 (3) 看護学研究科・学部の年度評価のための年報の作成に関すること。
活動概要	以下の議題について委員会を行った 第1回（2024年5月14日（火）） 1. 改善を要する事項にかかる2023年度改善方策の報告 2. 改善を要する事項にかかる2024年度改善方策の作成 3. 大阪公立大学看護学部・看護学研究科の報告書の作成 4. 大阪公立大学看護学部・看護学研究科報告書（仮）の構成案 5. 2024年度予算 第2回（2024年6月18日（火）） 1. 大阪公立大学看護学部・看護学研究科報告書（仮）の構成案 2. 大阪公立大学看護学部・看護学研究科報告書（仮）の公表について 第3回（2024年7月26日（金）） 1. 大阪公立大学看護学部・看護学研究科の報告書の作成に向けての課題整理 2. 大阪公立大学看護学部・看護学研究科の報告書の作成に向けての課題に対する取り組みについて 3. 大阪公立大学看護学部・看護学研究科の報告書の作成のスケジュール（案） 2024, 10：委員会にて報告書の構成案の決定 2024, 10：教授会で審議 2024, 11：報告書執筆責任者と担当者の決定 2024, 11：教授会後執筆者に依頼 委員担当者は内容を精査 2025, 2末：報告書初稿提出（データは2022と2023年分のみ活用） 第4回（2024年9月17日（金）） 1. 大阪公立大学看護学部・看護学研究科の報告書の作成に向けての課題整理 2. 教学アセスメントに関する年次単位の点検と報告について 第5回（2024年9月17日（金）） 1. 大阪公立大学看護学部・看護学研究科報告書（仮）の構成案 2. 日本看護学教育評価機構（JABNE）研修の報告について 第6回（2024年11月22日（金）） 1. 年報作成にかかる各章の委員会内担当者について 2. 委員会報告書の様式について 3. 委員会ごとによる課題の整理

	第7回（2025年1月21日（火）） 1. 看護学部・看護学研究科における課題と課題方策の内容について 2. 委員会報告書の様式 第8回（2025年2月18日（火）） 1. 看護学部・看護学研究科における課題と課題方策内容の最終確認 2. 委員会報告書様式（最終版） 3. 年報（2022～2024年度）抜粋 委員会では、2025年度の大阪公立大学看護学部・看護学研究科の完成年度に向けての報告書の作成に向けての討議、また、現行に対する課題等を抽出し、課題への取り組み計画案を作成した。2025年度に課題に抜け取り組む。 報告書に関しては構成案は承認できたが、キャンパス移転などの原案で進んでいない状況にある。
来年度の課題	大阪公立大学看護学部・看護学研究科の報告書の作成 現行の課題に対して取り組む

委員会名	看護実践研究センター運営委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 事業計画に関すること。 (2) 予算に関すること。 (3) その他、看護実践研究センターの管理運営に関すること。
活動概要	1. 運営委員会活動 運営委員会を17名で組織し、円滑な運営ができるように運営委員会（年3回）および部門長会議（年1回）を開催し、活動の検討や推進のための調整活動を行った。 2. 研究・活動支援事業 2024年度研究・活動支援事業として、看護生涯学習支援部門が7件、府民健康支援部門が3件、国際・国内学術研究推進部門が3件（うち1件は中止）の計13件が採択され、総額2,249,006円の助成を行った。2025年3月21日（金）に報告会（オンライン）を開催した。 3. CNS ネットワーク活動 CNS ネットワーク会員への情報発信として、年6回のメールマガジンの発行、ホームページでの広報、会員登録の案内チラシの配付を行った。また、年5回の交流会（オンライン4回、対面1回）を開催した。府大・公大の修了生以外にも対象を広げ、CNS、プレCNS、学生、教員の参加があった。各回約25名と例年より大幅に参加者が増え、教育と交流の場として役立っていた。 4. 広報活動 看護実践研究センターの活動を広く周知するために、ホームページを充実させた。また、センターのリーフレットを作成し、ホームページに掲載するとともに、研究・活動支援事業の案内とともに府下の関係機関に送付した。 5. 闘病記文庫活動 羽曳野図書センターの閉鎖に伴い、闘病記文庫（2,040冊）の移管作業を行った。阿倍野医学図書館に1,605冊を移管し、大阪市立図書館に44冊、羽曳野市図書館に44冊を寄贈した。教員に121冊引き渡し、残り226冊を廃棄した。阿倍野医学図書館への移管に伴い、センターの事業としては終了とする。 6. 年報作成 年報（第3巻）を作成し、ホームページ上に公開した。
来年度の課題	- 研究・活動助成事業について、引き続き教員による積極的な研究・社会貢献活動が行われるよう、助成方法や広報等を検討する。 - CNS ネットワーク活動は、今年度同様の活動を継続し、より活発な交流を行うための方略について検討する。

委員会名	国際交流推進委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 国際交流に関する企画立案及び実施に関すること (2) 国際交流締結校との交流の促進に関すること (3) その他、国際交流に関して必要なこと
活動概要	<u>マヒドン大学との交流</u> 科目との連携：院 異文化看護フィールドワーク A・B 対象学年：大学院 <u>4月23日</u> 交流プログラム作成方針の検討 <u>5月7日</u> 面談者は国際交流委員選出、選考基準の選定 令和5年5月26日（金）までに学生申請 <u>6月17日</u> “応募者が多い場合は選考実施 次年度異文化看護フィールドワークの在り方検討” <u>7月18日</u> 次年度異文化看護フィールドワークの在り方検討 <u>マヒドン大学の交流受け入れ</u> 科目との連携：なし <u>5月7日</u> ・マヒドン大学からの2日受け入れ問い合わせの検討 ・マヒドン大学院生交流プログラム作成 <u>6月17日</u> 交流プログラム作成 <u>7月1日・2日</u> マヒドン大学院生7月1日・2日の受け入れ（和木、井上、高、横山担当） マヒドン大学院生の受け入れをホームページ掲載 <u>シーナカリンウイート大学との交流</u> 科目との連携：なし 対象学年：学部 <u>10月16日～11月</u> シーナカロリンウイート大学との交流計画検討 <u>12月</u> 学部生の参加者募集開始（リーフレット作成） <u>1月</u>

	プレゼンテーションの作成指導 <u>2月21日</u> シーナカロリンウイト大学との交流実施（藤田、和木、井上、高担当） <u>その他国際交流に関連する事項</u> 科目との連携：なし <u>5月7日</u> オレゴンヘルスサイエンス大学との協定更新 <u>10月16日～12月</u> 国際会議「Triple Burdens of Disease Conference 2025」タイ・マヒドン大学主催の共催校としての検討・準備 <u>1月</u> タイ国際会議の共催校として参加(1月6日から10日)（和木、横山参加、その他教員：富澤、笹木参加） 教授会報告およびホームページ掲載 <u>3月</u> オウル応用科学大学との交流協定検討・教授会審議
来年度の課題	・看護学研究科において大阪公立大学海外派遣プログラム新設のための調査助成が採択され、2025年度にプログラム開発のための調査を実施し、2026年度には学部学生と院生向けに海外派遣プログラムを実施する必要がある。2025年度には、そのプログラム開発に向けて国際交流委員会で準備する必要がある。 ・海外派遣プログラム開発に伴い、オウル応用科学大学との交流協定を進めていく。 ・これまで実施してきたタイの大学との交流についても継続していくため、本委員会で準備を進めていく必要がある。なお、web交流については、できるだけ早い段階で、実施時期を決め、学生に周知していく必要がある。

委員会名	大阪公立大学大学院看護学研究科 研究倫理審査委員会
目的	大阪公立大学大学院看護学研究科及び看護学部に所属する研究者等又は他の研究機関が行う人を対象とする研究について「ヘルシンキ宣言」並びに「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）の趣旨に沿って、倫理的観点及び科学的観点から審査することを目的として大阪公立大学大学院看護学研究科研究倫理審査委員会（以下「委員会」という。）を置く。
活動概要	1. 委員会開催 倫理審査に関する委員会を16回（うち予備審査委員会8回）開催した。 申請102件（通常審査：39件、迅速審査：63件）の研究倫理審査を行った。 博士前期課程：40件（うち通常審査8件、迅速審査32件） 博士後期課程：21件（うち通常審査9件、迅速審査12件） 教 員：41件（うち通常審査22件、迅速審査19件） 2. 研究倫理審査委員会審査要領のうち、学部生の卒業研究に関わる内容を修正した。 3. 研究倫理審査の申請に関するオリエンテーションとして、大学院生、教員を対象とした説明動画および申請資料をポータルサイトに掲載した。 4. 2022年度 研究実施状況報告書・研究終了報告書の提出状況を確認した。 5. 倫理審査申請書（様式1）と研究実施計画書（様式2）、一括審査依頼・研究機関要件確認書（様式14）の見直し・修正を行った。 6. 外部からの研究協力依頼について委員長・副委員長で確認し、2件の受諾、3件の非受諾を判断した。 7. 2024年度の研究倫理教育内容の確認・見直しを行い、現行のままとした。
来年度の課題	・審査日程の検討（9回実施の可能性） ・外部委員の継続・交代 ・研究実施計画書など申請書類の改定（記載の漏れ・ミスの改善） ・研究実施状況報告書、研究終了報告書・データ等保管状況報告書提出の徹底 ・多機関共同研究一括審査における「教育・研修」の見直し ・研究倫理審査へのシステム導入の検討

委員会名	看護学舎施設整備委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 施設の整備に関すること (2) 円滑な移転に関すること
活動概要	新棟については、施設課の依頼や時期に応じて、その都度必要な検討を行った。旧棟や新棟の使途や配置、什器、備品などの検討を進めた。委員会での検討結果は、教員会議や教授会で報告し、特に研究室配置についてはいただいた意見をもとに繰り返し委員会で検討した。 旧棟教員は2月上旬に移転開始。以後、はびきのからの新棟、旧棟へ移転を開始し、まもなく移転は完了する予定である。 第1回 (5/21) ・新規購入物品の追加募集、各フロア使途確認、移転該当箇所の確認 ・新棟・旧棟の施設担当者について ・研究室配置の再検討（全員一人部屋が可能かについて）についての意見交換 第2回 (6/25) ・研究室配置の再検討 ・部屋の名称、英語名称、識別名称、管理者について ・講師控室、備品購入 ・各部屋の管理者について ・スクリーン、マイクシステムの購入 ・旧棟基礎実習室の使用について 教員会議（7/3）にて研究室再配置についての意見聴取 第3回 (7/23) ・研究室配置の再検討、非常勤教員の研究室についての検討 ・ロッカー等備品の確認 ・移転と引越しについて 第4回 (9/18) ・非常勤教員の研究室配置について、手順を作成 ・引越しについて ・新棟および旧棟の什器レイアウト、フロア、変更点などの確認 ・旧棟実習室について 第5回 (10/1～10/7 メール審議) ・教授会で付託された研究室配置案と手順の審議

	第6回 (11/13) ・研究室配置の確認と空き室の使用について ・学舎の居室名と管理者について ・複合機の設置場所について ・新学舎の見学、鍵の設置、取り扱い説明会について 第7回 (1/10～1/21 メール審議) ・研究室配置の一部変更とスライディングウォールの修復工事について 第8回 (2/26～3/10 メール審議) ・次年度以降の研究室の配置手順について ・現時点のすべての教員の配置状況の確認について
来年度の課題	・今年度で委員会は終了のため、次年度以降の研究室配置は執行部管轄で手順に沿って進める ・C棟研究室フロアのスライディングウォール部分の工事は2025年のGWに行っていただけ予定 ・移転後の不具合や修復が必要な場合があれば、施設課に相談する

委員会名	就職委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について、審議する (1) 就職業務方針に関すること (2) 就職の指導に関すること (3) 求職、求人に関すること (4) 就職についての調査に関すること (5) その他就職に関すること
活動概要	1. 就職支援活動 2024年度は公大看護学部1期生（3年生）、博士前期課程（助産師資格取得プログラム履修生M1）の学生を対象に、就職ガイダンス等を以下のとおり実施した。またMoodleに「2026年3月卒業予定者（就職関連）」を設定し、就職支援に関する情報提供、ガイダンス動画の公開、連絡等を行った。 ＜第1回ガイダンス＞ Moodle上で動画公開 日時：2024年5月27日～6月9日 内容：【マイナビ】ストレスマネジメント講座 実習マナー、時間管理法、ストレスへの対応法 ＜第2回ガイダンス＞ Moodle上で動画公開 日時：2024年9月24日～（先進/実践コース実習前） 内容：【文化放送キャリアマネジメント】自己分析・キャリアを考える ＜第3回ガイダンス＞ 多目的ホールにて対面実施 日時：2024年11月16日（土） 10時45分～12時15分 内容：就職活動・国家試験のスケジュールについて 模擬試験について（模試担当学生の選出：先進2名、実践4名） キャリア支援室の案内 【マイナビ】就活準備対策講座 ＜第4回ガイダンス＞ Moodle上で動画公開 日時：2025年2月3日～ 内容：府立病院機構及び公大病院 就職説明会 府立病院機構及び5病院、公大病院の概要、就職試験の概要 ＜病院合同説明会/キャリア支援室セミナー＞ 日時：2025年2月28日（金） 第1部 10時～12時30分 病院合同説明会 大阪府立病院機構・大阪公立大学医学部付属病院による概要説明

	病院別説明（ブースにて3回転） 第2部 13時15分～16時30分 キャリア支援室による就職支援セミナー エントリーシートの書き方、面接対策等 2. 委員会開催 2024年度は5月、10月、3月に委員会開催を予定していたが、3月の会議を4月に延期し、2025年度の新委員にて年度計画を作成することとした。 ＜第1回就職委員会＞ 2024年5月16日開催 審議事項 ・年間活動計画予定について ・予算執行計画について ＜第2回就職委員会＞ 審議事項 2024年10月16日開催 ・第3回就職ガイダンスについて ・第4回就職ガイダンス（キャリア支援セミナー）について ・個人面接・履歴書添削について ・就職情報の共有方法について 3. 2024年度助産師国家試験結果について 博士前期課程助産師資格取得プログラムを専攻する2025年3月修了予定者で助産師国家試験受験者6名は全員合格し、合格率は100%であった。
来年度の課題	1. 就職ガイダンスの継続と内容評価 2. キャリアサポートとの履歴書添削、面接練習における連携評価 3. 国家試験対策におけるアドバイザー教員との連携 4. 学生主体の国家試験模擬試験の運営支援 5. 大学院生（助産師資格取得プログラム、保健師資格取得プログラム）への就職支援方針および支援内容の検討 2024年度は3年生のみの支援だったが、2025年度以降はこれに4年生の国試対策、就職支援が加わるため、規程通りの委員数（教授会より2名＋教員2名の4名）では活動が難しいと予測される。府大就職委員会では6～7名の委員（教授1名、教員6名）で活動しており、特に国家試験対策では模擬試験の運営にあたり担当学生をフォローし、学習の進度の把握、アドバイザー教員との連携が必要であるため、実務経験のある委員2名程度の増員が必要である。

委員会名	紀要委員会
目的	委員会は、紀要の編集・発行に関する事項について審議する。 年に1巻、大阪公立大学看護学雑誌を発刊する。
活動概要	2024年度は年間7回の委員会を開催し、以下のことを行った。 また、大阪公立大学看護学雑誌第3巻発行のために、投稿論文募集、編集作業等、発行のために必要な話し合いを行った。 2024年5月に、論文投稿の案内を開始、9月に3題の投稿論文を受け付け、各論文につき2回の査読依頼を行った。またこのうち2題については査読結果とそれにもとづいた著者修正を受け、委員会判定を行った。この結果、2025年3月31日に、研究報告1題、資料2題を掲載する、大阪公立大学看護学雑誌第3巻を発行、リポジトリ登録を行った。 昨年に引き続き委員会規定の確認、大阪公立大学看護学雑誌発刊のために必要な手順書、作業に必要な書類の整備も行った。
来年度の課題	今年度は申し込み論文数が少なかったため、論文募集について積極的に呼びかける。論文数が少ない場合は、看護実践研究センター等の寄稿も検討していきたい。 編集関連資料については随時見直しを行う。

委員会名	カリキュラム改革委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) カリキュラム改革に関すること。 (2) 指定申請などに関すること。 (3) 多職種連携等にかかる科目に関すること。 (4) その他カリキュラム改革に関し必要なこと。
活動概要	【第1回】2024年4月16日（火）13時15分～、遠隔会議（ZOOM） 1. カリキュラム改革委員会の作業スケジュールについて 2. 科目の精選と履修モデルについて 【第2回】2024年5月16日（木）17時～、遠隔会議（ZOOM） 1. 科目の精選と履修モデルについて 【第3回】2024年5月28日（木）15時～、遠隔会議（ZOOM） 1. 履修モデルについて 【第4回】2024年6月11日（木）15時～、遠隔会議（ZOOM） 1. 科目の精選と履修モデルについて 【第5回】2024年6月27日（木）16時45分～、遠隔会議（ZOOM） 1. 科目の精選と履修モデルについて 【第6回】2024年7月3日（水）9時～、遠隔会議（ZOOM） 1. 履修モデルについて 2. 看護データサイエンス科目の名称について 3. 教育課程と指定規則との対比表について 【第7回】2024年7月23日（火）9時～、遠隔会議（ZOOM） 1. 「ケアと健康福祉工学」の改廃について 2. 新設科目（データサイエンス、研究の種をまく科目）の名称について 3. 教育課程と指定規則との対比表／カリキュラム・ツリーについて 4. 履修モデルについて 【第8回】2024年7月31日（火）13時15分～、遠隔会議（ZOOM） 1. 履修モデルについて 2. 科目概要のひな形について 3. 看護研究方法論2（種まき科目）の概要とシラバスについて 4. 今後のスケジュールについて 【第9回】2024年9月2日（月）15時～、遠隔会議（ZOOM） 1. 種まき科目（ゼミ形式）について 2. 授業科目（選択科目）の概要作成と担当者について 3. 実習配置表について 【第10回】2024年9月10日（火）16時～、遠隔会議（ZOOM） 1. 授業科目（選択科目）の概要作成と担当者について 2. 種まき科目（ゼミ形式）について 3. 履修モデルと科目群について

	【第11回】2024年10月10日（木）17時～、遠隔会議（ZOOM） 1. 授業概要（総合実習）について 2. 種まき科目について 3. 実習配置表について 4. 基幹教育の構成等の変更に伴う新カリキュラムの対応について 5. 履修モデルと科目群について 【第12回】2024年11月1日（金）17時～、遠隔会議（ZOOM） 1. 種まき科目について 2. 科目群について 3. 実習配置表について 4. 履修モデル「ケアリング開発」の名称について 【第13回】2024年11月29日（金）17時～、遠隔会議（ZOOM） 1. 基幹教育の構成・単位について（基幹教育WG担当者からの説明あり） 2. 4年次前期科目担当教員への開講時期変更に関する意向確認について 3. 種まき科目について 4. 科目群について 5. 実習配置表について 6. 履修モデル「ケアリング開発」の名称について 【第14回】2024年12月19日（木）17時～、遠隔会議（ZOOM） 1. 教育課程と指定規則との対比表について 2. カリキュラム・ポリシーについて 3. 実習配置表について 4. 履修モデル「ケアリング開発」の名称について 【第15回】2025年1月24日（金）17時～、遠隔会議（ZOOM） 1. 議事録と修正資料の確認 2. 実践看護技術総合演習（OSCE）の開講時期の変更について 3. 科目区分（ケア発展科目とキャリア形成科目）について 4. 看護研究方法論2（種まき科目）の進め方について 5. 履修モデル「ケアリング開発」の名称について 6. 実習配置表について 【第16回】2025年2月13日（木）17時30分～、遠隔会議（ZOOM） 1. 基幹教育科目について 2. 科目区分の概要の説明文について 3. 看護研究方法論2（種まき科目）の担当教員の募集について 4. 履修モデル「ケアリング開発」の名称について 5. 実習配置表について 【第17回】2025年3月11日（火）9時～、遠隔会議（ZOOM） 1. 実習配置表について 2. 総合実習「週間計画」について

	3. 履修モデル「看護ケアリング」の説明文について 4. 看護研究方法論2（種まき科目）の担当教員募集の結果について 5. （その他）時間割のシミュレーションについて
来年度の課題	新カリキュラム変更承認申請に必要な書類の作成、シラバスの作成、履修モデルの確定、看護学部要覧の作成など、2026年度に向けての教務に係る準備が必要である。

大阪市立大学として継続する委員会

2024 年度

委員会名	教務委員会(市大・看護学科)
目的	委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。 1. 教育課程に関すること 2. 学生の入学（入試委員会の所管事項除く）、退学、休学、復学、除籍及び卒業に関すること 3. 学生の課外活動に関すること 4. 学生の保健管理に関すること 5. 授業科目の履修及び単位の認定に関すること 6. その他教務に関すること（臨地実習に関すること等）
活動概要	2024 年度は、12 回(うち 2 回の臨時委員会)の教務委員会を開催した。 委員会では、上記の事項について下記の通り活動した。 1. 教育課程に関すること ・4 年生のみが対象となる年度であったが、教育要項、非常勤講師委嘱、統合看護実習等の教育課程について、各担当者、学務課を中心に資料等の準備を進め、適切な時期に審議案件として審議し、滞りなく実施した。 2. 学生の入学、退学、休学、復学、除籍及び卒業に関すること ・退学、休学、復学などの学生はいなかった。 ・卒業判定会議を開催し、卒業要件を確認の上、58 名の看護学科生を卒業可と認定した。3 月の教授会にて 58 名の卒業を可と認定した。 3. 学生の課外活動に関すること ・学生の課外活動による問題などはなかった。 4. 学生の保健管理に関すること 1)健康診断 ・学生が大学での健康診断を受診するよう周知し、診断結果が必要な実習施設に報告した。 2)感染症予防対策の実施 ・感染症対策担当教員を中心に、大学の方針も踏まえ学生への注意喚起を実施した。 ・医学部附属病院での実習中は、看護部からの「臨地実習における感染拡大防止対策について」に則り、実習を控える基準を作成・対応し、適宜看護部に報告した。 5. 授業科目の履修及び単位の認定に関すること 1)履修の確認 ・前期、後期に、科目履修者一覧を作成し確認した。

	・ 学生在籍状況一覧を元に、過年度生および未習得科目のある学生の履修状況を確認した。 ・ 過年度生の公立大学看護学部科目・市大看護学科科目読み替えによる履修に関する留意点・確認事項を審議した。 ・ 過年度生については、講義開始前に委員長、アドバイザー、学務課３者での教務面接を実施し、履修計画などを確認し、滞りなく履修するよう指導した。 2) 試験に関すること ・ 大学における定期試験等に係るスケジュールに則り、看護学科内でのスケジュールを作成し、試験の実施、成績入力期間等を提示した。 ・ 全科目の試験結果、追・再試験対象学生の把握、追・再試験結果を確認した。 6. その他教務に関すること（臨地実習に関すること等） 1) 臨地実習に関すること ・ 臨地実習教授等の委嘱については、各実習施設の状況に合わせて推薦書の作成を依頼し、委嘱した。 ・ 医学部附属病院での臨地実習検討委員会を計画通り開催し、統合看護実習の報告書を作成し、配布した。 2) 学生の状況について ・ 過年度生２名を対象に、適宜、委員長、副委員長、学務課３者での教務面接を実施し、学生の状況を随時把握し、意向確認した上で諸手続きを進めた。 また、前期・後期の履修状況も把握し、適宜面接を実施した。 ・ 看護師国家試験未受験学生２名に対して、委員長、副委員長、学務課３者での教務面接を含む対応を実施し、家族も了承・把握していること、今後の受験予定や学習計画について確認した。 ・ 公立大・先進ケア科学コースの学生のうち、配慮が必要な学生への対応がスムーズにできるようコース内での情報共有の必要性について、市大教授会および研究科長、副研究科長に進言した。
来年度の課題	・ 過年度生２名の履修状況および未履修科目などを学務課と綿密に連携し、把握する。さらに学生が履修計画通りに履修できるよう、アドバイザーとの連携を継続し指導する。

大阪府立大学として継続する委員会

2024 年度

委員会名	臨地実習委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 臨地実習の教育方針及び教育課程に関すること (2) 臨地実習の運営に関すること (3) 臨地実習の指導体制の整備に関すること (4) 臨地実習に関する規定の制定及び改廃に関すること (5) その他、臨地実習の実施及び運営に関し必要なこと
活動概要	1. 主な委員会活動の実施状況 委員会 2 回、総合実習学生配置（4 月）、3 年次生への実習オリエンテーション（7 月）、府立 5 医療センター臨地実習連絡会（3 月）、文部科学省調査書類作成、実習における感染対策周知（適宜） 2. 所管事項 1) 実習運営関係 ・過年度生実習オリエンテーションへの参加確認 ・公立大学への単位履修の以降確認 2) 府立 5 医療センター臨地実習連絡会関係 ・府立 5 医療センターでの 2024 度実習計画管理 ・各施設窓口担当教授と連携し、施設との調整 ・府立 5 医療センター臨地実習連絡会を開催し、施設との情報交換 ・学生による臨地実習評価アンケートの実施及び報告書の作成
来年度の課題	特になし

委員会名	教育運営委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 教育課程に関すること (2) 履修に関すること (3) 教育の実施及び運営に関すること
活動概要	2024 年度は 7 回の教育運営委員会を開催した。 委員会では下記の内容について重点的に活動した。 - 単位未修得学生への履修指導 ・ 2017 年度から継続して、学生個人に単位取得状況に関するチェック表を配布し、学生自身による履修科目の管理やアドバイザーによる履修指導に役立てるようにした。 ・ 前期・後期の全学生の単位修得状況を確認し、単位未修得学生の情報をアドバイザー教員に配付し、個別指導を依頼した。 ・ 単位未修得学生の個別指導のために、読み替え科目一覧表を再度確認し、教授会で周知した。 - 科目の GPC の点検・評価の実施 ・ 各科目の GPC と成績分布について、2023 年度後期分と、2024 年度前期分を確認した。教授会でも報告し、各担当教員の振り返りを促した。 - 卒業・修了判定 - 全学の教育企画運営会議への出席 ・ 大阪府立大学全体の教務内容と学類の教育運営委員会が連動して運営できるように調整を行った。
来年度の課題	単位未修得学生への履修指導は複雑であるため、教務事務、アドバイザー等との連携が必要である。

委員会名	学生委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 学生の休学、退学、復学、除籍に関すること (2) 学生の表彰及び処分に関すること (3) 学生の生活指導に関すること (4) 学生の福利厚生に関すること (5) 学生相談に関すること (6) その他、学生生活に関すること
活動概要	1. 委員会の開催 羽曳野キャンパス学生委員会（看護学類7回開催、うちメール会議を3回実施。 2. 活動状況 1) 奨学支援 国、大阪府の修学支援制度があり、成績や学習意欲で指導が必要な学生に対して、学生アドバイザーから対応を依頼した。 【国の支援】 高等教育の修学支援制度（授業料減免制度＋給付奨学金）学類生 22 名 【大阪府の支援】 大阪公立大学等授業料等支援制度 学類生 62 名 【日本学生支援機構】 貸与奨学金 学類生 29 名、大学院生 1 名 【大学独自の給付奨学金】 研究奨励金 大学院生 4 名 2) 課外活動支援 ・羽曳野クラブサークル数：10 団体（体育系 5、文科系 2、学生団体 2、登録団体 1） ・クラブの団体結成承認など：結成承認 0 団体、解散承認 1 団体、変更承認 0 団体 3) 福利厚生、安全と健康 ・保健室使用件数 58 件、学生相談利用件数 97 件 (2025 年 2 月末現在、公大・府大生含む延件数、学生相談 実利用者数 7 名 (実数) のうち看護学生 6 名) 4) 賞罰 前期： ・学長表彰：学類 0 名、大学院 0 名 ・杏樹賞：学類 1 名 後期： ・学長表彰：学類 0 名、大学院 0 名 ・杏樹賞：学類 2 名 ・学業成績優秀賞（白鷺賞）：学類 1 名 ・大阪府看護協会会長賞：学類 1 名 5) 休退学等

	〈休学〉学類 2名、大学院 前期(M) 1名、後期(D) 5名 〈交換留学〉学類0名 〈退学〉学類 1名、大学院 後期(D) 1名 〈除籍〉なし 6) アクセシビリティセンターと連携した在学生のサポート 就学上の合理的配慮が必要な在学生の配慮の内容について検討するとともに経過等について情報交換を行った。2024年度アクセシビリティセンター経由で合理的配慮をした学生は1名いた。 7) その他 学生生活 ・ アドバイザーグループ編成と学生配置の決定 ・ 杏樹祭を感染対策に考慮しながら、令和6年10月26日(土)10時30分ー17時で開催した。 ・ 学位記授与式の企画・運営
来年度の課題	本委員会廃止のため、なし

委員会名	就職委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について、審議する (1) 就職業務方針に関すること (2) 就職の相談及び指導に関すること (3) 求職、求人に関すること (4) 就職についての調査に関すること (5) その他就職に関すること
活動概要	1. 就職ガイダンス等の開催 【4年生対象】 第4回ガイダンス 8月6日～11日（オンデマンド） ・国家試験対策ガイダンス（さわ研究所） 第5回ガイダンス 2025年2月4日（オンライン：Zoom開催） ・国試直前ガイダンス ・2025年2月11日～13日 看護師国家試験の自己採点入力（ねこナース Web 自己採点サービスを利用） 2. 就職支援 1) 就職に関する事務 ・就職情報・進路資料の管理・就職状況の把握 3. 国家試験に関すること ・模擬試験担当者を決め、学生主体の模擬試験を実施できるように支援 ・模試結果を分析し、担当アドバイザーに成績等学習指導の連絡 4. 委員会の開催（5回／年）4/24、5/29、12/23、2/4、3/24） ・委員会活動計画と担当者決定 ・就職ガイダンスの企画・運営について ・就職内定状況について ・国家試験対策支援の現況・予算執行状況について ・国家試験対策の評価と実践計画・状況把握 ・看護師国家試験模擬試験結果についてアドバイザーへの模擬試験連絡 ・看護師・保健師国家試験結果の確認、評価、報告
来年度の課題	・公立大学就職委員会に移行するため、今年度で委員会は終了

委員会名	羽曳野キャンパス感染対策委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 学生及び教職員の感染予防対策に関すること (2) 感染予防対策実施の監視と指導に関すること (3) 感染症発生後の適切な事後処理に関すること (4) 感染症発病者の人権擁護に関すること (5) 学外実習施設等との感染対策に関わる連絡調整に関すること (6) その他、感染予防に関し必要と認められる事項に関すること
活動概要	1. 羽曳野キャンパス感染対策委員会の開催 第1回委員会を4月16日にメール会議で実施し、以下の審議および報告がなされた。 ・委員長と副委員長の選出 委員会規定に基づき、安全管理者である前田所長が委員長で、リハビリテーション学研究科長の樋口教授が副委員長に選出された。 ・2023年度の感染症発生者数の報告数 学部生については、看護で85名、リハで22名の報告があった。大学院生については、看護3名、リハ0名であった。羽曳野キャンパス全体の感染症報告数110名のうち、新型コロナウイルス感染症が77名、インフルエンザが32名、その他1名と報告された。 ・看護部会で作成している「臨地実習における新型コロナウイルス感染症対策」(2023年2月付)を委員会で共有した。 2. 臨地実習委員会との協働による実習における感染対策 臨地実習委員会と協議し、臨地実習要項の感染症に関する記載内容の修正を行った。 3. 感染症発生状況のモニタリング 学校保健安全法により「学校において予防すべき感染症」とされているインフルエンザ等の感染症について、保健室看護師から毎週メールで報告を受けることによりモニタリングした。
来年度の課題	本委員会は2024年度で終了

2023 年度

委員会名	学生委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 学生の表彰及び処分に関すること。 (2) 学生の生活指導に関すること。 (3) 学生の福利厚生に関すること。 (4) 学生相談に関すること。 (5) その他学生生活に関すること。
構成員	松田教授(委員長)、志田教授(副委員長)、長畑教授、横山教授
活動概要	【第1回】2023 年 5 月 15 日(月) 13 時 15 分～ 遠隔会議(Teams) 審議事項 1. 2023 年度学生委員会について 2. 2023 年度学生委員会年間スケジュールについて 3. 看護学部・学生アドバイザーの役割について 4. 2024 年度新入生オリエンテーションについて 【第2回】2023 年 7 月 14 日(金) 10 時 45 分～ 遠隔会議(Teams) 1. 看護学研究科・看護学部学生委員会規程について 2. 学生表彰選考基準について(学修奨励表彰、学業成績優秀表彰、研究業績優秀表彰) 【第3回】2023 年 10 月 16 日(月) 10 時 45 分～ 遠隔会議(Teams) 1. 学位記授与式について 【第4回】2024 年 2 月 16 日(金) 10 時 45 分～ 遠隔会議(Teams) 1. 看護学研究科における学生の表彰に関する要領について 2. 学籍異動について 3. 2024 年度新入生(研究科)羽曳野キャンパスツアーについて 4. 2023 年度学生委員会年間スケジュール、議題について 5. 2023 年度看護学科・看護学研究科学位記授与式について 【臨時】 2023 年 9 月 20 日(水) 12 時～ 遠隔会議(Teams) 1. 学籍異動状況について 2. 研究科謝恩会について 2024 年 1 月 12 日(金) 9 時～ 遠隔会議(Teams) 1. 看護学研究科 [4/2(火)開催] オリエンテーション・羽曳野キャンパスツアーについて 2024 年 3 月 20 日(祝・水) 判定委員会修了後～ 対面 1. 学籍異動について 2. 学生アドバイザーについて 3. 学生に関する情報の共有方法について ※その他、適宜メール審議

来年度の課題	来年度より、学生アドバイザーが担当する学生と学生アドバイザーの役割を一部変更することから、不具合の有無に関する情報収集を行いながら学生アドバイザー制度が円滑に機能するよう検討を重ねる必要がある。

委員会名	FD 委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 教員の教育内容・授業方法の改善に関すること (2) 教員の教育・研究能力の向上に関すること (3) 教育・研究活動の評価の実施に関すること
構成員	河野教授(委員長)、森本教授、細名准教授、伊藤講師
活動概要	看護学部 FD 研修会として「ハラスメント防止研修」（参加者 47 名、「考える力をつくる研究指導」（参加者 77 名）、ならびにジャーナルカフェを 8 回実施した。詳細は（P. 185～P. 186 参照）のとおりである。
来年度の課題	引き続き、FD 研修を実施する。新教育課程に向けて各分野間の情報交換や交流を図る企画が必要かもしれない。教学アセスメントについて、FD 委員会が実施する場合、分析や情報管理について適切に対応するためにメンバー構成や事務組織管理体制を改めて検討していただきたい。もしくは、質評価委員会機能の一部として教学アセスメント体制を組むことも検討してほしい。

委員会名	入学試験運営委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 入学者選抜方法の基本方針・重要事項に関すること。 (2) 入学者選抜方法の実施・運営に関すること。 (3) 入学者選抜試験問題の作成及び採点に関すること。 (4) その他入学者選抜に関すること。
構成員	山口教授(委員長)、作田教授(副委員長)、田中教授、長畑教授、中山教授、渡邊教授、益准教授、岡野准教授、精)河野准教授、小西准教授、田中准教授
活動概要	第1回 (4/19) 審議事項：2023 年度委員の役割分担について 2023 年度委員会予算について 入試業務の従事について <資料無> 後期入試の募集定員の検討について 報告事項：2023 年度第1回全学入試運営委員会(4/5 開催)について 2024 年度看護学部入試日程について 2024 年度看護学部・研究科判定会議日程について 2023 年度看護学研究科入試の事前面談について 2023 年度後期日程入試についての振り返り 看護学部一般選抜実施状況について 2022 年度委員会報告について 2023 年度委員会開催予定について 第2回 (5/17) 審議事項：大学院入試第1次募集に係る問題作成依頼及びスケジュール 入試関係業務の従事に関する申し合わせ事項について 一般選抜後期日程試験の実施検討について 報告事項：2023 年度第2回全学入試運営委員会(5/10 開催)について 2022 年度入学者追跡調査報告(2/24 開催)について 大学院入試英語問題作成委員の選出について 第3回 (6/14) メール審議 審議事項：入試関係業務の従事に関する申し合わせ事項について 報告事項：大学院作問依頼文書の修正について 2023 年度第3回全学入試運営委員会(6/7 開催) 第4回 (7/19) 審議事項：大学院入試申し合わせの改訂について 大学院入試実施要領(案)について 2025 年度入試 学部・学域「一般選抜・特別選抜」における大学入学共通テスト及び個別学力検査等の配点検討について(第4回全学入試運営委員会依頼事項) 報告事項：大学院入試の問題点検作業について

	2023 年度第 4 回臨時全学入試運営委員会 (6/26-29 メール審議) 2023 年度第 5 回全学入試運営委員会 (7/6 開催) 2023 年度大学院入試出願資格審査 (6/21～28 書面審議) について 2023 年度大学院第 1 次募集出願状況 (7/12～19 消印有効) について 2023 年度入試日程・判定会議日程 (共通テスト追試験反映) 第 5 回 (8/9) 審議事項：大学院入試実施要領 (案) について 大阪公立大学大学院看護学研究科入学者選抜試験に関する申し合わせの改定 報告事項：2023 年度第 2 回大学院入試説明会 (9/23 開催について) 第 6 回 (9/20) 審議事項：2024 年度大学院入試実施要領について【第一次募集からの修正点】 大学院入試申し合わせ・採点要領の修正について 2024 年度大学院募集要項の修正について 大学院第二次募集の募集定員の公表について 報告事項：2023 年度第 6 回全学入試運営委員会 (9/6 開催) について 大学院第二次募集に向けたスケジュールについて 助産師資格取得プログラム・保健師資格取得プログラムの面接試験について 第 7 回 (10/18) 審議事項：2024 年度大学院入試実施要領 (案) について 2024 年度学校推薦型選抜の運用について 学生募集要項(一般選抜)及び個別学力検査等実施要領における訂正依頼箇所について 保健師資格取得プログラムの入学試験について (検討部会長提案) 報告事項：2023 年度第 7 回全学入試運営委員会 (10/4 開催) について 2023 年度第 2 回全学入試推進本部会議 (10/5 開催) について 2023 年度第 1 回看護入試評価部会 (9/28 開催) について 第 8 回 (11/15) 審議事項：2024 年度学校推薦型選抜の運用(12/26 実施)について 大学院入試問題作成後のチェック内容案について 大学院入試第 3 次募集 (博士前期課程) の実施有無について 報告事項：2024 年度大学院入試実施要領(12/2, 3 実施)について 2024 年度第 8 回全学入試運営委員会 2024 年度学校推薦型選抜の志願状況、採点委員数について 2024 年度大学院入試出願資格審査 (10/18～27 書面審議) について 2024 年度大学院第 2 次募集出願状況(11/6～10 消印有効)について その他 (1) 博士後期課程 PPT 資料における「発表者ツール」について

	(2) 2024 年度大学入学共通テスト・看護学部各種個別試験・大学院看護学研究科入試・学校推薦型選抜採点におけるお菓子代の徴収について (3) 作問委員からの意見について 第9回 (12/20) 審議事項：2025 年度保健師資格取得プログラム選抜方法について（保健師検討部会 取りまとめ） 大学院入試問題点検時のチェックリストについて 2024 年度大学院入試実施要領（2/10 実施）について 報告事項：2023 年度第9回全学入試運営委員会（12/6 開催）について 2023 年度第4回入試推進本部会議（12/15 開催）について 2024 年度大学院入試第3 次募集の実施スケジュールについて 今後の入試スケジュールについて（判定会議、実施要員説明会等） 第10回 (1/10) メール審議 審議事項：2024 年度大学院入試実施要領（2/11 実施）について 2024 年度一般選抜前期日程実施要領（2/25 実施）について 報告事項：2024 年度学校推薦型選抜書類評価の振り返り 2023 年度第10 回全学入試運営委員会（1/10 開催）について 2024 年度私費外国人留学生特別選拔出願状況（12/27 必着） 臨時 (1/17～22) メール審議 2026 年度一般入試に関する見直し案について 第11回(2/21) 審議事項：2024 年度一般選抜後期日程実施要領、面接試験採点要領（3/12 実施） について 2025 年度入試学部・学域「特別選抜入試日程」について（入試課依頼 事項） 2025 年度看護学研究科入試日程について 2025 年度大学院学生募集要項（初校）について 入試アセスメントに関する新入生アンケートについて（入試評価部会 関連） 報告事項：2023 年度第11 回全学入試運営委員会（2/7 開催）について 2023 年度第2 回看護入試評価部会（1/18 開催）について
来年度の課題	2023 年度の主な活動 ・学部・大学院の入試運営業務の検討と見直しを行い、随時修正を加えながら、学部と看護学研究科大学院の入試を実施した。 ・次年度の博士前期課程に保健師資格取得プログラムの入試を実施するため、担当分野教員と情報を共有し、広報・募集要項などを検討した。

	・学部完成年度を迎える 2026 年度の一般入試に関する見直し案を入試委員長、副委員長、委員である副研究科長と検討し、入試運営委員に提案し検討を依頼したが、意見が分かれたため、次年度の課題として持ち越すこととした。 2024 年度の課題 博士前期課程への入学者確保に向け、学部全教員と協力していく必要性があり、主な課題は以下になる。 ・学部一般入試の見直し ・大学院入試の博士前期課程における内部推薦制度について ・2027 年度からの大学院の秋入学が決定した場合の募集体制について ・専門分野教授の定年退職に伴う大学院生の募集について（専門分野や募集人数など） ・「大阪公立大学看護学部入学者選抜試験に関する申し合わせ」の【追加合格判定】の箇所には、追加合格候補者の順位確認は看護学部長と副学部長によって行われ、その後合否判定会議を経て教授会で最終決定されることが述べられている。しかし、現在は入試委員長も確認作業に加わっており、その役割を明確にする必要がある。

委員会名	入試広報委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 入試広報に係る基本方針の策定に関する事。 (2) パンフレット、ホームページの作成に関する事。 (3) オープンキャンパスの企画立案に関する事。 (4) その他入試広報活動に関する必要な事項
構成員	長畑教授（委員長）、白井教授（副委員長）、園田准教授、清水（彬）講師、徳岡講師、富澤講師、宮下講師
活動概要	2023 年度より入試運営委員会の部会から独立し、入試広報委員会として位置づけられた。会議は6回開催した（4/14、5/9、6/21、9/4、12/26、3/15）。 I. 広報行事に関する事 1. 大学院入試説明会 一次募集に向けて 5/13（土）、二次募集に向けて 9/23（土祝）、いずれも阿倍野キャンパスにおいて対面で入試説明会を実施した。チラシ作成・配布、看護学研究科 HP お知らせ掲載、大学院の概要・入試説明資料（PPT）作成、事前受付及び運営を担当した。 〔申込・参加状況〕 第1回説明会（5/13） 申込者 85 人 参加者 77 人 第2回説明会（9/23） 申込者 62 人 参加者 52 人 〔実施結果・評価〕 2022 年度は1次募集に向けて土曜および平日夜の2回実施（いずれも Web 開催）し、2023 年度は平日夜の参加者数が少なかったことから土曜のみ1回としたが、申込者数、参加者数とも2回分を上回り、アンケート結果においても参加者の満足度は高かった。 第2回説明会においても2022 年度より申込者数、参加者数とも増加し、満足度も高かった。 2. オープンキャンパス 8/5（土）、8/6（日）2日にわたって阿倍野キャンパスにて実施した。8/5はPM、8/6はAM/PMの3クールとし、看護学部説明会、学舎見学ツアー、相談会の3つの企画で同じ内容を3回実施した。申し込み定員は各クール 500 名として運営した。 〔参加状況〕 8/5（土）PM 433 人 8/6（日）AM 297 人 PM 221 人 2日間で1500人の参加を予定していたが、全体で951人の参加にとどまった。 〔実施結果・評価〕

	2022 年度は平日 1 日の開催で募集人員 500 人としたところ、申込者がすぐ埋まってしまったため、2023 年度は土日 2 日間の開催として参加者数拡大を図ったが、全体を通して参加者数は 1000 人弱にとどまった。学舎の管理上の問題、参加する教員および学生の負担と効果の側面から考えても、土日 2 日間かけて実施するメリットはさほどないと評価した。特に日曜日の参加者が少なかったことから、平日の実施や全体説明会の実施方法等を検討する必要がある。 3. 高校ガイダンス・進学相談会 入試課より依頼のあった案件に対し、入試広報重点校の依頼は原則として参加とし、その他の高校からの依頼や進学説明会については、受験・入学実績や参加校の状況等を踏まえて参加の可否を決定し、積極的に広報活動に取り組んだ。入試広報活動担当者順番表に基づいて担当者を決定した。 〔参加実績〕 高校ガイダンス 7校 進学相談会 3回 Ⅱ. 広報ツールの作成・修正に関すること 1. 高校訪問等で使用するスライド（PPT）の内容確認・修正を行った。 2. 看護学部案内冊子（パンフレット）2023 年度版作成 昨年度（開学前）に作成したパンフレット原稿について、不要な部分の削除やデータの修正を加えて印刷した。 3. 看護学研究科案内冊子（パンフレット）の作成 研究科の HP、学生募集要項の情報を基に看護学研究科独自の案内冊子を作成し、大学院入試広報活動のツールとしても活用した。 4. 大学院入試案内チラシの作成 第 1 次～3 次募集それぞれにおいて入試案内チラシを作成し、HP での広報などに使用した。 5. 大阪公立大学案内冊子 2025 年度版の看護学部ページ原稿の作成 広報課より依頼のあった看護学部ページの内容アップデート、新たに設けられた任意情報エリアの原稿作成、公大一期生のコメント掲載学生（看護学部 1 回生）の紹介を行った。看護学部のトップ写真は市大時代のパンフレットから使用していたが、広報課により撮り直しができることになったため、公大看護学部 2 年生の協力を得て、撮影に参加した。 Ⅲ. HP 管理 各イベント情報の掲載や既存のページ内容の更新を行った。 （更新内容：教員一覧、個人ページ、新任教員個人ページ作成、学部、研究科の行

	事、受賞情報等のお知らせアップ) 府大看護学研究科 HP で CNS 名簿更新などを行ってきたが、25 年度から公大修了生が受験するため、今後の掲載方針を検討した。
来年度の課題	1. 大学院入試の広報活動のアップデートと強化 25 年度入試より保健師資格取得プログラムが開始予定であり、入試広報内容のアップデートが必要となる。また、開学以来定員を満たせていないことから、さらなる広報活動の強化が必要である。 2. オープンキャンパスの充実 23 年度の実施内容を踏まえ、実施日時、回数等の検討の上、参加型の体験・見学の充実を図っていく必要がある。 3. 看護学部・看護学研究科 Hp の管理および充実に向けた検討 情報更新のプロセスを明確にし、見やすく充実した HP を目指す 4. 看護学部カリキュラム変更等の周知 カリキュラム変更等について、概要が決まり次第オープンキャンパスでの広報内容やパンフレット等の内容更新が必要。全学版の大学案内冊子等でもコース選択を一つの特徴として打ち出していることから、早急な対応が必要

委員会名	教務委員会
目的	委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。 (1) 学生の休学、退学、復学、除籍に関すること。 (2) 教育課程に関すること。 (3) 履修に関すること。 (4) 教育の実施及び運営に関すること。
構成員	旗持教授（委員長）、杉本教授、玉上教授、仁尾教授、平谷教授、松田教授 岡本准教授、奥野准教授、林田准教授、森木准教授、根来講師、畠山講師、 山田講師
活動概要	2023 年度は 12 回の委員会 1 回の臨時教務委員会、および 6 回のメール会議を開催した。 委員会では下記の内容について重点的に活動した。 1.退学、休学に関する申請者の確認 申請のあった休学者、退学者の申請書類等について確認を行った。 2.時間割の作成 時間割作成フロー及び配置優先順位について、取り決めを行い、非常勤講師、大阪市立大学医学部看護学科、大阪公立大学地域保健学域看護学類と調整し、学部（1～3 年）、大学院の時間割を作成した。また定期試験日についても時間割を作成した。 3. 履修説明会、コース選択説明会の実施及びコース決定の審議 2023 年度看護学部新入生に対して、4 月に中百舌鳥キャンパスにおいて、新入生オリエンテーションを対面で実施し、9 月には後期についての履修説明会、2 月に 2 年時の履修についてオンデマンド動画にて実施した。3 月には 3 年生の履修について説明会を Zoom にて実施した。研究科新入生に対しては 4 月に阿倍野キャンパスにおいてオリエンテーションを実施した。また、2024 年の学部・大学院の新入生オリエンテーションを企画した。 学部のコース選択については、2 月に 2 コースの特徴について動画作成において説明会を実施し、質問にも対応した。 2022 年度入学生については希望調査を行い、手順通りにコース決定案を作成し、教授会に提出した。 4.既修得単位認定等各種履修申請に関わる審議 既修得単位の認定や学士・修士一貫プログラム、研究生の期間延長、長期履修者の申請書や審査基準を満たしているか等について審議し、審議案を教授会に提出した。 5.学部研究科目の分野履修学生の決定

	先進ケア科学コースの研究科目の学生の希望に応じた分野の確定までの方法について検討し、履修学生を決定した。 6.履修要項の見直し、修正 7.修士課程修了者の修了判定案の作成、教授会への提出 8.各種教務関連規定、要領、申し合わせ等の整備 学部、研究科において以下の規定等の見直し、作成を行った 1)学部：定期試験規定・実施方針、学内監督要領、定期試験等の配置基準、不正行為取扱要領、定期試験規定、学生アドバイザー教員への成績提供について、常勤教員がいない科目への対応について、看護教員輪番表（初年次ゼミナール、チーム医療 A・B）、専任教員が不在な科目等の成績入力方法について、再試験、追試験の受験条件、阿倍野キャンパス新学舎完成までの再履修に係る内規 2)研究科：学位論文提出についての申し合わせ、研究科目・実習科目の履修に関わる申し合わせ、看護学研究科論文審査要領、研究計画書審査報告書、単位取得退学手続き願いのフォーマット、臨地実習教授等規定や申し合わせ事項と申請フォーマットの作成、長期履修制度に関わる実施要領、退学後の再入学に関する内規、休学者の復学後の通年研究科目の履修に関する申し合わせ 9.全学の方針に基づく教学に関する活動の実施 全学教務委員会より依頼のあった看護学部、看護学研究科の教務事項への回答について審議した（転学部・転学域の実施について、研究科の単位取得退学制度について、副専攻に新規開設について、科目等履修生の提供科目について、長期履修生実施要領の改訂）。また、他学部・他研究科学生が履修できる科目、大学コンソーシアム大阪への提供科目を審議し、調整を行った。 10.非常勤講師、教育支援員任用および臨床教授、臨地実習教授等についての審議 申し合わせ等に基づき申請者に係る確認を行った。ただし、教育支援員については年度途中より、教務委員会の議を経ず、教授会での審議となった 11.TA に関する予算の要望のとりまとめと執行についての調整 TA ヒアリングに参加し、次年度の TA 予算計画を立案し、効果的に活用できるよう執行計画の調整を行った。 12.追試申請者の受理等についての審議 追試申請者の理由の適切性、また結果についての意義申し立てへの対応につて審議した。

	13.大学院生修士論文発表会の企画・運営のサポート 大阪公立大学と大阪市立大学、大阪府立大学の学生と合同で羽曳野、阿倍野両キャンパスを使用しての発表会についての大学院生の企画・運営を、事務、教員でサポートした。
来年度の課題	1.養護教諭課程の専門科目の履修が開始となり、実習校の決定までのガイダンスが必要となるため、公大の教職課程委員会、他学部の教職課程の運営方法等も考慮しながら、事務担当者、教職運営部会と連携しながら学生の科目履修が支障なく行えるよう計画・実施する。 2. 博士後期課程の論文審査までのプロセスについて（公聴会などの運営等）の案を検討する。 3. 必要時教学アセスメントへ協力する。 4. 実践看護科学コースの研究科目の分野決定について計画的に実施する。 5. 複数キャンパスでの受講、読み替え科目の受講など、再履修者への指導も複雑になるため、受講申請や再履修者に関する学生の履修指導について、教務事務担当者とアドバイザー等との連携が引き続き必要である。

委員会名	臨地実習委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 臨地実習の教育方針及び教育課程に関すること (2) 臨地実習の運営に関すること (3) 臨地実習の指導体制の整備に関すること (4) 臨地実習に関する規定の制定及び改廃に関すること (5) その他臨地実習の実施及び運営に関し必要なこと
構成員	北村教授（委員長）、杉本教授、富川教授、古山准教授、細名准教授、宮下講師
活動概要	1. 主な委員会活動の実施状況 委員会8回、委員会主な議題は、以下のとおりである。 実習配置表の修正と確定、1年次生への実習オリエンテーション内容の検討、実習要項の検討、実習における感染対策周知、小児期抗体およびインフルエンザ接種の自己管理方法の説明、情報管理の説明、実習ガイドラインの作成、ユニフォーム申請、臨地実習検討連絡会開催等の準備についての会議を開催 2. 所管事項 1) ユニフォーム関係 ・ユニフォーム申し込みオリエンテーションと採寸相談会調整（4月） ・学生と業者との直接申し込みに関する指導（5月―7月） 2) 感染自己管理関連 ・小児期抗体測定（1年）抗体価検査の結果配布および自己管理システムへの入力指導とワクチン接種オリエンテーション ・ワクチン接種に関する相談メールと小児期抗体ワクチン接種状況確認 ・小児期抗体ワクチン接種の集合指導（1年生3回、2年生1回） 3) 実習要項関連 ・2024年度配布用の実習要項検討（共通要項） ・実習要項、印刷部数確認と業者依頼 4) 臨地実習事故報告書関連等 ・インシデントレベル0：2件（個人情報・学生の転倒） ・感染報告：1件（新型コロナ） 5) 実習計画表 ・2023年度実習計画表変更・修正 ・2024年度実習計画表調整 6) 学生オリエンテーション関連 ・1年生、2年生に情報管理について説明し、臨地実習における倫理的手続きと安全管理指導について、事故発生時の対応等、基本的な事項の説明 7) 教員オリエンテーション関係 ・新入職員と公立大学実習担当教員に対する情報管理の研修を実施

	・臨地実習ガイドラインを作成（文科省・厚労省ガイドラインを参考に）申し合わせ事項を全教員に明示できる仕組み作りとして大学の実習運営上の指針などを集約、教員と事務職が検索しやすく収納した。 8) 公文書と施設契約等 ・公文書発行や契約書等の管理など事務と調整して連携方法を確定した ・帰校日教室の調整方法を事務と調整し協力を得た。 9) 大阪公立大学付属病院と府立機構病院等主な実習病院との連絡検討会規約制定後に臨地実習検討委員会開催（3月）
来年度の課題	1. 小児期抗体自己管理について、学生指導を強化し各論実習に備える必要がある。 2. 感染対策と事故発生に対し、学生への指導を行う必要がある。 3. 臨地実習に関する情報管理の教員研修を継続する必要がある。 4. 臨地実習の在り方について、感染状況を見ながら施設側と打ち合わせを継続実施。 5. 先進ケア科学コースと実践看護科学コースの実習状況を把握して課題を速やかに解決し、対応ができるように仕組みを充実させる必要がある。 6. 事務所との連絡・調整を密に行う必要がある。

委員会名	部局評価委員会
目的	委員会は、次に掲げる職務に必要な計画及び評価を行うものとする。 (1) 中期計画、年度計画のうち看護学部・研究科の運営に関すること。 (2) 法人評価のうち学部・研究科の運営に関すること、認証評価および自己点検・評価に関すること。 (3) 看護学研究科・学部の年度評価のための年報の作成に関すること。
構成員	田中研究科長、中山教授（委員長）、杉本教授、作田教授、都筑教授、平谷教授、松田教授、山口教授、中嶋准教授
活動概要	全学における活動：委員会の開催 5 回 主な議題は以下であった ・大阪公立大学大学評価による改善に係る基本方針の改正について ・改善方策及びスケジュール策定依頼について ・2023 年度 年度計画と進捗状況について ・2024 年度 年度計画の策定について ・教員活動点検・評価制度における 2023 年度仮評価の実施状況について 部局における活動：委員会の開催 1 回、内メール審議 1 回 以下の活動を行った。 1. 改善を要する事項にかかる 2023 年度改善方策の作成 2. 大阪公立大学看護学部・看護学研究科年報（仮）の構成案について検討 3. 教学アセスメントポリシー・アセスメントリストを、FD 委員会が中心となり、教務委員長らとともに作成 4. 日本看護学教育評価機構の研修に委員が参加 5. 日本看護学教育評価機構の評価員から情報収集し、評価に必要な 2023 年度の部局のデータの蓄積
来年度の課題	1. 大阪公立大学看護学部・看護学研究科年報（仮）の構成を決定する。その構成に基づいて、年報の素案を記述する。

委員会名	看護実践研究センター運営委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 事業計画に関すること。 (2) 予算に関すること。 (3) その他、看護実践研究センターの管理運営に関すること。
構成員	田中研究科長（所長）、三輪教授（主任） [看護生涯学習支援部門] 細名准教授（副主任）、(精)河野准教授、井上(敦)講師、山内講師 ・CNS ネットワーク活動 富川教授、岡野准教授、井上(敦)講師、徳岡講師、喜田助教 [府民健康支援部門] 南村准教授（副主任）、清水（彬）講師、畠山講師、安本講師 [国際・国内学術研究推進部門] 森本教授（副主任）、和木准教授、高講師、富澤講師
活動概要	1. 運営委員会活動 運営委員会を19名で組織し、円滑な運営ができるように運営委員会（年3回）および部門長会議（年3回）を開催し、活動の検討や推進のための調整活動を行った。 2. 研究・活動支援事業 2023年度助成事業として、看護生涯学習支援部門が7件、府民健康支援部門が4件の計11件が採択され、総額1,480,042円の助成を行った。2024年3月21日（木）に報告会（オンライン）を開催した。 3. CNS ネットワーク活動 CNS ネットワーク会員への情報発信として、年5回のメールマガジンの発行、ホームページでの広報、会員登録の案内チラシの配付を行った。また、年5回の交流会を開催した。今年度から、府立大の修了生以外にも対象を広げ、各回約10名の参加があり、教育と交流の場として役立っていた。 4. 広報活動 看護実践研究センターの活動を広く周知するために、ホームページを作成した。また、センターのリーフレットを作成し、ホームページに掲載した。 5. 闘病記文庫活動 羽曳野図書センター内に開架している闘病記文庫について、2025年度以降の阿倍野キャンパスへの移管について検討した。また、新刊図書の購入、チラシの作成・配布を行った。 6. 年報作成 年報（第2巻）を作成し、ホームページ上に公開した。
来年度の課題	・プロジェクト研究・活動助成事業について、引き続き積極的な研究・社会貢献活動が行われるよう、助成方法や広報等を検討する。 ・CNS ネットワークは、今年度同様の活動を継続するが、会員同士のピアコンサルテーションについては引き続き検討する。 ・闘病記文庫の阿倍野キャンパスへの移管について、引き続き検討する。

委員会名	国際交流推進委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 国際交流に関する企画立案及び実施に関すること (2) 国際交流締結校との交流の促進に関すること (3) その他、国際交流に関して必要なこと
構成員	志田教授（委員長）、伊藤（一）教授、森本教授、横山教授、藤田准教授、細名准教授、井上（奈）講師
活動概要	1. オンラインを活用した学類生を対象としたマヒドン大学交流（担当：井上講師） マヒドン大学看護学生（2年生）との国際交流を目的として、インターナショナルカフェを開催した。 第1回：2024年2月7日15時～16時 ・テーマ 「私が目指す理想の看護師像について」 参加者：マヒドン 看護学生（2年生）3名、教員1名、国際交流課担当者1名、OMU 看護学生2名（2年生発表者）、2名（3年生見学者）、教員1名 第2回：2024年2月21日15時～16時 ・テーマ 「それぞれの国の文化を象徴した看護援助について」 参加者：マヒドン 看護学生（2年生）3名、教員1名、国際交流課担当者1名、OPU 看護学生2名（3年生発表者）、1名（1年生見学者）、教員1名 2. 学部4年生を対象としたサマープログラムに参加（志田、井上講師） 7月31日から8月11日まで、学部生5名（府立大生4名、市立大生1名）が、ラマティボディ校が実施する Ramathibodi School of Nursing Summer Course Program(RSON)に参加した。参加者は11月16日学部1年生への「異文化と看護倫理」の単元のなかで報告会を実施した。香港、台湾、インドネシアからの参加者とともに交流を深めた。 3. マヒドン大学シリラート校との学術交流協定に基づく学生派遣 1) マヒドン大学シリラート校へ本学大学院生5名が派遣され、9月4日から9月16日まで協定プログラムに参加し、異文化看護フィールドワークAを履修した。 9月4日 歓迎セレモニー 9月5日 シリラート病院小児病棟視察 9月6日 グランドパレス視察 9月7日 シリラート病院産科病棟視察 9月8日 シリラート病院産科病棟視察 9月12日 ヘルスプロモーション病院視察 9月13日 寮内で実施されているヘルスプロモーション活動に参加 9月14日 サラヤキャンパス見学

	2) マヒドン大学シリラート校の看護学部より、2名の大学院生が来日し、協定プログラムに参加した（10月15日～28日）。 参加者：Miss Wanida Jaipaeng, Miss Manutsawin Kunthamas 10月16日 はびきのキャンパスにて歓迎セレモニー 10月17日 大阪公立大学附属病院見学（藤田准教授） 10月18日 大阪府看護協会視察（志田） 10月19日 阿倍野防災センター（森本教授） 10月20日 大阪母子医療センター視察（仁尾教授） 10月23日 大阪国際がんセンター視察（伊藤教授） 10月24日 よどき医療と介護のまちづくり株式会社視察 10月25日 適塾跡見学（澤井教授） 10月26日 研究発表会 10月27日 スキルスシミュレーションセンター見学（細名准教授）
来年度の課題	

委員会名	大阪公立大学大学院看護学研究科 研究倫理審査委員会
目的	大阪公立大学大学院看護学研究科及び看護学部に所属する研究者等又は他の研究機関が行う人を対象とする研究について「ヘルシンキ宣言」並びに「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）の趣旨に沿って、倫理的観点及び科学的観点から審査することを目的として大阪公立大学大学院看護学研究科研究倫理審査委員会（以下「委員会」という。）を置く。
構成員	細田教授(委員長)、河野教授、佐藤教授、塩井教授、白井教授、富川教授、仁尾教授、三輪教授、九津見准教授、清水（彩）准教授、園田准教授、土肥准教授、藤田准教授、南村准教授 村上事務所長(羽曳野キャンパス事務所) 外部委員：4名(山中委員、南條委員、清水委員、野間委員) 事務局：福田係長
活動概要	1. 委員会開催 倫理審査に関する委員会を17回（うち予備審査委員会9回）開催した。 1) 申請 99 件（通常審査：44 件、迅速審査：55 件）の研究倫理審査を行った。 博士前期課程：36 件(うち通常審査 10 件、迅速審査 26 件) 博士後期課程：22 件(うち通常審査 7 件、迅速審査 15 件) 教 員：41 件(うち通常審査 27 件、迅速審査 14 件) 2) 報告事項にできる研究計画書の軽微な変更 1 件を確認した。 2. 研究倫理審査委員会審査要領、研究倫理審査申請手順書、研究倫理審査フロー、一括審査依頼・研究機関要件確認書、審査日程を検討した。 3. 研究倫理審査の申請に関するオリエンテーションとして、大学院生、教員を対象とした説明動画および申請資料をポータルサイトに掲載した。 4. 通常審査・迅速審査・多機関共同研究における一括審査についての申し合わせを修正した。 5. 2022 年度 研究実施状況報告書・研究終了報告書の提出状況を確認した。 6. 研究実施計画書記載要領、研究倫理審査申請等様式を改訂した。 7. 外部からの研究協力依頼 1 件の受諾、1 件の非受諾を判断した。 8. 多機関共同研究に係る変更申請の取扱いについて検討した。 9. 本学情報システムにおける学外者との研究データの共有について検討した。 10. 2024 年度の研究倫理教育内容の確認・見直しを行った。 11. 2024 年度の外部委員（新規 1 名）の選任を行った。
来年度の課題	・審査日程の検討 ・外部委員の選任 ・研究実施状況報告書、研究終了報告書・データ等保管状況報告書提出の徹底 ・多機関共同研究一括審査における「教育・研修」の見直し ・研究倫理審査へのシステム導入の検討

委員会名	看護学舎施設整備委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 施設の整備に関すること (2) 円滑な移転に関すること
構成員	都筑教授(委員長)、杉本教授、平谷教授、横山教授、渡邊教授、岡本准教授、林田准教授、森木准教授
活動概要	新棟については、施設課の依頼に沿って、その都度必要な業務を遂行した。旧棟については、旧棟の担当教員を中心に移転後の使途、改修について検討を行った。そのほか、新棟、旧棟の部屋の詳細使途の確認、研究室配置、移転、新規什器などの必要事項の検討を進めた。委員会での検討結果は適宜教授会で報告した。 委員会開催と議事については以下のとおりである。 ○第1回委員会 2023. 4. 21-26 メール審議 ・委員長、副委員長の承認とあべの・羽曳野施設担当者の確認について ○第2回委員会 2023. 8. 31 ・新棟の進捗と今後のスケジュールの検討 ・研究室の配置案の検討、9月公大教授会にて報告 ・旧棟の現状と改修に向けた検討 ○第3回委員会 2023. 10. 18 ・移転に伴う教育物品の購入について ・研究室配置に関して再検討、10月公大教授会にて報告 ・研究室備え付け什器の検討 ・新党実習室の建付け什器について ○第4回委員会 2023. 11. 29 ・建付け家具とAリスト(移転物品)のヒアリング状況 ・新棟・旧棟の使途確認と検討 ・保健室設置の必要性について ・移転に伴う指定規則物品の重複確認について ○第5回委員会 2024. 1. 12 ・旧棟の引っ越し、研究室の配置、演習室、講義室について 1月公大教授会で報告 ・旧棟の使途確認、旧棟から新棟への移転物品について ○第6回委員会 2024. 2. 8 ・1月公大教授会意見についての検討 ・移転該当箇所の確認 ・研究室の椅子の選定 ○第7回委員会 2024. 3. 19 予定

来年度の課題	新棟については引き続き、建設の進捗、施設課の依頼に沿って移転、設置、配置など必要な事項について検討する。また、研究室については、空き部屋の使途について検討し決定する。2025.1～3月には引っ越しすることになっているため、円滑な移転に向けて検討と準備を進める。

委員会名	紀要委員会
目的	委員会は、紀要の編集・発行に関する事項について審議する。 年に1巻、大阪公立大学看護学雑誌を発刊する。
構成員	富川教授（委員長）、佐竹准教授、和木准教授、富澤講師、宮下講師、山口舞子講師
活動概要	2023年度は年間7回の委員会と、メール審議4回を開催し、以下のことを行った。 委員会規定の修正（旧大学紀要に関する業務の追加）、投稿規定の修正（文献記載方法の細部等の追加）、発刊のために必要な手順書と作業に必要な書類の見直しを行った。なお、査読者とのやりとりは、学内ポータルを使用したやりとりとし、個人情報の保護を進めるための検討を行った。 また、大阪公立大学看護学雑誌第2巻発行のために、投稿論文募集、編集作業等、発行のために必要な話し合いを行った。 2023年5月に、論文投稿の案内を開始、9月に8題の投稿論文を受け付け、各論文につき2～最大3回の査読依頼を行った。査読の結果、掲載不可と判定された2題をのぞき、研究報告4題、資料2題を掲載する、大阪公立大学看護学雑誌第2巻を2024年3月に発行した。
来年度の課題	投稿規定、執筆要領、編集関係書類、査読関係書類のさらなる見直しと修正を行っていく。 投稿論文数が増えてきており、委員間での役割分担など、編集作業をさらに効率よく進められるよう、業務分担を検討する。

委員会名	カリキュラム改革委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) カリキュラム改革に関すること。 (2) 指定申請などに関すること。 (3) 多職種連携等にかかる科目に関すること。 (4) その他カリキュラム改革に関し必要なこと。
構成員	松田教授（委員長）、伊藤（一）教授、北村教授、作田教授、都筑教授、中山（美）教授、細田教授、岡本准教授、九津見准教授、河野准教授、和木准教授、大野講師
活動概要	【第1回】2023年4月12日（水）15時～遠隔会議（ZOOM） 1. カリキュラム改革の方向性について 【第2回】2023年4月26日（水）14時～遠隔会議（ZOOM） 1. 重複科目の確認と科目の精選について 2. 1単位あたりの時間数について 【第3回】2023年5月10日（水）10時45分～遠隔会議（ZOOM） 1. 新カリキュラムの素案について 【第4回】2023年5月31日（水）10時45分～遠隔会議（ZOOM） 1. カリキュラム改革の前提と方向性について 2. 教員会議で出た意見について 3. カリキュラム・ポリシー案について 【第5回】2023年6月14日（水）10時45分～遠隔会議（ZOOM） 1. 新カリキュラム素案について ・ モジュール開始時期について ・ 科目開講時期の一部変更について ・ 在宅看護学及び地域看護学の科目（単位数含む）について ・ 実習科目の単位数について 2. 作業の分担について 【第6回】2023年6月28日（水）10時45分～遠隔会議（ZOOM） 1. カリキュラム・ポリシー修正案について 2. 科目群及びその名称について 3. 新設科目等の授業概要案について 4. 内容が重複する科目の取り扱いについて 5. 新カリキュラム素案について 【第7回】2023年7月5日（水）10時45分～遠隔会議（ZOOM） 1. 各専門分野の臨地実習単位について 2. 新カリの授業科目の概要（一覧）について 【第8回】2023年7月26日（水）10時45分～遠隔会議（ZOOM） 1. 専門科目の配当年次について ・ 実習科目について

	・ クリニカルスキル演習（2 前）と日常生活援助技術（2 後）の開講時期変更について
	2. 保健師課程検討部会からの確認事項について 【第9回】 2023 年 8 月 9 日（水）10 時 45 分～遠隔会議（ZOOM） 1. 実習科目の配当年次について 【第10回】 2023 年 8 月 30 日（水）10 時 45 分～遠隔会議（ZOOM） 1. 授業科目の配当年次について 【第11回】 2023 年 9 月 13 日（水）10 時 45 分～遠隔会議（ZOOM） 1. 教育課程と指定規則との対比表について（配当年次、単位数、1 単位当たりの時間数、授業形態、モジュール、時間割） 【第12回】 2023 年 9 月 27 日（水）10 時 45 分～遠隔会議（ZOOM） 1. 教員会議で出された意見について 2. 教育課程と指定規則との対比表（修正案）について 3. 科目建て（地域・在宅）について 4. 3 年次前期の時間割について 5. 今後の予定について 【第13回】 2023 年 10 月 11 日（水）10 時 45 分～遠隔会議（ZOOM） 1. モジュールの名称について 2. 科目の名称について 3. 3 年次前期の時間割について 4. 今後の予定について 【第14回】 2023 年 10 月 25 日（水）10 時 45 分～遠隔会議（ZOOM） 1. 各分野からの回答内容について 【第15回】 2023 年 11 月 8 日（水）10 時 45 分～遠隔会議（ZOOM） 1. 実習時期に関する各分野からの回答について 2. 地域看護学実習について 【第16回】 2023 年 11 月 22 日（水）10 時 45 分～遠隔会議（ZOOM） 1. 今後の会議について 【第17回】 2023 年 12 月 13 日（水）10 時 45 分～遠隔会議（ZOOM） 1. モジュールについて 【第18回】 2024 年 1 月 10 日（水）10 時 45 分～遠隔会議（ZOOM） 1. 1 単位当たりの時間について 2. 養護教諭課程の定員制について 【第19回】 2024 年 1 月 31 日（水）10 時 45 分～遠隔会議（ZOOM） 1. 新設科目について 2. 科目名称について 【第20回】 2024 年 2 月 15 日（木）10 時 45 分～遠隔会議（ZOOM） 1. カリキュラム・ポリシーについて 2. 科目名称について

	【第21回】2024年2月28日（水）10時45分～遠隔会議（ZOOM） 1. カリキュラムについて 2. カリキュラム・ポリシーについて 3. 保健師課程のカリキュラムについて 【第22回】2024年3月27日（水）10時45分～遠隔会議（ZOOM） 1. 履修モデルについて 2. 大学院前期課程修士論文コースのカリキュラムについて
来年度の課題	本委員会は、2025年度からの看護学部教育を新カリキュラムで開始すべく、毎月2回の委員会開催を基本に準備を進めた。新カリキュラムについては、2026年度より開始することが教授会で決定されたことに伴い、看護学部新カリキュラム変更承認申請に必要な書類の作成スケジュールも更新されたことから、来年度は更新されたスケジュールに沿って確実に作業を進める必要がある。

大阪市立大学として継続する委員会

2023 年度

委員会名	教務委員会(市大・看護学科)
目的	委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。 1. 教育課程に関すること 2. 学生の入学（入試委員会の所管事項除く）、退学、休学、復学、除籍及び卒業に関すること 3. 学生の課外活動に関すること 4. 学生の保健管理に関すること 5. 授業科目の履修及び単位の認定に関すること 6. その他教務に関すること（臨地実習に関すること等）
構成員	玉上教授（委員長）、白井教授(副委員長)、作田教授、塩井教授、平谷教授、岡本准教授、河野准教授、森木准教授、清水（彬）講師、畠山講師
活動概要	2023 年度は、14 回(うち 3 回の臨時委員会)の教務委員会を開催した。委員会では、上記の事項について下記の通り活動した。 1. 教育課程に関すること ・教育要項、時間割、非常勤講師委嘱、卒業研究等の教育課程について、各担当者を中心に資料等の準備を進め、適切な時期に審議案件として審議し、滞りなく実施した。 ・教務ガイダンスは、4 年生のみが対象であり、今年度委員会にて情報共有した学生状況をふまえ、ガイダンス内容を補足した上で実施した。 2. 学生の入学、退学、休学、復学、除籍及び卒業に関すること ・休学、退学希望、長期欠席の学生は、委員長、副委員長、学務課 3 者での教務面接を実施し、学生の状況を随時把握し、意向確認した上で諸手続きを進めた。 ・過年度生 1 名が退学希望(3/13 教務委員会にて退学届けを確認・承認)、後期途中から欠席している 3 年生 1 名が次年度 4 月からの出席を検討しており、それ以外の学生は順当に履修していることを確認した。 ・卒業判定会議を開催し、卒業要件を確認の上、55 名の看護学科生を卒業可と認定した。3 月教授会にて 55 名の卒業を可と認定した。 3. 学生の課外活動に関すること ・学生の課外活動による問題などはなかった。 4. 学生の保健管理に関すること 1)健康診断 ・学生が大学での健康診断を受診するよう周知し、診断結果が必要な実習施設に報告した。 2)感染症予防対策の実施

	・感染症対策担当教員を中心に、大学の方針も踏まえ、学生への注意喚起を実施した。 ・臨地実習中の更衣場所・食事場所等については、感染拡大防止対策として、分散化を継続し、学生に周知徹底した。 ・新型コロナ感染症罹患の場合は、大学の対応に則り対応した。 ・医学部附属病院での実習中は、看護部からの「臨地実習における感染拡大防止対策について」、医学部附属病院感染症対策マニュアルの「教職員・外部委託職員等における有症状者(発熱等)の体調管理について」に則り、実習を控える基準を作成・対応し、適宜看護部に報告した。 5. 授業科目の履修及び単位の認定に関すること 1) 履修の確認 ・前期、後期に、科目履修者一覧を作成し確認した。 ・学生在籍状況一覧を元に、過年度生および未習得科目のある学生の履修状況を確認した。 ・過年度生の公立大学看護学部科目・市大看護学科科目読み替えによる履修に関する留意点・確認事項を審議した。 ・過年度生については、講義開始前に委員長、アドバイザー、学務課3者での教務面接を実施し、履修計画などを確認し、滞りなく履修するよう指導した。 2) 試験に関すること ・大学における定期試験等に係るスケジュールに則り、看護学科内でのスケジュールを作成し、試験の実施、成績入力期間等を提示した。 ・全科目の試験結果、追・再試験対象学生の把握、追・再試験結果を確認した。 6. その他教務に関すること（臨地実習に関すること等） 1) 臨地実習に関すること ・臨地実習教授等の委嘱については、各実習施設の状況に合わせて推薦書の作成を依頼し、委嘱した。 ・各領域の実習に係る予算について審議した。 ・実習計画、実習学生グループ編成は、担当者が計画し、適切な時期に審議した。 ・医学部附属病院での臨地実習検討委員会を計画通り開催した。 2) 学生の状況について ・講義、演習、実習で気になる学生について、毎委員会時に情報共有した。 ・公立大・先進ケア科学コースの学生についても情報共有した。 ・公立大・先進ケア科学コースの学生への対応がスムーズにできるよう、コースごとのアドバイザー制の提案およびコース内での情報共有の必要性について、公立大教授会にて進言した。

来年度の課題	1. 4年生が滞りなく履修し、卒業できるよう確認する。 2. 過年度生については、履修状況および未履修科目などを学務課と綿密に連携し、把握する。さらに学生が履修計画通りに履修できるよう、アドバイザーとの連携を継続し指導する。 3. 気になる学生等の情報共有は、講義や実習指導にも必要となるため、継続していく。

大阪府立大学として継続する委員会

2023 年度

委員会名	臨地実習委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 臨地実習の教育方針及び教育課程に関すること (2) 臨地実習の運営に関すること (3) 臨地実習の指導体制の整備に関すること (4) 臨地実習に関する規定の制定及び改廃に関すること (5) その他、臨地実習の実施及び運営に関し必要なこと
構成員	北村教授（委員長）、三輪教授、勝山講師、高講師、中山講師、深山講師、安本講師、山内講師、喜田助教、柱谷助教
活動概要	1. 主な委員会活動の実施状況 委員会 9 回、総合実習学生配置（4 月）、3 年次生への実習オリエンテーション（7 月）、府立 5 医療センター臨地実習連絡会（3 月）、文部科学省調査書類作成、実習における感染対策周知（適宜） 2. 所管事項 1) 実習運営関係 ・2023 年度分野別実習オリエンテーションの開催 ・2023 年度後期～2023 年度前期実習進度表・学生配置表の調整及び作成 ・2023 年度の実習帰校日使用教室の調査・予約 ・2023 年度総合実習の学生配置数（案）の検討 ・2023 年度実習衣購入に関わる検討及び関係者との調整 ・インフルエンザワクチン接種報告の集約 ・新型コロナワクチン接種報告書の作成 2) 府立 5 医療センター臨地実習連絡会関係 ・府立 5 医療センターでの 2023 年度及び 2023 年度の実習計画の作成 ・各施設窓口担当教授と連携し、施設との調整 ・府立 5 医療センター臨地実習連絡会を開催し、施設との情報交換 ・学生による臨地実習評価アンケートの実施及び報告書の作成 3) 実習関連情報関係 ・実習要項の作成：看護学臨地実習要項、各領域・分野別実習要項、総合実習要項 ・実習で使用する感染予防物品の一括購入 ・2023 年度臨地実習における事故報告のとりまとめ インシデントレベル 0：2 件（観察報告・個人情報） インシデントレベル 1：2 件（食事水分・個人情報）

	・「実習における個人情報取り扱いに関するガイドライン」の説明と学生・教員誓約書の取り 交わし：書類管理 ・実習指導教員の小児期感染症抗体価検査の公費での実施 ・臨地実習公文書に伴う調整 ・オンライン実習における学生の意見をアンケートで確認
今後の課題	1. 感染対策と事故発生に対し、学生への指導を丁寧に行う必要がある。 2. 臨地実習に関する情報管理の教員研修を継続する必要がある。 3. 臨地実習の在り方について、感染状況を見ながら施設側と打ち合わせを継続実施。 4. 事務所との連絡・調整を密に行う必要がある。

委員会名	教育運営委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 教育課程に関すること (2) 履修に関すること (3) 教育の実施及び運営に関すること
構成員	杉本教授(委員長)、簀持教授、北村教授、仁尾教授、奥野准教授、林田准教授、根来講師、山田講師
活動概要	2023 年度は 12 回の教育運営委員会を開催した。 委員会では下記の内容について重点的に活動した。 1. 在校生履修説明会の実施 2023 年度在校生履修説明会は、3 年生に対して対面で実施した。併せて、総合研究の学生配置決めに学生主体で実施した。 2. 時間割作成 2024 年度大阪府立大学看護学類 4 年生の時間割を、大阪公立大学看護学部、大阪公立大学看護学研究科の時間割との整合を取りながら作成した。 3. 保健師科目選考試験の実施 教育運営委員長が選考試験委員長となり、公衆衛生看護学担当教員を中心に選考試験を実施した。 4. 博士論文、修士論文・課題研究発表会の開催への支援 大学院生による博士論文 4 名・修士論文・課題研究計 6 名計 10 名の発表会の準備を支援した。開催は対面形式で開催した。大阪公立大学の論文発表会と合同で実施した。 5. 単位未修得学生への指導（アドバイザー支援） ・2017 年度から継続して、学生個人に単位取得状況に関するチェック表を配布し、学生自身による履修科目の管理やアドバイザーによる履修指導に役立てるようにした。 ・前期・後期の全学生の単位修得状況を確認し、単位未修得学生の情報をアドバイザー教員に配付し、個別指導を依頼した。 ・単位未修得学生の個別指導のために、府立大学の新大学科目の読み替え科目一覧表を再度確認、教授会で周知した。 6. 全学教務関係委員会（教育企画運営会議）への出席 大阪府立大学全体の教務内容と学類の教育運営委員会が連動して運営できるように調整を行った。 7. 非常勤講師の選出・任用についての審議

	非常勤講師の去就に伴い、新たな担当者を決定し、履歴書を基に審議した。 8. TA 時間配分の調整 領域ごとの効果的な、効率のよい TA の運営に向け、時間配分等の調整を行った。 9. 科目の GPC の点検・評価の実施 各科目の GPC と成績分布について 2022 年度後期分と、2023 年度前期分を確認した。教授会でも報告し、各担当教員で目標設定や学生の学習状況、指導方法の振り返りを促した。 10. 大学院の先行履修制度の在学生への周知と審査 在学生への周知、先行履修申請者の審査を実施した。 11. 卒業・修了判定の確認
来年度の課題	単位未修得学生への履修指導は複雑であるため、教務事務、アドバイザー等との連携が必要である。 大学院論文発表会は、公立大学と共同で開催したため会計の処理が煩雑になった。次年度は、10 名の修了生に 8750 円の予算だったので、1 人当たり 850 円分程度を支出し、予算執行は公立大学で行う方がよい。

委員会名	学生委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 学生の休学、退学、復学、除籍に関する事 (2) 学生の表彰及び処分に関する事 (3) 学生の生活指導に関する事 (4) 学生の福利厚生に関する事 (5) 学生相談に関する事 (6) その他、学生生活に関する事
構成員	志田教授（委員長）、中山教授、長畑教授
活動概要	1. 委員会の開催 羽曳野キャンパス学生委員会（看護学類7回開催、うちメール会議を2回実施）。 2. 活動状況 1) 奨学支援 国、大阪府の修学支援制度があり、成績や学習意欲で指導が必要な学生に対して、学生アドバイザーから対応を依頼した。 【国の支援】高等教育の修学支援制度（授業料減免制度＋給付奨学金）学類生 34 名 【大阪府の支援】大阪公立大学等授業料等支援制度 学類生 70 名 【日本学生支援機構】貸与奨学金 学類生 64 名、大学院生 3 名 【大学独自の給付奨学金】・グローバルリーダー育成奨学金 学類生 1 名 ・研究奨励金 大学院生 10 名 2) 学生相談 ・学生・就職担当への相談 5 件（府大生のみ） （内訳）休学相談 1 件、交換留学相談 1 件、保健室相談（心理相談） 2 件 ・学生なんでも相談窓口利用数 0（府大生のみ） 3) 課外活動支援 ・羽曳野クラブサークル数：10 団体（体育系 5、文化系 2、学生団体 2、登録団体 1） ・クラブの団体結成承認など：結成承認 0 団体、解散承認 1 団体、変更承認 0 団体 4) 福利厚生、安全と健康 ・保健室使用件数 64 件、学生相談利用件数 84 件 （2024 年 2 月末現在、公大・府大生含む延件数、学生相談 実利用者数 8 名（実数）のうち看護学生 5 名） 5) 賞罰 前期： ・学長表彰：学類 0 名、大学院 1 名 ・杏樹賞：学類 2 名 後期： ・学長表彰：学類 0 名、大学院 1 名

	・杏樹賞：学類 3 名、大学院 1 名 ・学業成績優秀賞（白鷺賞）：学類 1 名 ・大阪府看護協会会長賞：学類 1 名 6) 休退学等 〈休学〉学類 9 名、大学院 前期(M) 1 名、後期(D) 5 名 〈交換留学〉学類 2 名 〈退学〉学類 5 名、大学院 後期(D) 1 名（3 月中旬に退学願提出予定。3 月末までに提出が無い場合は在学年限満了による除籍） 〈除籍〉なし 7) アクセスセンターと連携した在学生のサポート 就学上の合理的配慮が必要な在学生の配慮の内容について検討するとともに経過等について情報交換を行った。令和 4 年度アクセスセンター対応件数：府大生 22 件（実人数 5 名） 8) その他 学生生活 ・アドバイザーグループ編成と学生配置の決定 ・杏樹祭を感染対策に考慮しながら、令和 4 年 10 月 22 日（土）11:30—17:30 で開催した。 ・学位記授与式の企画・運営 ・大学院生室のプリンター等の管理 ・次年度の大学院生室の机・ロッカー使用規定の作成 ・大学院修了生の謝恩会を令和 5 年 3 月 9 日（木）18:30-19:30 にキャンパス内で開催した。
今後の課題	1. 学生の学生生活充実に向けた支援、学習環境の調整 2. ポストコロナ禍における学生活動に関する緩和対策

委員会名	就職委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について、審議する (1) 就職業務方針に関すること (2) 就職の相談及び指導に関すること (3) 求職、求人に関すること (4) 求職についての調査に関すること (5) その他就職に関すること
構成員	渡邊教授(委員長)、紙野准教授、清水(彩) 准教授、伊藤(良) 講師、池田講師、中村講師、長野講師
活動概要	1. 就職ガイダンス等の開催 【3年生対象】 第1回ガイダンス 8月2日～(オンライン:動画配信) ・大阪府立病院機構から、実習指導や就職支援を説明 第2回ガイダンス 12月16日(土曜) 15時から16時30分(対面) ・就職活動・国家試験スケジュール説明等、キャリア支援室利用の勧め ・就職活動準備講座(講師:マイナビ) ・模擬試験について説明等 第3回ガイダンス 2024年1月15日～(オンライン:動画配信) ・大阪府立病院機構説明会 ・応募書類作成セミナー&面接実践セミナー(2月28・29日対面開催) キャリア支援室 【4年生対象】 第4回ガイダンス 4月21日(対面) 参加人数28名 オンデマンド配信併用 ・就職活動・国家試験スケジュール 第5回ガイダンス 8月7日～11日(オンデマンド) ・看護師国家試験の傾向と対策(さわ研究所講師によるセミナー) ・進路報告登録について、国家試験スケジュール 第6回ガイダンス 2024年2月5日(オンライン:Zoom開催) ・国試直前ガイダンス 自己採点会 2024年2月13日 ・看護師国家試験の自己採点会(ねこナース Web 自己採点サービスを利用) 2. 就職支援 1) エントリーシート作成(キャリア支援室主催) 面接対策: キャリア支援室 2) 就職に関する事務 ・就職情報・進路資料の管理・就職状況の把握 3. 国家試験に関すること

	・模擬試験担当者を決め、学生主体の模擬試験を実施できるように支援 ・模試結果を分析し、担当アドバイザーに成績等学習指導の連絡 ・外部講座を有効活用し、特に模試成績が下位の学生に対して推奨 【3年生対象研修会等の実施】 ◆国家試験スタートアップ模試 7月1日～8月31日 ・さわ研究所「専門基礎模試」解剖生理学 50問 + 解説講義 DVD ◆国家試験対策セミナー 8月2日～（オンライン：さわ研究所のガイダンス活用） 【4年生対象研修会の実施】 ◆国家試験直前講座 12月20日～2024年2月10日 ・さわ研究所 講師が選ぶ最後の100問 オンデマンド講座 4. 委員会の開催 （5回／年）4/12、6/7、10/23、12/22、3/22 ・委員会活動計画と担当者決定 ・模擬面接の評価と開催方法の検討（時期と内容、キャリアサポート活用検討） ・就職ガイダンスの企画・運営について・就職内定状況について ・国家試験対策支援の現況・予算執行状況について ・国家試験対策の評価と実践計画・状況把握 ・看護師国家試験模擬試験結果についてアドバイザーへの模擬試験連絡
来年度の課題	1. 就職ガイダンスの継続と内容評価 2. キャリアサポートとの履歴書添削、面接練習における連携評価 3. アドバイザー教員との連携 4. 学生主体の国家試験模擬試験の運営 5. 国家試験対策講座の開催、低学年模試について継続の有無を検討

委員会名	羽曳野キャンパス感染対策委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 学生及び教職員の感染予防対策に関すること (2) 感染予防対策実施の監視と指導に関すること (3) 感染症発生後の適切な事後処理に関すること (4) 感染症発病者の人権擁護に関すること (5) 学外実習施設等との感染対策に関わる連絡調整に関すること (6) その他、感染予防に関し必要と認められる事項に関すること
構成員	佐藤教授（委員長）、喜田助教
活動概要	1. 羽曳野キャンパス感染対策委員会の開催 第1回委員会を5月10日にメール会議で実施し、以下の審議および報告がなされた。 ・委員長と副委員長の選出 前年度に引きつづき、安全管理者の村上所長が委員長で、リハビリテーション学研究科長の樋口教授が副委員長に選出された。 ・前年度の新型コロナウイルス陽性者と濃厚接触者の報告数 看護 96/126（陽性者/濃厚接触者）、理学 22/17、作業 20/26、栄養 14/16、大学院生 16/5（合計 43/102）と看護・総合リハとも昨年度より増加していた。 感染症報告については、5月の教授会において報告した。 ・看護部会で作成している「臨地実習における新型コロナウイルス感染症対策」（2023年2月付）を委員会で共有した。 2. 臨地実習委員会との協働による実習における感染対策 随時、臨地実習委員会と協議し、実習要項の記載内容や「臨地実習における新型コロナウイルス感染症対策」の修正などを行った。 3. 感染症発生状況のモニタリング 学校保健安全法により「学校において予防すべき感染症」とされているインフルエンザ等の感染症については、毎週月曜に保健室看護師から報告された情報によりモニタリングを実施した。
今後の課題	近年では冬季に限らず年間を通じて新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの罹患者が見られることから、学生への注意喚起を行う。

2022 年度

委員会名	学生委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 学生の表彰及び処分に関すること。 (2) 学生の生活指導に関すること。 (3) 学生の福利厚生に関すること。 (4) 学生相談に関すること。 (5) その他学生生活に関すること。
構成員	松田教授(委員長)、志田教授(副委員長)、長畑教授、横山教授
活動概要	【第1回】日時 2022 年 5 月 13 日(金) 13 時 15 分～(遠隔会議(Teams)) 審議事項 1. 2022 年度学生委員会について 2. 2022 年度学生委員会 年間スケジュール(案)について 3. 2022 年度学生委員会 議題予定一覧(案)について 4. 2022 年度学生委員会 役割(案)について 5. 2022 年度委員会・部会活動計画及び予算執行計画(案)について 【第2回】日時 2022 年 9 月 6 日(火)入試判定会議後[入試試判定会議 15:00～] 場 所 阿倍野キャンパス看護学舎 8 階:会議室 3 階 審議事項 1. 日本学生支援機構 大学院第一種奨学金返還免除 評価項目一覧表・評価基準について 2. クラス委員について 役割の明確化 【第3回】日時 2022 年 12 月 20 日(火)13 時 15 分～(遠隔会議(Zoom)) 審議事項 1. 2022 年度(後期)学生表彰候補者の推薦について 2. 学生アドバイザーの運用について 【第4回】日時 2023 年 2 月 16 日(木)13 時 15 分～(遠隔会議(Teams)) 審議事項 1. 2023 年度年間スケジュールについて
来年度の課題	来年度の課題は、全学の方針やスケジュールに合わせた対応を柔軟に行うことである。学生アドバイザー制度については、運用する中で学生アドバイザーの声を吸い上げて検討し、制度が適切に機能し定着するよう努める必要がある。

委員会名	FD 委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 教員の教育内容・授業方法の改善に関する事 (2) 教員の教育・研究能力の向上に関する事 (3) 教育・研究活動の評価の実施に関する事
構成員	河野教授(委員長)、長田准教授、細名准教授、伊藤講師
活動概要	2022 年度は教員の研究交流、情報交換、研修を行うことを目的に別紙のとおり、定期的なジャーナルカフェの開催を合計 8 回、教育に関する研修を 1 回開催した。 (P. 187～P. 188 参照)
来年度の課題	2022 年度に開催した研修やジャーナルカフェの参加率は高く、参加教員からも高い評価を得ていると考える。次年度も引き続き、同様の企画を行い、教員間の交流と教育啓発を進める予定である。

委員会名	入学試験運営委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 入学者選抜方法の基本方針・重要事項に関すること。 (2) 入学者選抜方法の実施・運営に関すること。 (3) 入学者選抜試験問題の作成及び採点に関すること。 (4) その他入学者選抜に関すること。
構成員	田中教授（研究科長）、山口教授（委員長）、作田教授、中山教授、長畑教授、渡邊教授、益准教授、岡野准教授、精）河野准教授、小西准教授、田中准教授
活動概要	第1回（4/20） 審議事項：看護学部入学試験運営委員の役割分担案および役割呼称変更について 看護学部入学試験運営委員会の開催日程について 委員会予算について 大学院における英語（前期3回、後期2回分）の作問候補者について 2023年度看護学研究科入試の事前面談について 2023年度大学院の入試問題の点検方法について 報告事項：第1回全学入試運営委員会報告（4/6開催） 第2回（5/18） 審議事項：看護学部入学試験運営委員の役割分担の決定について 2023年度看護学部・研究科入試日程（案）合格者判定会議日程について 2023年度入試に係る問題作成の依頼（案）について 報告事項：学部入試（英語）解答確認委員の選出 一般選抜の志望動向について（5/11 部局長連絡会議報告） 第2回全学入試運営委員会報告（5/11開催） 第3回（6/15） 審議事項：学部・大学院入試申し合わせの改訂について 学部特別日程試験（追試験）の出題教科・科目について 大学院12月入試実施について 大学院入試実施要領（案）の検討 報告事項：第3回全学入試運営委員会報告（6/1） 第4回臨時全学入試運営委員会報告（6/27-30 メール審議） 第5回全学入試運営委員会報告（7/6開催） 大学院入試出願資格審査結果報告 入試日程・判定会議日程（共通テスト追試験反映）について 第4回（7/8） 審議事項：学部・大学院入試申し合わせの改定について 大学院入試実施要領（案）について 2025年度学部特別日程試験（追試験）の出題教材・科目について検討 報告事項：第4回臨時全学入試運営委員会メール審議の報告 第5回全学入試運営委員会報告（7/6開催）

	大学院入試出願資格審査結果報告 入試日程・判定会議日程について 第5回 (8/17) 審議事項：2025 年度個別学力検査の利用教科・科目についての検討 2023 年度大学院 1 次募集入試実施要領(8/29, 30 実施)について 助産師養成プログラム追加合格の運用について 報告事項：第 6 回全学入試運営委員会報告(8/3 開催) 大阪公立大学における入試手当 ‘(学部・大学院) の支給方法について 2023 年度博士前期課程特別選抜学生募集要項の記載漏れ事案について 大学院博士後期課程(1 次募集)の前期課程特別選抜採点業務について 学校推薦型選抜における採点業務について 8/24：1 次募集 大学院入試実施要領説明会 8/29：博士前期課程入試(1 次募集)、8/30：博士後期課程入試(1 次募集) 第6回 (9/21) 審議事項：2023 年度大学院入試実施要領の改善点の検討(1 次募集) 大阪公立大学大学院看護学研究科入学者選抜試験に関する申し合わせの修正について 大学院入試判定基準について 報告事項：第 7 回全学入試運営委員会報告(9/6 開催) 2023 年度大学入学共通テストについて 大学院 2 次募集に向けたスケジュールについて 2023 年度以降は入学試験で使用された問題を公表することについて 第7回 (10/19) 審議事項：大学院入試の合否判定基準について 学校推薦型選抜の運用について 学生募集要項(一般選抜)及び個別学力検査等実施要領の訂正依頼箇所 報告事項：第 8 回全学入試運営委員会報告(10/5 開催) 学校推薦型選抜における採点運営の当日担当者決定について 第8回 (11/16) 審議事項：学校推薦型選抜の個別学力検査等の利用科目検討(入試課から提示案) 2023 年度大学院入試実施要領(12/10, 11 実施)について 大学院入試の合否判定基準について(委員会意見の集約) 大学院入試過去問題の取り扱いについて 博士前期課程第 3 次募集の実施について(2/11 に決定)。 報告事項：第 9 回全学入試運営委員会報告(11/2 開催) 大学院入試出願資格審査結果(10/24～31 書面審議) 2023 年度学校推薦型選抜の志願状況、採点委員数等について 2023 年度一般選抜採点委員の選出(第 3 回入試推進本部会議依頼事項)

	12/6：大学院入試2次募集実施要領説明会 12/10：博士前期課程入試（2次募集）、12/11：博士後期課程入試（2次募集） 第9回（12/21） 審議事項：学生の受入の内部質保証に関する方針及びアセスメントリストの検討 （第4回入試推進本部会議依頼事項） 学校推薦型選抜 出願書類評価マニュアルについて 博士前期課程大学院入試の願書の修正について 報告事項：2023年度大学院入試第3次募集の実施スケジュールについて 第4回入試推進本部会議報告（11/28開催） 第10回全学入試運営委員会報告（12/7開催） 1/5：学校推薦型入試成績評価 1/14, 15：大学入学共通テスト 第10回（1/18） 審議事項：2023年度大学院入試実施要領（2/11実施）について 学部入試の採点要領等の修正について 報告事項：一般選抜後期日程の面接課題の方針について 入試関係のスケジュールについて（2023年1月～3月） 2023年度私費外国人留学生特別選抜志願者数について 2023年度看護学研究科第3次募集出願資格審査申請件数について 第11回（2/1） 審議事項：2024年度大学院入試日程について 2024年度大学院学生募集要項（初校）について 2023年度大学院入試実施要領（3次募集）について 2023年度一般選抜前期日程実施要領（2/25実施）について 一般選抜前期日程における受験上の配慮申請について 報告事項：一般選抜出願件数について（1/31現在） 2/9：大学院入試実施要領説明会（3次募集） 2/11：博士前期課程入試（3次募集） 第12回（2/15） 審議事項：2023年度一般選抜前期日程実施要領（2/25実施）について 2023年度一般選抜後期日程実施要領（3/12実施）について 2024年度大学院学生募集要項（第2校）について 報告事項：第11回全学入試運営委員会報告（2/1開催） 一般選抜出願件数について 2023年度大学入学共通テスト振り返りに対する意見について 2024年度大学院（1次募集）の募集チラシについて 2/22：学部一般選抜前期入試実施要領説明会 2/25：学部一般選抜前期日程

	第13回 (3/1) 審議事項：2023 年度一般選抜後期日程面接試験要領の修正について 2023 年度一般選抜後期日程実施要領（3/12 実施）において 2022 年度委員会報告書について 2024 年度看護学部入試運営委員会開催日程案について 報告事項：12 回入試運営委員会（3/1 開催）報告 3/6：学部一般選抜後期入試実施要領説明会 3/12：学部一般選抜後期日程
来年度の課題	大阪公立大学看護学部開学に向け、昨年度より学部・大学院の入試運営業務の検討を行い、それを受け今年度は、学部（特別選抜・学校推薦型選抜：募集人数 55 名、一般選抜 105 名：前期日程 85 名、私費外国人留学期特別選抜若干名、後期日程 20 名）と看護学研究科大学院（博士前期課程 50 名・後期課程 10 名）の入試を行い、さらに博士前期課程に助産師資格取得プログラム（6 名）の入試を行った。入学試験運営委員会では、今年度の入試運営業務内容（入試実施要領、運営方法等）を随時見なおし、修正を加えながら入試運営に携わった。 次年度からは、入学試験運営委員会の下部組織に入試評価部会を設けることになり、個別学力検査後期日程を含め学部入試について検討を行う必要がある。大学院入試においては、博士前期課程に内部推薦制度を設けるかについて検討を行っていく予定である。さらに、博士前期課程への入学者確保に向け学部全教員と協力していく必要がある。また、2025 年度の博士前期課程保健師専攻科の開設に向け、担当小分野教員と情報を共有し入試に向けた準備を行う必要がある。

委員会名	教務委員会
目的	委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。 (1) 学生の休学、退学、復学、除籍に関すること。 (2) 教育課程に関すること。 (3) 履修に関すること。 (4) 教育の実施及び運営に関すること。
構成員	旗持教授（委員長）、北村教授、杉本教授、玉上教授、仁尾教授、平谷教授 松田教授、奥野准教授、林田准教授、森木准教授、根来講師、山田講師
活動概要	2022 年度は 12 回の委員会および 8 回のメール会議を開催した。 委員会では下記の内容について重点的に活動した。 1. 退学、休学に関する申請時の確認 申請のあった休学者、退学者の申請書類等について確認を行った。 2. 時間割の作成 時間割作成フロー及び配置優先順位について、取り決めを行い、非常勤講師、大阪市立大学医学部看護学科、大阪府立大学地域保健学域看護学類と調整し、学部（1～2 年）、大学院の時間割を作成した。 3. 新入生履修説明会、コース選択説明会の実施 2022 年度看護学部新入生に対して、4 月に中百舌鳥キャンパスにおいて、コロナ感染症対策に留意しながら新入生オリエンテーションを実施した。また 9 月には後期についての履修、2 月には 2 年時の履修について説明会を Zoom にて実施した。研究科新入生に対しては 4 月に阿倍野キャンパスにおいてオリエンテーションを実施した。また、2023 年の学部・大学院の新入生オリエンテーションを企画した。 学部のコース選択については、10 月にコース選択スケジュールについて対面にて説明し、2 月には 2 コースの特徴について説明会を企画し、運営した。 4. 既修得単位認定等各種履修申請に関わる審議 既修得単位の認定や学士・修士一貫プログラム、研究生の期間延長、長期履修者の申請書や審査基準を満たしているか等について審議した。 5. 各種教務関連規定、要領、申し合わせ等の整備 学部、研究科において以下の規定等を作成した 1) 学部：定期試験規定・実施方針、学内監督要領、定期試験等の配置基準、不正行為取扱要領、定期試験規定、学生アドバイザー教員への成績提供について、常勤教員がいない科目への対応について、看護教員輪番表（初年次ゼミナール、チーム医療 A・B）、専任教員が不在な科目等の成績入力方法について、再試験、追試験の受験条件、阿倍野キャンパス新学舎完成までの再履修に係る内規

	2) 研究科：既習得単位認定申し合わせ、看護学研究科論文審査要領、研究計画書審査報告書、単位取得退学手続き願いのフォーマット、臨地実習教授等規定や申し合わせ事項と申請フォーマットの作成、長期履修制度に関わる実施要領、退学後の再入学に関する内規、休学者の復学後の通年研究科目の履修に関する申し合わせ 6. 全学教務委員会への出席し、全学の方針と連動できるように活動した 全学教務委員会より依頼のあった要望書や要領（臨地実習受益者負担に関する要望書、留学中のオンライン授業科目の履修に係る運用内規、研究生出願要項）を作成した。また、他学部・他研究科学生が履修できる科目、大学コンソーシアム大阪への提供科目を審議し、調整を行った。 7. 非常勤講師、教育支援員任用および臨床教授、臨地実習教授等についての審議申し合わせ等に基づき申請者に係る確認を行った 8. TA に関する予算の要望のとりまとめと執行についての調整 TA ヒアリングに参加し、次年度の TA 予算計画を立案し、効果的に活用できるよう執行計画の調整を行った。 9. 臨地実習に関わる準備・対応 抗体検査・ワクチン接種の確認方法の検討と実施や学生のユニフォーム購入に関する準備等のスケジュールを作成し、対応した。ワクチン接種等に関する学生への周知や相談も担当者が行った。感染ガイドも作成した。
来年度の課題	1. 複数キャンパスでの受講、読み替え科目の受講など、再履修者への指導も複雑になるため、受講申請や再履修者に関する学生の履修指導（コース選択も含めて）について、教務事務担当者とアドバイザー等との連携が必要である。 2. コース選択についてのスケジュールを確実に実行する 3. 公立大学博士前期課程の論文発表会など、大学院最終年度の準備が必要となる。 4. 教学アセスメントの実施等について評価委員会に確認、協力・連携体制が必要である。

委員会名	部局評価委員会
目的	委員会は、次に掲げる職務に必要な計画及び評価を行うものとする。 (1) 中期計画、年度計画のうち看護学部・研究科の運営に関すること。 (2) 法人評価のうち学部・研究科の運営に関すること、認証評価および自己点検・評価に関すること。 (3) 看護学研究科・学部の年度評価のための年報の作成に関すること。
構成員	田中研究科長、中山教授（委員長）、杉本教授、作田教授、都筑教授、平谷教授、松田教授、山口教授、中嶋准教授
活動概要	部局における活動： 委員会の開催 2 回、内メール審議 1 回 - 大阪公立大学看護学部・看護学研究科年報（仮）の作成についての検討 発刊時期：学部が完成年度を迎える 4 年後とする。 発刊時期は 4 年後になるが、項目を決めて毎年データを残していくことを教授会で依頼する→5 月の教授会で報告 委員会活動の報告書を 2 月の教授会にて依頼し、3 月の教授会で報告 - 大阪公立大学看護学部・看護学研究科年報（仮）の構成案についての検討 大阪公立大学看護学部・看護学研究科年報（仮）構成案を機関別認証評価および自己点検評価、2027 年度以降に受審予定の日本看護学教育評価機構の審査内容を考慮して作成し、その内容に対しての意見を収集し、次年度以降に構成案をまとめる予定 2022 年度市大・府大の蓄積するデータは学生関係・教育関係とし、必要なデータは委員会で検討し、関係部署に依頼し蓄積することとする。 2024 年度までの 3 年間の年報（仮）について（審議中） 蓄積したデータを活用し、2025 年度作成の公立大学年報（仮）の別冊として旧市大・旧府大のものを発刊する。 3 年分を以下の内容に沿って記載することとした。 ・旧市大の自己点検評価報告書の VI. 教育課程、VII. 学生生活への配慮 ・旧府大の年報：5 章教育内容及び方法、6 章学生支援
来年度の課題	1. 大阪公立大学看護学部・看護学研究科年報（仮）の構成を決定する。その構成に基づいて、年報の素案を記述する。

委員会名	看護実践研究センター運営委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 事業計画に関すること。 (2) 予算に関すること。 (3) その他、看護実践研究センターの管理運営に関すること。
構成員	田中研究科長（所長）、三輪教授（主任） [看護生涯学習支援部門] 細名准教授（副主任）、長田准教授、(精)河野准教授、井上(敦)講師 ・CNS ネットワーク活動 富川教授、岡野准教授、長田准教授（兼任）、井上(敦)講師(兼任)、喜田助教 [府民健康支援部門] 岡本准教授（副主任）、南村准教授、畠山講師、安本講師 [国際学術研究推進部門] 森本教授（副主任）、和木准教授、高講師、富澤講師
活動概要	1. 運営委員会活動 運営委員会を17名で組織し、円滑な運営ができるように運営委員会（年5回）および部門長会議（年3回）を開催し、活動の検討や推進のための調整活動を行った。 2. プロジェクト研究・活動助成事業 2022年度助成事業として、看護生涯学習支援部門は研究支援が2件、活動支援が7件、府民健康支援部門は研究支援が1件、活動支援が3件、国際学術研究推進部門は研究支援が2件の計15件が採択され、総額2,234,209円の助成を行った。2023年3月17日（金）に報告会（オンライン）を開催した。 3. CNS ネットワーク活動 CNS ネットワーク会員への情報発信として、年5回のメールマガジンの発行、ホームページでの広報、会員登録の案内チラシの配付を行った。また、年5回の交流会を開催した。今年度から、府立大の修了生以外にも対象を広げ、各回約10名の参加があり、教育と交流の場として役立っていた。 4. 広報活動 看護実践研究センターの活動を広く周知するために、ホームページを作成した。また、センターのリーフレットを作成し、ホームページに掲載した。 5. 闘病記文庫活動 羽曳野図書センター内に開架している闘病記文庫について、2025年度以降の活動について検討した。また、新刊図書の購入、チラシの作成・配布を行った。 6. 年報作成 年報（第1巻）を作成し、ホームページ上に公開した。

来年度の課題	・プロジェクト研究・活動助成事業について、引き続き積極的な研究・社会貢献活動が行われるよう、助成方法や広報等を検討する。 ・CNS ネットワークは、今年度同様の活動を継続するが、会員同士のピアコンサルテーションについては引き続き検討する。 ・闘病記文庫の阿倍野キャンパスへの移管について、引き続き検討する。

委員会名	国際交流推進委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 国際交流に関する企画立案及び実施に関すること (2) 国際交流締結校との交流の促進に関すること (3) その他、国際交流に関して必要なこと
構成員	志田教授（委員長）、澤井教授、森本教授、横山教授、藤田准教授、井上（奈）講師、村川講師
活動概要	1. オンラインを活用した学類生・院生・教員を対象としたマヒドン大学交流 マヒドン大学ラマティボディ校と、以下の3パターンのオンライン交流を企画した。 令和4年度に採択されたさくらサイエンスプランの予算を活用して実施した。 1) 修了生によるオンライン講義（12月22日）14時～17時 ・日本の病院における感染専門看護師の役割 りんくう総合医療センター 感染症看護専門看護師 瓜田裕子氏 ・日本の保健所に従事する保健師の役割 守口保健所 保健師 大平俊介氏 参加者 OMU 8名（内大学院生3名、教員5名） マヒドン大学 19名（内大学院生6名、学部生13名） 2) インターナショナルカフェ（2月17日、24日、3月3日）14時～15時 井上講師により、学類生1年生から4年生を対象とし、お互いの文化や趣味、大学での学習内容について意見交換を行った。 参加者 OMU 4名（学類生4名） マヒドン大学 10名（3回延べ数） 3) 研究発表会（3月13日）15:00-16:00 森本教授により、大学院生を対象とし、国際学会での発表、発表予定の研究計画についての発表を行い、討論を実施した。日本より1題、タイより1題、インドネシアより1題の発表がされた。 Factors related to the knowledge and skills of evidence-based practice among nurses worldwide: A scoping review, Hideaki Furuki The effectiveness of a health literacy enhancement program on knowledge, self-management behaviors, and clinical outcomes in people with chronic kidney disease, Piyaporn Inthaphalan Factors predicting late antenatal Care of pregnant woman In Aceh, Indonesia, Mira Fajarina 参加者 OMU 8名（うち大学院生3名、教員5名） マヒドン大学 9名（うち大学院生8名、教員1名）

	2 マヒドン大学からの視察受け入れ（2 件） 1) マヒドン大学ラマティボディ校の看護学部より、3 名の教員が来日し、本学の表敬訪問、共同研究に関する打ち合わせおよび日本のがん拠点病院の見学を行った。（9 月 26 日～27 日） 参加者：Associate Prof. Dr. Bualuang Sundaengrit Deputy Director for Excellence Nursing Profession Development, Dr. Porawan Witvaranukool Lecturer Dr.Suhong Deesamer Lecturer 9 月 26 日 羽曳野キャンパス～阿倍野キャンパス（横山教授）～大阪公立大学スキルシミュレーションセンター（藤田准教授） 9 月 27 日 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンターツアー見学 2) マヒドン大学ラマティボディ校の看護学部より、1 名の看護教員、6 名の大学院修士課程学生が来日し、本学の表敬訪問、共同研究に関する打ち合わせおよび日本のがん拠点病院の見学を行った。（12 月 22 日～23 日） 参加者 Dr. Jiraporn Chontichachalalauk MR. SURACHET BOONCHOKANAN (Thailand) MISS JATUPAT POOLSAWAD(Thailand) MISS CHALERMKWAN MADSONG(Thailand) MISS SONAM PELDEN(Bhutanese) MRS. MIRA FAJARINA(Indonesia) MRS. PAUDYAL DHIKARI GAYATRI KUMARI(Nepalese) 12 月 22 日 羽曳野キャンパス 修了生によるオンライン講義に参加 12 月 23 日 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンターツアー見学 (引率：井上講師) 3. SWU とのオンライン国際交流会 （2 月 21 日） 横山教授、藤田准教授、村川講師により、シーナカリンウイロート大学の学部生同士の交流を行った。 参加者 OMU 9 名（学生 4 名、教員 5 名） SEU 14 名（学生 11 名、教員 3 名）
来年度の課題	1. 学類生サマープログラムの企画 2. マヒドン大学との大学院生交流プログラムの企画 3. SWU との交流プログラムの企画 4. 海外引率教員の予算確保

委員会名	大阪公立大学大学院看護学研究科 研究倫理審査委員会
目的	大阪公立大学大学院看護学研究科及び看護学部に所属する研究者等又は他の研究機関が行う人を対象とする研究について「ヘルシンキ宣言」並びに「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）の趣旨に沿って、倫理的観点及び科学的観点から審査することを目的として大阪公立大学大学院看護学研究科研究倫理審査委員会（以下「委員会」という。）を置く。
構成員	細田教授(委員長)、塩井教授(副委員長)、北村教授、佐藤教授、白井教授、富川教授、長畑教授、相原准教授、岡本准教授、九津見准教授、藤田准教授、古山准教授、細名准教授、南村准教授 村上事務所長(羽曳野キャンパス事務所) 外部委員：4名(山中委員、南條委員、清水委員、野間委員) 事務局：福田係長
活動概要	- 委員会開催 倫理審査に関する委員会を15回（うち予備審査委員会8回）開催した。 1) 申請106件（通常審査：44件、迅速審査：62件）の研究倫理審査を行った。 博士前期課程：48件（うち通常審査12件、迅速審査36件） 博士後期課程：21件（うち通常審査9件、迅速審査12件） 教員：37件（うち通常審査23件、迅速審査14件） 2) 報告事項にできる研究計画書の軽微な変更1件を確認した。 - 研究倫理審査委員会規程・審査要領、研究倫理審査申請手順書、研究倫理審査フロー、申請書類、一括審査依頼・研究機関要件確認書、審査日程を検討した。 - 研究倫理審査の申請に関するオリエンテーションとして、大学院生、教員を対象とした説明動画および申請資料をポータルサイトに掲載した。 - 通常審査・迅速審査・多機関共同研究における一括審査についての申し合わせ、倫理審査コメント表記載要領を作成した。 「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針ガイダンス」（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）の改正に伴い、研究実施計画書を改訂した。 - 外部からの研究協力依頼1件の受諾を判断した。 - 多機関共同研究に係る変更申請の取扱いについて検討した。 2023年度の研究倫理教育内容の確認・見直しを行った。
来年度の課題	- 審査日程の検討 - 外部委員の選任 - 研究実施状況報告書、研究終了報告書・データ等保管状況報告書提出の徹底

委員会名	看護学舎施設整備委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 施設の整備に関すること (2) 円滑な移転に関すること
構成員	平谷教授(委員長)、都筑教授(副委員長)、杉本教授、横山教授、渡邊教授、岡本准教授、林田准教授、森木准教授
活動概要	施設課の依頼を受け、新棟建設の進捗に応じて、その都度、必要な業務を遂行1。今年度は、設備・備品について昨年度に意見を出した内容の確認作業が中心であった。今年度の具体的な業務は以下のとおりである。 なお、委員会の下部組織として、各実習室・講義室の担当者が選出されているため、施設課と各担当者の調整も本委員会で行った。 ・引越し業者と羽曳野キャンパス（場合によっては阿倍野も）の現地確認・ヒアリング（引越し業者の見積をとる目的）の日程調整 ・旧学舎改修時期の確認・調整 ・新棟実習室・講義室等のイメージ確認（CGと紙資料の平面図による確認）：実習室については各実習室担当者が確認したが、講義室などの共用部分については委員長・副委員長も施設課主催の説明会に参加し、確認を行った。
来年度の課題	新棟の構造や設備・備品については確定したが、運用の仕方については、今後、看護学研究科の将来計画を加味して検討する必要がある。並行して、旧棟の運用の仕方についても検討が必要である。

委員会名	紀要委員会
目的	委員会は、紀要の編集・発行に関する事項について審議する。 年に1巻、大阪公立大学看護学雑誌を発刊する。
構成員	富川教授（委員長）、佐竹准教授、和木准教授、富澤講師、宮下講師、山口舞子講師
活動概要	2022年度は年間8回の委員会を開催し、以下のことを行った。 大阪公立大学としての活動を開始したことから、委員会規定の確認、大阪公立大学看護学雑誌発刊のために必要な手順書、作業に必要な書類の整備を行った。 また、大阪公立大学看護学雑誌第一巻発行のために、投稿論文募集、編集作業等、発行のために必要な話し合いを行った。 2022年5月に、論文投稿の案内を開始、9月に6題の投稿論文を受け付け、各論文につき2～最大3回の査読依頼を行った。この結果、2023年3月31日に、研究報告4題、資料1題、その他1題を掲載する、大阪公立大学看護学雑誌第一巻を発行した。
来年度の課題	今年度作成した手順書類について、次年度の使用を通して評価を行い、必要な個所があれば修正を行う。 投稿要領については文献記載方法など、若干の表現の見直しを行う。

大阪市立大学として継続する委員会

2022 年度

委員会名	大学認証評価委員会（大阪市立大学として継続された部局委員会）
目的	委員会は、大阪市立大学大学評価部会の付託にもとづき、次に掲げる事項を審議し、重要事項については評価部会へ答申する。 (1) 大阪市立大学にかかる教育の内部質保証の取り組みを実施するために必要な事項 (2) 大阪市立大学にかかる計画の立案及び点検・評価を実施するために必要な事項 (3) 大阪市立大学にかかる教員活動点検・評価を実施するために必要な事項 (4) 大阪市立大学にかかる大学評価委員会から付託された事項
構成員	作田教授（委員長）、河野教授、玉上教授、松田教授、山口教授、横山教授
活動概要	活動は、すべて大阪市立大学大学評価部会の付託にもとづく（都度、委員へのメール報告ならびに教授会報告）。 2022 年 6 月： 看護学研究院の評価書のサンプルを大阪市立大学大学評価部会へ提出 2022 年 7 月： アンケート調査（学生、卒業生、教職員を対象とする Web アンケート調査の協力依頼） 2022 年 12 月： 大阪市立大学大学評価部会からの報告を教授会で報告 内容：大阪市立大学機関別認証評価の受審状況、大阪市立大学 教員活動点検・評価（第 4 期評価期間）の外部評価結果を受けてのコメントについて大阪市立大学の HP に掲載した 2023 年 3 月： 大学認証評価結果受領をもって、職務完了として本委員会を終了する。
来年度の課題	今年度で終了する委員会のため、来年度の課題は無い。

委員会名	教務委員会(市大・看護学科)
目的	委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。 1. 教育課程に関すること 2. 学生の入学（入試委員会の所管事項除く）、退学、休学、復学、除籍及び卒業に関すること 3. 学生の課外活動に関すること 4. 学生の保健管理に関すること 5. 授業科目の履修及び単位の認定に関すること 6. その他教務に関すること（臨地実習に関すること等）
構成員	玉上教授（委員長）、平谷教授(副委員長)、塩井教授、白井教授、松田教授、岡本准教授、森木准教授、趙講師（9月まで）、畠山講師、村川講師
活動概要	2022年度は、14回(うち2回の臨時委員会)の教務委員会を開催した。 委員会では、上記の事項について下記の通り活動した。 1. 教育課程に関すること ・教育要項、時間割、非常勤講師委嘱、卒業研究等の教育課程について、各担当者を中心に資料等の準備を進め、適切な時期に審議案件として審議し、滞りなく実施した。 ・新学年への教務ガイダンスは、今年度委員会にて情報共有した学生状況をふまえ、ガイダンス内容を補足した上で実施した。 2. 学生の入学、退学、休学、復学、除籍及び卒業に関すること ・休学、退学希望の学生は、委員長、副委員長、学務課3者での教務面接を実施し、意向確認をした上で手続きを進めた。 ・過年度生のうち、2名が退学希望、2名が休学希望であり、それ以外の学生は順当に履修していることを確認した。 ・臨時委員会として卒業判定会議を開催し、卒業要件を確認の上、53名の看護学科生が卒業可となった。3月教授会にて判定を審議する予定である。 3. 学生の課外活動に関すること 学生が課外活動により、新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者または感染者になる事案が相次ぎ、課外活動での感染予防対策の徹底を対面・メールにて周知した。 4. 学生の保健管理に関すること 1)健康診断 ・学生が大学での健康診断を受診するよう周知し、診断結果が必要な実習施設に報告した。 2)COVID-19 感染予防対策の実施 ・COVID-19 感染予防対策担当教員を中心に、大学の方針も踏まえて前期、後期での学生への注意喚起を実施した。

	・COVID-19 感染予防対策として講義中の昼食場所の分散化、実習中の更衣場所・食事場所等分散化の資料を作成し、学生に周知徹底した。 3) COVID-19 感染症疑い・感染者の把握 ・大学からの対応フローに則り、適時学務課から報告を受け、感染状況および濃厚接触者の有無を確認・対応した。 ・医学部附属病院での実習中は、看護部および感染制御部に連絡し、実習中止・濃厚接触者・実習再開の対応の指示を確認し、対応した。 5. 授業科目の履修及び単位の認定に関すること 1) 履修の確認 ・前期、後期に、科目履修者一覧を作成し確認した。 ・前期・後期での学生在籍状況一覧を刷新し、過年度生および未習得科目のある学生を把握、確認した。 ・過年度生については、学務課から連絡・調整した上で、前期・後期に委員長、副委員長、学務課3者での教務面接を実施し、次年度の履修意向などを確認した。 ・過年度生の公立大学看護学部科目・市大看護学科科目読み替えによる履修に関する留意点・確認事項を審議した。 2) 試験に関すること ・大学における定期試験等に係るスケジュールに則り、看護学科内のスケジュールを作成し、試験の実施、成績入力期間等を提示した。 ・全科目の試験結果、追・再試験対象学生の把握、追・再試験結果を確認した。 ・追試験願と診断書等を確認し、追試験を承認した。 6. その他教務に関すること（臨地実習に関すること等） 1) 臨地実習に関すること ・臨地実習教授等の委嘱については、各実習施設の状況に合わせて推薦書の作成を依頼し、委嘱した。 ・各領域の実習に係る予算について審議した。 ・実習計画、実習学生グループ編成は、担当者により計画され、適切な時期に審議した。 ・医学部附属病院対応として、臨地実習検討委員会の開催(2回/年)、看護主任会への参加などを実施した。 2) 学生の状況について ・講義、演習、実習で気になる学生について、毎委員会時に情報共有した。
来年度の課題	①過年度生の状況確認は、引き続き学務課と綿密に連携し、確認する。 ②過年度生の読み替え科目の履修については、履修単位不足を予防するためにも、アドバイザーとも連携し、前期・後期での履修状況の確認が必要である。 ③気になる学生等の情報共有は、講義や実習指導にも必要となるため、継続していく。

大阪府立大学として継続する委員会

2022 年度

委員会名	部局計画・評価委員会
目的	委員会は、公立大学法人大阪府立大学計画・評価会議 規程第2条第1項第1号、第3号、第4号、第5号及び第7号に掲げる職務のうち、学類・研究科において必要な計画及び評価を行うものとする。
構成員	田中研究科長、中山教授（委員長）、佐藤教授、杉本教授、都筑教授、九津見准教授、園田准教授、中嶋准教授、
活動概要	部局における活動： 2021 年度年報の作成 教授会にて承認された「2021 年度年報の構成」に則り、担当委員会に執筆を依頼、企画総務課より教員業績データの提供を受け、確認、校正作業を行い、2022 年 12 月に完成し、Web ページに公表
今後の課題	大阪府立大学の評価委員会は、今年度で終了となり大阪公立大学部局評価委員会に引き継がれる。部局計画・評価委員会も2021年度の年報の公表により、活動を終了とした。大阪府立大学地域保健学類・看護学研究科の教育・学生に関するデータは大阪公立大学看護学部・看護学研究科部局評価委員会に引き継がれる。

委員会名	臨地実習委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 臨地実習の教育方針及び教育課程に関すること (2) 臨地実習の運営に関すること (3) 臨地実習の指導体制の整備に関すること (4) 臨地実習に関する規定の制定及び改廃に関すること (5) その他、臨地実習の実施及び運営に関し必要なこと
構成員	北村教授（委員長）、三輪教授、勝山講師、高講師、中山講師、深山講師、安本講師、山内講師、喜田助教、柱谷助教
活動概要	1. 主な委員会活動の実施状況 委員会 10 回、総合実習学生配置（4 月）、3 年次生への実習オリエンテーション（8 月）、府立 5 医療センター臨地実習連絡会（3 月）、文部科学省調査書類作成、実習における感染対策周知 2. 所管事項 1) 実習運営関係 ・ 2022 年度分野別実習オリエンテーションの開催 ・ 2022 年度後期～2022 年度前期実習進捗表・学生配置表の調整及び作成 ・ 2022 年度の実習帰校日使用教室の調査・予約 ・ 2022 年度総合実習の学生配置数（案）の検討 ・ 2022 年度実習衣購入に関わる検討及び関係者との調整 ・ インフルエンザワクチン接種報告の集約 ・ 新型コロナワクチン接種報告書の作成 2) 府立 5 医療センター臨地実習連絡会関係 ・ 府立 5 医療センターでの 2022 年度及び 2022 年度の実習計画の作成 ・ 各施設窓口担当教授と連携し、施設との調整 ・ 府立 5 医療センター臨地実習連絡会を開催し、施設との情報交換 ・ 学生による臨地実習評価アンケートの実施及び報告書の作成 3) 実習関連情報関係 ・ 実習要項の作成：看護学臨地実習要項、各領域・分野別実習要項、総合実習要項 ・ 実習で使用する感染予防物品の一括購入 ・ 2022 年度臨地実習における事故報告のとりまとめ 加害 1 件、その他 2 件の合計 3 件 ・ 「実習における個人情報取り扱いに関するガイドライン」の説明と学生・教員誓約書の取り 交わし：書類管理

	・実習指導教員の小児期感染症抗体価検査の公費での実施 ・臨地実習公文書に伴う調整 ・オンライン実習における学生の意見をアンケートで確認
今後の課題	1. 感染対策と事故発生に対し、学生への指導を丁寧に行う必要がある。 2. 臨地実習に関する教員研修を継続する必要がある。 3. 臨地実習の在り方について、感染状況を見ながら施設側と打ち合わせを継続実施。 4. 羽曳野キャンパス感染対策委員会との連絡・調整を行い新型コロナウイルス感染症への対策を遵守する。 5. 事務所との連絡・調整を密に行う必要がある。

委員会名	教育運営委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 教育課程に関すること (2) 履修に関すること (3) 教育の実施及び運営に関すること
構成員	杉本教授(委員長)、簀持教授、北村教授、仁尾教授、奥野准教授、林田准教授、根来講師、山田講師
活動概要	2022 年度は 13 回の教育運営委員会を開催した。 委員会では下記の内容について重点的に活動した。 1. 在校生履修説明会の実施 2023 年度在校生履修説明会は、2、3 年生に対してオンラインで実施した。 2. 時間割作成 2023 年度大阪府立大学看護学類 3～4 年生の時間割を作成した。大阪公立大学看護学部、大阪公立大学看護学研究科の時間割との整合を取りながら作成した。 3. 保健師科目選考試験の実施 公衆衛生看護学担当教員とともに選考試験要領を一部修正し、教育運営委員長が選考試験委員長となり実施した。 4. 博士論文、修士論文・課題研究発表会の開催への支援 大学院生による博士論文・修士論文・課題研究計 25 名の発表会の準備を支援した。開催は対面形式で開催した。新型コロナウイルス感染症関連で一部分オンラインと対面のハイブリッドでも対応した。 5. 単位未修得学生への指導（アドバイザー支援） ・2017 年度から継続して、学生個人に単位取得状況に関するチェック表を配布し、学生自身による履修科目の管理やアドバイザーによる履修指導に役立てるようにした。 ・前期・後期の全学生の単位修得状況を確認し、単位未修得学生の情報をアドバイザー教員に配付し、個別指導を依頼した。 ・必要時、学生及びその保護者と面談を行い、履修が円滑に進むよう指導を行った。 ・単位未修得学生の個別指導のために、府立大学の新大学科目の読み替え科目一覧表を再度確認、教授会で周知した。 6. 全学教務関係委員会（教育企画運営会議）への出席 大阪府立大学全体の教務内容と学類の教育運営委員会が連動して運営できるように調整を行った。

	7. 非常勤講師の選出・任用についての審議 非常勤講師の去就に伴い、新たな担当者を決定し、履歴書を基に審議した。 8. TA 時間配分の調整 領域ごとの効果的な、効率のよい TA の運営に向け、時間配分等の調整を行った。 9. 前期科目の GPC の点検・評価の実施 各科目の GPC と成績分布について確認した。教授会でも報告し、各担当教員で目標設定や学生の学習状況、指導方法の振り返りを促した。 10. 大学院の先行履修制度の在学生への周知と審査 在学生への周知、先行履修申請者の審査を実施した。 11. 卒業・修了判定の確認
来年度の課題	1. 受講申請と再履修者に関する学生の履修指導について、アドバイザーと協力した指導が重要となる。府立大学の新大学科目の読み替え科目の開講年度も異なる科目もあることから、再履修者への指導が複雑になるため、教務事務、アドバイザー等との連携が必要である。 2. 博士論文、修士論文・課題研究発表会の開催方法についての検討が必要となる。

委員会名	学生委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 学生の休学、退学、復学、除籍に関する事 (2) 学生の表彰及び処分に関する事 (3) 学生の生活指導に関する事 (4) 学生の福利厚生に関する事 (5) 学生相談に関する事 (6) その他、学生生活に関する事
構成員	志田教授（委員長）、中山教授、長畑教授
活動概要	1. 委員会の開催 羽曳野キャンパス学生委員会（看護学類7回開催、うちメール会議を2回実施。 2. 活動状況 1) 奨学支援 国、大阪府の修学支援制度があり、成績や学習意欲で指導が必要な学生に対して、学生アドバイザーから対応を依頼した。 【国の支援】高等教育の修学支援制度（授業料減免制度＋給付奨学金）学類生 51 名 【大阪府の支援】大阪公立大学等授業料等支援制度 学類生 71 名 【日本学生支援機構】貸与奨学金 学類生 98 名、大学院生 6 名 【大学独自の給付奨学金】・グローバルリーダー育成奨学金 学類生 2 名 ・研究奨励金 大学院生 14 名 2) 学生相談 学生就職担当への相談 9 件 保健室相談 1 件 （内訳）経済支援 5 件、心理相談 3 件、警察介入 1 件、学生トラブル 1 件 学生なんでも相談窓口（旧 Web SC）利用数 4（府大のみ） 3) 課外活動支援 羽曳野クラブサークル登録数 14 団体（体育系 5、文化系 5、学生団体 3、登録中 1） クラブの団体結成承認 0 団体、解散承認 4 団体 変更承認 0 団体 4) 福利厚生、安全と健康 保健室使用件数 52 件、学生相談利用件数 103 件（2023 年 3 月現在 延件数、利用者 16 名のうち、看護学生 10 名） Will 全員加入の促進（新入生加入率 100%） 5) 賞罰 前期：学長顕彰：学類 0 名、大学院 2 名、杏樹賞：学類 3 名、大学院 0 名 後期：学長顕彰：学類 0 名、大学院 1 名、杏樹賞：学類 4 名、大学院 2 名 学業成績優秀賞（学類）1 名 研究業績優秀賞（大学院前期）1 名

	大阪府看護協会会長賞 学類 1 名 6) 休退学等 〈休学〉学類 7 名、大学院 前期 1 名、後期 2 名 〈退学〉学類 1 名 〈除籍〉なし 7) アクセスセンターと連携した在学生のサポート 就学上の合理的配慮が必要な在学生の配慮の内容について検討するとともに経過等について情報交換を行った。令和 4 年度アクセスセンター対応件数：府大生 22 件（実人数 5 名） 8) その他 学生生活 ・ アドバイザーグループ編成と学生配置の決定 ・ 杏樹祭を感染対策に考慮しながら、令和 4 年 10 月 22 日（土）11 時 30 分～17 時 30 分で開催した。 ・ 学位記授与式の企画・運営 ・ 大学院生室のプリンター等の管理 ・ 次年度の大学院生室の机・ロッカー使用規定の作成 ・ 大学院修了生の謝恩会を令和 5 年 3 月 9 日（木）18 時 30 分-19 時 30 分にキャンパス内で開催した。
今後の課題	1. 学生の学生生活充実に向けた支援、学習環境の調整 2. ポストコロナ禍における学生活動に関する緩和対策

委員会名	就職委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について、審議する (1) 就職業務方針に関する事 (2) 就職の相談及び指導に関する事 (3) 求職、求人に関する事 (4) 求職についての調査に関する事 (5) その他就職に関する事
構成員	渡邊教授(委員長)、紙野准教授、佐保准教授、池田講師、安本講師、中村講師、長野講師
活動概要	1. 就職ガイダンス等の開催 【3年生対象】 第1回ガイダンス 7月29日～(オンライン：動画配信) ・大阪府立病院機構から、実習指導や就職支援を説明 第2回ガイダンス 12月23日(対面) 参加人数 115名 ・就職活動・国家試験スケジュール説明等、キャリア支援室利用の勧め ・就職活動準備講座(講師：マイナビ) 第3回ガイダンス 2023年2月20日～(オンライン：動画配信) ・大阪府立病院機構説明会 ・応募書類作成セミナー&面接実践セミナー(3月1・3日対面開催) 参加人数 78名 【4年生対象】 第4回ガイダンス 4月20日(対面) 参加人数 103人 ・就職活動・国家試験スケジュール・模試について説明等 ・キャリア支援室利用の勧め、大学院入試説明会の案内 第5回ガイダンス 8月8日～12日(オンデマンド) ・看護師国家試験の傾向と対策(さわ研究所講師によるセミナー) ・進路報告登録について、卒業生からのメッセージ 第6回ガイダンス 2023年2月6日(オンライン：Zoom開催) 参加人数 107名 ・国試直前ガイダンス 自己採点会 2023年2月13-14日 参加人数 116名 ・看護師国家試験の自己採点会(さわ研究所Web自己採点サービスを利用) 2. 就職支援 1) エントリーシート作成(キャリア支援室主催) 面接対策：キャリア支援室、アドバイザー教員による模擬面接 2) 就職に関する事務 ・就職情報・進路資料の管理・就職状況の把握 3. 国家試験に関する事

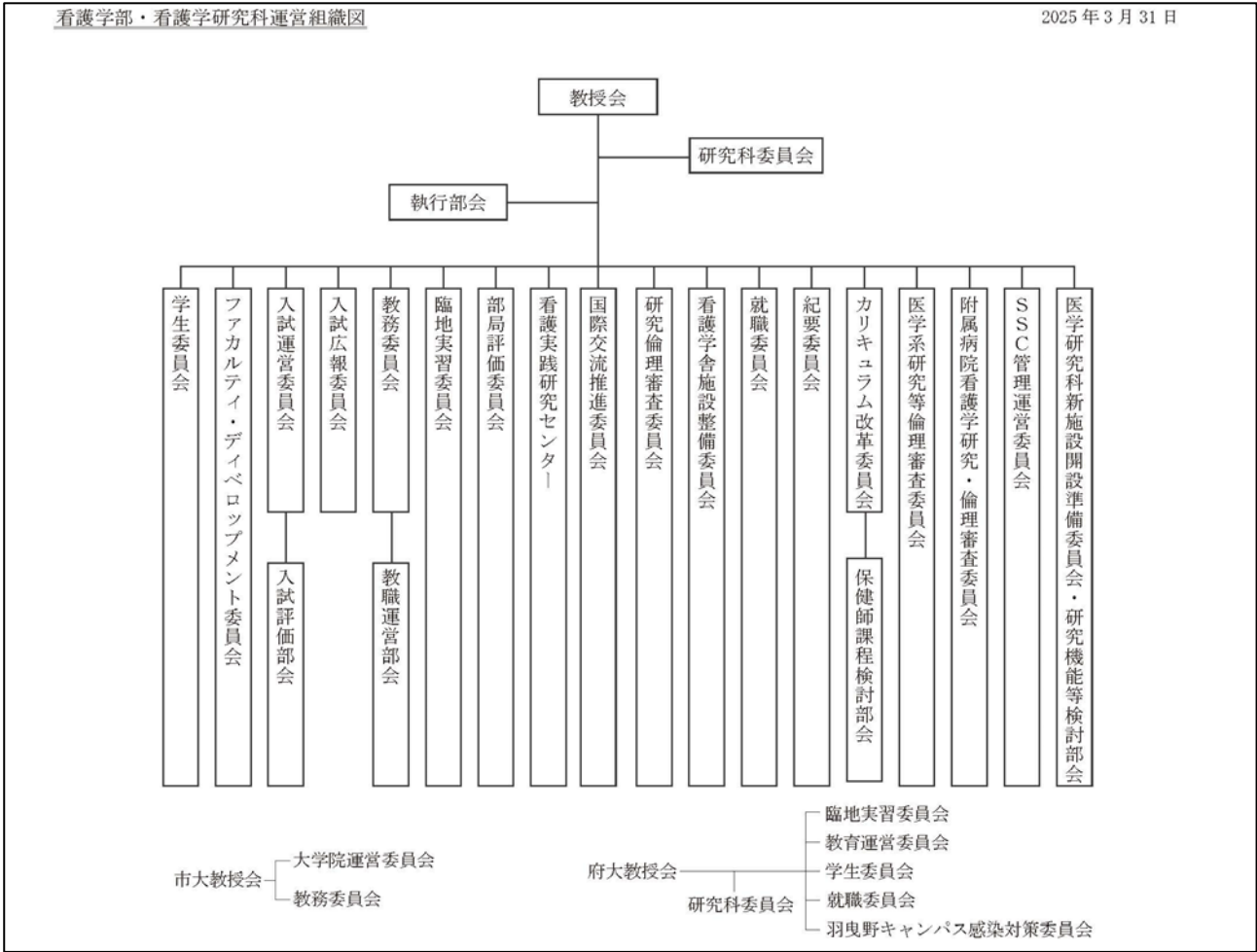
	・模擬試験担当者を決め、学生主体の模擬試験を実施できるように支援 ・模試結果を分析し、担当アドバイザーに成績等学習指導の連絡 ・外部講座を有効活用し、特に模試成績が下位の学生に対して推奨 【3年生対象研修会等の実施】 ◆国家試験スタートアップ模試 8月17日～31日 参加人数120名 ・さわ研究所「専門基礎模試」解剖生理学60問 +解説講義DVD ◆国家試験対策セミナー 8月8日～12日（オンライン：さわ研究所のガイダンス活用） 【4年生対象研修会の実施】 ◆解剖生理学特別講座 8月8日～12日 ・さわ研究所による解剖生理学特別講義 ◆国家試験直前講座① 10月10日～2023年2月12日 参加人数83名 ・さわ研究所 疾病の成り立ちと回復の促進総まとめ オンデマンド講座 ◆国家試験直前講座② 10月10日～2023年2月12日 参加人数90名 ・さわ研究所 人体の構造と機能総まとめ オンデマンド講座 ◆国家試験直前講座③ 12月20日～2023年2月12日 参加人数101名 ・さわ研究所 講師が選ぶ最後の100問 オンデマンド講座 全体への呼びかけ（アナウンスメント、第5回模試会場での呼びかけ）では視聴状況は振るわなかったが、1月以降に未視聴者への個別の視聴を促した結果、約7割以上の学生が視聴した。学生が希望する視聴のタイミングが国試直前であった可能性も否定できないが、視聴催促しないと視聴しないことから、動画教材のニーズは低い可能性もある。この点については、学生のアンケート結果を踏まえた評価が必要である。また、就職委員が視聴してもらいたい学生（模試の成績がふるわない学生）が視聴しない場合が少なくなかった。 4. 委員会の開催 （5回／年）4/15、6/17、10/24、12/23、3/24） ・委員会活動計画と担当者決定 ・模擬面接の評価と開催方法の検討（時期と内容、キャリアサポート活用検討） ・就職ガイダンスの企画・運営について・就職内定状況について ・国家試験対策支援の現況・予算執行状況について ・国家試験対策の評価と実践計画・状況把握 ・看護師国家試験模擬試験結果についてアドバイザーへの模擬試験連絡
来年度の課題	1. 就職ガイダンスの継続と内容評価 2. キャリアサポートとの履歴書添削、面接練習における連携評価 3. アドバイザー教員との連携 4. 学生主体の国家試験模擬試験の運営 1社に絞る 5. 国家試験対策講座の開催について検討・開催時の費用確保（つばさ基金の活用） 6. 国家試験対策への学生参加者割合を増やす方策

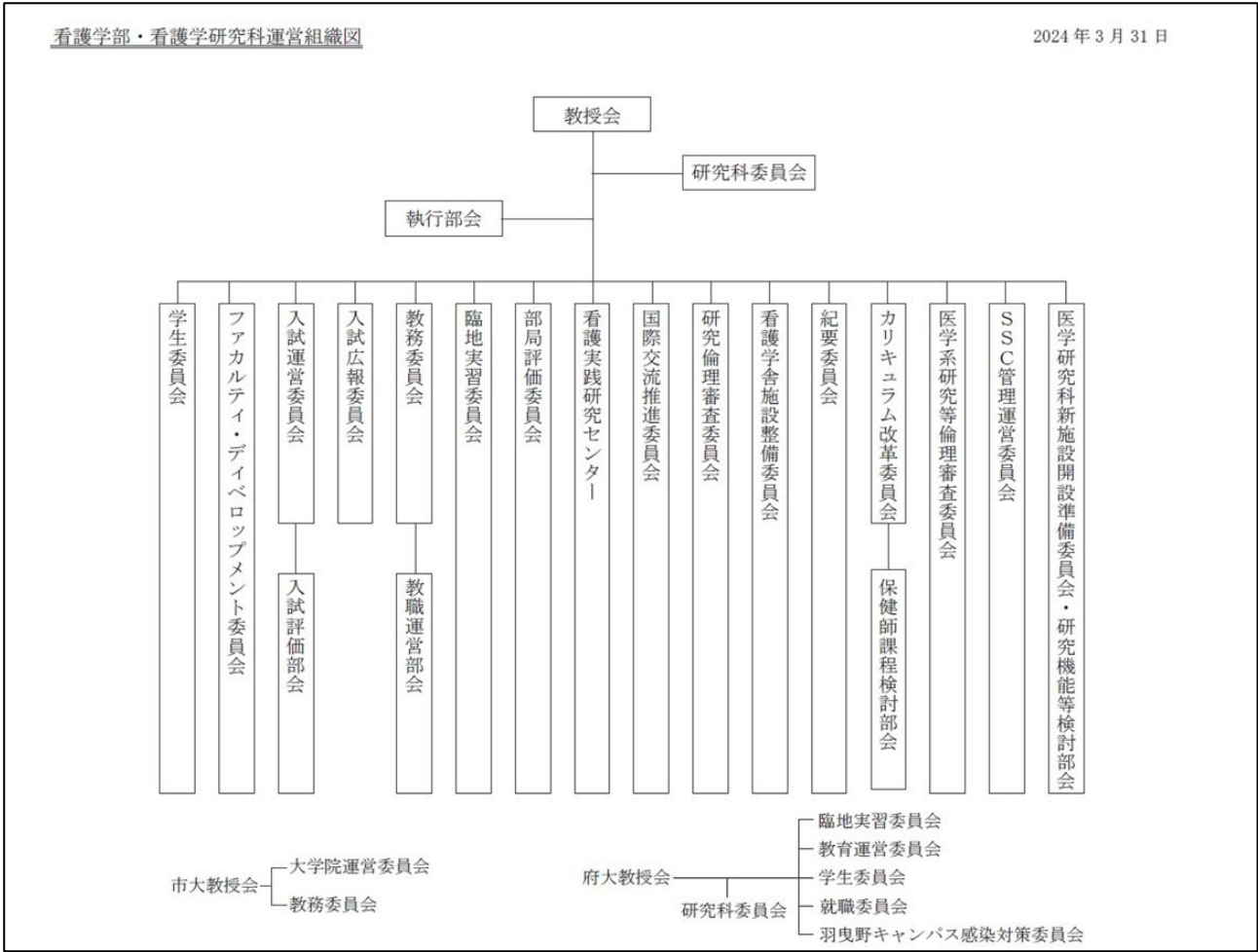
委員会名	羽曳野キャンパス感染対策委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 学生及び教職員の感染予防対策に関する事 (2) 感染予防対策実施の監視と指導に関する事 (3) 感染症発生後の適切な事後処理に関する事 (4) 感染症発病者の人権擁護に関する事 (5) 学外実習施設等との感染対策に関わる連絡調整に関する事 (6) その他、感染予防に関し必要と認められる事項に関する事
構成員	佐藤教授（委員長）、喜田助教
活動概要	1. 羽曳野キャンパス感染対策委員会の開催 第1回委員会を4月26日にメール会議で実施し、以下の審議および報告がなされた。 ・委員長と副委員長の選出 今年度年度から感染対策委員長は安全衛生管理者が就くことになったため、村上所長が委員長となり、副委員長にはリハビリテーション学研究科長の樋口先生が選出された。 ・前年度の新型コロナウイルス陽性者と濃厚接触者の報告数 看護 29/63（陽性者/濃厚接触者）、理学 3/13、作業 3/9、栄養 8/14、大学院生 0/3（合計 43/102） 2. 小児期感染症の抗体検査結果の把握とワクチン接種の推奨 ・4月中旬に3年生の保護者から「学生なんでも相談窓口」へB型肝炎ワクチン接種に関する問い合わせがありメールで回答した。 ・3年生でワクチン接種が完了していない学生に対して、7月にメールで個別に接種勧奨を行った。
今後の課題	1. 大阪府立大学生のB型肝炎ワクチン接種の推進。

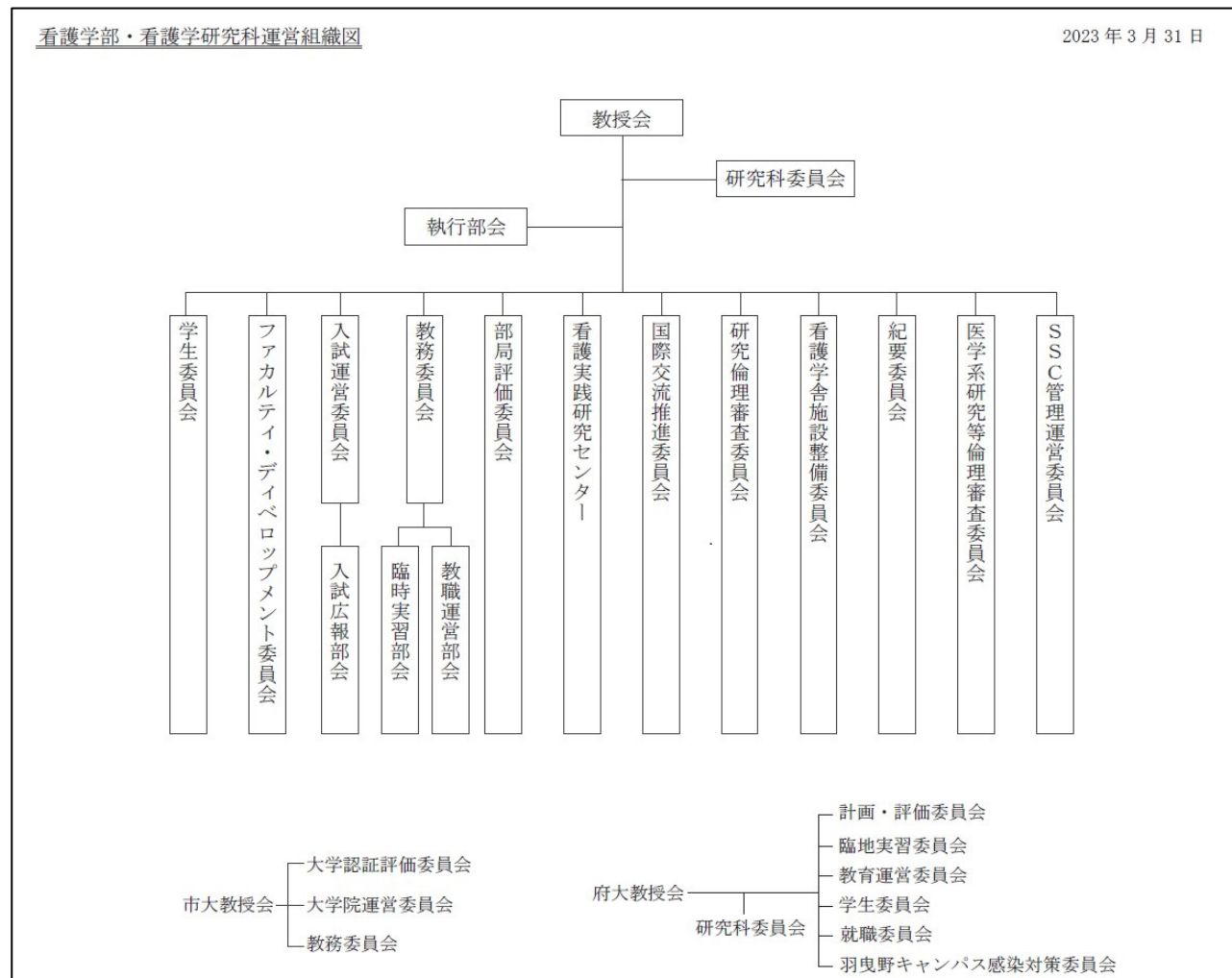
3) 運営組織

資料 3-1 看護学部・看護学研究科運営組織図

2024 年度







2. 管理運営・財政

1) 教育費

教育費は前年度（2 月下旬頃）に学士課程、大学院課程における予算が全学より提示される。その予算に基づき学士課程においては、前年度との支出状況を参照に、各領域・大分野・小分野ごとに配分を決定している。配分は授業担当時間数・受講者数・授業形態から算出する。また、卒業研究科目に関しては担当数にあたり配分を決定している。

大学院課程は、各領域・大分野・小分野に所属する院生の人数に対して予算を検討し、半期ごとに配分している。助産師資格取得プログラムに関しては、前年度の支出状況を加味しプログラムに対して追加予算を配分している。

年度末に執行部で会計（財務課）とともに使用状況の確認をし、次年度に向けて検討している。

2) 研究費

研究費に関しては、看護学部は全学から理系として、専任教員 1 名あたり均等配分されている。その予算から前年度の支出状況を参考に執行部で話し合い、教員、特任教員、研究生に対して配分している。教員一人当たり年間 26 万円を基盤研究費として配分し、特任教員 3 万円、研究生 1 万円を配分している。

年度末に執行部で会計（財務課）とともに使用状況の確認をし、次年度に向けて検討している。

資料 教員研究費（円）

	教授	准教授	講師	助教
2024年度	260,000	260,000	260,000	260,000
2023年度	260,000	260,000	260,000	260,000
2022年度	260,000	260,000	260,000	260,000

3) 委員会予算

委員会予算は、部局の運営を滞りなく実施するために必要な経費として、年度に入ったらすぐに、各委員会の年度目標・事業・予算について聴取し、執行部でその内容を精査し、予算を配分している。

年度末に執行部で会計（財務課）とともに使用状況の確認をし、次年度に向けて検討している。

（別紙参照）

第4章 学生の受入

1. 入学者受入の方針

1) 看護学部

本学部の学位授与方針及び教育課程編成や実施方針を踏まえ、人間性豊かで多様な関心や柔軟な思考力を持ち、人の立場を思いやり援助することを志向し、保健医療福祉の発展や持続可能な社会の実現に貢献しようとする志を持つ向学心旺盛で優れた資質を有する学生を受け入れるため、次のような学生を求めている。

また、2022 年～2024 年度の入学手続者の現状を資料 4-2-1 に示す。ほぼ募集人員どおりである。

看護学部のアドミッション・ポリシーは次の通りである。

(1) 求める学生像

- ①論理的・創造的な思考を表現できる基礎学力を有する人
- ②目的意識をもって積極的に学ぶ姿勢を有する人
- ③人々の生活に深い関心を持ち、他者と喜び、苦しみ、痛みを分かち合い、生命の尊厳について理解しようとする熱意を有する人
- ④人間性豊かで多様な関心や柔軟な思考力を持ち、主体性と協調性をもって他者と協働する姿勢を有する人
- ⑤看護の実践をととして保健医療福祉の向上に寄与する意志を有する人
- ⑥大学院等で、さらに高度な専門的知識と能力を身につけ、指導的立場を担う研究教育者や高度看護実践者を目指す意欲を有する人

(2) 入学前能力

1. 意欲

価値観や思考過程の多様性をみとめながら、協調性をもって主体的に学ぶことができ、看護の実践をととして、社会に貢献する意欲をもっていること

2. 能力

多様な学問分野に支えられている看護に必要な知識や技術を体系的に修得でき、論理的・創造的な思考を表現できる幅広い基礎学力をもっていること

3. 志向

人間の喜び、苦しみ、痛みを分かち合え、生命の尊厳について理解しようとする姿勢をもっていること

(3) 入学後能力

入学前の能力をさらに伸ばし、教育目標に定められた資質を身につける意欲があること

(4) 評価方法

入学者選抜においては、多様な人材を選抜するために一般選抜のほか、学校推薦型選抜、私費外国人留学生特別選抜を実施している。各選抜においては、意欲、能力、志向を測定するために、学力試験、面接、出願書類等の評価を用いている。

2) 看護学研究科

本研究科は、研究科の教育理念及び教育目的・目標に沿った学生を幅広く受入れている。

また、2022 年～2024 年度の入学手続者の現状を資料 4-2-2 に示す。

【博士前期課程】

博士前期課程のアドミッション・ポリシーは次の通りである。

博士前期課程は、生命と人権の尊重を基盤として、看護に求められる社会的使命を遂行し、看護学を実践的・創造的に発展させ、地域社会及び国際社会のあらゆる健康レベルの人々に貢献できる高度な看護分野の実践者、管理者、教育者、研究者を育成している。本研究科の学位授与方針及び教育課程編成・実施方針を踏まえ、次の能力や適性を身につけた学生を選抜している。

(1) 入学前能力

【能力】

英語論文を読解できる基礎的語学力を有する人

論理的思考を表現する能力を有する人

豊かな人間性と倫理観を備え、人々と協働できる人

看護学の基礎知識と総合的な学力を有する人（実践看護科学領域修士論文コース、実践看護研究コースのみ）

【意欲】

保健医療福祉におけるニーズや課題を探究する意欲を有する人

みずからの将来を見据え、主体的に学ぶ姿勢と、研究を遂行する意欲を有する人

看護に関わる事象を分析し、看護実践の質向上と改革を推進する意欲を有する人（実践看護科学領域の修士論文コース、実践看護研究コースのみ）

【志向】

修士論文コースでは研究科の教育目的や教育目標を理解し、学術志向性を有する人・看護に関わる事象の変革に寄与できるエビデンスを構築するために現象に真摯に向き合い、理論的に考え探究する人

高度専門職業人として、医療施設、行政、社会福祉施設、地域などにおいて、看護実践、看護教育、並びに看護学の発展に貢献する志向を有している人（実践看護科学領域実践看護研究コースのみ）

看護実践の変革のための研究者、実践家になるために目的意識を持って主体的に学び、地道な努力を重ねることができる人（実践看護科学領域の実践看護研究コースのみ）

(2) 入学後能力

入学前能力をさらに伸ばし、教育目標に定められた資質能力を身につけることができる人

(3) 評価方法

入学者選抜においては、多様な人材を選抜するために、一般選抜・社会人特別選抜・学部特別選抜を実施している。

各選抜においては能力、意欲、志向を測定するために、学力試験、出願書類審査・口述試験を組み合わせで評価している。

【博士後期課程】

博士後期課程のアドミッション・ポリシーは次の通りである。

博士後期課程は豊かな学識を有し、看護学分野において社会実装化することを視野に入れた学術的研究を推進し、その深奥を究め、高い倫理観を持ち、自立して研究活動を行い、看護学の知の創造に貢献できる能力を有する人材を育成している。本研究科の学位授与方針及び教育課程編成・実施方針を踏まえ、次の能力や適性を身につけた学生を選抜している。

(1) 入学前能力

【能力】

専門分野に精通した基礎及び応用力を有し、知識と研究成果をグローバルに発信できる基礎的語学力を有する人

豊かな人間性と倫理観を備え、柔軟な思考、洞察力、発想力を有する人

【意欲】

探究心を持ち、看護学の視点から自立して研究に取り組む姿勢を有している人

学際的視野に立ち、看護学の体系化に主体的に取り組む熱意がある人

【志向】

看護学の発展につながる革新的方策を目指し、研究を推進する意志を有する人

地域社会、国際社会において看護の発展に貢献する意欲を有する人

(2) 入学後能力

入学前能力をさらに伸ばし、教育目標に定められた資質能力を身につけることができる人

(3) 評価方法

入学者選抜においては、多様な人材を選抜するために、一般選抜、博士前期課程特別選抜を実施し、各選抜においては能力、意欲、志向を測定するために、学力試験、出願書類審査・口述試験を組み合わせで評価している。

2. 入学者選抜

1) 学生募集と入学者選抜方法（入学者選抜の基本方針）

看護学部

入学者選抜においては、多様な人材を選抜するために一般選抜のほか、学校推薦型選抜、私費外国人留学生特別選抜を実施している。各選抜においては、意欲、能力、志向を測定するために、学力試験、面接、出願書類等の評価を用いている。

【一般選抜（前期日程・後期日程）】

大学入学共通テストで、高等学校教育段階において目指す基礎学力を有していることを確認している。個別学力検査では、看護学部での学修に十分対応できる、知識に基づいた思考力・判断力・表現力などの準備性をそれぞれ確認し、面接では、意欲・能力・志向を確認し、総合的に評価している。

【学校推薦型選抜】

大学入学共通テストで、高等学校教育段階において目指す基礎学力を有していることを確認している。高等学校の学校長の推薦を得た者が出願できることとし、出願書類（推薦書、調査書、志望理由書）では、意欲と看護学科での学修に十分対応できる思考力・判断力・表現力などの準備性をそれぞれ確認し、意欲・能力・志向を総合的に評価している。

【私費外国人留学生特別選抜】

大学で学修するための基礎学力を有していることを日本留学試験（日本語、数学、理科）、最終出身学校の成績証明書により評価している。また、日本語での思考力、判断力、表現力を有していることを個別学力検査「国語」で判断し、日本語の理解力と表現力、さらに学ぶ意欲を面接によって評価している。英文を読解し、英文で表現するための基礎的な能力を有していることを TOEFL の成績によって評価している。

看護学研究科

入学者選抜は、選抜試験の成績及び出願書類の内容を総合して行う。なお、本研究科が指定した試験科目を受験しなかった者は、合否判定の対象にはならない。

【一般選抜】

- (1) 専門科目 各専門分野に関わる知識を確認している。志望する下記小分野の科目を一つだけ受験する。

○実践看護科学領域

＜科目＞ 看護技術学、看護情報学、看護管理学、看護教育学、精神看護学、在宅看護学、地域看護学（※）
老年看護学、小児看護学、家族看護学、母性看護・助産学、急性看護学、がん看護学、慢性看護学、感染看護学

○先進ケア科学領域

＜科目＞ 療養ケア科学、子ども・家族ケア科学、地域包括ケア科学、ヘルスプロモーションケア科学（※）
がん包括ケア科学、高齢者生活行動ケア科学、ウィメンズヘルスケア科学、精神行動ケア科学
健康支援基礎科学

（※）保健師資格取得プログラムの専門科目は、同一の試験問題となる。

- (2) 英語

医療・保健・福祉・看護に関わる英語論文や英文記事をもとに、和訳、読解問題を課している。

英和又は和英辞典を1冊のみ持込可（電子辞書は不可）としている。

- (3) 口述試験

指導的かつ実践的な高度専門職者となるにふさわしい資質及び適性、ならびに志望する研究課題について行っている。

【社会人特別選抜】

- (1) 出願書類審査 出願書類として提出された「志望する領域に関する実績」及び「研究課題書」について審査している。

- (2) 英語

医療・保健・福祉・看護に関わる英語論文や英文記事をもとに、和訳、読解問題を課している。

英和又は和英辞典を1冊のみ持込可（電子辞書は不可）としている。

(3) 口述試験

指導的かつ実践的な高度専門職者となるにふさわしい資質及び適性、ならびに志望する研究課題について行っている。

【学部特別選抜】

(1) 出願書類審査 出願書類として提出された「志望理由書」及び「研究課題書」について審査している。

(2) 口述試験

指導的かつ実践的な高度専門職者となるにふさわしい資質及び適性、ならびに志望する研究課題について行っている。

2) 入学者選抜の実施体制

看護学部

一般選抜は全学的に設置される「入学試験実施本部」の指揮のもと、「大阪公立大学看護学部入学者選抜試験に関する申し合わせ」に基づき、入試運営委員会は担当委員の指名や面接試験（一般後期）の採点要領の作成といった試験運営体制を整備し、公正な試験の運営にあたっている。試験ごとに試験実施要領を作成し従事者の配置を決定する他、試験実施当日には、研究科長を責任者とする試験場本部を設置し、円滑な試験実施や、受験者からの質問対応等に適切に対処する体制を整えている。学校推薦型選抜は「大阪公立大学看護学部入学者選抜試験に関する申し合わせ」に基づき、入試運営委員会は担当委員の指名や書類評価にかかる採点要領の作成といった試験運営体制を整備し、公正な試験の運営にあたっている。採点日当日には、入試運営委員会が全体の指揮を行い、円滑な採点業務を実施する体制を整えている。私費外国人留学生特別選抜は「大阪公立大学看護学部入学者選抜試験に関する申し合わせ」に基づき、入試運営委員会は担当委員の指名や面接試験評価要領の作成といった試験運営体制を整備し、公正な試験の運営にあたっている。一般選抜前期日程試験と同日実施であることから、試験実施要領の作成、従事者の配置及び試験実施当日の体制は一般選抜と共通となる。

看護学研究科

「大阪公立大学大学院看護学研究科入学者選抜試験に関する申し合わせ」に基づき、入試運営委員会は問題作成、問題点検、問題決裁、試験問題印刷、採点・評価、合否判定について、担当委員の指名や業務手順書の作成といった試験運営体制を整備し、公正な試験の運営にあたっている。試験ごとに試験実施要領を作成し従事者の配置を決定する他、試験実施当日には、研究科長を責任者とする試験場本部を設置し、円滑な試験実施や、受験者からの質問対応等に適切に対処する体制を整えている。

3) 入学者選抜状況

資料 4-2-1 2022 年～2024 年度 看護学部入学手続者

2024 年度

	選抜方法等	募集人員（名）	入学手続者（名）
一般入試	前期日程	85	91
	後期日程	20	14
特別選抜	学校推薦型選抜	55	55
	私費外国人留学生特別選抜	若干名	0

2023 年度

	選抜方法等	募集人員（名）	入学手続者（名）
一般入試	前期日程	85	85
	後期日程	20	20
特別選抜	学校推薦型選抜	55	55
	私費外国人留学生特別選抜	若干名	0

2022 年度

	選抜方法等	募集人員（名）	入学手続者（名）
一般入試	前期日程	85	89
	後期日程	20	15
特別選抜	学校推薦型選抜	55	55
	私費外国人留学生特別選抜	若干名	1

資料 4-2-2 2022 年～2024 年度 看護学研究科入学手続者

2024 年度

		募集人員（名）	入学手続者（名）
看護学研究科	博士前期課程	50	39
	博士後期課程	10	10

2023 年度

		募集人員（名）	入学手続者（名）
看護学研究科	博士前期課程	50	36
	博士後期課程	10	9

2022 年度

		募集人員（名）	入学手続者（名）
看護学研究科	博士前期課程	50	36
	博士後期課程	10	11

4) 学生数の管理

2022 年度から 2024 年度までの看護学部生及び大学院生の収容定員及び収容定員充足率は下記のとおりであった。(看護学部 資料 4-2-3、看護学研究科資料 4-2-4)

資料 4-2-3 2022 年～2024 年度 在学者数と定員に対する割合

看護学部

2024年度

			1年生	2年生	3年生	4年生
定員	A	公大	160	160	160	
	A	市大				55
	A	府大				120
在学者数	B	公大	160	159	157	
	B	市大				60
	B	府大				129
定員充足率	B/A	公大	100.00	99.38	98.13	
	B/A	市大				120.00
	B/A	府大				107.50
編入学定員						
編入学者数		C+D				
編入学した学生数	学士編入	C				
	転学部／転学科	D				

2023年度

			1年生	2年生	3年生	4年生
定員	A	公大	160	160		
	A	市大			55	55
	A	府大			120	120
在学者数	B	公大	160	158		
	B	市大			56	60
	B	府大			119	127
定員充足率 ²⁾	B/A	公大	100.00	98.75		
	B/A	市大			101.81	109.09
	B/A	府大			99.16	105.83
編入学定員						
編入学者数		C+D				
編入学した学生数	学士編入	C				
	転学部／転学科	D				

2022 年度

			1年生	2年生	3年生	4年生
定員	A	公大	160			
	A	市大		55	55	55
	A	府大		120	120	120
在学者数	B	公大	160			
	B	市大		56	55	61
	B	府大		120	118	124
定員充足率	B/A	公大	100.00			
	B/A	市大		101.81	100.00	110.90
	B/A	府大		100.00	98.33	103.33
編入学定員						
編入学者数		C+D				
編入学した学生数	学士編入	C				
	転学部／転学科	D				

大学院看護学研究科（博士前期課程）

2024年度

博士前期課程			1年生	2年生
定員	A	公大	50	50
	A	市大		
	A	府大		
(内) 助産師資格取得プログラム			A 公大 6	6
在学者数	B	公大	39	49
	B	市大		
	B	府大		2
(内) 助産師資格取得プログラム			B 公大 6	6
定員充足率	B/A	公大	72.00	70.00
	B/A	市大		
	B/A	府大		
(内) 助産師資格取得プログラム			B/A 公大 100.00	100.00

2023年度

博士前期課程			1年生	2年生
定員	A	公大	50	50
	A	市大		10
	A	府大		26
(内) 助産師資格取得プログラム			A 公大 6	
在学者数	B	公大	36	35
	B	市大		1
	B	府大		9
(内) 助産師資格取得プログラム			B 公大 6	
定員充足率			B/A 公大 0	70.00

(内) 助産師資格取得プログラム	B/A	市大		10.00
	B/A	府大		311.53
	B/A	公大	100.00	

2022年度

博士前期課程			1年生	2年生
定員	A	公大	50	
	A	市大		10
	A	府大		26
在学者数	B	公大	36	
	B	市大		5
	B	府大		32
定員充足率	B/A	公大	72.00	
	B/A	市大		50.00
	B/A	府大		123.07

大学院看護学研究科（博士後期課程）

2024年度

博士後期課程			1年生	2年生	3年生
定員	A	公大	10	10	10
	A	市大			3
	A	府大			5
在学者数	B	公大	10	9	10
	B	市大			7
	B	府大			12
定員充足率	B/A	公大	100.00	90.00	100.00
	B/A	市大			233.33
	B/A	府大			240.00

2023年度

博士後期課程			1年生	2年生	3年生
定員	A	公大	10	10	
	A	市大			3
	A	府大			5
在学者数	B	公大	9	11	
	B	市大			8
	B	府大			17
定員充足率	B/A	公大	90.00	110.00	
	B/A	市大			266.66
	B/A	府大			340.00

2022年度

博士後期課程			1年生	2年生	3年生
定員	A	公大	10		
	A	市大		3	3
	A	府大		5	5
在学者数	B	公大	11		
	B	市大		2	10
	B	府大		4	16
定員充足率	B/A	公大	110.00		
	B/A	市大		66.66	333.33
	B/A	府大		80.00	320.00

5) 科目等履修生制度、研究生の受け入れについて

科目等履修生については登録申請資格を満たす者の申請があった場合、科目ごとに書類選考および面接選考を実施している。履修できる科目および、開講キャンパスはそれぞれ決まっている。

また、研究生の受け入れについては、本学の教育に支障をきたさない範囲内で、研究科教授会において選考の上、学長がこれを決定している。2022年度～2024年度の科目等履修生及び研究生の受け入れ人数は資料4-2-4、4-2-5に示す。

資料 4-2-4 2022 年度～2024 年度の科目等履修生受け入れ人数

	2024 年度	2023 年度	2022 年度
学部	0	1	0
大学院 (博士前期課程)	1	0	0

資料 4-2-5 2022 年度～2024 年度年度の研究生受け入れ人数

	2024 年度	2023 年度	2022 年度
学部			
大学院 (博士前期課程)	0	1	1

3. 入学試験運営委員会活動報告

1) 入試評価部会による分析報告

- (1) 2022 年～2024 年度入学者追跡調査報告の評価を行った。
- (2) 2023～2024 年 看護学部・看護学研究科新 入生アンケート調査を実施した。
- (3) (1) と (2) の分析報告を行った。

【学部】

・学校推薦型選抜

入学後 GPA 平均が高値のため、基礎学力を測る共通テスト利用は継続する。一方で、推薦書と GPA との相関がみられないため、推薦書については検討を要する。アドミッション・ポリシーで求めている、意欲や志向を測るために問題形式での小論文の試験を提案。

・前期入試

数学と国語での受験での GPA の差はそれほど変わらないため、現行の得意科目が選べる試験科目は継続。

・後期入試

意欲・能力・志向を測る面接試験の得点と GPA には相関がなく、面接について検討を要す。

入試倍率が2年連続で低下しており、他学部希望で看護への志向性が高くない学生が一定数入学している現状があるため、後期試験を廃止について検討を要す。

・その他の入試方式の提案

大阪府内に限らず、近畿圏内のトップ校を対象とした指定校推薦の導入を提案。

・3 ポリシーの読了は70～88.2%と高く、看護学部の人材育成像を理解して入学している。また、アドミッション・ポリシーに基づいて、学校推薦型選抜、前期入試、後期入試が適切に設定されているが、課題については検討を要す。

【研究科】

・3 ポリシーの読了は8割以上と高く、看護学研究科の人材育成像を理解して入学している。また、アドミッション・ポリシーに基づいて、一般選抜、社会人特別選抜、学部特別選抜は適切に設定されている。

2) 入試アセスメントに係る実施方針（アセスメント・ポリシー）

入試アセスメント・ポリシーの方針は、「大阪公立大学における内部質保証に関する基本方針」の3 (3) c に基づき (https://www.omu.ac.jp/assets/03_omu-adm-iqua_20230220.pdf)、大阪公立大学の入学者選抜に関する内部質保証（以下、「学生の受入の内部質保証」という。）に関し、以下のとおり必要な事項を定めている。

【対象】

本方針の対象は、学士課程及び大学院課程の入学者選抜（一般選抜及び特別選抜を指す。）とする。

【入試アセスメント】

学生の受入の内部質保証を推進するため、各学部、学域及び研究科（以下、「各学部・研究科等」という。）は、入学者選抜の実施状況及び実施結果に関し、入試アセスメント（入学者選抜の検証に関する各種データの収集・分析及び入学者選抜の状況の把握・検証）を実施する。

【入試アセスメントの実施体制】

- (1) 各学部・研究科等は、入試アセスメントに係る実施方針（アセスメント・ポリシー）を定める。
- (2) 各学部・研究科等は、具体的なアセスメントの項目、方法、点検・評価基準等をアセスメントリスト（各学部・研究科等）により明示する。
- (3) 各学部・研究科等は、入試アセスメントを実施するための組織を置く。
- (4) 各学部・研究科等は、データ利活用推進室及びアドミッションセンターの支援を受けて、入試アセスメントを毎年度実施する。

【入試アセスメントの支援組織】

- (1) アドミッションセンターでは、アセスメントリスト（全学）に基づき入試の成績及び入学後の成績や学籍状況、あるいは高等学校や高校生、受験者、入学者等への調査等の実施を通じて得た学生の受入にかかるデータを継続的に収集・分析する。

- (2) アドミッションセンターが収集するデータ及びその分析結果は、各学部・研究科等の入試アセスメントに活用する。
- (3) 各学部・研究科等が実施する調査等の分析については、当該学部・研究科等の要請に基づきアドミッションセンターが支援する。
- (4) 上記のほか、データ利活用推進室は、入試アセスメントに必要な全学の情報を提供する。

[改善計画の策定及び実施、報告]

- (1) 恒常的かつ継続的な点検・評価の結果、改善が必要と認められた場合、「大阪公立大学大学評価基本方針」及び「大阪公立大学大学評価による改善に係る基本方針」に基づき、推進責任者は、その措置について検討を行い、改善方策及びスケジュールを策定する。策定した改善方策等を大阪公立大学大学評価委員会（以下、「大学評価委員会」という。）に報告する。
- (2) 推進責任者は、大阪公立大学内部質保証会議より要請を受けた改善計画を実施し、大学評価委員会に改善の実施状況を報告する。

<看護学部／研究における課題、委員会の設置経緯>

入試評価部会（2023 年～2025 年 6 月まで）

2023 年度より全学の大阪公立大学入試推進本部会議のもとに専門委員会として設置する大阪公立大学入試改革委員会の組織及び運営に関し必要な事項が定められ、下記の所掌事項が規定された。入試改革委員会の所掌事項、看護学部／看護学研究科の入学者選抜方法の基本方針・重要事項、入試改革における課題に対応するため、2023 年度より看護学部／看護学研究科の入学試験運営委員会の下部組織として入試評価部会を設置し学生受入の自己点検評価を主とした入試アセスメントを担っている。

(所掌事項)

- (1) 全学の入試改革に関すること。
- (2) 全学の入試改革に関する企画及び部局への情報共有、支援に関すること。
- (3) 全学的な入試の内部質保証（入試改革）の推進に関すること。

4. 入試広報

1) 学生募集のための広報

看護学部では、学生募集のための広報活動はオープンキャンパス、案内冊子、入試情報を含むホームページならびに高校や企業などが主催する進学相談会などにより行っている。2022 年度から 2024 年度に開催したオープンキャンパスの企画と参加者数などを資料 4-4-1 に示す。オープンキャンパスは例年 8 月初旬に、阿倍野キャンパスにおいて看護学部説明会、看護学部学舎見学、教員や学生による相談会、医学部スキルスシミュレーションセンターの見学ならびに阿倍野医学図書館の見学などのプログラムにより実施している。年度ごとに参加者数の推移やアンケート結果などを検討し、開催方法やプログラムの改善を図っている。案内冊子ならびにホームページについては、年度当初に掲載情報全般を見直すとともに、必要に応じて年度途中で随時更新し、最新の入試情報および教育・研究成果の広報に努めている。進学相談会は、依頼のあった高校の受験者・入学者数の実績や他大学の参加状況などを踏まえて参加の可否を決定し、積極的かつ効率的に取り組んでいる。

看護学研究科では、学生募集のための広報活動は大学院説明会、案内冊子、ならびに、入試情報や教育研究成果のホームページへの掲載などにより行っている。2022 年度から 2024 年度に開催した大学院説明会の企画と参加者数などを資料 4-4-2 に示す。第 1 回大学院説明会は、例年 5 月に阿倍野キャンパスにおいて概要説明会と小分野相談会のプログラムにより対面で実施している。第 2 回大学院説明会は 9 月にオンラインで開催し、関西以外の遠隔地からの受験相談にも応じている。大学院説明会の周知はチラシ配布、ホームページへの掲載などにより行っている。年度ごとに参加者数の推移やアンケート結果などを検討し、プログラムなどの改善に努めている。案内冊子やホームページについては、学部と同様に、年度当初に見直し、年度途中にも随時更新している。

資料4-4-1 看護学部オープンキャンパス

年度	開催日と場所	参加者数	プログラム	備考
2024	8月9日(金)午前・午後 阿倍野キャンパス	706人	学部説明会(学部・入試概要、学生生活の紹介) 模擬講義：三輪恭子教授 「生活の場で行う看護 “快便”ケアを考える」 相談会 学舎見学会(看護学部学舎) SSC・図書館*見学	教職員の勤務時間や学舎警備等の課題から平日1日開催とした。 平日開催によりSSC見学が可能になった。
2023	8月5日(土)午後 8月6日(日)午前・午後 阿倍野キャンパス	951人	学部説明会(学部・入試概要、学生生活の紹介) 相談会 学舎見学(看護学部学舎) 図書館*見学(開館の5日(土)のみ)	2022年度受験者数が市立・府立大学より減少したため、週末1.5日開催とした。
2022	8月5日(金) 阿倍野キャンパス	452人	学部説明会(学部・入試概要、在学生から一言) ミニ講義：中山美由紀教授「看護学の発展」 相談会 学舎見学ツアー(看護学部学舎、図書館*)	看護学部開設

*SSC：医学部スキルスシミュレーションセンター 図書館：阿倍野医学図書館

資料4-4-2 看護学研究科大学院説明会

年度	開催日と場所	参加者数	プログラム	備考
2024	第1回 5月25日(土) 阿倍野キャンパス	98人	概要説明会 (大学院の概要、入試説明、在学生の体験) 小分野相談会	
	第2回 9月28日(土) オンライン開催	25人		
2023	第1回 8月05日(土) 阿倍野キャンパス	77人	概要説明会 (大学院の概要、入試説明、在学生の体験) 小分野相談会	助産師資格取得プログラム開設
	第2回 9月23日(土) オンライン開催	52人		
2022	第1回 5月28日(土) 阿倍野キャンパス	60人	概要説明会 (大学院の概要、入試説明、在学生の体験) 小分野相談会	看護学研究科開設
	第2回 6月8日(水) オンライン開催	18人		
	第3回 9月17日(土) オンライン開催	47人		

第5章 教育課程における教育・学習活動

1. カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシー

1) 学士課程

看護学部では、生命の尊重と個人の尊厳を基盤とし、豊かな人間性を形成するとともに、科学的専門知識・技術を教授し、看護を総合的な視野で捉えられる人材を育成することを教育目的とし、看護の対象や多職種との看護の価値を創造する共創的看護を提供できる実践力を持つ看護人材やケアと科学を融合できる創造的力をもつ看護人材を育成している。

また、充実したカリキュラムにより幅広い教養と倫理的態度、豊かな人間性を兼ね備え、科学的思考に基づいた判断力や高度な実践能力を持ち、基礎的な学術志向性と自立心を持ち看護の発展に貢献できる人材を育成している。

看護学部の教育目的・教育目標・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成実施方針（カリキュラム・ポリシー）を次に示す。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

看護学部では、所定の期間在学して所定の単位を修得し、下記の要件（ディプロマ・ポリシー）を満たした学生に対し、学士（看護学）の学位を授与する。

1. 全人的に人を理解する力

人間の生命の尊厳と価値観の多様性について深く理解し、幅広い教養とコミュニケーション力を身につけ、健康の本質を理解し看護の対象となる人を生活者として全人的に捉える能力を身につける。

2. 倫理観をもって、行動する力

人々の権利を尊重し、看護職として倫理観をもって行動する能力を身につける。

3. 適切な判断と課題解決力をもって、看護を実践する力

看護に必要な知識と技術を修得し、科学的根拠に基づく適切な判断と課題解決能力をあわせ、看護を実践できる能力を身につける。

4. ケアをつなぐ力

保健・医療・福祉・教育・地域など多様なフィールドにて、ケアの対象となる人々のニーズをふまえて、多職種とともにケアをつなぐ力を身につける。

5. 看護を探究する力

看護学への関心を深め、必要な情報を自ら系統的に収集・分析する研究の基礎能力を修得し、社会で発展する看護を探究する力を身につける。

6. 自己を研鑽する力

変化する社会の中で看護の役割と責務を展望し、社会の変化や医療技術の発展に対応でき、生涯にわたって自らのキャリアを発展させる能力を身につける。

7. 地域と国際社会に貢献する力

地域と国際社会で活動し、貢献できる能力を身につける。

教育課程編成実施方針（カリキュラム・ポリシー）

看護学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得させるために基幹教育、専門教育に関する授業科目を体系的に提供し、講義、演習、実習科目を適切に組み合わせた教育課程を編成する。教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）について、総合性に関する方針、順次性に関する方針、実施に関す

る方針の側面から以下のとおり示す。

(1) 総合性に関する方針

ディプロマ・ポリシーに基づき、全人的に人を理解する力は、基幹教育科目と健康基礎科学科目、倫理観をもって、行動する力ならびに適切な判断と課題解決力をもって、看護を実践する力は、基盤看護学科目、実践看護科学科目、生体行動ケア科学科目、ケアシステム科学科目にて修得する。ケアをつなぐ力は共創科目とケアシステム科学科目、看護を探究する力は、実践看護科学科目とケアデータ科学科目にて、修得する。自己を研鑽する力は、キャリア発展科目、実践看護科学科目、ケアデータ科学科目にて修得し、地域と国際社会に貢献する力は、キャリア発展科目、実践看護科学科目、ケアシステム科学科目にて修得する。学生の興味、関心やキャリアデザインを尊重し、履修モデルとして実践看護科学コースと先進ケア科学コースを設置する。これらのコースの学習によって、看護の対象や他職種とともに価値を創造する共創的看護実践の志向性、またはケアと科学を融合し、ケアを牽引する新たな看護を創造する学術志向性などの強みを持つ。

(2) 順次性に関する方針

- ① 1年次は、基幹教育科目を履修することにより、教養を身につけ、社会をみわたした上、学部で学ぶべきことについて見通しをたてられる。(共通)
- ② 1～2年次では、基盤看護学科目を履修することにより、倫理観をもち、看護の本質や基盤となる考え方を理解する力を修得する。(共通)
- ③ 1～3年次では、健康基礎科学科目を履修することにより、看護の対象となる人と健康の本質を理解する力を修得する。(共通)
- ④ 2～3年次では、共創科目、実践看護学科目を履修することにより、看護の対象や他職種とともに価値を創造する共創的看護実践の志向性をつけ、地域と国際社会に貢献できる看護に必要な知識と技術を修得する。(実践看護科学コース)
- ⑤ 2～3年次では、ケアデータ科学科目、生体行動ケア科学科目、ケアシステム科学科目を履修することにより、ケアと科学を融合しケアを牽引する新たな看護を創造する学術志向性をつけ、地域と国際社会においてケアを発展させる看護に必要な知識と技術を修得する。(先進ケア科学コース)
- ⑥ 3～4年次では、実践看護科学科目、生体行動ケア科学科目、ケアシステム科学科目の臨地実習科目を履修することにより、科学的根拠に基づく適切な判断と課題解決能力を修得する。(共通)
- ⑦ 3～4年次では、キャリア発展科目を履修することにより、生涯にわたって自らの看護を自己研鑽し、地域と国際社会に貢献する力を修得する。(共通)
- ⑧ 3～4年次では、ケアデータ科目の「研究セミナー」を履修することにより、看護専門分野に関心をもって、ケア科学を追求し、ケアと看護を発展させる探究力を修得する。(先進ケア科学コース)
- ⑨ 4年次では、実践看護科学科目の「総合研究」ならびに「総合実習」を履修することにより、研究の基礎を学ぶとともに看護を探究する総合的な看護実践能力を修得する。(実践看護科学コース)

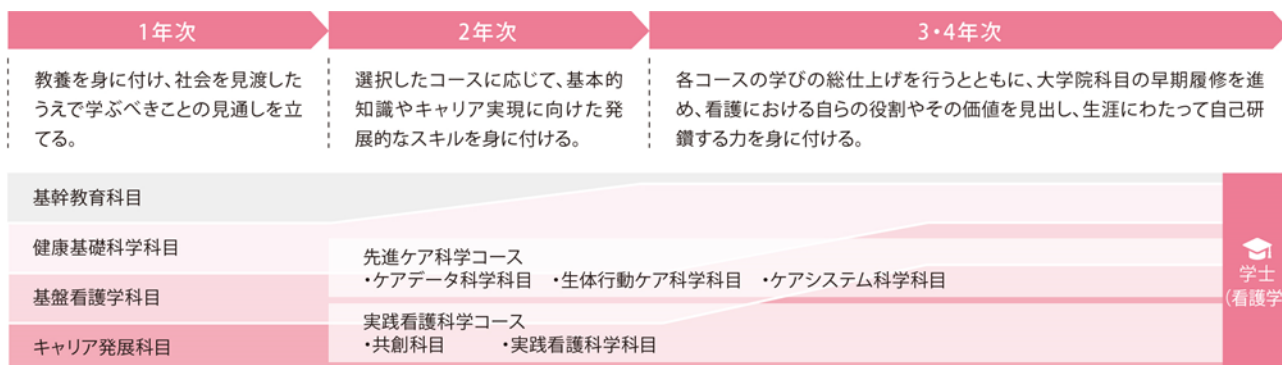
(3) 実施に関する方針

多様なキャリアパスを見通し、共創的看護を実践する看護職やケアと科学を融合し先進的な創造力をもつ看護職を養成するため、学生の主体性を尊重し、少人数で自律的に学修することを重視する。各専門科目については、講義、演習、実習の一連の関連性を重視し、特定の看護専門領域への志向性をつけることが実現できるよう、履修モデルを明示し、能動的学修を進める。個々の授業科目の内容および定期試験、レポートや平常点による評価方法の詳細についてはシラバスに提示する。なお、学生の多様なキャリアデザインを促進するために、大阪公立大学大学院看護学研究科博士前期課程科目を履修できるよう、時間割を配慮する。

（４）学修成果の評価の方針

看護学部で学ぶ学生の学習成果を適切に把握するため、「大阪公立大学における教育の内部質保証に関する方針」に従って、アセスメント・ポリシーとアセスメントリストを定め、複数の評価指標・方法を用いて定期的に、本学部の教育カリキュラムの学修成果の評価を行う。ディプロマ・ポリシーごとに、各科目の評価をまとめ、能力の獲得がされたか判断する指標を今後検討していく。また各科目の学修成果は、科目の到達目標の達成状況を基準にした成績評価ガイドラインを定め、それに則した成績評価を行うことで評価することとし、科目の到達目標および評価方法・評価基準はシラバスに明記する。

資料5-1-1-1 4年間の流れ



授業科目は全学部・学域に共通した基幹教育科目、専門科目、資格科目および副専攻科目に区分されており、基幹教育科目は主に1年次・2年次において学び、多くの専門科目は2年次以降に学ぶよう編成されている。

基幹教育科目は思考力、表現力、判断力の基盤の上に、幅広い知識を総合的に活用できる能力を身に付けることを目的とした「総合教養科目」、高等教育での主体的な学びを大学入学直後に身に付けることを目的とし、グループディスカッションを通した課題発表等の自発的学修、プレゼンテーションやレポートによる自己表現の経験、異なる視点との出会いによる自己の振り返り、他の専門分野の複数の学生と教員とによる多様な視点の交換を行うことで、能動的な学びの姿勢を身に付けることを目的とした「初年次教育科目（初年次ゼミナール）」、情報機器を利活用する際に必要となる情報処理の基礎的な知識と技能に加え、インターネットによるコミュニケーション手法や情報化社会に参画するための情報倫理、情報機器によるプレゼンテーション等のスキルを身に付けることを目的とした「情報リテラシー科目」と「外国語科目」として英語科目および、初修外国語科目（朝鮮語・中国語・ロシア語ドイツ語・フランス語）がある。（資料5-1-1-2に基幹教育科目履修課程表を示す。）

また「健康・スポーツ科学科目」では、生涯にわたり心身の健康を維持し、より健康的な状態を得るために必要な知識や方法について、主としてスポーツを中心とした行動を通じて具体的、学術的に修得するとともに、健康科学やスポーツ文化が果たすべき役割について、理論と実践を通し理解を深めることを目的としている。

基礎教育科目では、それぞれの学問領域の基礎教育の中で、基幹教育として提供することが相応しい自然科学系科目を基礎教育科目として提供している。学士課程教育において、科学の基本的能力として必要とされる学力と能力を養成するために、1・2年次に「数学」・「物理学」・「化学」・「生物学」・「地学」の基礎教育（講義・演習・実験）を実施しており、それぞれの科目では、学士課程において必要な科学的基盤を身に付けるのみでなく、専門教育へもスムーズに接続できる知識・技能の修得を目的としている。また、「情報」の基礎教育科目として、コンピュータやネットワークの動作原理、大量のデータを効率的に蓄積・検索するためのデータベースと、情報検索のしくみ等の修得を目的としている。

専門科目においては、各学部・学科、学域・学類の専門科目に加えて、各学部・学域によっては共通科目を置き、それぞれの学問分野で共通に求められる知識や思考法等の知的な技法の修得等を目指している。

看護学部で履修可能な副専攻科目は、グローバル・コミュニケーション&ソーシャル・イノベーション副専攻（GC・SI副専攻）（Global Communication and Social Innovation Minor）である。

養護教諭一種免許状取得を希望する学生は、「教育の基礎的理解に関する科目等」「養護に関する科目」「大学が独自に設定する科目」「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」を履修することを必修としている。養護実習にかかる費用は、全額学生負担となる。（資料5-1-1-3 養護教諭一種免許状取得に必要な「養護に関する科目」を示す。）

新生児蘇生法「一次」コースでは、気管挿管、薬物投与を除く基本的な新生児蘇生法を習得し、修了認定資格を取得できる。

また、南大阪地域の大学との南大阪コンソーシアム、大学コンソーシアム大阪、三大学単位互換協定を次々と結び、互換可能な開講科目について単位認定を可能にし、学生の学習の機会を拡充している。

標準履修課程表を（資料5-1-1-4）に示す。

資料 5-1-1-2 基幹教育科目履修課程

科 目 区 分		科 目 名	配 当 年 次 及 び 単 位 数 < ○ 印 必 修 >								週 時 間 数	卒 業 要 件			
			第1年次		第2年次		第3年次		第4年次						
			前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期					
基 幹 教 育 科 目	総合教養科目		(授 業 科 目 ガ イ ド 参 照)										8単位	B	A 以 外 か つ B の 8 単 位 を 超 え て 修 得 し た 基 幹 教 育 科 目 1 0 単 位 以 上 (基礎教育科目を除く)
	初年次教育科目		初年次ゼミナール		②							2	2単位	A	
	情報リテラシー科目		情報リテラシー		②							2	2単位		
	外 国 語 科 目	外 国 (英 語 科 語 目)	University English1A		①							2	6単位		
			University English1B			①						2			
			University English2A		①							2			
			University English2B			①						2			
			University English3A				①					2			
			University English3B				①					2			
	科 目	外 国 (初 修 外 国 語 科 目)	(独 ・ 仏 ・ 中 ・ 露 ・ 朝) 入 門 1		①							2	2単位		
			(独 ・ 仏 ・ 中 ・ 露 ・ 朝) 入 門 2			①						2			
			(その他授業科目ガイド参照)												
	目	健康・スポーツ 科学科目		健 康 ・ ス ポ ー ツ 科 学 概 論		(2)	(2)						2		
健 康 ・ ス ポ ー ツ 科 学 実 習				(1)	(1)							2	1単位		
計													33単位		

※ (独・仏・中・露・朝) は, 独:ドイツ語 仏:フランス語 中:中国語 露:ロシア語 朝:朝鮮語

※ 英語以外の外国語科目(独・仏・中・露・朝)については, 当該年度に1言語しか履修できません。

※ 健康・スポーツ科学科目の各科目は, 学科ごとに指定される前期又は後期のクラスを受講してください。

資料 5-1-1-3 養護教諭一種免許状取得に必要な「養護に関する科目」

養護に関する科目	最低修得 単位数	実践看護科学コース	先進ケア科学コース
		授業科目名（単位数）	
衛生学及び公衆衛生学 （予防医学を含む。）	4	公衆衛生学（１）	
		健康と疫学（１）	
		地域看護学基盤論（１）	
		感染管理論（１）	
学校保健	2	学校保健（２）	
養護概説	2	養護概説（２）	
健康相談活動の理論及 び方法	2	コミュニケーション論（１）	地域包括ケア論（２）
		地域看護学支援論（１）	
栄養学（食品学を含 む。）	2	栄養学総論（１）	
		生化学（１）	
解剖学及び生理学	2	解剖生理学１（２）	
「微生物学、免疫学、 薬理概論」	2	薬理学（１）	
		微生物学（１）	
精神保健	2	精神看護学基盤論（１）	
		精神看護学支援論（１）	精神行動看護学実践論（１）
看護学（臨床実習及び 救急処置を含む。）	10	看護学概論（２）	
		早期体験実習（１）	
		看護倫理論（１）	
		生活行動ケア論（１）	
		クリニカルスキル演習（２）	
		ウィメンズヘルス看護学基盤論（１）	
		在宅看護学基盤論（１）	
		小児看護学基盤論（１）	
		小児看護学実習（２）	子ども・家族看護過程実習（２）
		小児看護学支援論（１）	子ども・発達ケアシステム論（１）
		急性看護学支援論（１）	臨床健康危機看護学演習（２）
		急性看護学実習（３）	臨床健康危機看護学実習（３）
最低修得単位数計	28		

資料 5-1-1-4 標準履修課程表

凡例：●印は、必修科目 ○印は、選択科目 ◎印は、コース別に指定する選択科目

区 分	授業科目	配当年次	単位数		1単位 当たりの 時間数	実践看護科学コース								先進ケア科学コース								履修方法 及び 卒業要件		
						配当年次								配当年次										
						1年次		2年次		3年次		4年次		1年次		2年次		3年次		4年次				
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基幹教育科目	(総合教育科目)			8		○	○							○	○							選択 8単位	左記の他選択 10単位	
	(初年次教育科目)		2			●								●								必修 2単位		
	(情報リテラシー科目)		2			●								●								必修 2単位		
	(外国語科目)		8			●	●	●						●	●	●						必修 8単位		
	(健康スポーツ科目)		3			●	●							●	●							必修 3単位		
専門科目	健康 基礎 科学	解剖生理学1	1前	2		15	●							●									必修 30単位 選択 66単位以上	
		解剖生理学2	1後	2		30		●							●									
		病理学	2前	1		15			●								●							
		薬理学	2前	1		30			●								●							
		生化学	2前	1		30			●								●							
		微生物学	2前	1		30			●								●							
		栄養学総論	2後		1	15				◎														
		疾病・病態学A（慢性期）	2前	1		30			●								●							
		疾病・病態学B（急性期）	2前	1		30			●								●							
		疾病・病態学C（母性）	2後	1		15				●									●					
		疾病・病態学D（小児）	2後	1		15				●									●					
		疾病・病態学E（精神）	2後	1		15				●									●					
		感染管理論	2後		1	15												◎						
		基礎遺伝学	2後		1	30												◎						
		ゲノム医療ケア科学	3前		1	15														◎				
		生命倫理学	3前		2	15																		
		健康と疫学	2後		1	15					◎													
		公衆衛生学	2前		1	30			●								●							
		臨床統計学	2前		1	30			●								●							
		医療と社会福祉学	3前		1	15						◎												
セクシュアルヘルス支援	3前		1	15						◎														
基盤看護学	看護学概論	1前	2		15	●							●											
	早期体験実習	1後	1		45		●							●										
	看護倫理論	1後	1		15		●							●										
	生活行動ケア論	2前	1		15			●							●									
	クリニカルスキル演習	2前	2		30			●							●									
	成人看護学基盤論	2前	2		15			●							●									
	老年看護学基盤論	2前	1		15			●							●									
	ウィメンズヘルス看護学基盤論	2後	1		15				●								●							
	在宅看護学基盤論	2前	1		15			●							●									
	地域看護学基盤論	2前	1		15			●							●									
	小児看護学基盤論	2後	1		15				●								●							
	精神看護学基盤論	2前	1		15			●							●									
共創科目	コミュニケーション論	3前		1	30					◎														
	コラボレーション論	3前		1	15						◎													
	トランジショナルケア論	2後		1	15						◎													
	トランジショナルケア演習	3前		1	30							◎												
実践看護科学	看護過程と臨床判断	2後		1	30					◎														
	基礎看護学実習	2後		2	45						◎													
	日常生活援助技術	2後		2	30							◎												
	ヘルスアセスメントとシミュレーション	2後		1	30								◎											
	病態看護論	2後		1	15									◎										
	急性看護学支援論	2後		1	15										◎									
	急性看護学支援論演習	3前		1	30											◎								
	急性看護学実習	3後－4前		3	45												◎							
	慢性看護学支援論	2後		1	15											◎								
	慢性看護学支援論演習	3前		1	30												◎							
	慢性看護学実習	3後－4前		3	45													◎						
	老年看護学支援論	2後		1	15												◎							
	老年看護学支援論演習	3前		1	30													◎						
	老年看護学実習	3後－4前		3	45														◎					
	精神看護学支援論	2後		1	15													◎						
	精神看護学支援論演習	3前		1	30														◎					
	精神看護学実習	3後－4前		2	45															◎				
	在宅看護学支援論	2後		1	15														◎					
	在宅看護学支援論演習	3前		2	30															◎				
	在宅看護学実習	3後－4前		2	45																◎			

区 分		授 業 科 目	配 当 年 次	単 位 数	1単位 当たりの 時間数	実践看護科学コース								先進ケア科学コース								履修方法 及び 卒業要件
						配 当 年 次								配 当 年 次								
						1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専 門 科 目	実 践 看 護 科 学	地域看護学支援論	2後	1	15				◎												必修 30単位 選択 66単位以上	
		地域看護学実習	3後	1	45						◎											
		家族看護論	3前	2	15					◎												
		母性看護学支援論	2後	1	15					◎												
		母性看護学支援論演習	3前	1	30					◎												
		母性看護学実習	3後－4前	2	45							◎										
		小児看護学支援論	2後	1	15					◎												
		小児看護学支援論演習	3前	1	30						◎											
		小児看護学実習	3後－4前	2	45							◎										
		看護研究方法論	3前	1	15						◎											
		総合研究1	4前	1	15							◎										
		総合研究2	4後	2	30								◎									
		総合実習	4前	2	45								◎									
	ケ ア デ ー タ 科 学	ケアと健康福祉工学	2後	1	15												◎					
		ケアと行動科学	2後	1	15												◎					
		ヘルスケアサービス経営論	3前	1	15													◎				
		情報ケア科学	3前	1	15													◎				
		ケアと人工知能	2後	1	15												◎					
		異文化ケア科学	3前	1	15													◎				
		高齢者ケアと経済	2後	1	15												◎					
		ケアと意思決定	3前	1	15													◎				
		ケア研究方法論	2後	1	30												◎					
		研究セミナー1	3前	1	30													◎				
		研究セミナー2	3後	1	30														◎			
		研究セミナー3	4前	1	30															◎		
		研究セミナー4	4後	1	30																◎	
	生 体 行 動 ケ ア 科 学	ケア・シンキングプロセス	2後	1	15												◎					
		フィジカルアセスメント	2後	1	15												◎					
		生活行動ケア基本演習	2後	2	30												◎					
		生活行動ケア基本実習	2後	2	45												◎					
		臨床健康危機看護学演習	3前	2	15													◎				
		臨床健康危機看護学実習	3前	3	45													◎				
		高齢者ウェルネス実習	2後	1	45												◎					
		生活行動ケア応用演習	4前	1	15															◎		
		生活行動ケア応用実習	4前	1	45															◎		
		ウィメンズヘルスケア活動論	3前	1	15													◎				
		周産期ヘルスケア演習	3後	2	15														◎			
		ウィメンズヘルスケア実習	3後	2	45														◎			
		精神行動看護学実践論	3前	1	15													◎				
		精神行動看護学演習	3後	2	15														◎			
		精神行動看護学実習	3後	2	45														◎			
	ケ ア シ ス テ ム 科 学	地域包括ケア論	3前	2	15													◎				
		訪問看護過程演習	4前	1	15															◎		
		訪問看護過程実習	4前	1	45															◎		
		地域包括ケアシステム演習	4後	1	15																◎	
		地域包括ケア実習	4後	1	45																◎	
		臨床療養支援看護学演習	3前	2	15													◎				
		臨床療養支援看護学実習	3前	3	45													◎				
		高齢者ケアシステム論	3後	2	15														◎			
		高齢者ケアシステム実習	3後	2	45														◎			
		子ども・発達ケアシステム論	3前	1	15														◎			
		子ども・家族看護過程演習	3後	2	15															◎		
		子ども・家族看護過程実習	3後	2	45															◎		
		グローバルケアコミュニケーション	3前	1	30													◎				
		ケアシステム科学実習	4前	2	45																◎	
キ ャ リ ア 発 展 科 目	チーム医療A	2後	1	15				○									◎					
	チーム医療B	4後	1	15							○									○		
	看護管理学	3前	1	15					◎									○				
	国際看護論	3前	1	15						◎								○				
	看護教育学	4前	1	15							◎								○			
	災害看護論	4後	1	15								◎								○		
	グローバル看護演習	4前・後	2	30							○	○							○	○		
	看護情報学	4前	1	15							○								○			
	がん看護学	3前	1	15					○									○				
	感染看護学	3前	1	15						○								○				
	緩和ケア学	4前	1	15							◎								○			
	リスクマネジメント	4後	1	15								○								○		
	実践訪問看護演習	4後	2	15								○								○		
	新生児クリティカルケア	4後	1	15									○							○		
科 資 料 科 目	教 育 目 的	☆学校保健	2後	2	30					○							○					
		☆養護概説	3前	2	30						○								○			

(注) ☆印は、卒業要件の選択科目の単位数には含まれません。

2) 大学院課程

看護学研究科では、大阪公立大学大学院看護学研究科規程（規程第 195 号第 3 条）に基づき、専攻領域及び分野を定めている。<https://srb08f9d7f3.legal-square.com/HAS-Shohin/jsp/SVDocumentView>

それに伴い、看護学研究科では博士前期課程の「教育目的」「教育目標」「学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）」「教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）」に高い倫理観を涵養する内容を追加した。

看護学研究科の教育理念・目的・目標・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）・教育課程編成実施方針（カリキュラム・ポリシー）を資料 5-1-2-1 に示す。

資料 5-1-2-1 看護学研究科学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）・教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

博士前期課程学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	博士後期課程学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)
1. 看護学に関わる基礎的研究能力 看護学を中心に保健医療福祉に関する知を科学的に追及できる基礎的研究能力 2. 看護に関わる事象の分析能力 保健医療福祉に関わる課題について地域性や個性を考慮し分析する能力 3. 研究成果を発信できるコミュニケーション能力 国際的な視点を持って研究成果を発信できる基礎的コミュニケーション能力 4. データサイエンスを活用する能力 保健医療福祉に関する研究に必要な課題を社会現象や生体行動のデータより理論化し、活用する能力 5. 学際的に探究する思考力 保健医療福祉と看護を含むケアの課題を学際的な視点から、探求する思考力 6. 看護に関わる事象を理論的に探究する力 看護に関わる現象を分析し、課題解決やエビデンス構築に向けて理論的に主体的に探究する能力 7. 看護実践の場における高度な実践力、教育力 豊かな人間性と高い倫理感に基づき、関連する学問領域における知識や技術を高度な実践、看護管理や看護教育に適用する能力 8. 看護実践の変革をけん引する能力 専門性の高い看護ケアを提供し、看護実践の質の向上を目指す改革を推進できる能力	1. 看護学に関わる研究を学際的に推進できる力 保健医療福祉の課題解決や看護学の発展に向けて、学際的に研究を推進できる能力 2. 研究成果を社会実装化する力 看護や関連領域の知識や高い倫理観に基づき、看護のエビデンスを実社会の中で、科学的に検証し、活用する能力 3. 社会の変革に向けてリーダーシップを発揮する力 社会の変革に向けて、保健医療福祉、教育、研究において新たな価値を創造し、施策などへ参画できる変革者としてリーダーシップを発揮できる能力 4. 研究成果をグローバルに発信できる能力 看護に関わる研究成果をグローバルに発信できるコミュニケーション能力

博士前期課程教育課程編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)	博士後期課程教育課程編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)
1) 総合性に関する方針 保健医療福祉や看護を含むケアの課題を科学的視点および学際的視点で追求し、エビデンス構築し、実装化を志向し、研究成果を発信できる人材と、高い倫理観を持ち、看護に関わる現象を分析し、チーム医療において社会を変革できる実践者を育成するために必要な大学院共通教育科目、専門基礎科目、専門科目を配置する。 2) 順次性に関する方針 1年次は、大学院共通教育科目と専門基礎科目の履修により、エビデンスを追求する基礎的研究能力を身につける。また、関連する学問分野の研究を学び、学際的に探究する思考力を身につける。さらに大学院共通教育科目の「Academic Writing」や「Academic Presentation」の履修や先進ケア科学共通科目のケア科学英語論文作成法、実践看護科学領域共通科目の「異文化フィールドワーク A」、「異文化フィールドワーク B」の履修により研究成果を発信できるコミュニケーション能力を修得する。 - 修士論文コース（先進ケア科学領域）では、大学院共通教育科目と専門基礎科目で修得した基礎的研究能力を生かし、1・2年次に先進ケア科学領域のケアシステム科学分野または生体行動ケア科学分野の科目の履修により、研究課題を抽出して研究を遂行し、研究成果を発信できる能力を身につける。 - 修士論文コース（実践看護科学領域）では、1年次に大学院共通教育科目や専門基礎科目の「看護学研究法」や「理論看護学」を配置し、看護を体系化するための理論と基礎的研究能力を養う。さらに各専門分野の知見を広げ、深化する能力を養い、研究活動につながる課題抽出につなげられるよう、基礎看護科学分野、家族支援看護科学分野、生活支援看護科学分野、療養支援看護科学分野の「特論科目」、「演習科目」の履修により、研究課題を抽出する。2年次に「実践看護科学特別研究」を配置し、研究を遂行し、研究成果を発信できる能力を身につける。	1) 総合性に関する方針 保健医療福祉における研究を科学的な視点から自律して推進し、グローバルに発信するとともに、看護におけるエビデンスを構築し、その社会実装をめざす人材を育成するために必要な大学院共通教育科目、専門基礎科目、専門科目を配置する。 - 大学院共通教育科目には、高い倫理観を養うための研究公正科目やイノベーションを創出する能力やリーダーシップを発揮できる能力を育成のためのキャリアデザイン科目群を配置する。 - 専門科目には、専門基礎科目として高度な研究能力を育成するために「ケア科学研究総論」、「看護学研究方法論」、「看護学研究方法論演習」などを配置する。また、エビデンスを社会実装化する方法を修得するためにケアシステム開発論、看護理論開発方法論などを配置する。 - 専門科目には、看護学における知を理論的に体系づけ、実装化を志向できるように実践看護科学科目を、他分野のケアを融合したケア科学を追求できる先進ケア科学科目を配置する。各専門領域における特講、演習、特別研究を配置する。 - 国際的視野に立ち、学術交流、研究活動に貢献でき、研究成果をグローバルに発信でき、リーダーシップを発揮できる能力を育成するために、特別研究などにおいて、国際学会や海外などのジャーナルに成果を発表することを推進する。 2) 順次性に関する方針 - エビデンスを追求し、創造する研究能力を身につけるために必要なコースワークが行えるよう科目を配置する。 1年次には大学院共通教育科目、専門基礎科目に「ケア科学研究総論」、「生体行動評価論」、「ケアシステム開発論」、「看護学研究方法論」、「看護学研究方法論演習」、「看護理論開発方法論」を配置し、看護の知を体系化するための方法、エビデンスを導く研究方法を学修するための科目を配置する。さらに研究

- 実践看護研究コース（実践看護科学領域）では1年次に大学院共通教育科目、専門基礎科目の「看護学研究法」や「理論看護学」を配置し、看護を体系化するための理論と基礎的研究能力を養う。また高度実践看護者、看護管理実践者、看護教育者としての実践の基礎となる知識や技術を習得するための専門基礎科目（実践看護科学共通科目）や基礎看護科学分野、家族支援看護科学分野、生活支援看護科学分野、療養支援看護科学分野の特論科目、演習科目、実習科目を配置する。さらに課題解決につながる研究能力を養うための「実践看護科学課題研究」を2年次に配置する。 3) 実施に関する方針 - 学生が研究を主体的に遂行できる教育体制を整備する。 - 学生間で相互に交流しながらクリティカルな検討ができる学習環境を整える。 - 共通科目は、看護学を専門とする教員と異分野の教育・研究者と共同して教育内容を精選し、教育計画を立案する。 - 修士論文コース・実践看護研究コース(実践看護科学領域)では、学生が多様な分野と交流しながら、学修を深められるような教育体制を整備するとともに、最新の実践的な保健医療福祉の知識を学べるような教育体制、シミュレーション等を活用した教育環境を整備する。 - 研究指導は指導教員を中心に複数指導教員体制をとり、論文審査と最終試験を行う。なお、論文審査は、修士論文評価基準または課題研究評価基準にしたがって行う。 - 多様な学生の学習ニーズに対応するため、長期履修制度を設置する。 - 修士論文コース・実践看護研究コース(実践看護科学領域)では、大学院への知的好奇心を刺激し、大学院教育への導入を円滑に進めるために、博士前期課程科目の先行履修が行えるような科目を設定する。 - ディプロマ・ポリシーで示した目標を学生が達	成果の社会実装やケア科学の発展をめざす研究者としての倫理観と素養を身につける科目を配置する。 1年次には各分野の知見を深め、研究課題に関連するフィールドワークなどを行い、研究課題を見出し、2年次以降で段階的に研究を遂行できるように「特別研究1」、「特別研究2」、「特別研究3」を配置する。 3) 実施に関する方針 - 専門領域を先進ケア科学領域と実践看護科学領域の2領域として、先進ケア科学領域では10分野に、実践看護科学領域では4分野とし、専門性の高いコースワークを行った後、特別研究は分野横断的に配置し、多様な教員から指導が受けられるような指導体制を整備する。 - 学際的に研究を推進できる能力を養うことができるように研究課題に応じて、異分野の教育・研究者と共同し、教育内容を精選し、学習環境を整える。 - 研究指導は指導教員を中心に複数指導教員体制をとり、研究計画審査会、中間報告会、論文審査と最終試験を行う。なお、論文審査は、修士論文評価基準または課題研究評価基準にしたがって行う。 - 多様な学生の学習ニーズに対応するため、長期履修制度、早期修了制度などを設置する。 - ディプロマ・ポリシーで示した目標を学生が達成できるように履修モデルを提示することにより、カリキュラムの構成を具体的に示す。学修評価は、ディプロマ・ポリシーに基づき、それぞれの能力等が修得できているかを各科目でのレポートや講義への参加意欲などの平常点で評価する。加えて博士論文の評価基準に基づき論文審査、最終試験を行う。各科目の評価方法の詳細はシラバスに記載する。

成できるように、各領域のコースごとの履修モデルを提示し、カリキュラムの構成を具体的に示す。成績評価は、ディプロマ・ポリシーに基づき、それぞれの能力等が修得できているかを各科目のレポートや講義への参加意欲などの平常点で評価する。加えて修士論文、課題研究についての論文の評価基準に基づき論文審査、最終試験を行う。各科目の評価方法の詳細はシラバスに記載する。	

博士前期課程は、人間の存在と生命の尊厳を深く理解し、広い視野に立ち、精深なる学識を深め、高い倫理観を持った変革者、リーダーとしての実践的能力、研究的能力を有する人材を育成することを目的とする。

- (1) 保健医療福祉に関する知を科学的に迫及できる基礎的研究能力を養う
- (2) 保健医療福祉に関わる課題について地域性や個別性を考慮した分析能力を養う
- (3) 国際的な視点を持ち、研究成果を発信できる基礎的コミュニケーション力を養う
- (4) 保健医療福祉の課題に関わる社会現象や生体や行動に関するデータを分析・理論化し、活用する能力を養う
- (5) 保健医療福祉と看護を含むケアの課題を学際的な視点から、探求する思考力を養う
- (6) 看護に関わる現象を分析し、課題解決やエビデンス構築に向けて理論的に主体的に探究する能力を養う
- (7) 高い倫理観に基づき、関連する学問領域における知識や技術を高度な実践、看護管理や看護教育に適用する力を養う
- (8) 専門性の高い知識と技術に基づく看護ケアを提供するとともに、看護実践の質の向上を目指す改革を推進できる能力を養う

修士論文コースでは研究的取り組みを志向することを目的とし、先進ケア科学領域では看護師の資格保有の有無に関わらず、学祭的に探究する思考力を有する人材を育成している。(10 分野)

また、実践看護科学領域では看護師の資格取得者を対象に、主に看護に関わる事象を分析し、理論的に探究できる能力を有する人材を育成している。(15 分野)

また、実践看護研究コースでは、多様な側面から看護実践の質の向上を図ることに貢献できる専門看護師、看護教育者、看護管理実践者を養成することを目的としている。(11 分野)

博士後期課程は、豊かな学識を有し、看護学を含む保健医療福祉分野において学術的研究を推進し、その深奥を究め、高い倫理観を持ち、自立して研究活動を行い、看護学の知の創造に貢献できる能力を有する人材を育成することを目的とする。

- (1) 保健医療福祉の課題解決や看護学の発展に向けて、学際的に研究を推進できる能力を養う
- (2) 看護や関連領域の知識や高い倫理観に基づき、看護のエビデンスを実社会の中で、科学的に検証し、活用する方法を養う
- (3) 社会の変革に向けて、保健医療福祉、教育において新たな価値を創造し、施策などへ参画できる変

革者としてのリーダーシップを養う

(4) 研究成果をグローバルに発信できるコミュニケーション能力を養う

専門領域を先進ケア科学領域および実践看護科学領域とし、先進ケア科学領域には10分野、実践看護科学領域には4分野の多様で専門性の高い分野を配置している。

資料 5-1-2-2 看護学研究科 博士前期課程 標準履修課程表

科目 区分	授 業 科 目	修論コース						実践看護 研究コース		授業時間数			学年進行				
		先進ケア科学 領域		実践看護科学 領域			実践看護科学 領域		1年次				2年次				
		単位数		単位数			単位数		講義	演習	実習	前期	後期	前期	後期		
		必修	選択	必修	選択	自由	必修	選択									
大 学 院 共 通 教 育 科 目	研究公正A	1		1			1		大学院共通教育科目については、国際基 幹教育機構開設科目要覧(大学院生用) を参照								
	科学英語		2		2			2									
	Academic Writing		2		2			2									
	Academic Presentation		2		2			2									
	大学院キャリアデザイン演習		2		2			2									
	大学院キャリア形成論—学問・大学と社会		1		1			1									
	戦略的システム思考力演習1		2		2			2									
	戦略的システム思考力演習2		2		2			2									
	イノベーション創出型研究者養成		2		2			2									
	医療の品質管理A		2		2			2									
	グローバル経営特論		2		2			2									
	化学産業論		1		1			1									
	バイオデザイン		2		2			2									
	人権問題論		2		2			2									
	大学教育基礎演習		1		1			1									
専 門 科 目	実 践 看 護 科 学 共 通 科 目	理論看護学			2			2		30			○				
		看護学研究法			2			2		30			○				
		看護倫理学				2			2	30			○				
		看護政策学				1			1	15				○			
		コンサルテーション論				1			1	15				○			
		病態生理学				2			2	30				○			
		代謝病態生理学				2			2	30				○			
		がん病態学				2			2	30				○			
		臨床薬理学				2			2	30					○		
		臨床疾病治療論				2			2	30				○			
		フィジカルアセスメントA				2			2		60			○			
		フィジカルアセスメントB				2			2		60				○		
		データヘルス方法論A				1			1	15				○			
		データヘルス方法論B				1			1	15				○			
		生体感染防御論				2			2	30				○			
		異文化看護フィールドワークA				2			2		60				○		
		異文化看護フィールドワークB				1			1		30				○		
		腫瘍学Ⅰ 基盤講義：臨床腫瘍学概論							2	30				○			
		腫瘍学Ⅱ 横断講義：臨床腫瘍学各論							2	30					○		
		補完代替療法学				1			1	15				○			
		公共政策論				2			2	30				○			
		人材管理論				2			2	30				○			
		ヘルスケア経営論				2			2	30					○		
	先 進 ケ ア 科 学 共 通 科 目	ケア科学研究論	2							30			○				
		研究倫理(医学系研究倫理)	2							30			○				
		ケア科学英語論文作成法		2						30					○		
		ケアデータマネジメント		2						30				○			
		ケア組織マネジメント論		2						30					○		
		ケア科学研究方法論1(調査研究デザイン)		2						30				○			
		ケア科学研究方法論2(実験研究デザイン)		2						30				○			
		ケア科学研究方法論3(質的研究デザイン)		2						30				○			
		看護学基礎		2						30			○				
		看護学基礎演習		2							30				○		

科目 区分		授 業 科 目	修論コース						実践看護 研究コース		授業時間数			学年進行			
			先進ケア科学 領域		実践看護科学 領域			実践看護科学 領域		1年次				2年次			
			単位数		単位数			単位数		前期				後期	前期	後期	
			必修	選択	必修	選択	自由	必修	選択	講義	演習	実習	前期	後期	前期	後期	
専門 科目	実 践 科 学	基礎看護科学	看護技術学特論1			2					30			○			
			看護技術学特論2			2					30				○		
			看護技術学演習1			2						60		○			
			看護技術学演習2			2						60			○		
			看護情報学特論1			2					30			○			
			看護情報学特論2			2					30				○		
			看護情報学演習1			2						60		○			
			看護情報学演習2			2						60			○		
			看護管理学特論1			2			2	30			○				
			看護管理学特論2			2			2	30				○			
			看護管理学演習1			2			2		60		○				
			看護管理学演習2			2			2		60			○			
			マネジメント実践フィールドワーク						4			180			○	○	
			看護教育学特論1			2			2	30			○				
			看護教育学特論2			2			2	30				○			
			看護教育学演習1A			2					60		○				
			看護教育学演習1B						2		60		○				
			看護教育学演習2A			2					60			○			
			看護教育学演習2B						2		60			○			
			看護教育学実習1						2			90		○			
			看護教育学実習2						2			90			○		
		家族看護科学	母性看護学特論			2				30			○				
			母性看護学援助特論			2				30				○			
			母性看護学演習1			2					60		○				
			母性看護学演習2			2					60			○			
			家族看護学			2			2	30			○				
			家族看護学特論			2			2	30			○				
			家族看護学援助特論1			2			2	30				○			
			家族看護学援助特論2			2			2	30				○			
			家族看護学援助特論3			2			2	30				○			
			家族看護学演習1A			2					60		○				
			家族看護学演習1B						2		60		○				
			家族看護学演習2A			2					60			○			
			家族看護学演習2B						2		60			○			
			家族看護学実習1						2			90		○			
			家族看護学実習2						6			270			○	○	
			家族看護学実習3						2			90			○	○	
			小児看護学特論			2			2	30			○				
			小児看護学援助特論1			2			2	30			○				
			小児看護学援助特論2			2			2	30				○			
			小児看護学援助特論3			2			2	30					○		
			小児看護学援助特論4			2			2	30			○				
			小児看護学演習1A			2					60		○				
			小児看護学演習1B						2		60		○				
			小児看護学演習2A			2					60			○			
			小児看護学演習2B						2		60			○			
			小児看護学実習1						2			90		○			
			小児看護学実習2						3			135			○	○	
			小児看護学実習3						5			225			○	○	

科目区分			授 業 科 目	修論コース						実践看護研究コース		授業時間数			学年進行			
				先進ケア科学領域		実践看護科学領域			実践看護科学領域		1年次				2年次			
				単位数		単位数			単位数									
				必修	選択	必修	選択	自由	必修	選択	講義	演習	実習	前期	後期	前期	後期	
専門科目	実践看護科学	生活支援看護科学	地域看護学特論			2					30			○				
			地域看護学援助特論			2					30				○			
			地域看護学演習1			2						60		○				
			地域看護学演習2			2						60			○			
			精神看護学特論			2				2	30			○				
			精神看護学援助特論1			2				2	30			○				
			精神看護学援助特論2			2				2	30				○			
			精神看護学援助特論3			2				2	30				○			
			精神看護学援助特論4			2				2	30				○			
			精神看護学援助特論5			2				2	30				○			
			精神看護学援助特論6			2				2	30				○			
			精神看護学援助特論7			2				2	30				○			
			精神看護学演習1A			2						60		○				
			精神看護学演習1B							2		60		○				
			精神看護学演習2A			2						60			○			
			精神看護学演習2B							2		60			○			
			精神看護学実習1							2			90		○	○		
			精神看護学実習2							2			90		○	○		
			精神看護学実習3							2			90		○	○		
			精神看護学実習4							2			90		○	○		
			精神看護学実習5							2			90		○	○		
			老年看護学特論			2				2	30			○				
			老年看護学援助特論1			2				2	30			○				
			老年看護学援助特論2			2				2	30				○			
			老年看護学援助特論3			2				2	30				○			
			老年看護学演習1A			2						60		○				
			老年看護学演習1B							2		60		○				
			老年看護学演習2A			2						60			○			
			老年看護学演習2B							2		60			○			
			老年看護学実習1							2			90		○			
			老年看護学実習2							4			180			○	○	
			老年看護学実習3							4			180			○	○	
			在宅看護学特論			2				2	30			○				
			在宅看護学援助特論1			2				2	30			○				
			在宅看護学援助特論2			2				2	30				○			
			在宅看護学援助特論3			2				2	30				○			
			在宅看護学演習1A			2						60		○				
			在宅看護学演習1B							2		60		○				
			在宅看護学演習2A			2						60			○			
			在宅看護学演習2B							2		60			○			
			在宅看護学実習1							6			270			○	○	
			在宅看護学実習2							4			180			○	○	

科目 区分	授 業 科 目	修論コース					実践看護 研究コース		授業時間数			学年進行			
		先進ケア科学 領域		実践看護科学 領域			実践看護科学 領域					1年次		2年次	
		単位数		単位数			単位数					前期	後期	前期	後期
		必修	選択	必修	選択	自由	必修	選択	講義	演習	実習	前期	後期	前期	後期
専門科目	実践看護科学 療養支援看護科学	急性看護学特論			2			2	30			○			
		急性看護学援助特論1			2			2	30			○			
		急性看護学援助特論2			2			2	30				○		
		急性看護学演習1A			2					60		○			
		急性看護学演習1B						2		60		○			
		急性看護学演習2A			2					60			○		
		急性看護学演習2B						2		60			○		
		急性看護学実習1						6			270			○	○
		急性看護学実習2						4			180			○	○
		慢性看護学特論1			2			2	30			○			
		慢性看護学特論2			2			2	30			○			
		慢性看護学特論3			2			2	30			○			
		慢性看護学援助特論1			2			2	30				○		
		慢性看護学援助特論2			2			2	30				○		
		慢性看護学演習1A			2					60		○			
		慢性看護学演習1B						2		60		○			
		慢性看護学演習2A			2					60			○		
		慢性看護学演習2B						2		60			○		
		慢性看護学実習A1						2			90		○		
		慢性看護学実習A2						4			180			○	○
		慢性看護学実習B						2			90			○	○
		慢性看護学実習C						2			90			○	○
		がん看護学特論			2			2	30			○			
		がん看護学援助特論			2			2	30				○		
		がん緩和ケア論			2			2	30			○			
		がん薬物療法看護論			2			2	30				○		
		がん看護学演習1A			2					60		○			
		がん看護学演習1B						2		60		○			
		がん看護学演習2A			2					60			○		
		がん看護学演習2B						2		60			○		
		相談支援・コーディネート論			1			1	15					○	
		多職種による事例検討演習（CS演習）						1		30				○	
		SPを用いた意思決定支援演習（SP演習）						1		30		○			
		がん看護学実習A						2			90		○		
		がん看護学実習B						4			180			○	○
		がん看護学実習C						4			180			○	○
		感染看護学特論			2			2	30			○			
		感染看護学援助特論			2			2	30				○		
		感染看護疫学論			2			2	30				○		
		臨床感染看護論			2			2	30				○		
		感染看護学演習1A			2					60		○			
		感染看護学演習1B						2		60		○			
		感染看護学演習2A			2					60			○		
		感染看護学演習2B						2		60			○		
		感染看護学実習1						6			270			○	○
		感染看護学実習2						4			180			○	○
		実践看護科学特別研究			8					240				○	○
		実践看護科学課題研究					4			120				○	○

科目区分		授業科目	修論コース					実践看護研究コース		授業時間数			学年進行				
			先進ケア科学領域		実践看護科学領域			実践看護科学領域									
			単位数		単位数			単位数					1年次		2年次		
			必修	選択	必修	選択	自由	必修	選択	講義	演習	実習	前期	後期	前期	後期	
専門科目	助産師資格科目	基礎助産学															
		助産学概論				1			15			○					
		助産学特論A(周産期病態生理)				2			30			○					
		助産学特論B(リプロダクティブヘルス)				2			30				○				
		助産学特論C(大阪課題解決論)				1			15					○			
		助産診断・技術学															
		助産学演習A(妊娠)				2				60		○					
		助産学演習B(分娩)				3				90		○					
		助産学演習C(産褥・新生児・乳児)				2				60		○					
		助産学演習D(継続健康教育)				2				60			○	○			
		助産学演習E(ウィメンズヘルス)				1				30			○				
		地域母子保健															
		国際・地域母子保健				2			30						○		
		助産管理															
		助産管理学(災害含む)				2			30						○		
		助産学実習															
		周産期助産学実習				6					270		○				
		ハイリスク実習				1					45			○			
		継続助産学実習				2					90		○				
		地域助産学実習(集団教育)				2					90			○			
	先進ケア科学	ケアシステム科学	ヒューマンケアシステム研究特論		2					30			○				
			ヒューマンケアシステム研究演習1		2						60			○			
			ヒューマンケアシステム研究演習2		2						60				○		
			療養ケアシステム研究特論		2					30			○				
			療養ケアシステム研究演習1		2						60			○			
			療養ケアシステム研究演習2		2						60				○		
			子ども・家族ケア研究特論		2					30			○				
			子ども・家族ケア研究演習1		2						60			○			
子ども・家族ケア研究演習2				2						60				○			
地域包括ケアシステム研究特論				2					30			○					
生態行動ケア科学		地域包括ケアシステム研究演習1		2						60			○				
		地域包括ケアシステム研究演習2		2						60				○			
		ヘルスプロモーションケア研究特論		2					30			○					
		ヘルスプロモーションケア研究演習1		2						60			○				
		ヘルスプロモーションケア研究演習2		2						60				○			
		がん包括ケア研究特論		2					30			○					
		がん包括ケア研究演習1		2						60			○				
		がん包括ケア研究演習2		2						60				○			
		高齢者生活行動ケア研究特論		2					30			○					
		高齢者生活行動ケア研究演習1		2						60			○				
高齢者生活行動ケア研究演習2		2						60				○					
健康支援基礎科学	ウィメンズヘルスケア研究特論		2					30			○						
	ウィメンズヘルスケア研究演習1		2						60			○					
	ウィメンズヘルスケア研究演習2		2						60				○				
	精神行動ケア研究特論		2					30			○						
	精神行動ケア研究演習1		2						60			○					
	精神行動ケア研究演習2		2						60				○				
	健康支援基礎科学特論		2					30			○						
	健康支援基礎科学研究演習1		2						60			○					
	健康支援基礎科学研究演習2		2						60				○				
	先進ケア科学特別研究1		4						120		○	○					
先進ケア科学特別研究2		4						120				○	○				

資料 5-1-2-3 看護学研究科 博士後期課程 標準履修課程表

区分	領域	授 業 科 目	単位数			授業時間数		1 年次		2 年次		3 年次	
			必修	選択	自由	講義	演習	前期	後期	前期	後期	前期	後期
大学院 共通教育科目		研究公正B	1			大学院共通教育科目については、国際基幹教育 機構開設科目要覧(大学院生用)を参照							
		イノベーション創出型研究者養成1			2								
		イノベーション創出型研究者養成2A			1								
		イノベーション創出型研究者養成2B			1								
		イノベーション創出型研究者養成2C			1								
		イノベーション創出型研究者養成2D			1								
		イノベーション創出型研究者養成2E			1								
		イノベーション創出型研究者養成2F			1								
		イノベーション創出型研究者養成2G			1								
		イノベーション創出型研究者養成2H			1								
		イノベーション創出型研究者養成3			2								
		イノベーション創出型研究者養成4			2								
		医療の品質管理B			2								
		大学教育実践演習			1								
専 門 科 目	専 門 基 礎 科 目	ケア科学研究総論		1		15		○		○			
		生体行動評価論		1		15		○		○			
		ケアシステム開発論		1		15		○		○			
		看護学研究方法論		1		15		○					
		看護学研究方法論演習		1			30		○				
		看護理論開発方法論		1		15			○				
	実 践 看 護 科 学 科 目	基礎看護科学特講		2		30		○					
		基礎看護科学演習		2			60		○				
		家族支援看護科学特講		2		30		○					
		家族支援看護科学演習		2			60		○				
		生活支援看護科学特講		2		30		○					
		生活支援看護科学演習		2			60		○				
		療養支援看護科学特講		2		30		○					
		療養支援看護科学演習		2			60		○				
	先 進 ケ ア 科 学 科 目	ヒューマンケア研究特講		2		30		○					
		ヒューマンケア後期研究演習		2			60		○				
		がん包括ケア特講		2		30		○					
		がん包括ケア後期研究演習		2			60		○				
		療養ケア研究特講		2		30		○					
		療養ケア後期研究演習		2			60		○				
		高齢者生活行動ケア研究特講		2		30		○					
		高齢者生活行動ケア後期研究演習		2			60		○				
		精神行動ケア研究特講		2		30		○					
		精神行動ケア後期研究演習		2			60		○				
		地域包括ケアシステム研究特講		2		30		○					
		地域包括ケアシステム後期研究演習		2			60		○				
		ウィメンズヘルスケア研究特講		2		30		○					
		ウィメンズヘルスケア後期研究演習		2			60		○				
		子ども・家族ケア研究特講		2		30		○					
		子ども・家族ケア後期研究演習		2			60		○				
		ヘルスプロモーションケア研究特講		2		30		○					
		ヘルスプロモーションケア後期研究演習		2			60		○				
	共 通 科 目	特別研究1	2				60	○	○				
		特別研究2	2				60			○	○		
		特別研究3	4				120					○	○

2. 教育課程の編成・授業科目の内容

1) 学士課程

授業科目は、基幹教育科目、専門科目、資格科目および副専攻科目に区分されている。基幹教育科目は主に 1 年次・2 年次において学び、多くの専門科目は 2 年次以降に学ぶ。

また、全学部・学域に共通した基幹教育科目は総合教養科目、初年次教育科目、情報リテラシー科目、外国語科目、健康・スポーツ科学科目、基礎教育科目に分かれている。

科目区分および開設部局（特例科目を除く）

科目区分			開設部局
基幹教育科目	総合教養科目		国際基幹教育機構
	初年次教育科目		
	情報リテラシー科目		
	外国語科目	英語	
		初修外国語	
	健康・スポーツ科学科目		
基礎教育科目			
専門科目			各学部・学域
資格科目		教職科目	国際基幹教育機構
副専攻科目			各学部・学域 国際基幹教育機構

教育の目的に応じた成績評価基準は、大阪公立大学履修規程に示されている。（<https://srb08f9d7f3.legal-square.com/HAS-Shohin/jsp/SVDocumentView>）各科目の成績評価基準は、学生要覧の授業科目概要に記載している。授業科目及び臨地実習の成績評価及び単位認定は、各科目の単位認定者が基準に従って実施している。成績評価に関する学生からの異議申し立ては、学生個人から学生グループ教務担当または当該科目担当教員に、口頭もしくは書面で行われている。卒業要件は、大阪公立大学看護学部規程に則り（規程第 179 号第 7 条）、卒業要件は 129 単位としている。

資料 5-2-1 卒業資格（卒業要件）

科目区分／学科	看護学科	
総合教養科目	8 単位	他 10 単位を選択
初年次教育科目	2 単位	
情報リテラシー科目	2 単位	
外国語科目	8 単位	
健康・スポーツ科学科目	3 単位	
小計	33 単位以上	
専門科目	96 単位以上	
合計	129 単位以上	

2) 大学院課程

全研究科を対象とする「大学院共通教育科目」があり、大学院共通教育科目では、全ての大学院生に対して、研究に関する倫理的基盤を培うことを目的に、博士前期課程では「研究公正 A」が、博士後期課程では「研究公正 B」が開設されている。それら科目は各研究科・専攻の教育方針に基づき原則として必修科目となっている。その他、社会や科学技術の変化の本質を見抜く洞察力、社会的課題に積極的にコミットする姿勢の涵養を目指す科目が開設されている。

また、研究科・専攻によって「専門科目」および「研究指導科目」が開設されており、それら科目の設定単位数については、大学院設置基準に示されている時間の範囲内で定められている。また、講義、演習、実験、実習または実技のうち2以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせと割合に応じて、先に設定した時間に基づき単位数を定めている。

○科目区分および開設部局

科目区分	開設部局
大学院共通教育科目	国際基幹教育機構
専門科目	各研究科
研究指導科目	

また、既修得単位の認定（再入学の場合を除く）について、本学大学院に入学する前に大学院（外国の大学院を含む）において科目を履修し修得した単位については、研究科の履修課程に照らして有益と認められる場合に限り、合計15単位を超えない範囲で本学において修得したものとして認定されることがある。該当者は、入学前までに看護学研究科教務事務担当へ申し出を行う。

教育上有益であると認められたときには、他の大学院等における授業科目の履修、研究指導の一部を受けることおよび外国の大学院への留学を認められることがある。

その際に、他の大学院（外国の大学院を含む）との協議等に基づき、本研究科会議の承認を得て、当該大学院の科目を履修し単位を修得した場合は、15単位まで修了に必要な単位として認められることがある。

なお、入学前の既修得単位制度により修得した単位数と合わせて20単位を超えることはできない。

研究指導は、博士前期課程、博士後期課程ともに複数指導教員体制のもとで行い、主指導教員はテーマの選定及び研究方法の検討から論文作成までのすべてのプロセスを直接指導している。副指導教員は主指導教員と緊密な連携を取りつつ、指導に当たっている。論文審査のプロセスとして、博士前期課程では、研究テーマ及び研究計画書を事前審査実施後に研究科委員会で審議し、研究倫理審査委員会の審査を経て、再度、研究科委員会で最終承認する。論文審査は看護学研究科委員会において選任された主査1名及び副査2名で行う。主査は主研究指導教員以外の教授が務め、副査は研究課題に精通した教員が努める。

また、修士論文及び課題研究の審査は、論文審査（口頭試問）によって行い、審査終了後、引き続き最終試験を行う。最終試験は、修士論文審査を担当した審査委員会で個別に行う。最終試験では、博士前期課程で修得した知識、思考能力などを含め総合的に口頭試問を行う。実施時間は1時間程度を目安とし、このうち15分程度を申請者の発表時間としている。

博士後期課程では、研究テーマ及び研究計画書を研究科委員会で審査し、提出された研究計画看護学研究科委員会で主査、副査を選任し、研究計画書の事前審査を行う。看護学研究科委員会で研究計画書の事前審査結果の報告についての審議を行う。

合格した学生は、研究倫理審査委員会に本研究（複数実施する場合は最初の研究）の研究倫理審査申請書、添付資料及び研究計画書を提出し審査を受ける。研究倫理審査の申請に際し主研究指導教員と副研究指導教員は、研究における倫理的配慮について指導を行う。必要に応じて、調査施設の研究倫理審査を受審する。学生は研究倫理審査の承認を得て研究を開始する。各審査基準は下記のとおりである。

学位論文審査基準

<修士論文コース>

【満たすべき水準】

修士論文は、ディプロマ・ポリシーに基づき、保健医療福祉に関わる基礎的な研究方法や態度を修得し、看護に関わるエビデンスの構築に関わる研究者、専門的職業人として役割を果たし得る能力と幅広い学識を有することを証示するに足るものであることをもって、その水準とする。

【評価項目】

- ◆ 看護専門分野への応用可能性が認められる。
- ◆ 研究成果に発展可能性が認められる。
- ◆ 研究目的を達成するために適切な研究方法が用いられており、分析結果に妥当性がある。
- ◆ 研究計画、研究実施に際して十分な倫理的配慮がなされている。
- ◆ 論文の構成が適切で、一貫性がある。

<実践看護研究コース>

【満たすべき水準】

課題研究はディプロマ・ポリシーに基づき、保健医療福祉に関わる基礎的な研究方法や態度を修得し、看護に関わるエビデンスの構築に関わる高度実践、教育、看護管理における専門的職業人として役割を果たし得る高度な実践的能力と幅広い学識を有することを証示するに足るものであることをもって、その水準とする。

【評価項目】

- ◆ 看護実践に関わる重要な研究である。
- ◆ 研究成果に有用性が認められる。
- ◆ 研究目的を達成するために適切な研究方法が用いられており、分析結果に妥当性がある。
- ◆ 研究計画、研究実施に際して十分な倫理的配慮がなされている。
- ◆ 論文の構成が適切で、一貫性がある。

博士論文評価基準

【満たすべき水準】

博士論文は博士後期課程のディプロマ・ポリシーに基づき、看護学領域において研究者として自立して研究活動を行える高度な研究能力およびその基礎となる豊かな学識、倫理的態度を証示するに足るものであって、かつ社会実装化することを視野に入れ、看護に関わる新たな知見を創出するものであることをもって、その基準とする。

【評価項目】

- ◆ 看護学への貢献・学術的重要性が認められる。
- ◆ 研究に独創性があり、新規性のある成果が認められる。
- ◆ 科学的根拠に基づく適切な研究方法が用いられ、分析結果が妥当である。
- ◆ 研究計画、研究実施に際して十分な倫理的配慮がなされている。
- ◆ 論旨が明確で、論理構成が適切である。

修了要件及び成績評価基準は、大阪公立大学大学院看護学研究科規程（規程第 195 号、第 8 条）に則り、成績評価及び単位認定は、各科目の単位認定者が基準に従って実施し、修了認定は、研究科委員会の議を経て学長が行っている。成績評価に関する学生からの異議申し立てがある場合、学生個人から当該科目担当教員または学務課大学院教務担当に、口頭もしくは書面で行う制度がある。

3. 教育内容と目標・評価方法

1) 学士課程

各科目担当者は DP と CP を考慮して授業内容を構成している。本学では大学設置基準等に基づき、履修規定第 9 条（成績評価基準等の明示）において、「授業の方法並びに 1 年間の計画は、学生に対してあらかじめ明示する」ことが定められており、その方法の一つとしてシラバスを利用している。本学のシラバスは、授業概要、到達目標、各回の授業内容、各回の事前・事後の学習内容、成績評価方法、履修上の注意、教科書、参考文献、オフィスアワー、教員への連絡方法で構成されている。各科目に対応している DP を記載する箇所がないため、今後、検討を要する。各科目担当者が作成したシラバスは、必須記載項目の入力状況は、部局教務担当が全科目を確認し、新規科目については、「大阪公立大学シラバス作成要領」に基づく内容確認も実施している。部局教務担当は、未入力項目の督促、修正対象となったシラバスの授業担当教員宛て修正依頼を发出する。授業担当教員は修正依頼に基づいてシラバスの内容を修正し、その後シラバス情報が公開される（UNIPA および大阪公立大学のホームページ）。新規科目以外の科目の「大阪公立大学シラバス作成要領」に基づく内容確認は、部局教務担当が当該年度の 5 月～6 月に実施し、授業担当教員は修正依頼に基づき、シラバスの内容を修正している。

成績評価の方法は、シラバスで授業科目ごとに示しており、各授業担当教員によって評価されることが看護学部要覧に明記されている。また、各科目の初回授業時に科目担当者より学生に周知している。成績評価は、AA（授業目標を大きく上回って達成できている／100 点以下 90 点以上）、A（授業目標を上回って達成できている／90 点未満 80 点以上）、B（授業目標を達成できている／80 点未満 70 点以上）、C（最低限の授業目標を達成できている／70 点未満 60 点以上）、F（最低限の授業目標を達成できていない／60 点未満）の 5 段階で評価している。成績評価の手段および成績評価に占める割合についてはシラバスに明記されている。評価のフィードバックとしては、学生は、成績を学生ポータル（UNIPA）で確認することができる。成績評価の異議申し立てについては、①成績の誤記入等、担当教員の誤りであると思われるもの、②シラバス等により周知している成績評価の方法に照らして、評価結果等について疑義があるものについては、学生ポータル（UNIPA）に掲載された申立期間内に各科目の開設部局（看護学部教務事務担当）へ申し立てることができる。

課題については、シラバスに専門関連科目と専門科目の関連や、DP との関連などを記載する等シラバスの記載内容の検討が必要であり、各科目がどの DP に対応しているかを記載する看護学部の独自のシラバスの記載方法を検討すること、その他、シラバスに掲載する情報が不足しているため、項目を検討することが必要である。また、成績評価基準が不明確な科目については早急に明確化する必要がある。成績評価基準や GP 分析の活

用の仕組みづくりや運用方法の整理、成績評価や単位認定等の教員間での情報共有、授業評価にピア評価・授業参観を取り入れるなど、今後、検討が必要である。

2) 大学院課程

各科目担当者はDPとCPを考慮して授業内容を構成している。本学では大学設置基準等に基づき、履修規定第9条(成績評価基準等の明示)において、「授業の方法並びに1年間の計画は、学生に対してあらかじめ明示する」ことが定められており、その方法の一つとしてシラバスを利用している。本学のシラバスは、授業概要、到達目標、各回の授業内容、各回の事前・事後の学習内容、成績評価方法、履修上の注意、教科書、参考文献、オフィスアワー、教員への連絡方法で構成されている。各科目担当者が作成したシラバスは、必須記載項目の入力状況は、部局教務担当が全科目を確認し、新規科目については、「大阪公立大学シラバス作成要領」に基づく内容確認も実施している。部局教務担当は、未入力項目の督促、修正対象となったシラバスの授業担当教員宛て修正依頼を発出する。授業担当教員は修正依頼に基づいてシラバスの内容を修正し、その後シラバス情報が公開される(UNIPAおよび大阪公立大学のホームページ)。新規科目以外の科目の「大阪公立大学シラバス作成要領」に基づく内容確認は、部局教務担当が当該年度の5月～6月に実施し、授業担当教員は修正依頼に基づき、シラバスの内容を修正している。

成績評価の方法は、シラバスで授業科目ごとに示しており、各授業担当教員によって評価されることが看護学研究科要覧に明記されている。また、各科目の初回授業時に科目担当者より学生に周知している。成績評価は、AA(授業目標を大きく上回って達成できている/100点以下90点以上)、A(授業目標を上回って達成できている/90点未満80点以上)、B(授業目標を達成できている/80点未満70点以上)、C(最低限の授業目標を達成できている/70点未満60点以上)、F(最低限の授業目標を達成できていない/60点未満)の5段階で評価している。成績評価の手段および成績評価に占める割合についてはシラバスに明記されている。評価のフィードバックとしては、学生は、成績を学生ポータル(UNIPA)で確認することができる。

博士前期課程、博士後期課程では、大阪公立大学学位規程に基づき、大阪公立大学大学院看護学研究科学位論文審査実施要領を設け、学位論文の審査実施細則を定めている。

博士前期課程では、各科目の成績評価以外に、研究計画書審査、学位論文審査がある。論文評価の基準、および、満たすべき水準を定めている。研究計画書審査では、研究計画書の評価基準に沿って、主研究指導教員及び副研究指導教員による事前審査を実施した後、研究科委員会において審議を行う。学位論文審査では、看護学研究科委員会において選任された論文審査委員会(主査1名及び副査2名で構成する)により、学位論文審査基準に沿って、論文審査(口頭試問)を行う。審査終了後、最終試験を行い、博士前期課程で修得した知識、思考能力などを含め総合的に口頭試問を行う。

博士後期課程では、各科目の成績評価以外に、研究計画書審査、学位論文審査がある。論文評価の基準、及び、満たすべき水準を定めている。研究計画書審査は、まず、研究科委員会が指名する主査1名及び副査2名以上で研究計画書の審査基準に沿って事前審査を行う。その後、研究科委員会において審議を行う。学位論文審査では、看護学研究科委員会において指名された教授3名以上を論文審査委員とし、主査1名と副査2名以上で論文審査(口頭試問)を行う。審査終了後、最終試験を行い、博士後期課程で修得した学識などを含め総合的に口頭試問を行う。

成績評価の異議申し立てについては、①成績の誤記入等、担当教員の誤りであると思われるもの、②シラバス等により周知している成績評価の方法に照らして、評価結果等について疑義があるものについては、学生ポータル(UNIPA)に掲載された申立期間内に各科目の開設部局(看護学研究科教務事務担当)へ申し立てることができる。

4. その他（教育に関するプロジェクト活動）

1) 阪神5大学サステナブルがん人材養成プラン —5大学9学部連携組織—

阪神5大学サステナブルがん人材養成プランは、2023（令和5）年7月に研究拠点形成費等補助金「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」として採択された。本プランは近畿圏の国公立5大学（近畿大学・大阪公立大学・神戸大学・関西医科大学・兵庫医科大学）の医学・看護学・理工学・情報学の大学院研究科が相互連携して取り組んでいる。本プランの目的は、がん予防やがん治療の高度化、進歩にサステナブルに対応できるがん専門医療人を養成することである。

本学看護学研究科がん看護学分野では、がんとの共生を支えるがん看護専門看護師の養成に取り組んでいる。2024年度から正規課程「がんとの共生を支えるがん看護専門看護師教育プログラム」として、がんサバイバーががんとの共生する上で直面する課題に対して、高度な看護実践を提供し、がん医療やがん看護の質の向上に貢献できる人材の養成に取り組んでいる。本プログラムでは、教育方法の検討、工夫を繰り返し、教育内容の維持に努め、他大学・他施設との連携によって、コース目標に沿った内容を教授している。また、がん看護やそのほかの分野の専門看護師資格取得後10年以下の専門看護師を対象に、がんとの共生を支える専門看護師強化プログラムとして「持続的かつシームレスなケアの実現に向けた能力向上プログラム」、「地域共生社会の実現に向けたがんサバイバー相談システム構築支援プログラム」の2種類のインテンシブコースを実施しており、2024年度はのべ6名が修了した。

その他、地域で活動しているがん医療に携わる医療者の多職種連携やスキルアップを目指し、2023年度には「がん患者と家族ががんとともによりよく生きることを支えるための相談支援の充実・発展」をテーマとした多職種連携シンポジウムを2024年3月に開催し、67名の参加があった。2024年度（2024年10月）には「がんとの共生を支えるアピアランスケア」をテーマとしたがん看護講演会を開催し、70名の参加があった。

2) 大阪公立大学 内部質保証に関するスタートアップ支援事業

看護実践能力の担保を目指すOSCEの試験的運用とその評価 2023～2024年度

5. 臨地実習

1. 学士課程

1) 本学の看護学実習の目的・目標

臨地実習における総合目的は、さまざまな健康レベル・健康障害にある人々に対して、既習の知識・技術・態度を実際の場面に適用し、理解と実践を統合して看護活動が展開できる能力を養うこととしている。したがって、このような能力を養うために、以下を実習目標とする。

- 1) 看護の対象を個人・家族・集団から多角的にとらえ、生活者として全人的に理解する能力を養う。
- 2) ライフサイクル各期の対象に応じた看護を提供するために、看護に必要な知識・技術を修得するとともに、科学的根拠に基づく適切な判断力および課題解決能力を養う。多様な援助場面において、対象の個別性に応じた計画的な看護を実践できる基礎的能力を養う。
- 3) 対象との人間関係を通して生命の尊厳を理解するとともに、人々の権利を尊重し倫理観をもって行動する能力を養う。
- 4) 保健・医療・福祉・教育・地域など多様なフィールドにおける看護の機能と役割を理解し、多職種と協働してケアをつなぐ力を養う。

臨地実習委員会において、全体の実習運営を行っている。委員会目的は 臨地実習の教育方針及び教育課程に関すること、臨地実習の運営に関すること、臨地実習の指導体制の整備に関すること、臨地実習に関する規定の制定及び改廃に関すること、その他臨地実習の実施及び運営に関し必要なことについて審議することである。

2) 看護学実習の構成と現状

本学の看護学実習については、実践看護科学コースと先進ケア看護科学コースの2コースで構成されている。実習の進捗については、各年次で段階をもって実習展開している。1年次は、定員160名の実習を13か所の実習施設で実施し、2年次以降は、コース別の実習構成により、実践看護科学コース110名と先進ケア看護科学コース50名の実習を127か所の実習施設で実施している。

以下の表に構成を示す。運営については、臨地実習委員会より分野別実習オリエンテーションの開催と実習進捗表・学生配置表の調整及び作成をして、科目ごとの実習要項を用いて実施している。ポストコロナ禍の時期のため感染予防を行い、すべての実習科目の臨地実習を実施することができている。

実践看護科学コースの実習の段階と実習科目

実習の段階	実習科目
第一段階（1年次） 1年次における実習は、看護の対象となる人と、その人をめぐる環境への理解を深め、医療・保健・介護・福祉施設の見学を通して看護の実際を体験的に学び、看護の果たす機能と役割を理解し、看護を学ぶ動機となる実習を配置している。	「早期体験実習」
第二段階（2年次） 2年次における実習は、病院に入院する患者を受け持ち、対象者との対人関係を築きながら、対象を総合的に理解し、日常生活の援助を中心に看護過程を段階的に進めていくことを通して、看護実践の基礎的能力を養う実習を配置している。	「基礎看護学実習」
第三段階（3年次後期から4年次前期） 3年次における実習は、看護を必要とする様々なライフサイクルにある対象、様々な健康レベルにある対象、様々な生活の場における対象などの状況にあわせた看護実践の基礎的能力を養うために看護専門分野別の実習を配置している。	「急性看護学実習」 「慢性看護学実習」 「老年看護学実習」 「精神看護学実習」 「在宅看護学実習」 「地域看護学実習」 「母性看護学実習」 「小児看護学実習」
第四段階（4年次前期） 4年次における実習は、これまでに学んだ専門領域での実習を踏まえ、実務に即した実習を行うことで看護技術の総合的な評価を行う内容とする。加えてチーム医療及び他職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解する内容を学ぶ。関心のある看護専門分野において、保健、医療、福祉、教育、地域におけるヒューマンサービスを提供する人々との連携を通じて、看護をマネジメントできる基礎的能力を養うための実習を配置している。	「総合実習」

先進ケア科学コースの実習の段階と実習科目

実習の段階	実習科目
第一段階（1年次） 1年次における実習は、看護の対象となる人と、その人をめぐる環境への理解を深め、医療・保健・介護・福祉施設の見学を通して看護の実際を体験的に学び、看護の果たす機能と役割を理解し、看護を学ぶ動機となる実習を配置している。	「早期体験実習」
第二段階（2年次） 2年次における実習は、病院に入院する患者や地域で生活する対象者と関わり、対象理解の基本的な方法やケアの基盤を学ぶ実習を配置している。	「生活行動ケア基本実習」 「高齢者ウェルネス実習」
第三段階（3年次） 3年次における実習は、看護を必要とする様々なライフサイクルにある人の多様な健康上の課題に応じた支援の方法について、生体行動ケア科学やケアシステム科学の視点から対応する演習科目と組み合わせながら実践知を習得できるよう、専門領域別の実習を配置している。	「臨床療養支援看護学実習」 「臨床健康危機看護学実習」 「精神行動看護学実習」 「高齢者ケアシステム実習」 「ウィメンズヘルスケア実習」 「子ども・家族看護過程実習」
第四段階（4年次） 4年次における実習は、これまでに学んだ知見を活用・応用して看護の展開ができるよう、3年次までの基礎的な実習を基盤にした発展的な実習を配置している。	「生活行動ケア応用実習」 「訪問看護過程実習」 「地域包括ケア実習」 「ケアシステム科学実習」

3) 看護学実習を円滑にすすめるための体制

臨地実習教授等の制度

- (1) 指導体制として、大学の教員と実習施設等の実習指導者が連携して学生の実習を指導する。大学教員は、当該実習の目的や目標、内容等を熟知し、学生の準備状況を把握して指導している。実習施設は数多くの大学や学年の異なる実習生を受け入れているため、実習指導者は各々の実習目的や目標を理解し、学生のレベルや実習目標に応じた指導を行う役割を担い、指導している。両者は連携し協力体制をとって、臨地実習指導を行っている。
- (2) 大学と実習施設の臨地実習に関する責任者は、指導体制の確立に向けた会議の開催や連携促進を目指した研

修等を実施するとともに、両者の連携・調整を図る仕組みを整え、各コース、実習科目ごとに調整会議を開催し、本学のカリキュラムと実習展開についての具体的な指導体制の調整等を行っている。

- (3) 臨地実習教授等の制度に基づき施設と調整の上、教員とともに指導にあたる体制をとり、連携して実習を進めている。

4) 看護学実習における安全対策・事故防止

- (1) 免疫獲得状況と感染の有無を把握するために、実習施設から求められる検査を行い、検査結果は、学生と大学の担当部署が保管し、実習施設の求めに応じて検査結果を提示するように年間 4-5 回の自己管理指導を行っている。
- (2) 季節性インフルエンザについては、実習を行う学生及び指導教員は 11 月ごろを目途にワクチン接種を終え、学生にワクチン接種報告書を自己管理するように指導している。
- (3) 大学における事故発生時の対応マニュアルの整備と対応については、大学は事故発生時の対応を臨地実習要項に明示して、周知し、事故発生時には、迅速に対応している。

5) 実習中の倫理的配慮

- (1) 臨地実習の開始に当たっては、患者等に十分な説明を行い、文書による同意を得る必要がある。やむを得ず、口頭で同意を得た場合には、その内容を記録として残している。
- (2) 患者あるいは施設利用者に対するケアの責任は実習施設にあることから、大学は病院あるいは施設と臨地実習の委託契約を締結し、実施している。また、実習施設において、受け持ちをすることと個人情報保護を遵守することなどの同意書を作成し、患者等と取り交わし、倫理的配慮を行っている。説明、同意に関する文書には、患者等には拒否できること、同意した後であっても拒否することが可能であること、拒否によって診療及び看護上の不利益を被ることはないことを明示している。
- (3) 個人情報の保護については、学生には、1 年次、2 年次、3 年次の 3 回、実習前オリエンテーションで指導し、教員に対しても研修会を実施している。

6) 実習の評価

実習評価は、学生の実習目標の到達度、実習態度、実習参加、課題やレポート等を評価対象として、実習指導者や実習補助者の意見等を踏まえ、総合的に単位認定教員が評価し、評価結果について、個々の学生にフィードバックを実施している。

実習科目の単位認定要件は、実習科目ごとに定めた評価基準を満たしていること、各科目の実習日数の 5 分の 4 以上出席していることとし、実習の評価・単位認定方法は、各実習科目の実習目的・実習目標に基づき作成された実習評価・基準を使用して評価を行っている。

2. 大学院課程

看護学研究科の実践看護科学コースにおいては、実習科目を有する分野があり、以下の内容からなる全分野共通の実習要項を作成し、実習を行っている。

- ・実習における学生の健康管理と感染予防対策
- ・実習中の安全管理
- ・実習中の事故に関する賠償責任保険加入と補償内容
- ・個人情報（診療情報含む）の取り扱い

- ・ 臨地実習事故報告書（発生直後／終結後）
- ・ 臨地実習感染報告書
- ・ 臨地実習中の倫理的配慮

大学院課程では、助産師資格取得プログラム及び保健師資格取得プログラム、実践看護研究コース（専門看護師、看護教育者、看護管理実践者）において実習があり、資格要件に資する内容を分野ごとに科目を設定し展開している。

実習目標・実習内容、及び評価内容を学生に明示し、実習施設と調整の上、実施できるように整備、実施している。

参考資料 看護学部臨地実習ガイドライン（看護学研究科含む）

<https://lms.omu.ac.jp/course/section.php?id=1588557>

第6章 学生支援

1. 学習支援

1) 学士課程

看護学部では、「基幹教育科目」、「専門科目」、「資格科目」、「副専攻科目」に属する科目群を有機的に連携させて学習効果を上げることを目指した授業科目概要を作成している。授業科目概要の構成は、担当者や配当年次、開講時期などの基本的な情報と、授業目標、授業の概要、準備学習・試験・成績評価等の項目からなり、これらの定型化された書式に従って各教員が作成している。学習支援として、入学時及び前年度末には履修ガイダンスを行い、成績評価や試験、卒業要件等を記載した看護学部要覧を学生全員に配布し履修指導を行っている。

さらに、学生が学習相談のために来室あるいはメールによる質問・相談ができるよう、シラバスには、授業科目毎に、教員のオフィスアワー及びメールアドレスを記載している。

学生の自主的学習を支援する環境は、阿倍野医学図書館、LL 情報処理演習室、羽曳野図書センター、情報科学演習室・視聴覚室、自習室・ラーニングコモンズ等の施設を整備している。阿倍野医学図書館の開館時間は平日 9 時 00 分～21 時、土曜日 10 時 00 分～19 時、羽曳野図書センターの開館時間は、平日 8 時 30 分～21 時（授業のない日は 9 時～19 時）、土曜日 10 時 30 分～19 時となっている。さらに、医学系の書籍が豊富にあり、他大学図書館との相互利用サービス、データベース・サービス等も充実している。看護技術習得のために、学内での各専門分野に応じた実習室を整備している。

学生相談を含む学生生活全般への支援は、1～3 年次生 15～18 名に 1～3 名の教員（総グループ数 22）、先進ケア科学コースの 3～4 年次生および実践看護科学コース 4 年次生にはそれぞれ研究指導を担当する教員が、アドバイザーとして履修上・生活上の問題について継続的に支援を行うアドバイザー制度がある。アドバイザーは、学生の進路、履修指導、課外活動・個人の悩みなど各種相談や支援を行っている。

全学の課外活動団体は、体育会所属 68 団体、文化系委員会所属 58 団体、音楽系委員会所属 16 団体、その他（体育会、文化系委員会、音楽系委員会に所属していない公認団体）63 団体、登録団体（活動実績が少なく公認団体に昇格するに至らない団体や公認団体として活動を希望しない団体）56 団体の合計 261 の公認団体が活動している。学内団体・サークルは、教員が必ず顧問として関わるほか、教授会がサークルの新規申請を承認する前に、学生委員会で活動内容の妥当性について検討している。学内で施設を利用する場合は所定の書式で申請することにより、ほぼ全面的な施設利用が認められている。学外の課外活動関係施設として I-site なんばの会議室や OMU リビングラボを利用できる。また、学生会館事務室（中百舌鳥キャンパス）では、大学祭等の催しやクラブやサークル活動など学内外で健全なレクリエーションの普及のため物品の貸出も行っている。

資料 6-1-1 看護学部の課外活動団体

年度	キャンパス	体育会	文化系	音楽系	その他	登録団体
2024 年度	阿倍野	0	1	0	0	0
	羽曳野	4	0	1	2	1
2023 年度	阿倍野	0	1	0	0	0
	羽曳野	5	1	1	2	1
2022 年度	阿倍野	0	1	0	0	0
	羽曳野	5	3	2	3	1

2) 大学院課程

看護学研究科では「大学院共通教育科目」と「専門科目」に属する科目群を有機的に連携させて学習効果をあげることを目指した授業科目概要を作成している。授業科目概要の構成は、担当者や配当年次、開講時期などの基本的な情報と、授業目標、授業の概要、試験・成績評価等の項目からなり、これらの定型化された書式に従って各教員が作成している。学習支援として、入学時及び年度当初には履修ガイダンスを行い、成績評価基準、修了認定基準、授業科目概要等を記載した看護学研究科要覧を学生全員に配布し、履修指導を行っている。さらに、学生が学習相談のために来室あるいはメールによる質問・相談ができるよう、授業科目概要には、授業科目毎に、教員のオフィスアワー及びメールアドレスを記載している。

学生の自主的学習を支援する環境は、阿倍野医学図書館、LL 情報処理演習室・視聴覚室、のほか、看護学研究科大学院自習室を設置し整備している。

博士前期課程の学生に対しては、学生が順調に修学に取り組めるように「学生アドバイザー制度」を設け、指導教員が学生の修学上の不安や悩みについて相談できるようにしている。なお、大学には「なんでも相談窓口」を設け、修学上の不安や悩みに限らず、どのような相談にも対応している。

3) 看護実習室（講義室、演習室）

配置状況

領域・分野名	実習室名	設備
基礎看護科学	C601 基礎実習室	・ベッド数（オーバーテーブル、床頭台セット）29 床設置 ・演習用洗髪台、6 か所設置 ・デジタルマルチスイッチャー、カメラ設置 複数の映像・音声を切り替えたり、それらを組み合わせたりして一つの画面に表示する機能を持つ機器、教員のデモンストレーションをモニターで見ることが可能。 ・モニター4 台設置
ヒューマンケア科学	C601 または B601 羽曳野キャンパスの K301	ベッド 18～21 台、リネン類ベッド数の 3 倍、排泄ケアに関連する排泄備品・おむつ、足浴や清拭に使用する備品、車椅子、洗髪台、洗髪車など
精神看護学	・ B601、B603、B701、B704、B707、B708 (老年、在宅、地域と合同) ・ C1204（観察室）大学院生	・ B704 実習用物品だけ保管（実習用プリンター、感染対策等実習用消耗品保管、リラクゼーション演習用タオル） おもに物品管理担当は B704 の保管庫のみ ・ C1204（観察室）おもに大学院生の演習で使用。実習期間のうち数日は、学部生も使用。ホワイトボード 1 台、電子黒板 1 台、長机 4 台、椅子 12 脚
精神行動ケア科学	・ 現在管理を担当している実習室 B 棟 7 階の 4 室（関連 8 分野共同） ・ 旧実習室 B 棟 7 階、地域・老年・在宅・精神実習室（関連 4 分野共同）	B 棟 7 階、実習室 B-③[B704] 精神行動ケア科学（精神看護学）専用の電子黒板 4 台を設置している。
在宅看護学 地域包括 ケア科学	旧実習室 C301-302 新実習室 B 棟 701、B 棟 708（補助的使用）	実習室には、車椅子、ポータブルトイレ、入浴補助具などの福祉用具を設置しています。また、吸引・経腸栄養モデル人形(9 台)、ポータブル吸引器(9 台)、経腸栄養ポンプ(9 台)といった在宅医療で使用する機器も複数台揃えており、学生は基本操作を体験できます。さらに、台所や和室・浴室など生活空間を模した設備も整備されており、療養環境全体を再現した中で技術を学習できる点が特徴です。
地域看護学	学校保健実習室	学校の保健室を模した実習室のため、身長計、体重計などの健康診断に用いる計器やベッドやソファ、処置台などを設置している。加えて、学校の教室にある黒板も設置している。
老年看護学	B601（旧基礎看護学実習室）	・ ベッド・床頭台・オーバーベッドテーブル 21 セット ・ 液晶モニター（55 型）2 台 ・ プロジェクター 1 台 ・ 車いす 6 台 ・ 歩行器 4 台 ・ シルバーカー 3 台 ・ 高齢者疑似体験装：おいたろう 11 個・もみじ 28 個、片麻痺体験スーツ 11 個 ・ ポジショニングピロー 2 セット ・ 口腔ケアモデル 4 個
高齢者生活行動 ケア科学	B708 (地域・公衆衛生看護実習室)	[車椅子] モジュラー車椅子 (1)、ティルト・リクライニング車椅子 (1) [車椅子用クッション等] 座面クッション (ゲル材) (1)、座面クッション (空気バブル調節式) (1) 背面クッション (サイドサポート) (1)、座面のたわみ補正用具 (1) [椅子・足台等] 椅子 (座面高 36、38、40、42 cm 各 1)、足台 (高さ 6、8、10 cm 各 1) 腕まくら (1) [リフト]

領域・分野名	実習室名	設備
		床走行式リフト (1)、スリングシート (フル、ハーフ、セパレートタイプ 各1) [移乗・移動補助具] トランスファーボード (Bタイプ、Sタイプ 各1)、フレキシベルト (S、M、L 各1)、フレキシムーブ (1) [便器・キッチンシンク] 高さを調整できる便器 (1)、高さを調整できるキッチンシンク (1)
小児看護学	旧実習室 (2023 年度～2024 年度) : 羽曳野キャンパス 『母性・小児看護学実習室』 新実習室 (2025 年度) : 阿倍野キャンパス C 棟 『母性・小児実習室』	- 新生児バイタルサインモデル (シミュレーター) 台数: 旧実習室では2 体、新実習室では5 体設置 特徴: 心拍数及び呼吸数の測定、心音及び呼吸音 (正常) の聴診、大泉門の触診などを体験することができる。 - 小児 (幼児) の身体診察シミュレーター 台数: 1 体 特徴: 幼児のバイタルサインを測定できる。心音・呼吸音・腸蠕動音の正常音と異常音を測定できる。 - ベビーモデル (人形) 個数: 旧実習室では20 体、新実習室では48 体設置 特徴: 身長約 48 cm、体重約 3000g。新生児の沐浴や清拭、身体計測、抱っこ、オムツ交換などを体験することができる。 - 小児用ベッド 台数: 4 台 特徴: 小児用ベッドの柵は、成人のものと比較すると高くなっており、加えて、4 方向に隙間なく柵が設置されており、転落しにくい構造になっている。 - その他 看護実習人形幼児 (5-6 歳) モデル、乳幼児身長計、ベビースケール等を設置。
子ども・ 家族ケア科学	2022 年度～2024 年度 B 棟7 階母性・小児看護学実習室 2025 年度 C 棟7 階 母性・小児実習室	- バイタルサイン Baby (4 台) や乳児期、幼児期、学童期を想定した様々なモデル人形を常設し、病室を模した実習室で、抱っこやバイタルサイン測定の練習が直ぐに行える状況にある。 - 実習施設である附属病院と同様の沐浴槽が設置されている。 - カンファレンスや事前学習の際に使用する約 1m2 の稼働可能な机が配置されている。
母性看護 ・助産学	C701・702 母性・小児実習室	- 妊婦腹部触診モデル 4 体 胎児の胎位胎向を変えられるので、演習で使っていると触診技術の向上と動機づけができる - 妊婦体験ジャケット 9 体 - 授乳用新生児人形 4 体、乳房マッサージモデル装着型 4 体 乳房マッサージモデルを学生が装着し、大きく口を開けた授乳用新生児人形を使って、ラッチオンや抱き方、授乳姿勢の保持を演習で行っている。授乳の難しさなど褥婦側の体験と、授乳支援という看護師側の体験双方ができる。 - 産褥子宮触診モデル 3 体 子宮の大きさや硬度が異なるモデルを入れ替えることができるので、子宮収縮の観察と判断が効果的に教育できる。 - 新生児バイタルサインベビー 1 体
ウィメンズ ヘルスケア科学	2025 年度以降 看護学部 C 棟 7 階 C701. 702	- 装着型産褥子宮モデル 3 - コーケン産褥子宮触診モデル 3 - 搾乳トレーニングモデル 5 - 胎盤モデル 6 - 布製 (毛糸) 子宮モデル 5 - 布製 ベビーモデル 5 - 保育器 1 - 新生児ベッド (コット) 26 - 机・椅子多数 - 新生児バイタルサイン人形 4 - 授乳チェア 3 - アクティブチェア (ピンク) 2

領域・分野名	実習室名	設備
		・産褥イス（黄色2、ピンク1）3 ・搾乳関連用品2 ・妊娠・産褥衣類一式3 ・授乳用新生児人形（たあくん）4 ・授乳指導用乳房モデル1 ・ミルククッション3 ・乳房マッサージモデル装着型4 ・授乳クッション多数 ・授乳用新生児人形（マイベビー）2 ・妊婦腹部触診モデルⅠ型（コーケン）3 ・妊婦腹部触診モデルⅡ型1 ・胎児ドップラー（DP-20）1 ・乳房マッサージモデル15 ・ベビー人形32 ・妊婦ジャケット3
療養支援 看護科学	羽曳野キャンパス （2024年度まで） A201（実習室）、J302（実習室） 阿倍野キャンパス C棟 C502（観察室）・C503（ICUエ リア）・C504（アクティブラーニン グエリア）・ C505（成人・シミュレーション実習 室）	・フットケア演習道具一式15セット ・フィジカルアセスメントモデル Physiko4 体（3体+1体） ・呼吸音聴診シミュレータ ラング2台 ・ナーシングアンシミュレータ2体 ・リトルアン2.0QCPR（6体）4セット （BLS トレーニング用 AED 32 台） ・多職種連携ハイブリッドシミュレータ SCENARIO 2 体 ・輸液ポンプ5台 ・シリンジポンプ5台 ・Oculus Quest 2 （バーチャル・リアリティヘッドセット）41 台 ・iPad 30 台 ・電子黒板 3 台 ・模擬 ICU シミュレーションセンター モニタリング設備：自動ドア、マジックミラー、ICU ベッド1 台、CPS 3 台、モニタリングカメラ3 台、遠隔指示・録画再生シ ステム
療養ケア科学	B 棟 7 階成人実習室 C 棟 5 階成人実習室	B 棟：Physiko 1 台、大画面モニター C 棟：ICU エリア、Physiko 1 台
がん包括 ケア科学	旧実習室 B 棟（旧大阪市立大学看護科棟） 成人看護実習室 新実習室 C 棟 C502 観察室 C503 ICU エリア C504 アクティブラーニングエリア	・旧実習室 ベッド1台、シミュレーター1体、支柱台2台、輸液ポンプ2 台、シリンジポンプ2台、大型モニター2台、 酸素流量計2台、吸入器2台、12誘導心電図1台、清潔台1台 ・新実習室 C503 ICU エリア ベッド1台、シミュレーター1体、支柱台2台、輸液ポンプ2 台、シリンジポンプ2台、大型モニター2台、酸素流量計2台、 吸入器2台、12誘導心電図1台、清潔台1台 C504 アクティブラーニングエリア ベッド19台、オーバーテーブル19個、床頭台19個

自習学習への支援

領域・分野名	自習学習への支援内容と環境	学生が学習できるように工夫している点
基礎看護科学	技術試験 2、3 週間前に試験課題の自己練習のために実習室を開放している。 安全確保（注射針使用時等）のため試験課題に応じて教員が立ち会うこともある。	技術試験 2、3 週間前に試験課題の自己練習のために、必要物品を配置し学生が自習できるようにしている。
ヒューマンケア科学	・羽曳野キャンパスは施設ルールが決められているため、学生の自習の申請に合わせて、教員が立ち会い、準備から片付けまで見守り指導をした。 ・阿倍野キャンパスでも実習室により実習管理者の指示に従う。 ・B601 は自由に自習ができるよう、予約システムを作成いただく。事前予約を確認して、空調や給湯の手配を整える予定。自習報告書の記載により備品や物品の管理を予定している。	自主的に自由に学習できるよう、予約システムの導入や、準備から片付けまでの一連が自身の判断でできるように演習時より実践するようにしている。そのため、物品の収納場所についても学生が分かるように資料を作成している。
精神看護学	学部学生実習時の自習は、他分野合同使用で空いていないことがほとんどなので、その都度、空き教室を借りて行っている。（精神看護学実習時の自習時は、学生の人数が収容できてロールプレイやカンファレンスができる広さとホワイトボード（あるいは黒板）があればいいので、そのような部屋を探して借りている。）	場所の確保が最大の問題なので、早めに場所を確保できるように、できないときは分散して小さい教室でもいいので借りられるように探している。
精神行動ケア科学	精神行動看護学実習、ケアシステム科学実習（精神）の実習のまとめを行う場所として使用しているだけである。その際に、実習室B-③[B704]を確保（予約）し、専用の電子黒板を使用して学習している。しかしながら、精神看護学のシミュレーション教育を推進したいが、常時その環境を設けておくことができないことから、実践的な自己学習の場が設けられていないのが現状である。	現状では、自己学習する場を常時確保することができず、工夫ができる状態にない。関連 8 分野共同の実習室であるため、非常に使いにくいため改善する必要がある。
在宅看護学 地域包括ケア科学	学生が自主的に学習できるよう、授業外の時間帯にも実習室を開放し、自由に機器や用具を操作できる環境を整えている。自習時には使用ルールを明確化し、安全性と秩序が保たれるよう配慮している。また、教員や技術職員が必要に応じて使用方法を指導できる体制をとり、安心して繰り返し練習できるようにしている。これにより、学生は主体的に技能を高める機会を持つことが可能。	実習室を用いた演習では、事例を想定したシナリオ学習やロールプレイを取り入れることで、単なる技術習得にとどまらず、実際の在宅看護場面を想像しながら学べる工夫をしている。さらに、在宅医療機器メーカーの協力を得て、最新の在宅医療機器に触れる機会を設けている。最後に演習後のレポート課題の提出と教員からのフィードバックによって、学生が自身の演習を振り返り改善点を確認できる仕組みを整えている。
地域看護学	・養護実習で授業を実施する学生が多くいるため、実習前に学校の教室環境に類似した環境で模擬授業ができるように黒板を設置している（阿倍野キャンパスでは黒板設置の教室がないため）。 ・養護実習前に希望する学生には事前連絡の上開放している。	・養護実習で授業を実施する学生が多くいるため、実習前に学校の教室環境に類似した環境で模擬授業ができるように黒板を設置している（阿倍野キャンパスでは黒板設置の教室がないため）。 ・養護実習前に希望する学生には事前連絡の上開放している。
老年看護学	学生の申し出があれば教員同席のもと B601 での自己学習可とし、その内容に応じて環境を整えている。	学生からの申し出に応じて、備品を準備する等の対応を行っている。
高齢者生活行動ケア科学	学生が実習室で自習を希望する場合は、その内容に応じて環境を整えている。	実習オリエンテーション等で車椅子等の備品を用いた体験学習を行っている。また、学生からの申し出に応じて、備品を準備する等の対応を行っている。
小児看護学	・新生児バイタルサインモデルは、常時、ベビー用保育コットに設置しており、機器の電源を入	・2 年次の必修科目内で実施する演習では、バイタルサイン測定（呼吸、心拍、体温、

領域・分野名	自習学習への支援内容と環境	学生が学習できるように工夫している点
	れるのみで演習を行うことができるように環境を整えている。 ・看護実習人形幼児モデルの他、各発達段階の実習モデルを小児用ベッドに設置しており、臨地実習前の学内日には、学生が担当する患児の年齢に応じて、関わり方をイメージしながら、バイタルサイン測定の演習を行えるように環境を整えている。	血圧)、身体計測(体重・身長)、乳児の抱っこ、哺乳瓶による授乳を実施している。演習の実施前には、バイタルサイン測定や身体計測に関するワークシート形式の課題を用意しており、事前レポートを仕上げることで、測定時の留意点や手順について理解を深めてうえで演習に取り組めるように促している。演習は、小グループでローテーションを行いながら技術を実施することにより、学生全員が全ての看護技術の一連の流れを経験しながら学べるように工夫をしている。また、看護技術項目ごとに担当する教員を配置し、学生一人ひとりの手技に目を配りながら、細やかな指導を行えるようにしている。 ・3年次後期～4年次前期における小児看護学実習前の学内演習では、2年次に学習したバイタルサイン測定や小児用ベッドの取り扱い等の看護技術を復習する機会を確保し、臨地実習への準備性を高めている。また、輸液療法中の子どもの観察と援助について、実際の輸液セットを用いて補足説明を行っている。 ・実習室の備品及び実習用モデルの他、タオルや衣類を常時備え、沐浴・清拭など基本的な技術を含む様々な技術練習に取り組めるよう環境を整えている。学生は、教員への申し出により、実習室での自主練習を行うことができる。
子ども・家族ケア科学	自習は、実習前後に受け持ち患児を想定した技術演習(バイタルサイン測定、移乗など)を、教員の許可の基に実施している。	技術演習の自習に必要な物品は、学生が主体的に準備・片付けができる位置の棚に収納している。
母性看護・助産学	実習室における自習については、事前に担当教員に申し出れば、原則平日 9:00～18:15 まで開放している。実習室の使用方法については、学生に掲示物で明示している。	自習では申し出のあった担当教員が質疑応答できるようにしている。実習室の物品の所在が学生にもわかるように、棚の場所と物品の配置がわかるリストを各棚に掲示している。
ウィメンズヘルスケア科学	・実習前、実習中は実習室を自己練習に使用することができることを伝え、自主的に練習できる機会を保障している。 ・周産期ヘルスケア演習の看護技術演習では、学生の自己練習にも使用できるように、臨床の状況を設定した技術演習課題資料を提示している。	・3年次後期科目「周産期ヘルスケア演習」では、子ども家族ケア科学領域と合同で演習を実施している。1 学年 50 名の学生を 2 グループに分け、看護技術演習を実施している。小グループとすることで、学生は実習室の模型を少人数で使用し、臨床の状況を再現しながら看護技術を実施することができる。 ・乳房模型、妊婦模型、新生児模型等、学生が授乳や育児の体験、妊婦の身体的負担を体験する機会を設定し、体験を踏まえてどのような看護援助や看護師の姿勢が必要かを考える機会を持つようにしている。 ・育児用品や妊産婦の衣類、授乳関連の用品を演習でも展示し、それらの機能や特徴などを知り、妊婦や母親、子どもの生活を想像し、理解することに役立てている。 ・3年次後期科目「周産期ヘルスケア演習」の演習において、周産期ケアに必要な実習備品を用いて演習し、常時使用できるよう展示および設置することで、その後に履修するウィメンズヘルスケア実習前・実習中の自己学習がしやすいようにしている。
療養支援看護科学	3 年生前期の演習期間中に、実習室を開放している。	・自習日に教員による指導が受けられる日時を設定している。 ・実習室使用時には、自習に必要な使用物品の準備や事前オリエンテーションを行い、学生が主

領域・分野名	自習学習への支援内容と環境	学生が学習できるように工夫している点
		体的に学習できるようにしている。
療養ケア科学	B棟、C棟：消耗品以外の備品は、希望な限り使用可にしている	B、C棟共通：実習前に実習室を開放し、看護技術の復習ができるようにしている。
がん包括ケア科学	・学生が自習しやすいようにどこに物品があるか所在を明確にした。 ・学生が事前に申請した場合、教員が時間を合わせて指導する体制を整えた。 ・教員指導の下でシミュレーターを設定し、肺音や心音、腸蠕動音などを聴診で実際に練習できるような環境を整えた。	・事例を作成し、学生同士で自習時間に考えることができるようにした (事例は術直後の患者を設定し、学生が観察、看護師に報告するまでの流れを考えるような課題を出していた)

4) 図書館図書等の資料および図書館と情報ネットワーク

図書館蔵書現況

2024年度

図書館名称 ¹⁾	図書館の冊数		定期刊行物の種類		視聴覚資料の 所蔵数 (点数)	電子 ジャーナル数 (種類)
	図書の 全冊数	開架図書の 冊数(内)	内国書	外国書		
阿倍野	81,759	80,337	2,029	1,655	1,155	48,911
羽曳野	129,588	※	1,238	252	2,279	
中百舌鳥	866,833	※	7,654	5,332	2,815	
計	1,078,180	80,337	10,921	7,239	6,249	48,911

2023年度

図書館名称 ¹⁾	図書館の冊数		定期刊行物の種類		視聴覚資料の 所蔵数 (点数)	電子 ジャーナル数 (種類)
	図書の 全冊数	開架図書の 冊数(内)	内国書	外国書		
阿倍野	91,876	91,138	2,141	1,675	1,155	48,723
羽曳野	127,984	※	1,237	252	2,298	
中百舌鳥	873,191	※	4,955	5,332	2,861	
計	1,093,051	91,138	8,333	7,259	6,314	48,723

2022年度

図書館名称 ¹⁾	図書館の冊数		定期刊行物の種類		視聴覚資料の 所蔵数 (点数)	電子 ジャーナル数 (種類)
	図書の 全冊数	開架図書の 冊数(内)	内国書	外国書		
阿倍野	90, 897	90, 364	2, 152	1, 678	1, 150	50, 925
羽曳野	130, 187	※	1, 236	252	2, 299	
中百舌鳥	882, 639	※	4, 891	5, 334	2, 946	
計	1, 103, 723	90, 364	8, 279	7, 264	6, 395	50, 925

※中百舌鳥図書館と羽曳野図書センターの開架冊数の数値がだせない理由

- ・旧市大では蔵書について、開架・書庫で貸出期間なども区別しており、所蔵数についても区別した数値を保有していた。
- ・一方、旧府大ではそのような区別をしていなかったため、所蔵数は館全体の数値しか保有をしていなかった。
- ・このため、今回の依頼に対しては、旧市大キャンパスの図書館（阿倍野）は開架のみの所蔵数で回答、旧府大キャンパスの図書館（中百舌鳥・羽曳野）は館全体の所蔵数で回答する。

闘病記文庫

「闘病記」とは、「病と向きあう過程を綴った手記」（「健康情報棚プロジェクト」の定義）のことである。羽曳野図書センター内に配架されていた闘病記文庫は、羽曳野図書センター閉館に伴い、阿倍野医学図書館に移管された。阿倍野医学図書館では、将来、医師・看護師になる学生が、患者さんの考えや立場への理解を深めるための助けとなるよう「闘病記」を収集し、「闘病記コーナー」を設置しており、全蔵書数は、2,207冊である。図書は病名分類順に配架し、一般図書と同様貸し出しでき、図書検索は、OPAC検索をクリックすると、その病名分類に該当する図書をOPACで検索できる。

2. 生活支援

看護学部及び看護学研究科では、学生の生活や就職、経済面での援助に関する支援のほか、特別な配慮が必要な学生への支援やハラスメントに関する支援を行っている。

1) 経済的支援

授業料減免制度や奨学金などの学生が利用できる経済支援制度がある。各種制度に関する詳細や申請方法については、本学のWebサイトに掲載し周知されている。

https://www.omu.ac.jp/campus-life/tuition/financial_aid/

外国人留学生支援

(1) 授業料減免制度

経済的な理由により授業料納付が困難であり、学力基準を満たす私費留学生（正規課程に在籍する者）は、本人の申請に基づき、学内選考のうえ、授業料が減額又は免除される制度がある。

- ①対象：正規課程に在籍する私費外国人留学生（外国政府派遣留学生は除く）在留資格が「留学」の者
- ②申請：4月中旬（3月に詳細を学生ポータル（UNIPA）及び掲示板で周知している。）
- ③減免額：授業料の全額、3分の2、3分の1

(2) 奨学金

①日本政府国費外国人留学生制度

日本政府（文部科学省）の奨学金を受けている国費留学生の場合は、月額 143,000 円（研究生）、月額 144,000 円（前期博士課程）、145,000 円（後期博士課程）が給付される。また地域加算として、月額 2,000 円または 3,000 円が月額単価に加算される。（金額については 2024 年 3 月現在のもの）

②私費外国人留学生各種奨学金

奨学金には大学が推薦するものと本人が直接財団に応募するものがある。大学推薦のものは、学内選考を経て学生課から募集先の財団等に推薦される。大学推薦の奨学金の募集要項と応募手続きは、学生ポータル（UNIPA）で周知している。（応募条件によっては学生課から直接本人に知らせる場合もある。）

2) 生活相談及び進路相談

生活相談

学生生活をより豊かなものにするために、あらゆる疑問や悩み、困りごとなど気軽に相談できる体制を設けている。解決に向け支援する関連部署と連携するための、学生なんでも相談窓口が設置されている。

進路相談

杉本キャンパスと中百舌鳥キャンパスにある学生課キャリア支援室が、全学の就職・キャリア支援業務を行っている。キャリア支援室からの情報は、学生ポータル（UNIPA）で発信しており、また、就職支援ナビでは、学内のイベント案内だけでなく、大学に届くインターンシップ情報、求人・説明会情報など、進路・就職に関する情報を多数掲載している。看護学部には就職委員会が設置されており、3・4年生に対し、就職ガイダンス、キャリア支援室との連携によるサポートとの履歴書添削、面接練習、学生主体の国家試験模擬試験の運営支援を行っている。

3) 健康保持・増進のための配慮

(1) 健康管理センター（保健室）

学校保健安全法に基づいて、健康診断・健康相談・応急処置を行うため、各キャンパスに健康管理センターを設置して看護師が対応している。また、健康診断を毎年4月に実施しており、その他に特殊健康診断、健康相談、応急処置、健康診断証明書の発行が行われている。

(2) メンタルヘルスセンター

看護学舎B棟1階に学生のこころの健康の保持増進のため、カウンセリングルームを設置し、臨床心理士による対面で心の相談を行っている。

(3) 各種ハラスメントに関する支援

公立大学法人大阪ハラスメントの防止に関する規程（規程第 192 号 https://www1.g-reiki.net/upc-osaka/reiki_honbun/u325RG00200454.html）に則り、相談・助言体制を整備し、機能している。大学生活を送る中で何らかの不自由さを感じる学生本人、周囲の学生や教員からの相談に専任のコーディネーターが応じるアクセシビリティセンター（相談・支援の窓口）を設置している。

アクセシビリティセンターは、障がい、性的指向や性自認（SOGI）等を理由として支援を必要とする学生

のための相談・支援窓口である。障がい者手帳の有無、障がいの種類や程度、「障がい」という名称の有無にかかわらず、履修、試験、学生生活において心配事や悩みに対する相談に応じており、修学上の合理的配慮についても連携しながら対応している。

4) 学生の課外活動

豊かで学びがいのある学生生活を築くために、貴重な時間を有効に活用し、課外の分野で文化・スポーツ、ボランティアなどの諸活動に積極的に取り組むことができるように、学生自治団体及び多くの課外活動団体による自主的な団体が組織されている。体育系・文化系の様々なクラブ活動等が展開され、これらの活動への参加は全て個人の自由となっている。また、これらの各活動の自主的運営を基本としながら、各種の助言、施設・設備の支援なども行っている。

3. 就職支援

看護学部では、就職支援を就職委員とキャリアカウンセラー、アドバイザー教員で実施している。キャリア支援室のオンライン相談や各種オンラインガイダンスも活用して就職支援が行なわれ、求人施設への対応は原則、事務職員で対応しており、就職情報・進路資料室の管理・就職状況の把握を行っている。

また、杉本キャンパスと中百舌鳥キャンパスにある学生課キャリア支援室が、全学の就職・キャリア支援業務を行っている。進路・就職について相談したいことがあればいつでもキャリア支援室を利用できるように準備されている。その他に、国家試験対策として看護師国家試験の模擬試験を実施している。

1) 卒業・修了後の進路状況

学部卒業生は例年就職希望者 98～100%が就職しており、就職希望者 470 名中 469 名（99.7%）の就職が内定している。就職希望者の 88.1%は看護師・助産師として病院に就職し、11.9%が保健師として大阪府・大阪市内に就職している。また近年は 74.7%以上が大阪府内に就職しており、2023 年度卒業生の 87.7%の学生が大阪府内に就職し、12.3%が府外に就職している。近年における学部卒業生の年度別就職状況を資料 6-3-1 及び資料 6-3-2 に示した。

卒業生数・率 （4年間で卒業した割合）

大阪市立大学

(名)

	2024年度	2023年度	2022年度
入学時学生数 A	56	56	58
卒業生数 B	55	53	53
卒業率 ¹⁾ B/A*100 (%)	98.2%	94.6%	91.4%

大阪府立大学

(名)

	2024年度	2023年度	2022年度
入学時学生数 A	121	120	120
卒業生数 B	107	108	110
卒業率 ¹⁾ B/A*100 (%)	88.4%	90.0%	91.7%

卒業直後の就職・進学者数と割合

大阪市立大学

(名)

	2024年度	2023年度	2022年度
卒業者数 A	58	55	53
卒業直後の就職者数 B	52	51	51
卒業直後の就職率 B/A*100 (%)	89.7%	92.7%	96.2%
卒業直後の進学者数 C	5	4名	2
卒業直後の進学率 C/A*100 (%)	8.6%	7.3%	3.8%

大阪府立大学

(名)

	2024年度	2023年度	2022年度
卒業者数 A	114	115	116
卒業直後の就職者数 B	101	105	109
卒業直後の就職率 B/A*100 (%)	88.6%	91.3%	94.0%
卒業直後の進学者数 C	13	9	5
卒業直後の進学率 C/A*100 (%)	11.4%	7.8%	4.3%

看護職として就職する者の割合

大阪市立大学

(名)

	2024年度	2023年度	2022年度
就職者数 A	58	55	51
看護職として就職する者の数 B	39	41	41
看護職への就職率 B/A*100 (%)	67.2%	74.5%	80.4%

大阪府立大学

(名)

	2024年度	2023年度	2022年度
就職者数 A	101	105	109
看護職として就職する者の数 B	98	105	104
看護職への就職率 B/A*100 (%)	97.0%	100.0%	95.4%

資料 6-3-1 看護学部生 卒業年度別府内外就職状況

大阪市立大学

2025 年 3 月現在 (名)

卒業年度		2024 年度		2023 年度		2022 年度	
卒業生		58		55		53	
	就職希望者	53		51		51	
	進学者	5		4		2	
	その他	0		0		0	
就職者		52		51		51	
就職者率		98.1%		100%		100%	
府内就職者		36	69.2%	45	88.2%	41	80.4%
	うち府内出身者	29	80.6%	37	82.2%	28	68.3%
府外就職者		16	30.8 %	6	11.8%	10	19.6%

大阪府立大学

2025 年 3 月現在 (名)

卒業年度		2024 年度		2023 年度		2022 年度	
卒業生		114		115		116	
	就職希望者	101		105		109	
	進学者	13		9		5	
	その他	0		1		2	
就職者		101		105		109	
就職者率		100.0%		100.0%		100.0%	
府内就職者		81	80.2%	91	86.7%	83	76.1%
	うち府内出身者	55	67.9%	65	71.4%	53	63.9%
府外就職者		20	19.8%	14	13.3%	26	23.9%

資料 6-3-2 看護学部生 卒業年度別府内外国公立・民間の就職状況

大阪市立大学

(名)

卒業年度	就職者	府内											府外										
		国公立						民間					国公立						民間				
		保	助	看	養教	他	計	保	助	看	他	計	保	助	看	養教	他	計	保	助	看	他	計
2024 年度	52	5	0	24	0	0	29	1	0	6	0	7	3	0	7	0	0	10	0	0	2	4	6
2023 年度	51	3	0	33	0	0	36	1	0	8	0	9	2	0	4	0	0	6	0	0	0	0	0
2022 年度	51	6	0	21	0	0	27	2	0	12	0	14	2	0	5	0	0	7	0	0	3	0	3

※「他」は看護職以外

大阪府立大学

(名)

卒業年度	就職者	府内											府外										
		国公立						民間					国公立						民間				
		保	助	看	養教	他	計	保	助	看	他	計	保	助	看	養教	他	計	保	助	看	他	計
2024 年度	101	6	0	62	1	0	69	0	0	12	0	12	1	0	12	0	0	13	0	0	4	3	7
2023 年度	105	7	0	63	0	0	70	1	0	20	0	21	3	0	6	0	0	9	0	0	4	0	4
2022 年度	109	3	4	47	1	0	55	0	4	24	0	28	3	0	12	3	0	18	0	0	7	1	8

※「他」は看護職以外

博士前期課程修了者は、進学者を除いて医療・保健施設に就職している。博士後期課程の修了生は、医療・保健関係に就職した1名を除くすべての学生が教育機関に就職している。近年における博士前期課程修了生の就職状況を資料6-3-3に、博士後期課程修了生の就職状況を資料6-3-4に示した。

資料6-3-3 博士前期課程 修了年度別府内外就職状況

大阪市立大学

(名)

修了年度	2024 年度	2023 年度	2022 年度
修了者	0	0	3
就職者	0	0	1
進学者	0	0	2
その他・未定	0	0	0
府内就職者（医療・保健／教育）	0 (0/0)	0 (0/0)	3 (3/0)
府外就職者（医療・保健／教育）	0 (0/0)	0 (0/0)	0 (0/0)

大阪府立大学

(名)

修了年度	2024 年度	2023 年度	2022 年度
修了者	1	7	23
就職者	1	6	20
進学者	0	1	2
その他・未定	0	0	1
府内就職者（医療・保健／教育）	0 (0/0)	6 (6/0)	13(11/1)
府外就職者（医療・保健／教育）	1 (1/0)	0 (0/0)	7(6/1)

大阪市立大学

(名)

修了年度	2024 年度	2023 年度	2022 年度
修了者	4	1	3
就職者	4	1	3
その他・未定	0	0	0
府内就職者 (医療・保健／教育)	3(0/3)	0(0/0)	2(0/2)
府外就職者数 (医療・保健／教育)	1(0/1)	1(0/1)	1(0/1)

大阪府立大学

(名)

修了年度	2024 年度	2023 年度	2022 年度
修了者	4	4	3
就職者	4	4	3
その他・未定	0	0	0
府内就職者 (医療・保健／教育)	3(1/2)	2(0/2)	1(0/1)
府外就職者数 (医療・保健／教育)	1(0/1)	2(2/0)	2(1/1)

4. 学生の安全管理の体制

人権問題に対応するための組織

大阪公立大学では全学委員会として「人権問題委員会」を設置している。当該委員会組織は「大阪公立大学人権問題委員会規程」に基づき次のように構成されており、看護学研究科からも教授 1 名が委員として参加している。

- (1) 学長が指名する副学長
- (2) 各研究科及び国際基幹教育機構から選ばれた教員それぞれ 1 名以上
- (3) 人権問題研究センターから選ばれた教員 1 名
- (4) その他学長が必要と認めた教員若干名

また、2024 年には教育研究審議会の承認の下、「大阪公立大学人権宣言」が発行された。当該委員会では本学人権問題研究センターと協働して、毎年度以下の活動を行っている。まず、冊子「人権問題の最前線」の発行ならびに当該委員会サイトでの公開を行っている。2 点目として人権問題ガイダンスを作成し、委員会のサイトにて公開しており、2023 年度からは教育推進課がとりまとめている新入生向け Web サイト「新入生 Navi」に当該動画へのリンクが設けられた。2024 年は当該動画にアクセシビリティセンターならびにハラスメント相談の案内を加えた。なお、アクセシビリティセンターとハラスメント相談は当該委員会とは別組織である。3 点目として毎年度前期に「春の人権問題講演会」ならびに後期に「人権週間特別講演会」を開催し学生及び教職員の人権問題に関する意識の向上を図っている。

第7章 教育課程の評価と改革

1. 教育評価

1) 教学アセスメントポリシー

【看護学部】

1 目的

看護学部では、「大阪公立大学における教育の内部質保証に関する方針」に基づき、教育に関する内部質保証を推進するため、教学アセスメントを実施する。

2 実施体制

- (1) 看護学部の教学アセスメントの実施責任者は、学部長とする。
- (2) 看護学部の教学アセスメントは、教育改革委員会（一部、部局評価委員会）において実施する。

3 実施手順

- (1) 看護学部は、アセスメントリストにより、教学アセスメント（教育に関する各種データの収集・分析及び教育プログラムの状況の把握・検証）を実施する。
- (2) 看護学部は、教学アセスメントの実施を受けて必要な改善を図るとともに、教育改善の内容は積極的に公表する。
- (3) 教学アセスメントに活用するデータ・情報の取扱いについては、本学の関係規程等を遵守し、個人情報等の保護に努める。
- (4) 教学アセスメントの結果を踏まえて、継続的にアセスメント・ポリシー及びアセスメントリストを見直す。

【看護学研究科】

1 目的

看護学研究科では、「大阪公立大学における教育の内部質保証に関する方針」に基づき、教育に関する内部質保証を推進するため、教学アセスメントを実施する。

2 実施体制

- (1) 看護学研究科の教学アセスメントの実施責任者は、研究科長とする。
- (2) 看護学研究科の教学アセスメントは、教育改革委員会（一部、部局評価委員会）において実施する。

3 実施手順

- (1) 看護学研究科は、アセスメントリストにより、教学アセスメント（教育に関する各種データの収集・分析及び教育プログラムの状況の把握・検証）を実施する。
- (2) 看護学研究科は、教学アセスメントの実施を受けて必要な改善を図るとともに、教育改善の内容は積極的に公表する。
- (3) 教学アセスメントに活用するデータ・情報の取扱いについては、本学の関係規程等を遵守し、個人情報

報等の保護に努める。

- (4) 教学アセスメントの結果を踏まえて、継続的にアセスメント・ポリシー及びアセスメントリストを見直す。

2) 教学アセスメント

【看護学部】

次の観点について、アセスメントリストを定める。

	観点	アセスメントリスト
1	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が具体的かつ明確であるか。	全学において定める。
2	教育課程方針（カリキュラム・ポリシー）が、学位授与方針と整合的であるか。	
3	教育課程の編成及び授業科目の内容は、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であるか。	
4	学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されているか。	
5	学位授与方針に則して適切な履修指導、支援が行われているか。	
6	教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されているか。	
7	学位授与方針に則して、公正な卒業判定が実施されているか。	
8	学位授与方針に則して、適切な学修成果が得られているか。	看護学部において、別紙のとおり定める。

(別紙)

名称	実施時期	対象	内容、質問項目等	実施者
授業ふり り返り	7月～9月 1月～3月	1～4年次生	・授業の理解度、授業の満足度、授業 目標の達成度、予習・復習時間等	教育推進本部
卒業 率・資 格取得 者数	4月～7月	前年度の卒 業生	・標準修業年限内の卒業率 ・標準修業年限×1.5年内の卒業率 ・資格取得の状況（国家試験の合格者 数、合格率） ・就職及び進学状況	看護学部 教育改革委員会
1年生 調査	10月～11月	1年次生	・教育内容・環境に対する満足度、身 に付けた能力、CFER、生活・学修時間 等	高等教育研究開発センター (大学 IR コンソーシア ム)
2年生 調査	10月～11月	2年次生	・教育内容・環境に対する満足度、身 に付けた能力、CFER、生活・学修時間 等	高等教育研究開発センター (大学 IR コンソーシア ム)
3年生 調査	10月～11月	3年次生	・教育内容・環境に対する満足度、身 に付けた能力、CFER、生活・学修時間 等	高等教育研究開発センター (大学 IR コンソーシア ム)
卒業予 定者ア ンケー ト	11月～3月	4年次生	・教育内容・環境に対する満足度、身 に付けた能力、生活・学修時間、大学 に対する総合的な評価等	高等教育研究開発センター (大学 IR コンソーシア ム)
卒業生 調査	7月～9月	卒後5年の 卒業生	・大学教育に関する満足度、身に付け た能力、就業状況、卒後に企業で求め られる能力等	高等教育研究開発センター
就職先 アンケ ート	通年	本学学生の 採用実績が ある企業	・本学学生に期待する能力等	教育推進課 キャリア支援室
国際化	通年	1～4年次生	・該当学生（海外留学を行った学生） の進路状況の確認等	看護学部 部局評価委員会
DPによ るカリ キュラ ム点検	随時	カリキュラ ム	・DPを達成できるカリキュラムになっ ているかの点検	看護学部 教育改革委員会

【看護学研究科】

次の観点について、アセスメントリストを定める。

	観点	アセスメントリスト
1	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が具体的かつ明確であるか。	全学において定める。
2	教育課程方針（カリキュラム・ポリシー）が、学位授与方針と整合的であるか。	
3	教育課程の編成及び授業科目の内容は、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であるか。	
4	学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されているか。	
5	学位授与方針に則して適切な履修指導、支援が行われているか。	
6	教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されているか。	
7	学位授与方針に則して、公正な修了判定が実施されているか。	
8	学位授与方針に則して、適切な学修成果が得られているか。	看護学研究科において、別紙のとおり定める。

(別紙)

名称	実施時期	対象	内容、質問項目等	実施者
授業ふり り返り	7月～9月 1月～3月	大学院生	・授業の理解度、授業の満足度、授業目標の達成度、予習・復習時間等	教育推進本部
研究指導 評価	4月～7月	前年度の 修了生	・標準修業年限内（長期履修生は長期履修年内）の修了率 ・標準修業年限×1.5年内（長期履修生は長期履修年×1.5年内）の修了率 ・就職及び進学の状況 ・CNS 認定者数 ・学会（国内、国際）や論文（和文、英文）の発表件数	看護学研究科 教育改革委員会
大学院 生調査	11月～3月	大学院生 （修了予定 者アンケート はM2生）	・教育内容・環境に対する満足度、身に付けた能力、生活・学修時間、大学に対する総合的な評価等	高等教育研究開発センター （大学 IR コンソーシアム）

修了生調査	7月～9月	修了後5年の修了生 公立大のみ 修了後4年	・大学教育に関する満足度、身に付けた能力、就業状況、卒後に企業で求められる能力等	高等教育研究開発センター (大学 IR コンソーシアム)
就職先からの意見聴取	通年	本学学生の採用実績がある医療・教育研究機関等	・本学学生に期待する能力等	看護学研究科 教育改革委員会
国際化	通年	大学院生	・該当学生（海外留学を行った学生）の進路状況の確認等	看護学研究科 部局評価委員会
DPによるカリキュラム点検	随時	カリキュラム	・DPを達成できるカリキュラムになっているかの点検	看護学研究科 教育改革委員会

3) 学士課程

看護学部では教務委員会、学生委員会、FD委員会、部局評価委員会が連携し、教学アセスメントにおける年次点検評価を実施している。

データの確認・分析は、年度の前期・後期開講授業のGP分布/GPCデータ、年度の開講授業のシラバス点検に係るデータ、年度末の標準修業就業年限卒業率、標準修業×1.5卒業率、ていら・みすへの学生アドバイザー等による履修指導の入力状況、前期・後期開講授業のていら・みすデータ（授業ふり返り：授業の理解度、満足度、授業目標の達成度、予習・復習時間等に関するデータ）について実施している。

GP分布・GPCデータは、教務委員会で年に2回データを確認した後、教務委員会から全教員にGPCデータを共有し、GPCは2～3.5以内が目安となっていることを報告している。各科目担当教員はGPCデータをもとに、評価方法や評価基準、到達目標、授業内容等を検討している。実習科目等のGPCの適正範囲の考え方については、今後、検討していく予定である。

シラバス点検に係るデータについては、2023年度、シラバス記載の修正指摘内容として、学部科目では到達目標に関する指摘が9科目、事前・事後学習の内容に関する指摘が4科目、成績評価方法に関する指摘が37科目あった。ていら・みすの学修自己評価情報や学修自己評価分布などを参考に、到達目標や事前・事後学習、成績評価基準の具体的記載などに関わる、シラバス内容を教員各自で見直し、改善を図っていく必要があることを教務委員会で確認している。シラバス作成の依頼とともに、全教員にむけてその旨の共有を図る予定である。

卒業者の数や入学年度に関するデータでは、大阪市立大学および大阪府立大学2020年度入学生の標準修業年限卒業率は、それぞれ、95%、96%であり、過去2年間においても91～98%の間にある。また、標準修業年限（1.5倍）卒業率は両大学共に98%であり、過去2年間においても96～98%の間にある。これらのことから、就学状況は概ね良好だと考える。

ていら・みすへの学生アドバイザー等による学生相談対応件数については、前期は「履修指導等」、後期は「進

路（就職・進学）」が多く占めていた。前期・後期ともに一定数の相談件数があり、引き続き学生への適切な指導が必要であることを確認した。

前期・後期開講授業のていら・みすデータ（授業の理解度など）では、全体的な傾向として予習・復習にかける時間が少ないが、学生の授業に対する理解度は概ね高いため、特に問題ないものと考えられる。ただし、教員コメントが空欄になっている科目もある。これは教員と学生の双方向のコミュニケーションの重要な場であるため、教員コメントの執筆については引き続き、依頼する必要がある。授業満足度のデータについては、満足を示す回答が大半を占めており、問題はないものの、今後も可能な限り満足度を上げるために、引き続き講義の創意工夫に向けた努力が必要と考える。

GPC データ、シラバス点検データ、卒業者数、学生相談対応件数、授業の理解度データ、授業に対する満足度などを総合的に見ると、予習・復習にかける時間が少ない点に課題があるが、全体的な傾向として大きな課題は見当たらない。学生に予習・復習を促す手法について検討を要する。

4) 大学院看護学研究科

看護学研究科では教務委員会、学生委員会、FD 委員会、部局評価委員会が連携し、教学アセスメントにおける年次点検評価を実施している。

データの確認・分析は、前期・後期開講授業の GP 分布／GPC データ、開講授業のシラバス点検に係るデータ、年度末の修了者の数や入学年度に関するデータ、ていら・みすへの学生アドバイザー等による履修指導の入力状況、前期・後期開講授業のていら・みすデータ（授業ふり返り：授業の理解度、満足度、授業目標の達成度、予習・復習時間等に関するデータ）について実施している。

GP 分布・GPC データは、20 名以上が受講している科目について、教務委員会で年に 2 回データを確認した後、教務委員会から全教員に GPC データを共有し、GPC は 2～3.5 以内が目安となっていることを報告している。

シラバス点検に係るデータについては、2023 年度、シラバス記載の修正指摘内容として、大学院科目では成績評価方法の記載に関して 16 科目の指摘があった。

修了者の数や入学年度に関するデータでは、大阪公立大学博士前期課程 2022 年度入学生の標準修業年限(1.5 倍) 修了率は 91%であり、全研究科の中で最も低い。また、長期履修の在学生数は全研究科の中で最も多い状況にある。長期履修制度を活用している大学院生は、就業などの理由で十分な学修時間をし難い傾向があり、これが修了率の低さに影響していると考えられる。一方、2019 年度から 2021 年度入学生の修了率を見ると、大阪市立大学ではそれぞれ 88%、50%、100%、大阪府立大学では 83%、100%、100%であり、修了率に顕著な差は見られない。

ていら・みすへの学生アドバイザー等による学生相談対応件数は「なし」であることを確認している。大学院生は普段から指導教員と密に接していること、また指導教員に相談しにくいことがあった時に対応できるよう、「副指導教員制度」を設けているため、敢えてていら・みすで相談する学生はいないものと思われた。

前期・後期開講授業のていら・みすデータ（授業の理解度など）では、入力率は低いものの、到達目標事前理解度、到達目標達成度ともに概ね高いという結果であった。

GPC データ、シラバス点検データ、修了者数、学生相談対応件数、授業の理解度データ、授業に対する満足度などを総合的に見ると、大きな課題は見当たらない。ていら・みすデータへの学生の入力率を上げる対策が必要である。

2. 雇用者・卒業生からの評価と改善

1) 卒業生・修了生評価

(1) 卒業生評価

看護学部における卒業生の評価については、2026 年 3 月に初年度入学者が卒業を迎える予定であり、その後、卒業生を対象としたアンケート調査を実施し、分析を行う予定である。

(2) 修了生評価

2024 年 3 月に博士前期課程を修了予定の学生を対象とし、2023 年 12 月～2024 年 3 月の期間に、これまでの大学院生活を振り返ってみたときの印象や今後の進路などについてのアンケートを実施した（大阪公立大学ホームページ https://www.omu.ac.jp/las/highedu/ir/students_survey/master2023/index.html#_login=1, 2023 年度修了予定者調査）。

この調査では、看護学研究科の修了予定者（資料 1）において、「優れている」と回答した学生の割合が全学平均と比べて 10%以上高い項目は、「教育水準・教育体制」、「研究水準」、「資格・免許の取得」、「図書館・各専門図書館」、「生活支援（心理カウンセリング等）」、「他大学との連携」であった。一方で、「教室の設備・環境」、「教育用パソコン等の情報環境の設備」、「自由の満喫」については、「劣っている」と回答した学生の割合が全学平均よりも 10%以上多く、設備や環境の整備が喫緊の課題であることが明らかになった。

カリキュラムに関する満足度では、「興味関心のある多様な科目が用意されている」、「各科目の学習目標は分野（専攻、領域）の教育目標と整合している」、「科目間の内容の連携がとれている」、「クラスの規模が適正である」の項目において、「非常に満足」「満足」「どちらかといえば満足」と回答した割合の合計が 100%に達しており、カリキュラム構成に対する高い評価が示された。一方で、「履修指導（ガイダンス等）が行き届いている」については全学よりも「不満足」と回答した割合が高く、履修指導に関する改善の必要性が示された。また、教育内容については、「授業のわかりやすさ」、「成績評価の適切さ」、「研究指導」において、「大部分の授業で満足」「満足な授業が多い」「満足な授業がやや多い」とする回答の合計が 100%となり、教育の質に対する満足度が非常に高いことがわかった。一方で、「学生の自主学習への配慮」に関しては、「不満足な授業が多い」との回答が全学よりも多く、自主学習の支援体制については改善の余地があることが明らかとなった。

また、在学時に身につけた能力等については、「批判的に考える能力」や「文章表現の能力」において「大きく増えた」と回答した学生の割合が全学平均よりも 10%以上高く、大学院での学びがこうした能力の向上に寄与していることがうかがえる。在学中の授業や活動への取り組みについては、「講義の授業」「ゼミ・演習・実習」「修士論文（または特定課題研究成果報告書）」において、「非常に熱心だった」「熱心だった」と回答した割合が 100%となり、特に学びや研究に対する積極的な姿勢が示された。一方で、「就職の準備・活動」、「友人との交際」、「アルバイト」においては、「あまり熱心ではなかった」または「全く熱心ではなかった（または活動経験なし）」とする回答が全学よりも多く、社会人学生が多いという看護学研究科の特徴が反映されていた。

2) 卒業生の雇用先からの評価

看護学部では、2026 年 3 月に初めての卒業生を輩出する予定であるため、卒業生の雇用先に対する評価については、2026 年度以降に調査を実施する必要がある。

3. 自己点検・評価システム

1) 教員活動自己点検・評価

自己点検・評価の一環として、また、大学としての社会的説明責任を果たすため、大阪公立大学教員活動点検・評価方針 (<https://www.omu.ac.jp/about/qual-eval/evaluation/staff-eval/>) に基づき、実施している。教員活動点検・評価の領域は、教育、研究、社会貢献及び大学運営の4領域である。各領域に評価の項目を置き、4領域については全研究院に共通する項目を設定している。2022年4月～2025年3月までの3年間を第一期教員活動点検・評価期間とし、「教育」「研究」「社会貢献」の評価分野については、毎年度仮評価を行い、最終年度に3年間の評価を行った。看護学部においては、毎年、執行部が各教員の仮評価の内容を確認し、最終年度である2024年度の自己点検・評価に関して教員と面談を行い、本人宛に結果を通知した。2025年度から第2期評価期間として、同様に自己点検・評価を実施している。

4. FD 活動

1) 活動実績

看護学部におけるファカルティ・ディベロップメント (FD) は、FD委員会を設置し取り組んでいる。FD委員会の主な活動としては、学生や教員のニーズや、社会の変化に対応した内容を取り上げ、セミナー等を企画・実施することである。

2022年度は教員の研究交流、情報交換、研修を行うことを目的に定期的なジャーナル・カフェの開催を合計8回、教育に関する研修を1回開催した。

2023年度は看護学部FD研修会として「ハラスメント防止研修」(参加者47名)、「考える力をつくる研究指導」(参加者77名)、ならびにジャーナル・カフェを8回実施している。

2024年度は、看護学部FD研修会として「看護教育カリキュラムの動向と改善に向けた取り組み」(参加者68名)、ならびにFDカフェ (Education Cafe) を4回実施した。各年度の活動状況は(資料7-3)のとおりである。

FD 実施状況 2022～2024年度 FDに関する検討・実施体制 (資料7-3)

2024年度

教育改善・教育評価・FDに関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催		
開催日	内容 (タイトル)	参加者数
2024年7月3日	第1回FDカフェ (Education Cafe) テーマ「実習における発達障がい傾向にある学生への対応・支援」 講師：奥野 裕子 准教授 (精神看護学)	63名
2024年9月19日	第2回FDカフェ (Education Cafe) テーマ「総合実習 (基礎看護学分野) におけるルーブリックを用いた実習評価」 講師：益 加代子 准教授 (看護管理学)	41名
2024年12月16日	看護学部FD研修会 テーマ「看護教育カリキュラムの動向と改善に向けた取り組み」 講演1「教学マネジメントに基づくコンピテンシー基盤型カリキュラムの取り組み」 西村 礼子 教授 (東京医療保健大学医療保健学部/大学院医療保健学)	68名

	研究科) 講演2「看護学生の学習を支援するシミュレーション教育の取り組み」 野島 敬祐 准教授（京都橘大学看護学部/大学院看護学研究科）	
2025年1月22日	第3回FDカフェ（Education Cafe） テーマ「3学科合同感染症診療基本手技実習」 講師：白井 みどり 教授（高齢者生活行動ケア科学）	23名
2025年3月5日	第4回FDカフェ（Education Cafe） テーマ「シミュレーション教育」 講師：井上 奈々 講師（急性看護学）	37名
教育改善・教育評価・FDに関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 (複数回の場合は「第1回（*月*日）～について」「第2回…」と記載）	委員の 人数
FD委員会	第1回（2024年4月18日）2024年度活動予定について	5名
FD委員会	第2回（2024年5月24日）成績GP分布、GPTデータの分析、FD研修会・FDカフェの企画について	5名
FD委員会	第3回（2024年6月10日）FD研修会・FDカフェの企画について	5名
FD委員会	第4回（2024年6月29日）学生調査、FD研修会・FDカフェの運営について	5名
FD委員会	第5回（2024年10月15日）2023年度の教学アセスメントにおける点検評価報告、学生調査、FD研修会・FDカフェの運営について	5名
FD委員会	第6回（2024年11月25日）2023年度の教学アセスメントにおける点検評価報告、学生調査、FD研修会・FDカフェの運営について	5名
FD委員会	第7回（2025年1月8日）2023年度の教学アセスメントにおける点検評価報告、FD研修会の報告、FDカフェの運営について	5名
FD委員会	第8回（2025年2月19日）2024年度部局FD活動報告、卒業予定者アンケート、FDカフェの運営について	5名
上記以外の教育改善・FDに関する取組		
看護学部では、教育改革委員会委員が調整し、教務委員会、学生委員会、FD委員会、部局評価委員会が連携し、2023年度のGP分布/GPCデータ、シラバス点検データ、卒業者・修了者の数や入学年度に関するデータ、履修指導の入力状況データ、前期・後期開講授業のていら・みすデータを分析し、教学アセスメントにおける年次点検評価を実施した。		

2023 年度

教育改善・教育評価・FDに関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催		
開催日	内容（タイトル）	参加者数
7 月 5 日	第 1 回ジャーナル・カフェ テーマ「糖尿病者の拘束性・閉塞性肺機能障害発症リスク及び関連する要因」 話題提供者：園田奈央准教授（看護情報学）	39 名
8 月 2 日	第 2 回ジャーナル・カフェ テーマ「セクシュアルヘルス介入に” 快楽” を含めることの付加価値とは」 話題提供者：和木明日香准教授（ウィメンズヘルス科学）	25 名
9 月 19 日	ハラスメント防止研修 話題提供者：竹内ゆかり（株式会社インソース）	47 名
10 月 4 日	第 3 回ジャーナル・カフェ テーマ「生体間腎移植ドナーの経済的負担とメンタルヘルス」 話題提供者：池田直隆講師（在宅看護学）	28 名
11 月 1 日	第 4 回ジャーナル・カフェ テーマ「新人看護師の学習活動におけるエンゲージメント」 話題提供者：勝山愛講師（看護教育学）	31 名
11 月 29 日	看護学部 FD 研修会 テーマ「考える力をつくる研究指導」 1. 基調講演「考える力をつくる看護学分野の研究指導」 西村ユミ教授（東京都立大学健康福祉学部） 2. シンポジウム話題提供者 ① 「社会科学分野における主体性を引き出す研究指導」 永井史男教授（大阪公立大学法学部） ② 「工学分野における研究の継続性を引き出す研究指導」 吉本佳世講師（大阪公立大学工学部） ③ 「社会人看護職から問いを引き出す研究指導」 志田京子教授（大阪公立大学看護学部）	77 名
12 月 6 日	第 5 回ジャーナル・カフェ テーマ「地域在住高齢者における尿酸とアテローム性動脈硬化症との関連について」 話題提供者：田中健太郎准教授（地域看護学）	23 名
1 月 10 日	第 6 回ジャーナル・カフェ テーマ「カロリー摂取は朝が良い？夜が良い？」 話題提供者：清水彬礼講師（療養ケア科学）	24 名
2 月 7 日	第 7 回ジャーナル・カフェ テーマ「救急医療機関における自殺未遂者への関わり」	22 名

	話題提供者：柱谷久美子助教（精神看護学）	
3月6日	第8回ジャーナル・カフェ テーマ「研究成果を共有するための方法：論文投稿後に研究成果公開促進費（学術図書）を取得して学術図書を出版した経験の共有」 話題提供者：平谷優子教授（子ども・家族看護学）	未実施
教育改善・教育評価・FDに関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 (複数回の場合は「第1回（*月*日）～について」「第2回…」と記載）	委員の人数
拡大FD委員会	第1回(4月18日)教学アセスメントについて	7名
FD委員会	第1回(4月18日)2023年度活動予定について	4名
拡大FD委員会	第2回(5月17日)教学アセスメント・ポリシーについて	7名
FD委員会	第2回（6月16日）ハラスメント研修の企画について	5名
FD委員会	第3回（2月16日）2023年度活動報告、2024年度活動の検討、教学アセスメントについて	3名
上記以外の教育改善・FDに関する取組（但し、成績GP分布関連は次項に）		
成績GP分布、GPCデータの分析に関連する事柄		
GP分布やGPCデータ分析等を活用して教学アセスメントの評価を行う際に、学内検討体制を整えていく必要性について、意見交換を行った。		

2022 年度

教育改善・教育評価・FDに関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催		
開催日	内容（タイトル）	参加者数
7月6日	第1回ジャーナル・カフェ テーマ「英論文抄読の意義と進め方」 話題提供者：河野あゆみ教授（地域包括ケア科学）	38名
8月3日	第2回ジャーナル・カフェ テーマ「アクションリサーチのすすめ方について」 話題提供者：長田暁子准教授（家族支援看護科学・小児看護学）	39名
9月7日	第3回ジャーナル・カフェ テーマ「代替補完療法の介入研究のあり方」 話題提供者：細名水生准教授（ヒューマンケア科学）	41名
10月5日	第4回ジャーナル・カフェ テーマ「観察研究におけるデータ収集」 話題提供者：深山香織講師（生活支援看護科学・在宅看護学）	23名
11月2日	第5回ジャーナル・カフェ テーマ「シングルケース実験デザインによる介入効果の評価について」 話題提供者：白井みどり教授（高齢者生活行動ケア科学）	27名
12月7日	第6回ジャーナル・カフェ テーマ「マイナーなテーマ・研究方法を用いた研究の論文アクセプトについて」 話題提供者：中山祐一講師（家族支援看護科学・小児看護学）	28名
12月21日	看護学部FD研修会 テーマ「看護実践力と自律的学習能力を伸ばす看護基礎教育」 1. 基調講演「アクティブラーニングを進める教育設計」 中井俊樹教授（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室） 2. シンポジウム話題提供者 ① 「自律的学習能力を伸ばすポートフォリオの活用」 星野聡孝教授（国際機関教育機構） ② 「シミュレーション医療教育について」 首藤太一教授（医学部総合医学教育学） ③ 「看護実践力を伸ばすアクティブラーニング」 杉本吉恵教授（看護学部・看護技術学分野）	75名
2月1日	第7回ジャーナル・カフェ テーマ「〈性暴力被害者にあうこと〉をめぐる「他者」を媒介とした語りの分析」 話題提供者：伊藤良子講師（基礎看護科学・看護技術学）	30名
3月1日	第8回ジャーナル・カフェ テーマ「〈あなたはお酒に強い？それとも弱い？〉と新型コロナウイルス mRNA ワクチンに対する反応性のお話」 話題提供者：藤田寿一准教授（健康支援基礎科学）	37名

教育改善・教育評価・FDに関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 (複数回の場合は「第1回(※月※日)～について」「第2回…」と記載)	委員の人数
FD委員会	第1回(5月2日)FD活動の検討について	4名
FD委員会	第2回(6月9日)FD研修とジャーナル・カフェについて	4名
FD委員会	第3回(7月5日)FD研修とジャーナル・カフェの検討	4名
FD委員会	第4回(1月25日)FD研修のまとめ、活動報告について	3名
上記以外の教育改善・FDに関する取組(但し、成績GP分布関連は次項に)		
成績GP分布、GPCデータの分析に関連する事柄		
看護学部FD委員会では、GPCデータについて看護師国家試験結果との関連の分析と対策、入試方法に基づく分析による入試改革への活用、新カリキュラムの評価に用いていく方向性を検討した。		

第8章 研究活動

1. 研究体制及び支援

研究の実施体制は、先進看護ケア科学と実践看護科学2領域の25小分野から構成されている。

外部研究資金獲得に関して、文部科学省の科学研究費補助金の場合には研究推進課による申請方法の説明会を行っているとともに、外部資金獲得に関するセミナーの開催なども実施している。このように研究が推進できるような施策が図られている。

研究資金としての基盤研究費の配分は、執行部会議において原案を作成し、教授会で決定する施策が実施されている。その他の支援としては、看護実践研究センターによる研究プロジェクトに対する研究・活動助成がある。

看護学部及び看護学研究科における独自の研究成果の発信や刊行のための組織として、広報委員会及び紀要委員会があり、各教員の研究成果の概略をホームページなどで公開している。研究活動の状況を把握する取り組みとして、各教員は毎年度末に教員活動情報データベースに自己の研究活動の申告を実施している。教員活動情報データベースは教員の個人情報に関する部分を除いて公開を原則としている。

看護学部及び看護学研究科における研究活動の質の向上に関する取り組みとしては、大学院看護学研究科研究倫理審査委員会・阿倍野地区利益相反マネジメント委員会がある。研究倫理審査委員会では、教員及び学生が行なう、人を対象とする研究では、学外の有識者を含む大学院看護学研究科研究倫理審査委員会において、倫理審査を実施している。阿倍野地区利益相反マネジメント委員会では、研究実施計画書(プロトコル)に記載された研究内容を実施するために必要な研究資金の確保、関係企業からの労務提供があるかどうかの確認と判断がなされている。このように倫理的に配慮した研究を支援するための研究倫理推進委員会、阿倍野地区利益相反マネジメント委員会等が整備され機能している。

本学の研究活動の一層の活性化を図ることを目的として、執行部において施策が検討されている。

2. 教員の研究活動

看護学部及び看護学研究科の2022年度～2024年度の研究活動を資料8-2-1に示す。

各年度の受託事業（受託研究を含む）、共同研究および、補助金、科学研究費（文部科学省・厚生労働省）、教育研究奨励寄付金の件数は当該年度に新規に受け入れた件数と前年度からの継続件数を合わせたものである。

金額については当該年度の受入金額であり、繰越金額は含んでいない。科学研究費（文部科学省・厚生労働省）の金額については看護学部及び看護学研究科の教員が研究の代表者または分担研究者として受入した金額を示している。（学外分担者への配分額は含まない。）また、各年度の特別研究員および客員教員数を資料8-2-2に示す。

資料8-2-1 外部資金獲得状況一覧（単位：千円）

年度等	種別	受託研究		共同研究		補助金等	科学研究費		教育研究 奨励寄付金
		国・独法	民間他	国・独法	民間他		文科省	厚労省他	
2024	件数	1	0	0	1	2	79	2	5
	金額	1,560	0	0	0	7,046	68,198	1,150	2,118
2023	件数	2	0	0	3	2	87	2	2
	金額	2,760	0	0	300	6,806	56,441	950	400
2022	件数	1	0	0	1	0	75	2	1
	金額	7,839	0	0	0	0	53,615	950	69

資料 8-2-2 特別研究員および客員教員数

	2024 年度	2023 年度	2022 年度
特別研究員	14	15	15
客員教員	2	2	0

3. 研究倫理審査委員会の活動

大阪公立大学大学院看護学研究科及び看護学部に所属する研究者等又は他の研究機関が行う人を対象とする研究について「ヘルシンキ宣言」並びに「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）の趣旨に沿って、倫理的観点及び科学的観点から審査することを目的として大阪公立大学大学院看護学研究科研究倫理審査委員会を置いている。

各年度の活動概要を資料 8-3 に示す。

資料 8-3 活動概要

2024 年度

1. 委員会開催

倫理審査に関する委員会を 16 回（うち予備審査委員会 8 回）開催した。

申請 102 件（通常審査：39 件、迅速審査：63 件）の研究倫理審査を行った。

博士前期課程：40 件（うち通常審査 8 件、迅速審査 32 件）

博士後期課程：21 件（うち通常審査 9 件、迅速審査 12 件）

教 員：41 件（うち通常審査 22 件、迅速審査 19 件）

2. 研究倫理審査委員会審査要領のうち、学部生の卒業研究に関わる内容を修正した。

3. 研究倫理審査の申請に関するオリエンテーションとして、大学院生、教員を対象とした説明動画および申請資料をポータルサイトに掲載した。

4. 2023 年度 研究実施状況報告書・研究終了報告書の提出状況を確認した。

5. 倫理審査申請書（様式 1）と研究実施計画書（様式 2）、一括審査依頼・研究機関要件確認書（様式 14）の見直し・修正を行った。

6. 外部からの研究協力依頼について委員長・副委員長で確認し、2 件の受諾、3 件の非受諾を判断した。

7. 2024 年度の研究倫理教育内容の確認・見直しを行い、現行のままとした。

2023 年度

1. 委員会開催

倫理審査に関する委員会を 17 回（うち予備審査委員会 9 回）開催した。

1) 申請 99 件（通常審査：44 件、迅速審査：55 件）の研究倫理審査を行った。

博士前期課程：36 件（うち通常審査 10 件、迅速審査 26 件）

博士後期課程：22 件（うち通常審査 7 件、迅速審査 15 件）

教 員：41 件（うち通常審査 27 件、迅速審査 14 件）

2) 報告事項にできる研究計画書の軽微な変更 1 件を確認した。

2. 研究倫理審査委員会審査要領、研究倫理審査申請手順書、研究倫理審査フロー、一括審査依頼・研究機関

要件確認書、審査日程を検討した。

3. 研究倫理審査の申請に関するオリエンテーションとして、大学院生、教員を対象とした説明動画および申請資料をポータルサイトに掲載した。
4. 通常審査・迅速審査・多機関共同研究における一括審査についての申し合わせを修正した。
5. 2022 年度 研究実施状況報告書・研究終了報告書の提出状況を確認した。
6. 研究実施計画書記載要領、研究倫理審査申請等様式を改訂した。
7. 外部からの研究協力依頼 1 件の受諾、1 件の非受諾を判断した。
8. 多機関共同研究に係る変更申請の取扱いについて検討した。
9. 本学情報システムにおける学外者との研究データの共有について検討した。
10. 2024 年度の研究倫理教育内容の確認・見直しを行った。
11. 2024 年度の外部委員（新規 1 名）の選任を行った。

2022 年度

1. 委員会開催

倫理審査に関する委員会を 15 回（うち予備審査委員会 8 回）開催した。

- 1) 申請 106 件（通常審査：44 件、迅速審査：62 件）の研究倫理審査を行った。

博士前期課程：48 件（うち通常審査 12 件、迅速審査 36 件）

博士後期課程：21 件（うち通常審査 9 件、迅速審査 12 件）

教 員：37 件（うち通常審査 23 件、迅速審査 14 件）

- 2) 報告事項にできる研究計画書の軽微な変更 1 件を確認した。

2. 研究倫理審査委員会規程・審査要領、研究倫理審査申請手順書、研究倫理審査フロー、申請書類、一括審査依頼・研究機関要件確認書、審査日程を検討した。
3. 研究倫理審査の申請に関するオリエンテーションとして、大学院生、教員を対象とした説明動画および申請資料をポータルサイトに掲載した。
4. 通常審査・迅速審査・多機関共同研究における一括審査についての申し合わせ、倫理審査コメント表記載要領を作成した。
5. 「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針ガイダンス」（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）の改正に伴い、研究実施計画書を改訂した。
6. 外部からの研究協力依頼 1 件の受諾を判断した。
7. 多機関共同研究に係る変更申請の取扱いについて検討した。
8. 2023 年度の研究倫理教育内容の確認・見直しを行った。

第9章 地域貢献活動

1. 地域社会への貢献

1) 地域貢献活動の状況

教員の地域社会への貢献として、看護実践研究センターの活動、外部資金による社会貢献活動、大学主催の公開講座、教員による出張講義等を実施している。

そのほか、厚生労働省や自治体の公的団体、さまざまな専門職団体における審議会等に参加し、積極的に社会貢献を行っている。

2) 看護実践研究センターの活動

看護実践研究センターでは、大阪府の看護の発展および地域住民の健康と生活の質向上に寄与するための取り組みとして、教員による地域貢献活動および研究を支援している。活動・研究助成として、看護職および保健医療福祉関係者の人材育成等を行う看護生涯学習支援、地域住民のヘルスリテラシーを醸成するための活動等を行う府民健康支援、国際的な学術研究活動を促進するための支援を実施している（資料9-1-1）。

また、専門職の交流・活動支援として CNS ネットワーク部会を設置し、交流・相談事業等を実施している。

看護実践研究センターの活動は、看護実践研究センター年報に掲載し、大学ホームページで公表している。

資料 9-1-1 2022 年度～2024 年度の看護実践研究センター活動助成一覧

2024 年度

部門	No	課題	代表者	共同研究者 共同活動者
看護生涯学習支援	活動	1 地域包括支援センター看護職のネットワークの構築 (交流会)	岡野明美	藤本公恵 志村いづみ
		2 がん患者のライフステージにおける課題対応を志向した看護師養成 コース (がん看護インテンシブコース)	林田裕美	田中京子 徳岡良恵
		3 看護職のための継続教育実践講座	勝山愛	細田泰子 古川亜衣美
		4 精神医療を支える看護職に向けたオンラインセミナーの企画・運営	河野あゆみ	松田光信 富川順子 奥野裕子 柱谷久美子
		5 ハイブリッド形式による集中治療に携わる看護師のためのクリティ カルケア看護実践講座	佐竹陽子	北村愛子 井上奈々
		6 未来を拓く！基礎から学ぶ看護研究セミナー（初級編）研究の実施・ 分析・成果の公表のプロセスを学ぼう（継続編）	細名水生	森木ゆう子 富澤理恵 重見雅子 椋木実希
		7 家族への看護を考える会 家族看護フォーラム	井上敦子	中山美由紀
府民健康支援	活動	1 大阪府民の健康・防災サポートプロジェクト	田中健太郎	根来佐由美 安本理抄 大野志保 都筑千景
		2 暮らしの保健室における住民育成活動	三輪恭子	篠原真咲 江口陽貴 坂口晴美
		3 発達障がいをもつ子どもの社会生活スキル(Social Skill)の獲得へ の支援に向けて-養育者、並びに彼らを支援する看護師等の保健医療 福祉関係者が活用可能な支援の工夫を学ぶための勉強会-	奥野裕子	柱谷久美子 古山美穂
国際・国内学術研究推進	研究	1 入院患者の音環境を整えるための ベストプラクティスの構築	園田奈央	森本明子 古木秀明 小池里彩
		2 同じ担当保健師の継続支援と乳幼児をもつ保護者の 専門職への認識との関連	横山美江	緒方靖恵 鈴木仁枝 堀内清華 近藤尚己 山縣然太郎 Karri Silventoinen
		3 地域在住高齢者における骨盤底フレイル対策と 便秘の関連要因-前期高齢者と後期高齢者の比較-	篠原真咲	三輪恭子 山本初美 小林美恵子

2023 年度

部門	No	課題	代表者	共同活動者
看護生涯学習支援	活動	1 地域包括支援センター看護職のネットワークの構築	岡野明美	藤本公恵 志村いずみ
		2 同期型オンライン形式による集中治療に携わる看護師のためのクリティカルケア看護実践講座	井上奈々	北村愛子 佐竹陽子
		3 実践に活かす基礎から学ぶ看護研究セミナー	細名水生	森木ゆう子 富澤理恵 重見雅子 石井雪美
		4 家族への看護を考える会 家族看護フォーラム	井上敦子	中山美由紀
		5 看護職のための継続教育実践講座	細田泰子	勝山愛 紙野雪香
		6 大阪府における心身障がい児のセクシュアリティ教育と支援を考える多職種連携の会	古山美穂	渡邊香織 清水彩 中嶋有加里 高知恵 山田加奈子 大野志保 奥野裕子 岡崎寛 織田智子 森岡満恵 村上智子 平木佳子 米田礼子 小寺樹里 丸本智佳子
		7 がん患者のライフステージにおける課題対応を志向した看護師養成コースがん看護インテンシブコース	林田裕美	田中京子 徳岡良恵
府民健康支援	活動	1 発達障害をもつ子どもの社会生活スキル(Social Skill)の獲得への支援に向けて-養育者、並びに彼らを支援する看護師等の保健医療福祉関係者が活用可能な支援の工夫を学ぶための勉強会-	奥野裕子	古山美穂
		2 暮らしの保健室における住民育成活動	深山華織	三輪恭子 中川智恵 山本初美 鏡畑麻子 片岡友子
		3 地域と大学との連携による防災・健康支援プロジェクト	田中健太郎	根来佐由美 安本理抄 大野志保 都筑千景 大上鈴奈 志野まなみ 横山紗永
		4 健康的に日常を生きることを応援する「ホッと&ハートの会」	南村二美代	旗持知恵子 中村雅美 太田佳織 宮地さやか 福岡綾 小西利佳

2022 年度

部門	No	課題	代表者	共同研究者 共同活動者
看護生涯学習支援	研究	1 在留外国人への産褥保健指導に関わる助産師のストレスとその関連要因の検討 - 尿中バイオピリンによる評価 -	高 知恵	千葉 貴子 中根 祥子 谷口 朱子 渡邊 香織 中嶋 有加里 古山 美穂 山田 加奈子
		2 うつ病入院患者への排便ケアによる患者の変化－事例研究－	富川 順子	村上 嶺 大谷 智子 山川 みやえ
	活動	1 地域包括支援センター看護職のネットワークの構築	岡野 明美	藤本 公恵 西嶋 智加
		2 同期型オンライン形式による集中治療に携わる看護師のためのクリティカルケア看護実践講座	佐竹 陽子	北村 愛子 井上 奈々
		3 がん患者のライフステージにおける課題対応を志向した看護職養成コース（がん看護インテンシブコース）	林田 裕美	田中 京子 徳岡 良恵
		4 家族への看護を考える会 家族看護オンラインフォーラム	井上 敦子	中山 美由紀
		5 看護職のための継続教育実践講座	紙野 雪香	細田 泰子 勝山 愛
		6 看護職・介護職のための腰痛予防推進リーダー研修会	杉本 吉恵	相原 ひろみ 山口 舞子 細名 水生 富澤 理恵
		7 看護職を対象とした実践に活かす看護研究セミナー	細名 水生	森木 ゆう子 富澤 理恵 重見 雅子 湊 恵実子
府民健康支援	研究	1 心身障がい児の性行動の実態と養育者が認知する当人のセルフマネジメントに関するニーズ	古山 美穂	岡崎 寛 織田 智子 渡邊 香織 佐保 美奈子 中嶋 有加里 高 知恵 山田 加奈子
	活動	1 健康的に日常を生きることを応援する「ホッと&ハートの会」	南村 二美代	簗持 知恵子 中村 雅美 西 初子 福間 綾 上村 里沙 門前 結 小西 利佳 太田 佳織
		2 地域における出前健康講座	根来 佐由美	田中 健太郎 安本 理抄 大野 志保 都筑 千景
		3 暮らしの保健室における住民育成活動	深山 華織	三輪 恭子 中川 智恵 山本 初美
国際学術研究推進	研究	1 日本語版ワクチンリテラシー尺度の開発	中山 祐一	志田 京子 益 加代子 相原 ひろみ 喜田 雅彦 WantanaManeesriwongul
		2 子どもへのCOVID-19 ワクチン接種の動向とワクチンリテラシー、態度、意図およびCOVID-19 ワクチン接種に関連する因子の検討	志田 京子	益 加代子 相原 ひろみ 喜田 雅彦 中山 祐一 WantanaManeesriwongul

3) 外部資金による社会貢献活動

教員が実施した外部資金による社会貢献活動は、下記のとおりである（資料9-1-2）

(1) 大阪府訪問看護専門研修事業

大阪府訪問看護推進事業の補助を受け、訪問看護ステーションに勤務する看護職員、セラピスト（作業療法士、理学療法士、言語聴覚士）を対象に、訪問看護専門研修事業を実施した。本事業の内容は、大阪公立大学訪問看護専門研修事業のホームページで公表している。

(2) 特定健診受診率向上プロジェクト

本事業は、2020年度にモデル5市における大規模な実態調査および大阪府内の地域特性の分析を実施し、それらから得られた知見と既存のエビデンスを基に効果的なプロモーションを提案した。続く2021年度には、提案したプロモーションを実践するための受診勧奨資材を開発し、モデル5市等において実際にプロモーション活動を展開した。そして、2022年度は、開発した受診勧奨資材の提供および実践的なワークショップの実施（第1回～第4回ワークショップ、フォローアップ個別相談会）により、大阪府内の市町村に対して効果的なプロモーションの横展開を図った。

第2回および第4回ワークショップ終了後には、参加した市町村から以下のような感想が寄せられた。

- ・「いただいた資材や受診勧奨の手法を使って、今年度チラシやハガキのデザインを一新することができた。2月末時点の受診率が前年同月比3%上昇しており、このワークショップのおかげだと思う。」
- ・「ワークシートを使用したことで、本市の受診勧奨状況を整理するきっかけになった。また、他市の取り組みを知る機会はなかなかないため、新たな発見があり、非常に参考になった。」
- ・「特定健診の受診率向上のためのPDCAサイクルの回し方を丁寧に教えていただき、とても参考になった。」

資料9-1-2 外部資金による社会貢献活動

2024年度

外部資金名	代表者	事業名	補助金額(円)
補助金) 次世代のがんプロフェッショナル養成プラン／阪神5大学サステナブルがん人材養成プラン	田中 京子	阪神5大学サステナブルがん人材養成プラン	5,400,000
補助金) 令和6年度大阪府訪問看護専門研修事業費補助金	三輪 恭子	訪問看護専門研修事業	1,646,000

2023年度

外部資金名	代表者	事業名	補助金額(円)
補助金) 次世代のがんプロフェッショナル養成プラン(阪神5大学サステナブルがん人材養成プラン)	田中 京子	阪神5大学サステナブルがん人材養成プラン	5,177,000
補助金) 大阪府 令和5年度大阪府訪問看護専門研修事業費補助金	三輪 恭子	訪問看護専門研修事業	1,629,000

2022 年度

外部資金名	代表者	事業名	補助金額(円)
特定健診受診率向上プロジェクト 対象者の実態や実情に応じた効果 的なプロモーションの確立	森本 明子	国保ヘルスアップ支援事業	7,839,448
補助金)大阪府 令和4年度大阪府訪問 看護専門研修事業費補助金	三輪 恭子	訪問看護専門研修事業	1,612,000

4) 高大連携

青少年の学習意欲に応えた教育サービスの提供については、大阪公立大学地域連携・生涯学習委員会によって実施されている。2023 年度および 2024 年度に高校生が受講できる科目として看護学部で開講している授業科目「災害支援看護論」(1 単位 15 時間)を提供した。2022 年度は実施していない。(資料 9-1-3)。

資料 9-1-3 「災害支援看護論」の講義日程等

2024 年度

1. 開講日時 : 2024 年 11 月 1 日 ～ 2024 年 12 月 20 日 (全 8 回)
2. 場 所 : 羽曳野キャンパス L 棟 403
3. 担当者 : 富川順子教授 (2 回)、益加代子准教授 (4 回)、ゲストスピーカー (2 回)
4. 受講者 : 8 名
5. 高校数 : 3 校

2023 年度

1. 開講日時 : 2023 年 11 月 9 日 ～ 2024 年 1 月 18 日 (全 8 回)
2. 場 所 : 羽曳野キャンパス L 棟 403
3. 担当者 : 富川順子教授 (2 回)、益加代子准教授 (4 回)、ゲストスピーカー (2 回)
4. 受講者 : 13 名
5. 高校数 : 4 校

高大連携の一環として、教員が高校等へ出向き、看護学の専門分野に沿ったテーマで「出張講義」を行っている。2022 年度は 12 校 (内中学 1 校)、2023 年度は 6 校、2024 年度は 11 校、高等学校以外での出張講義は 2022 年度 1 件、2023 年度 2 件、2024 年度 1 件であった。(資料 9-1-4)

資料 9-1-4 出張講義実施状況

2024 年度

(名)

NO.	開催日	申込団体	講義テーマ	講師	受講者数
1	6 月 13 日	大阪府立布施北高等学校	性についてちゃんと知ろう	高知恵	372
2	6 月 20 日	大阪府立今宮高等学校	男女のおつきあいのマナーとデートバイオレンスの予防	高知恵	243
3	7 月 18 日	大阪府立堺東高等学校	生と性の授業	古山美穂	9
4	9 月 17 日	大阪府立堺東高等学校	性暴力	伊藤良子	9
5	9 月 19 日	大阪府立東百舌鳥高等学校	LGBTQ+ (セクシュアルマイノリティ)	伊藤良子	22

6	9月25日	大阪府立東百舌鳥高等学校	LGBTQ+（セクシュアルマイノリティ）	伊藤良子	34
7	9月26日	大阪府立懐風館高等学校	性教育	伊藤良子	150
8	10月24日	大阪府立登美丘高等学校	性教育	伊藤良子	300
9	12月20日	岸和田市立産業高等学校	大切なからだと気持ち～デートバイオレンスをとおして～	山田加奈子	735
10	1月16日	藍住町人権教育推進協議	女性の人権について（性暴力、DV・デートDV）	伊藤良子	48
11	1月30日	大阪府立伯太高等学校	性教育	伊藤良子	241
12	1月30日	大阪府立堺東高等学校	性教育について	山田加奈子	280

2023 年度 (名)

NO.	開催日	申込団体	講義テーマ	講師	受講者数
1	5月16日	大阪府教育センター附属高等学校	これから羽ばたく皆さんと考える‘生きる’ということ	古山美穂	240
2	6月8日	大阪府立登美丘高等学校	ちょっと真面目に性の話をしましょうー性教育、ジェンダー、からだの話	伊藤良子	259
3	6月14日	大阪府立東百舌鳥高等学校	しない、させない性（セクシュアリティ）に対する暴力 LGBTQ+、デートDV、性暴力	伊藤良子	19
4	6月16日	株式会社ナーシングトラスト	効果的かつ実践可能な感染対策の検討	喜田雅彦	8
5	6月17日	相愛中学校・高等学校	子どもも親も安心できる関係ー思春期の子どもへの支援からみえることー	古山美穂	90
6	11月21日	交野市福祉部高齢介護課	やってみよう！人生会議（ACP）	三輪恭子	73
7	1月25日	大阪府立堺東高等学校	大切な体と気持ち～デートバイオレンスを通して～	山田加奈子	243
8	3月21日	堺市人権教育推進協議会宗教部会	認知症高齢者への対応家族や知人として認知症高齢者を地域で支えるには	長畑多代	80

2022 年度 (名)

NO.	開催日	申込団体	講義テーマ	講師	受講者数
1	5月30日	大阪府立今宮高等学校	男女のおつきあいのマナーとデートバイオレンスの予防	高 知恵	244
2	6月20日	兵庫県立網干高等学校	看護について	北村愛子	32
3	6月30日	大阪府立みどり清朋高等学校	性についての講演	佐保美奈子	235
4	7月15日	大阪府教育センター附属高等学校	これから羽ばたく皆さんと考える‘生きる’ということ	古山美穂	240
5	8月8日	富田林市立金剛中学校	「いのちの授業」とは	古山美穂	35
6	8月24日	大阪府立堺東高等学校	LGBTs(セクシュアルマイノリティ)とジェンダー	伊藤良子	10
7	9月7日	大阪府立東百舌鳥高等学校	エッチのまわりにあるもの	伊藤良子	36
8	9月15日	大阪府立懐風館高等学校	看護と助産のしごと	中嶋有加里	12
9	9月22日	大阪府立東住吉総合高等学校	生と性の授業	古山美穂	197
10	10月20日	大阪府立登美丘高等学校	セクシュアリティ概論	佐保美奈子	270

11	10月28日	交野市福祉部高齢介護課	アドバンスケアプランニング (人生会議) について	三輪恭子	35
12	1月12日	大阪府立堺東高等学校	大切な体と気持ち-デートバイ オレンスをとおして-	山田加奈子	243

また、一般公開講座は2022年度1件、2023年度1件、2024年度0件であった。(資料9-1-5)

資料9-1-5 一般公開講座実施状況

2023年度

NO.	開催日	講座の種類	講義テーマ	講師	開催場所
1	7月10日－ 7月31日	一般公開講座	公大講座（第1部）	奥野裕子	I-site なんば

2022年度

NO.	開催日	講座の種類	講義テーマ	講師	開催場所
1	5月19日－ 6月13日	その他	第262回市民医学講座「現代のお産 と子育て」	玉上麻美	オンライン

5) 教員の社会貢献

看護学部には所属する教員は、保健、医療、福祉などの分野と関連を保ち、専門看護や専門基盤についての研究・教育に携わりながら、審議会等に積極的に参画している。参画する審議会等の公的団体としては、内閣府（外局）独立行政法人国立病院機構、地方独立行政法人大阪府立病院機構、大阪府または府下市町村、看護協会、各教員が所属する学会等である。具体的な社会貢献活動は「資料 大阪公立大学看護学部 大学院看護学研究科 教員業績一覧」に示す通りである。

第10章 国際交流

1. 国際交流

2022年度から2024年度の国際交流は、アジア圏の大学を中心として交流を活発に行った。2022年度から2024年度に実施した国際交流の詳細を下記に記載している。

1) 国際交流活動

【2024年度 国際交流活動報告】

1) 2024年度マヒドン大学の大学院生の交流受け入れ

- ・期 間 : 7月1日～2日
- ・来 訪 者 : マヒドン大学の修士課程に在籍する大学院生7名
- ・主な日程:
 - 7月1日: 阿倍野キャンパス、スキルシミュレーションセンターへの見学訪問
 - 7月2日: 看護学研究科長への表敬訪問、大阪急性期・総合医療センターの見学訪問

2) シーナカリンウイト大学とのインターナショナルカフェ開催 (Web)

- ・期 間 : 2月21日 16時30分～18時
- ・参 加 者 : シーナカリンウイト大学の看護学生13名、教員2名、本学看護学生3名（発表者2名、見学者1名）、教員3名
- ・主な発表内容
 - People and Experiences That Inspired My Aspiration to Become a Nurse
 - Lectures and Lab Training That Influenced My Nursing Practice
 - Difficulties and Solutions Faced During Hospital Clinical Training
- ・交流内容:

互いの国の看護の特徴について、発表を通して理解し、タイの医療の特徴について教員から聞くことができた。また、看護教育においてカリキュラムの違いについて情報交換もできた。国際交流活動から、学生は異文化への興味や共通言語を通して相互理解することの楽しさを学ぶことができた。

3) 国際会議「Triple Burdens of Disease Conference 2025」（タイ・マヒドン大学主催）の共催校としての参画

①概要

2025年1月7日から9日に開催されたタイのマヒドン大学主催の国際会議「Triple Burdens of Disease Conference 2025」に国際交流委員会活動の一環で共催校として4名の教員が参加した。本会議のテーマは「Nurse-Led Game Changer to Optimize the Outcomes of Care（看護師主導によるケア成果の最適化を目指す変革）」で、世界的な健康政策や疾病の三重負担（Triple Burdens of Disease*）が人々の健康と福祉に与える影響を理解し、看護が主導する介入を通じてケアの成果を向上させるための戦略を探ることを目的として開催され約400人の参加があった。

マヒドン大学は、タイにおける公衆衛生分野のリーダーとして、研究と教育の発展に長年尽力されている。本会議では世界各国の専門家や研究者、政策立案者が一堂に会し、それぞれの研究成果を共有するとともに、健康課題の包括的な解決に向けて議論された。

さらに、本会議では、感染症、非感染性疾患（NCDs）、気候変動や貧困問題による健康格差などの健康リ

スクを含めた「疾病の三重負担」について、地域ごとの特徴や影響について議論した。また、看護学が主導する持続可能な解決策や、地域社会や国際的な協力体制の構築に向けた実践的なアプローチも議論の中心となった。

このような学術交流の場は、現代の複雑な健康課題に取り組むための重要な機会であり、看護学の可能性をさらに広げる機会となる。本学においても引き続きグローバルな視点から様々な健康問題解決に向けた研究を推進し、地域の健康問題解決に貢献できるよう尽力する。

*Triple Burdens of Disease とは、以下の3つの健康負担を指す。

1. 感染症や母子保健に関連する伝統的な疾病負担
2. 非感染性疾患（NCDs: Non-Communicable Diseases）の増加
3. 環境や社会的要因による新たな健康リスク

②共催校（co-host）としての参加

主催校のマヒドン大学以外に、タイ、日本、台湾、香港、中国、アメリカ等26校のco-hostの参加があった。日本からは本学の他、聖路加国際大学、九州大学の参加があった。Co-hostとしての役割は、国際会議でのシンポジウム発表や国際会議参加、座長や国際会議での発表などがあった。本学からは4名が参加し、国際会議での発表を行った。

③国際会議における発表について

ポスター発表

ヘルスプロモーションケア科学の教員は、“A literature review on social isolation and loneliness among child-rearing mothers in Japan”をテーマとした研究についてポスター発表を行った。Poster Sessionでは、多くの大学の先生から質問を受け、研究の内容について討議をすることができた。

④口演発表

1月8日午後に、口頭発表が実施された。“Nursing Innovation”、“Management of Care”、“Public Health & Community”、“Mental Health”、“Health System & Policy”の5つのカテゴリがあり、約40演題の発表登録があった。各々のカテゴリごとの部屋に分かれて発表が実施された。タイ、日本、香港や中国などの参加者の発表があった。

Nursing Innovationのカテゴリで、ウィメンズヘルスケア科学の教員より、“Effectiveness of SP6(san yin jiao) acupressure during the first stage of labor on duration of labor : Systematic review and meta-analysis”として発表を行った。分娩促進効果があるといわれる三陰交のツボ指圧刺激が、分娩時間の短縮をもたらすかどうかの効果検証に関するシステマティック・レビュー、メタアナリシスの結果に関して報告を行った。分娩時間短縮の効果の可能性が示唆されるが、異質性が非常に高く、対象RCTが5件と少ないものだった。フロアからは、高い異質性の原因は何かという質問などがあり、有意義な発表を行うことができた。

【2023年度 国際交流活動報告】

本年度は、オンラインおよび対面による多様な国際交流プログラムを実施し、学生のグローバルな視点の育成と異文化理解の深化に注力した。タイのマヒドン大学との連携を中心に、学生派遣・受け入れを通じた活発な交流が行われた。

1) オンライン国際交流：マヒドン大学とのインターナショナルカフェ開催

学類生を対象としたマヒドン大学とのオンライン交流プログラム「インターナショナルカフェ」を2回開催した。マヒドン大学看護学生（2年生）と本学の看護学生がオンラインで繋がり、看護への思いや文化の違い

について意見を交わした。

第1回：2024年2月7日

テーマ：「私が目指す理想の看護師像について」

参加者：マヒドン大学看護学生3名、教員1名、国際交流課担当者1名、本学看護学生4名（発表者2名、見学者2名）、教員1名

第2回：2024年2月21日

テーマ：「それぞれの国の文化を象徴した看護援助について」

参加者：マヒドン大学看護学生3名、教員1名、国際交流課担当者1名、本学看護学生3名（発表者2名、見学者1名）、教員1名

この交流を通じて、学生たちは看護に対する国際的な視点を養い、互いの文化や価値観を尊重する姿勢を育む貴重な機会となった。

2) ラマティボディ看護学部サマープログラムへの参加

学部4年生5名（大阪府立大学出身4名、大阪市立大学出身1名）が、2023年7月31日から8月11日まで、タイのラマティボディ看護学部が実施する「Ramathibodi School of Nursing Summer Course Program (RSON)」に参加した。

参加学生は、香港、台湾、インドネシアからの学生とともに多文化環境での学習を経験し、国際的なネットワークを構築した。プログラムの成果は、11月16日に開催された学部1年生対象の「異文化と看護倫理」の授業内報告会で発表され、多くの学生に国際交流の重要性が伝えられた。

3) マヒドン大学シリラート校との学術交流協定に基づく学生交流

マヒドン大学シリラート校との学術交流協定に基づき、活発な学生交流が行われた。

① 本学大学院生のマヒドン大学シリラート校への派遣

本学大学院生5名が、2023年9月4日から9月16日までマヒドン大学シリラート校に派遣され、協定プログラム「異文化看護フィールドワークA」を履修した。

プログラム内容

- 9月4日 : 歓迎セレモニー
- 9月5日 : シリラート病院小児病棟視察
- 9月6日 : グランドパレス視察
- 9月7日、8日: シリラート病院産科病棟視察
- 9月12日 : ヘルスプロモーション病院視察
- 9月13日 : 寮内で実施されているヘルスプロモーション活動に参加
- 9月14日 : サラヤキャンパス見学

学生たちは、タイの医療現場や文化に触れることで、異文化における看護の実践と課題について理解を深めた。

② マヒドン大学シリラート校からの大学院生受け入れ

マヒドン大学シリラート校看護学部より、大学院生2名（Miss Wanida Jaipaeng、Miss Manutsawin Kunthamas）を2023年10月15日から10月28日まで受け入れた。

【2022 年度 国際交流活動報告】

1) 2022 年度に採択されたさくらサイエンスプランの予算を活用して修了生によるオンライン講義を実施した。

日時：12 月 22 日 14 時～17 時

テーマ①：日本の病院における感染専門看護師の役割

講師：りんくう総合医療センター 感染症看護専門看護師 瓜田裕子氏

テーマ②日本の保健所に従事する保健師の役割

講師：守口保健所 保健師 大平俊介氏

参加者： OMU 8 名（内大学院生 3 名、教員 5 名）

マヒドン大学 19 名（内大学院生 6 名、学部生 13 名）

2) 国際学術交流協定

2025 年 5 月にオレゴンヘルスサイエンス大学との協定を更新した。

3) 教員の海外研究活動

2022 年度～2024 年度の教員の海外研究活動の実績について下記に報告する。

先進ケア科学領域の教員延べ 17 人が海外研究活動に参加した。このうち、国際学術会議には 11 名が参加し、アジア圏の学会が 5 名、欧州の学会が 3 名、北米の学会が 2 名、中東の学会が 1 名であった。参加費用として、科研費（文科省）による参加が 7 件、大学運営費による参加が 4 件であった。研究者フォーラムはアジアで実施され、4 名が参加した。費用はすべて科研費であった。さらに、海外との共同研究活動は欧州で 2 回実施された。参加費用は、すべて科研費であった。

実践看護学領域の教員延べ 21 人が海外研究活動に参加した。このうち、国際学術会議には 7 名が参加し、アジアの学会が 6 名、欧州の学会が 1 名であり、費用は科研費による参加が 7 件であった。海外の視察や見学には 10 名が参加し、アジア圏が 2 名、北米圏が 8 名であった。費用は科研費 9 件、大学運営経費 1 件であった。アジアのワークショップや講習会には 2 名参加した。経費は科研費による参加が 1 件、大学運営経費が 1 件であった。アジア圏への学生の海外派遣には 2 名が引率した。

資料

大阪公立大学看護学部 大学院看護学研究科

教員業績一覧

書籍等出版物(教授)

名前	出版年月	著者名	タイトル	出版機関・掲載誌名	掲載頁
河野 あゆみ (地域包括ケア 科学)	2024年8月	日本医学会連合 領域横断的連携活動事業 (TEAM事業) 「フレイル・ロコモ対策会議」編	フレイル・ロコモのグランドデザイン	日本医事新報社	442-447
	2023年9月	尾崎章子 編	実習指導者・教員のための 地域・在宅看護実習指導ガイドブック	中央法規出版	39-98
	2023年7月	河野あゆみ 総監修	地域・在宅看護論まとめノート	メヂカルフレンド社	-
	2023年1月	河野あゆみ 編著	強みと弱みからみた地域・在宅看護過程＋総合機能関連図 第2版	医学書院	2-41, 353-367, 488-501, 502-516
作田 裕美	2024年12月	北村薫,岩瀬哲,青儀健二郎,作田裕美,他	患者さんのためのリンパ浮腫ガイドライン2025年版	金原出版	37-42 51-52 96
	2024年3月	北村薫,岩瀬哲,青儀健二郎,作田裕美,他	2024年版リンパ浮腫診療ガイドライン	金原出版	32-36 49-53 108-109
	2023年9月	長畑智政,菊地透,大野和子,作田裕美,他	医療領域の放射線管理マニュアル-Q&A・医療関係法令ー	医療放射線防護連絡協議会	140
	2022年10月	相羽恵介・青山徹・作田裕美・他多数	がん支持医療テキストブック 日本がんサポーターズケア学会編	金原出版	197-202
佐藤 淑子	2025年3月	編集：井上智子,窪田哲郎	病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程 (第5版)	医学書院	1387-1396, 1728-1744
志田 京子	2023年1月	吉田千文, 志田京子, 手島恵, 武村雪絵 他	ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理	メディカ出版	107-121,160-163,216-
	2022年10月	志田京子,山口舞子,伊藤良子,下岡ちえ	ミッフィーの早引き看護間き言葉・略語ハンドブック	エクスナレッジ社	1-304
	2022年5月	志田京子 山口舞子 伊藤良子 下岡ちえ	会話の場面でわかる！ 看護間き言葉使い方辞典	エクスナレッジ社	1-280
白井 みどり	2023年7月	白井みどり	新体系看護学全書 地域・在宅看護論 まとめノート (総監修：河野あゆみ)	メヂカルフレンド社	196-201
都筑 千景	2025年1月	和泉京子,上野昌江,都筑千景,他	公衆衛生看護学 第4版	中央法規	220-245
長畑 多代	2023年3月	長畑 多代	老年看護学概論「老いを生きる」を支えることとは 改訂第4版	南江堂	100-103
仁尾 かおり	2024年7月	編集：日本小児循環器学会 共著者：山岸敬幸,坂本喜三郎,岩本眞理,城戸佐知子,土井庄三郎,小野博,仁尾かおり,他	小児・成育循環器学 改訂第2版 【第Ⅱ章 診断・治療総論】 [J. 小児・成育循環器領域の看護学]	診断と治療社	309-314

名前	出版年月	著者名	タイトル	出版機関・掲載誌名	掲載頁
旗持 知恵子	2024年11月	宮脇 郁子, 旗持 知恵子編著	看護実践緒ための根拠がわかる成人看護技術：慢性看護 第3版	メヂカルフレンド社	21-31 35-39 48-52
	2024年3月	林直子,佐藤まゆみ編著,旗持知恵子 他著	改訂版 成人看護学	放送大学教育振興会	43-59
	2023年2月	鈴木久美,旗持知恵子,佐藤直美編 他10名著	慢性期看護 病気とともに生活する人を支える 改訂第 4版	南江堂	72-86 110-116 518 521- 524
平谷 優子	2024年10月	泉澤真紀,岩佐美香,岩本真紀,太田浩 子,大山晴美,王志霞,岡本綾子,岡本 洋一,垣東真衣,河合晴美,河津聖里 奈,小出淳貴,小西一枝,佐藤由恵,杉 原美音,鈴木智子,副島堯史,高木良 重,竹内千夏,寺尾奈歩子,土岐弘美 香,戸高理恵,永友舞,永吉円,西元康 世,伴野唯,平谷優子,平野延子,藤澤 盛樹,藤原尚子,法橋尚宏,本田裕美, 松木さくら,三木佳子,宮原真二,森口 由佳子,森光優,矢島弘子,山田暢子, 横山奈美,渡邊幹生,薬田希世和 (共著)	看護師国試ラビッドスタディ 2025	EDITEX	1-225
	2023年10月	泉澤真紀, 井須孝弘, 今井江里, 入江 安子, 岩佐美香, 岩本真紀, 太田浩 子, 王志霞, 岡本綾子, 小出淳貴, 佐 藤由恵, 鈴木智子, 副島堯史, 竹内千 夏, 土岐弘美, 戸高理恵, 永吉円, 西 元康世, 平谷優子, 藤澤盛樹, 法橋尚 宏, 三木佳子, 宮原真二, 森口由佳 子, 守屋薫, 山川恵子, 山田暢子, 渡 邊幹夫, 和辻雄仁 (共著)	看護師国試ラビッドスタディ 2024	EDITEX	1-255
	2023年1月	河野あゆみ編集, 草場鉄周編集協力, 【医学解説】 浅井真嗣, 飯島勝矢, 石垣泰則, 今村弥生, 榎原剛, 太田秀 樹, 小倉和也, 小野沢滋, 加藤光樹, 木下朋雄, 木村琢磨, 佐藤健一, 千田 一嘉, 遠矢純一郎, 土倉潤一郎, 土畠 智幸, 難波雄亮, 難波玲子, 藤崎万 裕, 松坂英樹, 和田忠志, 【看護解 説】 池田直隆, 岡本双美子, 片倉直 子, 加茂ふみこ, 草部眞美, 河野あゆ み, 小林愛, 武ユカリ, 立石容子, 田 中陽子, 濱吉美穂, 平谷優子, 深山華 織, 福島奈緒美, 藤田俱子, 丸尾智 実, 丸山加寿子, 吉行紀子, 【動画解 説】 河野あゆみ, 丸山加寿子 (分 担執筆)	強みと弱みからみた地域・在宅看護過程 第2版 + 総合的 機能関連図 (「小児がん」「重症心身障害児」担当)	医学書院	1-590 (担当個 所：176- 188,412- 426)
	2022年11月	平谷優子 (単著)	ひとり親家族の看護学	晃洋書房	1-132

名前	出版年月	著者名	タイトル	出版機関・掲載誌名	掲載頁
平谷 優子	2022年10月	泉澤真紀, 井上ちはる, 今井江里, 入江安子, 岩佐美香, 岩本真紀, 太田浩子, 岡田純也, 岡本綾子, 岡本洋一, 川端愛野, 木島夏海, 鷺野貴子, 庄野垂矢子, 鈴木智子, 副島堯史, 竹内千夏, 土岐弘美, 戸高理恵, 永吉円, 西元康世, 平谷優子, 藤澤盛樹, 法橋尚宏, 本田裕美, 三木佳子, 宮地普子, 森口由佳子, 守屋薫, 山川恵子, 山田暢子, 林綺婷, 渡邊幹夫 (共著)	看護師国試ラビッドスタディ 2023	EDITEX	1-255
松田 光信	2023年1月	編著／山本勝則, 守村洋	看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 (第3版)	メヂカルフレンド社	19-36 186-189 256-288
三輪 恭子	2024年10月	福井トシ子監修	診療報酬・介護報酬のしくみと考え方 (第7版)	日本看護協会出版会	187-214
	2024年9月	一般社団法人全国訪問看護事業協会編	訪問看護を支える在宅ターミナルケア (第2版)	日本看護協会出版会	170-181
	2023年7月	河野あゆみ総監修	地域・在宅看護論まとめノート	メヂカルフレンド社	077-082
	2022年12月	三輪恭子, 河野あゆみ	英論文をどう抄読し, 何を学ぶか	医学書院・看護研究	654-661
	2022年9月	福井トシ子監修	診療報酬・介護報酬のしくみと考え方 (第6版)	日本看護協会出版会	187-249
森本 明子	2025年1月	尾崎米厚, 金城文, 原田亜紀子, 森本明子, 宮松直美	疫学・保健統計学 第4版	医学書院	23-62
	2024年4月	園田 奈央, 森本 明子	Journal Club on Paper II 英論文からリアルワールド・データ解析をどう学ぶか(no.4) 機械学習を用いた入院患者の転倒リスク予測モデルの開発 機械学習(教師あり学習)を学ぶ	医学書院・看護研究	152-160
	2024年2月	森本 明子	Journal Club on Paper II 英論文からリアルワールド・データ解析をどう学ぶか(no.3) 米国退役軍人保健局における禁煙薬物療法の有用性 傾向スコア分析を中心に学ぶ	医学書院・看護研究	58-66
山口 曜子	2023年9月	秋山明子, 阿部あかね, 内田都良, 小野美穂, 香川由美子, 黒岩志紀, 田野中恭子, 東本幸代, 平尾恭子, 山口曜子, 利木佐起子	看護師国家試験対策ブック 必須問題まんてんGET	メディカ出版	222-245
	2022年9月	秋山明子, 阿部あかね, 内田都良, 小野美穂, 香川由美子, 黒岩志紀, 田野中恭子, 東本幸代, 平尾恭子, 山口曜子, 利木佐起子	看護師国家試験対策ブック 必須問題まんてんGET	メディカ出版	221-248
横山 美江	2024年3月	関根道和 本庄かおり 横山美江 他	はじめて学ぶやさしい疫学	南江堂	93-98

名前	出版年月	著者名	タイトル	出版機関・掲載誌名	掲載頁
横山 美江	2023年12月	深井喜代子 前田ひとみ 横山美江 他	基礎看護学テキスト	南江堂	382-388
	2023年2月	松本俊彦 編,國分功一郎,大空幸星,吉川徹,松本俊彦,横山美江 著	孤独と孤立	日本看護協会出版会	53-63
	2022年10月	横山 美江	ネウボラから学ぶ児童虐待防止メソッド	医学書院	全ページ

(准教授)

名前	出版年月	著者名	タイトル	出版機関・掲載誌名	掲載頁
益 加代子	2023年1月	吉田千文,志田京子,手島恵,武村雪江 他	ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践①看護管理 第5 版	メディカ出版	220-228
岡野 明美	2025年1月	和泉京子,上野昌江,岡野明美他	公衆衛生看護学第4版	中央法規	479-494
河野 あゆみ (精神看護学)	2023年1月	松田光信,河野あゆみ	看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術 第3版	メヂカルフレンド	256-288
佐竹 陽子	2023年5月	日本臨床救急医学会, 日本クリティカルケア看護学会 監修	入院時重症患者対応メディエーター養成テキスト	へるす出版	39-42
	2022年4月	荒尾晴恵, 菅野かおり他	がん看護 ナースポケットブック	学研メディカル秀潤社	34-41
清水 彩	2025年2月	一般社団法人 日本新生児看護学会「NICUに入院している新生児の痛みのケアガイドライン」委員会	NICUに入院している 新生児の痛みの ケアガイドライン 第3版（2025年）	株式会社 クバプロ	70-72, 79-91 , 126-129
	2024年2月	飯島一誠,稲垣由子,北山真次,清水彩,高谷知史,富岡和美,永瀬裕朗,本田順子,松井鋭,八木麻理子	わかりやすい子どもの保健 第2版	総合医学社	151-158, 162-170
	2023年12月	足立真実子,岡田純子,川村晃右,清水彩,西村玲子,野嶋敬祐,廣澤紀代,藤野ユリ子,舟木淳,政岡祐輝,松本賢哉,吉川由香里	6STEPでデザインする 看護シミュレーション教育	金芳堂	33-34,67-70
	2022年4月	Wakako Eklund, Miki Konishi, Aya Nakai, Aya Shimizu, Kazuyo Uehara, Noriko Nakamura	Neonatal Nursing: A Global Perspective	Springer	93-110
園田 奈央	2024年4月	園田 奈央, 森本 明子	Journal Club on Paper II 英論文からリアルワールド・データ解析をどう学ぶか(no.4) 機械学習を用いた入院患者の転倒リスク予測モデルの開発 機械学習(教師あり学習)を学ぶ	医学書院・看護研究	152-160
古山 美穂	2024年1月	町浦美智子,山田加奈子,宇田川直子,高知恵,佐々木くみ子,古山美穂	助産学実習ブレック 助産過程の思考プロセス第2版	医歯薬出版株式会社	190-200
細名 水生	2023年11月	東 あかね, 關戸 啓子, 久保 加織, 林 育代	栄養科学シリーズNEXT 社会・環境と健康 健康管理概論 第4版/10.1 成人の健康管理システム	講談社	161-170
南村 二美代	2024年11月	宮脇郁子, 旗持知恵子, 森菊子, 齊藤奈緒, 中尾友美, 南村二美代 他	看護実践のための根拠がわかる 成人看護技術 慢性看護（第3版） 第3章 7.代謝機能障害のある患者への支援技術	メヂカルフレンド社	218-251

名前	出版年月	著者名	タイトル	出版機関・掲載誌名	掲載頁
南村 二美代	2023年10月	山本佳代子監修：峯川美弥子，風野美樹，南村二美代 他	成人看護学実習ワークブック ー15疾患の事例で「調べる,見る,考える」がわかる！ 第4章 回復期・慢性期事例⑥脳梗塞	メディカ出版	152-157 別冊：28-30

(講師)

名前	出版年月	著者名	タイトル	出版機関，掲載誌名	掲載頁
大野 志保	2025年3月	サトウタツヤ，安田裕子，中坪史典，土元哲平，上川多恵子，中本明世，加藤望，大野志保他	TEAと質的探究用語集	誠信書房	10,11,57
	2024年9月	徳山美智子，竹鼻ゆかり，三村由香里，上村弘子，大野志保 他	新版 学校保健 一チームとしての学校で取り組むヘルスプロモーションー	東山書房	13-18
喜田 雅彦	2025年3月	井上智子，久保田哲郎他	「病期，病態，重症度からみた疾患別看護過程 第5 版」	医学書院	1384-1396,1728-1744
高 知恵	2024年1月	町浦美智子，山田加奈子，宇田川直子，高知恵，佐々木くみ子，古山美穂	助産学実習プレブック第2版,助産過程の思考プロセス	医歯薬出版株式会社	66-96, 97-118
篠原 真咲	2024年10月	篠原真咲	ハートナーシング 37巻10号	メディカ出版	1004-1008
高尾 鮎美	2024年6月	高尾鮎美	止まらない吃逆（持続性，難治性吃逆）への対応:緩和ケア34（6）	緩和ケア34 巻6号	167－173
	2024年3月	荒尾，晴恵，岡本，禎晃	がん緩和ケア薬必携ガイドブック：痛み,便秘,不眠,せん妄	南江堂	55-63
	2024年1月	倉田宝保，青木早苗，藤井良平	知識をギュッ!がん薬物療法のキホンとマネジメント：困ったときに絶対役立つお守り本：パッと見てすぐわかるレジメンリストも掲載!	メジカルビュー社	9-19 144-149
	2022年4月	荒尾晴恵，菅野かおり（編）	がん看護ナースポケットブック(倦怠感，呼吸困難)	学研メディカル秀潤社	407-418
	2023年2月	高尾鮎美	がん薬物療法のレジメン56＋経口抗がん薬14やさしく学べるbook 29.セツキシマブ，エンコラフェニブ，ビニメチブ療法	YORI-SOUがんナーシング (春季増刊)	134－137
徳岡 良恵	2024年5月	徳岡良恵	肺がん高齢患者の看護	日総研，臨床老年看護	38－45
仲井 あや	2022年4月	Petty, Julia, Jones, Tracey, Hoogen, Agnes van den, Walker, Karen, Kenner, Carole	Neonatal Nursing: A Global Perspective	Springer	93-110
中村 雅美	2024年11月	宮脇郁子，旗持知恵子 他	看護実践のための根拠がわかる 成人看護技術 慢性看護（第3版）第III章慢性的な機能障害のある人への支援技術 ⑤腎機能障害のある患者への支援技術	メヂカルフレンド社	171-191
	2022年4月	日本腎不全看護学会CKD委員会腎移植ケアガイドワーキンググループ編集	腎移植ケアガイド	医学書院	103-107

名前	出版年月	著者名	タイトル	出版機関・掲載誌名	掲載頁
宮下 佳代子	2024年9月	編著)福井, 聖子(執筆協力, 園府寺美, 宮下佳代子	新生児, 乳児の救急電話相談ガイドブック: 受診か経過観察か? 家族の安心を支える	へるす出版	4~6 25,27
安本 理抄	2025年1月	和泉京子, 上野昌江, 安本理抄, 他	公衆衛生看護学 第4版	中央法規出版	428-458

論文（教授）

名前	出版年月	著者	タイトル	出版機関・掲載誌名	巻	号	開始ページ	終了ページ
伊藤 一弥	2024年3月	Junichi Nakamura ,Wakaba Fukushima , Wataru Ando , Shigeo Hagiwara , Yuya Kawarai , Yuki Shiko , Yohei Kawasaki 6, Takashi Sakai , <u>Kazuya Ito</u> , Yoshiya Arishima , Etsuo Chosa , Yusuke Fujimoto , Kazuo Fujiwara , Yukiharu Hasegawa , Shinya Hayashi , Takashi Imagama , Yutaka Inaba , Yasuyuki Ishibashi , Yasuhiro Ishidou , Hideya Ito , Hiroshi Ito , Juji Ito , Tetsuya Jinno , Tamon Kabata , Nobuhiro Kaku , Ayumi Kaneuji , Shunji Kishida , Seneki Kobayashi4, Setsuro Komiya , Toshikazu Kubo , Tokifumi Majima , Naohiko Mashima , Masaaki Mawatari , Hidenobu Miki , Kazumasa Miyatake , Goro Motomura , Satoshi Nagoya , Hiroaki Nakamura , Yoshihide Nakamura , Ryosuke Nakanishi , Yasuharu Nakashima , Satoshi Nakasone , Takashi Nishii , Takayuki Nishiyama , Yoichi Ohta , Kenji Ohzono , Makoto Osaki , Kan Sasaki , Taisuke Seki , Takaaki Shishido , Takeshi Shoji , Akihiro Sudo , Michiaki Takagi , Daisuke Takahashi , Masaki Takao , Sakae Tanaka , Takeyuki Tanaka , Tomonori Tetsunaga , Keiichiro Ueshima , Kengo Yamamoto7, Takuaki Yamamoto , Yuji Yamamoto , Takuma Yamasaki , Yuji Yasunaga , Nobuhiko	Time elapsed from definitive diagnosis to surgery for osteonecrosis of the femoral head: a nationwide observational study in Japan	BMJ Open	14	3	e082342.	-
	2023年10月	Emiko Mukai , Wakaba Fukushima , Saeko Morikawa , Keiko Nakata , Satoshi Hiroi , Masashi Fujioka , Tohru Matsushita , Megumi Kubota , Yoshina Yagi , Tetsuhisa Takechi , Yoshio Takasaki , Shizuo Shindo , Yuji Yamashita , Takato Yokoyama , Yumi Kiyomatsu , Kazuhiro Matsumoto , Akiko Maeda , Kyoko Kondo , <u>Kazuya Ito</u> , Tetsuo Kase , Satoko Ohfuji , Yoshio Hirota	No association between inactivated influenza vaccination and influenza viral load at diagnosis among young Japanese children: An observational study of the 2013/2014 through 2017/2018 influenza seasons	Influenza and other Respiratory Viruses	17	10	e13213	-
	2023年3月	Suita Asae, Ohfuji Satoko, Fukushima Wakaba, Ito Kazuya, Kase Tetsuo, Kondo Kyoko, Ishibashi Motoki, Kumashiro Hiroko, Kawai Shuji, Deguchi Akifumi, Nakata Hiroyuki, Iba Kazuko, Kita Tetsuya, Kinugawa Kazuhiko, Hamada Kazutaka, Fujimoto Mikio, Furukawa Yoshio, Sowa Etsuji, Nakazawa Hideo, Hirota Yoshio	日本の老人保健施設におけるノロウイルス関連下痢の発生率と危険因子 前向きコホート研究 (Incidence and risk factors for norovirus-related diarrhea in Japanese geriatric intermediate care facilities: A prospective cohort study)	Geriatrics & Gerontology International	23	3	179	187
	2022年7月	Sato Ryuichi, Ando Wataru, Fukushima Wakaba, Sakai Takashi, Hamada Hidetoshi, Takao Masaki, Ito Kazuya, Sugano Nobuhiko	日本における指定難病の全国レジストリを用いた大腿骨頭壊死症の疫学調査(Epidemiological study of osteonecrosis of the femoral head using the national registry of designated intractable diseases in Japan)	Modern Rheumatology	32	4	808	814
北村 愛子	2023年3月	米村亮 北村愛子 大江理英	集中治療の効果がなく死にゆく患者の家族の悲嘆への看護実践	大阪公立大学看護学雑誌(2758-7797)	1巻	-	33	42
河野 あゆみ (地域包括ケア科学)	2024年12月	丸山加寿子, 河野あゆみ	訪問看護を利用する慢性疾患高齢者へのセルフモニタリング教育のヘルスリテラシー向上に関する効果：非ランダム化試験	日本看護学会誌	44	—	732	742
	2024年12月	松原みゆき, 河野あゆみ	人訪問看護師に提供された職場内教育と6か月後の単独訪問の実施及びワーク・エンゲイジメントとの関連	日本看護学会誌	44	—	600	611
	2024年12月	田中陽子, 河野あゆみ	在宅重症心身障がい児とその家族の愛着形成過程と影響要因の検討—複雑経路・等至性アプローチによる分析—	日本看護学会誌	44	—	546	556
	2024年9月	三浦剛, 河野あゆみ	新規要支援高齢者の介護サービス利用パターンによる5年間保険支出額と障害調整生命年を用いた費用効果分析	日本在宅ケア学会誌	28	1	62	71
	2024年6月	鈴木みずえ,尾島俊之,金盛琢也,池田直隆,河野あゆみ,山田律子	高齢者および高齢社会に関する検討ワーキンググループ 報告書2024 第8章 高齢者のケア	日本老年学会	—	—	82	91

名前	出版年月	著者	タイトル	出版機関・掲載誌名	巻	号	開始ページ	終了ページ
河野 あゆみ (地域包括ケア科学)	2024年5月	Noriko Yoshiyuki, Takuma Ishihara, Ayumi Kono, Naomi Fukushima, Takeshi Miura, Katsunori Kaneko	Trajectories of medical care expenditure in the last year of life associated with long-term care utilization in frail older adults: A retrospective cohort study	PLoS One	19	5	e0297198	—
	2024年3月	丸山加寿子, 河野あゆみ	訪問看護事業所の理学療法士による訪問を利用した高齢者の身体的特徴、認知機能の特徴と訪問看護の内容：看護師の訪問頻度による比較	大阪公立大学看護学雑誌	2	—	49	55
	2024年3月	門野杏子, 河野あゆみ, 岡本双美子	高齢在宅療養者の夜間緊急電話に対する熟練訪問看護師の臨床判断による訪問に至る事例の特徴	大阪公立大学看護学雑誌	2	—	1	8
	2023年12月	渡部有人, 河野あゆみ, 池田直隆	中高年住民における情報通信技術(ICT)を利用した交流と社会活動・うつとの関連	厚生の指標	70	15	20	26
	2023年11月	Noriko Yoshiyuki, Takuma Ishihara, Ayumi Kono, Naomi Fukushima, Takeshi Miura, Katsunori Kaneko	Do Home- and Community-Based Services Delay Frailty Onset in Older Adults With Low Care Needs?	Journal of the American Medical Directors Association	24	11	1663	1668
	2023年10月	河野あゆみ	連載 Journal Club on Paper II 英論文からリアルワールド・データ解析をどう学ぶか no.1 【新連載】急性期病院における電子データを用いた入院患者のフレイル・リスク・スコアの開発と妥当性:観察研究	看護研究	56	5	434	443
	2023年10月	宮下光光, 河野あゆみ, 春名めぐみ	委員会報告 和文誌編集委員会：2016～2022年の日本看護科学会誌の投稿・採択状況	日本看護科学会誌	43	—	280	284
	2023年9月	深山華織, 河野あゆみ	就労介護者の仕事と家庭役割間の葛藤と就労継続への意思との関連	日本地域看護学会誌	26	3	13	20
	2023年7月	河野あゆみ, 大市育実, 吉行紀子, 林佳美, 高澤洋子, 長濱あかし	特別記事 新卒訪問看護師育成プログラム参加者のその後と定着に向けた課題-大阪府訪問看護ステーション協会における取り組み(第2報)	訪問看護と介護	28	4	302	308
	2023年6月	Tanaka Yoko, Kono Ayumi, Enescu Bogdan	A prediction model of community commitment and self-efficacy, using machine-learning: age-related differences in attitudes toward preventing social isolation among community-dwelling older adults	畿央大学紀要	20	1	43	51
	2023年3月	鳥本あかり, 河野あゆみ, 池田直隆	住民ボランティアのICT機器の使用頻度・使用自信と地域高齢者見守り自己効力感・見守り訪問頻度との関連	日本看護科学学会誌	43	0	71	78
	2023年3月	大西輝幸, 河野あゆみ, 岡本双美子	救急・集中治療領域における医療スタッフの多職種連携協働と倫理的苦悩との関連	臨床倫理	11	—	45	53
	2022年12月	三輪恭子, 河野あゆみ	連載 Journal Club on Paper 看護研究に活かす 英論文をどう抄読し,何を学ぶか・8【最終回】プライマリケア施設における低所得患者の臨床的アウトカムに及ぼすコミュニティヘルスワーカーの支援の効果-無作為化臨床試験	看護研究	55	6	654	661
	2022年12月	松岡加純, 河野あゆみ	救急・集中治療領域における看護師の代理意思決定支援と終末期ケアに対する困難度ならびに態度の関連	日本看護科学学会誌	42	-	40	47
	2022年12月	三輪恭子, 河野あゆみ	地域ケアにおける看護職によるコミュニティ・エンパワメントの過程とコンピテンシー	日本看護科学学会誌	42	-	899	907
	2022年12月	深山華織, 河野あゆみ	就労介護者の仕事と家庭役割間の葛藤とケアマネジャーによる就労継続支援の判断、就労介護者の特性との関連	日本看護科学学会誌	42	-	31	39
	2022年10月	大西輝幸, 石原拓磨, 河野あゆみ	連載 Journal Club on Paper 看護研究に活かす 英論文をどう抄読し,何を学ぶか・7 -抄読する-終末期に近い入院患者におけるPOLSTと集中治療室入室との関連	看護研究	55	5	518	524
	2022年10月	大西輝幸, 石原拓磨, 河野あゆみ	Journal Club on Paper 看護研究に活かす 英論文をどう抄読し,何を学ぶか no.7 終末期に近い入院患者におけるPOLSTと集中治療室入室との関連	看護研究	55	5	518	524
	2022年9月	河野あゆみ	在宅ケアの質の改善と政策提言のために（冒頭言）	日本在宅ケア学会誌	26	1	5	5
	2022年9月	河野あゆみ	介護データベース（要介護認定情報と介護レセプト）の構造と解析のためのTipsを教えてください	日本在宅ケア学会誌	26	1	26	31

名前	出版年月	著者	タイトル	出版機関・掲載誌名	巻	号	開始ページ	終了ページ
河野 あゆみ (地域包括ケア科学)	2022年8月	丸山加寿子, 河野あゆみ	連載 Journal Club on Paper 看護研究に活かす 英論文をどう抄読し,何を学ぶか・6 在宅・地域密着型サービスの利用パターンの違いがナーシングホーム入所に与える影響-台湾のナショナルデータ	看護研究	55	4	420	427
	2022年8月	河野あゆみ, 池田直隆	特集.ポストコロナ時代に向けた高齢者の孤立対策～予防から支援まで～ Seminar 6. 高齢者の社会的孤立を予防する住民見守り活動：ウィズコロナ時代の提案	Geriatric Medicine (老年医学)	60	8	719	722
	2022年8月	丸山加寿子, 河野あゆみ	Journal Club on Paper 看護研究に活かす 英論文をどう抄読し,何を学ぶか no.6 在宅・地域密着型サービスの利用パターンの違いがナーシングホーム入所に与える影響-台湾のナショナルデータ	看護研究	55	4	420	427
	2022年8月	河野あゆみ, 池田直隆	【ポストコロナ時代に向けた高齢者の孤立対策～予防から支援まで～】 高齢者の社会的孤立を予防する住民見守り活動 ウィズコロナ時代の提案	Geriatric Medicine	60	8	719	722
	2022年4月	井上高博, 河野あゆみ	連載 Journal Club on Paper 看護研究に活かす 英論文をどう抄読し,何を学ぶか・4 社会格差と多疾患併存,フレイル,障害による死亡までの移行-ホワイトホール・コホート研究Ⅱの24年間の追跡結果	看護研究	55	2	224	230
作田 裕美	2024年	堀田 昇吾, 作田 裕美, 五十嵐 隆元, 岩永 秀幸, 市田 隆雄, 奥田 保男, 白石 順二, 上野 寿子, 太田 勝正, 草間 朋子	病院における放射線防護教育の実態調査	日本放射線技術学会雑誌	80	6	626	637
	2024年	大串 晃弘, 山住 哲也, 松本 宙, 三木 俊貴, 作田 裕美	コンセプトマップの作成による看護学生の学習過程	大学教育学会誌	46	2	30	39
	2024年	Yukiko Fujihara, Mika Fukada, Hiromi Sakuda, Kazuaki Tanabe, Tsuyoshi Kataoka	Breast Cancer Screening Behavior among Working Women in Japan: Characteristics and Factors Inhibiting Screening	Yonago Acta Medica	67	2	135	149
	2023年	西尾聡子, 作田裕美	若年性乳がん患者が求めるセキュリティに関する情報と支援	日本がん看護学会誌	37		1	13
	2023年	作田 裕美, 堀田 昇吾, 上野 寿子, 新井 龍, 桜井 礼子, 太田 勝正, 草間 朋子, 五十嵐 隆元, 岩永 秀幸, 市田 隆雄, 奥田 保男, 白石 順二	病院における放射線防護・安全教育の実態と課題——KJ法を用いた分析から——	日本放射線看護学会誌	11	1	3	12
	2023年	作田 裕美, 新井 直子, 新井 龍, 榎木 政子, 永井 春歌, 上野 寿子	フライトナースの任用に活用する選択尺度作成の試みとその検討	日本救急看護学会雑誌	26		9	19
	2022年	Yoshihara M, Kitamura K, Tsuru S, Shimono R, Sakuda H, Mayama M, Tano S, Uno K, Ukai MO, Kishigami Y, Oguchi H, Hirota A	Factors associated with response to compression-based physical therapy for secondary lower limb lymphedema after gynecologic cancer treatment: a multicenter retrospective study.	BMC cancer	22	25	1	7
	2022年	中野 文乃, 作田 裕美	造血幹細胞移植後長期フォローアップ専門外来(LTFU)に勤務する看護師の看護実践能力の構造	国際ナース・ケア・リサーチ	21	1	9	19
	2022年	中井 智子, 作田 裕美	手術における体内異物遺残防止に関する研究 体内異物遺残防止安全システムにおける有効性の高い構成要素と指標	日本手術医学会誌	43	3	231	241
	2022年	永井 春歌, 作田 裕美	ドクターカー看護師の専門職的自律性獲得 専門職的自律性とコミュニケーション能力・成長欲求	国際ナース・ケア・リサーチ	21	4	97	107
佐藤 淑子	2025年3月	佐藤淑子, 平尾百合子, 喜田雅彦, 邊木園幸	感染対策向上加算1 および外来感染対策向上加算の取得状況と感染管理認定看護師および感染症看護専門看護師の登録状況からみた感染対策に関する地域連携の現状	大阪公立大学看護学雑誌	3	4	11	17
	2022年12月	喜田雅彦, 平尾百合子, 佐藤淑子	薬剤耐性 (Antimicrobial Resistance : AMR) に関する情報発信の現状- 新聞記事の内容分析を通して -	医療の質・安全学会誌	17	4	424	403
志田 京子	2024年8月	Junko Okada, Kyoko Shida	Development of a support program to improve clinical reasoning of nurses with 2-3 years of work experience	Journal of International Nursing Research	3	2	1	13
	2023年3月	安居真知子, 益加代子, 志田京子	学童期の子どもをもつ女性看護師の就業継続を妨げる要因	大阪公立大学看護学雑誌	1	1	1	10

名前	出版年月	著者	タイトル	出版機関・掲載誌名	巻	号	開始ページ	終了ページ
志田 京子	2023年3月	山口舞子, 益加代子, 志田京子	360度カメラを用いた多重課題シミュレーション演習の実践報告	大阪公立大学看護学雑誌	1	1	51	55
白井 みどり	2025年3月	益満智美, 白井みどり, 秋山庸子, 佐々木八千代	地域在住高齢者における情報通信機器 (ICT) の利用時間と睡眠の関連	日本看護科学学会・日本看護科学学会誌	44	—	903	910
	2024年11月	Kanna Tezuka, Yachiyo Sasaki, Midori Shirai	Association between the use of Information and Communication Technology and activeness in life among community-dwelling older adults	PLOS ONE	19	11	—	—
	2024年3月	手塚菜葉, 佐々木八千代, 野田さおり, 白井みどり	新型コロナウイルス流行による地域在住高齢者の外出頻度の変化とそれに関連する要因	大阪公立大学看護学雑誌	2	—	29	37
	2024年1月	益満智美, 佐々木八千代, 手塚菜葉, 小西円, 白井みどり	新型コロナウイルス感染症パンデミック下の地域在住高齢者における抑うつと関連要因の変化	日本健康医学会 日本健康医学会雑誌	32	4	400	408
	2023年1月	廣瀬 彩音, 佐々木 八千代, 秋山庸子, 白井 みどり	施設入所高齢者の車椅子からベッドへの移乗動作の特徴	日本健康医学会 日本健康医学会雑誌	31	4	501	506
	2022年7月	古田 菜葉, 佐々木 八千代, 野田さおり, 白井 みどり	新型コロナウイルス感染症の流行による地域在住高齢者の生活状況の変化の実態	日本健康医学会 日本健康医学会雑誌	31	2	235	243
	2022年7月	佐々木 八千代, 野田 さおり, 白井 みどり	要支援高齢者の聴力と認知機能の関連に関するコホート研究	日本健康医学会 日本健康医学会雑誌	31	2	230	234
	2022年7月	小西 円, 佐々木 八千代, 白井 みどり	尿意を表出できる施設入所高齢者の中途覚醒と夜間おむつ交換の関係	日本老年看護学会 老年看護学	27	1	37	45
	2022年7月	小西 円, 佐々木 八千代, 白井 みどり	尿意を表出できる施設入所高齢者の中途覚醒と夜間おむつ交換の関係	日本老年看護学会 老年看護学	27	1	37	45
玉上 麻美	2025年3月	高澤 律子, 玉上 麻美	助産師の産科医師との協働とコミュニケーション・スキルの関連	日本母性看護学会誌	25	2	51	59
	2024年12月	木下 茜, 玉上 麻美	高等学校における性教育の実態に関する文献検討	大阪母性衛生学会雑誌	59	1	20	25
	2024年12月	木下 千紗都, 玉上 麻美	高年初産婦の産後4ヵ月における育児サポート資源利用および夫の育児介入への満足度の実態	大阪母性衛生学会雑誌	59	1	15	19
	2024年1月	木下 千紗都, 玉上 麻美	初産婦の産後4ヵ月における育児サポート資源利用および夫との育児の実態	母性衛生	64	4	618	626
	2023年9月	Eriko Fukuda , Akihiro Hamuro, Kohei Kitada , Yasushi Kurihara , Mie Tahara , Takuya Misugi , Akemi Nakano , Mami Tamaue , Sae Shinomiya , Hisako Yoshida , Masayasu Koyama , Daisuke Tachibana	The Impact of Assisted Reproductive Technology on Umbilical Cord Insertion: Increased Risk of Velamentous Cord Insertion in Singleton Pregnancies Conceived through ICSI.	Medicina (Kaunas, Lithuania)	59	10	1715	1715
	2023年5月	川村 恭子, 玉上 麻美	都市部の妊婦における夫婦関係と産科履歴および身体的・心理社会的要因との関連 妊娠への適応の観点から	日本公衆衛生雑誌	70	5	289	299
	2023年5月	玉上麻美	不妊治療後の流産と女性のレジリエンス促進	精神科	42	5	666	674
都筑 千景	2023年8月	松島 美穂, 都筑 千景, 大川 聡子, 安本 理抄	地域包括ケアシステム構築において保健所保健師が行う市町村支援とその意図	日本地域看護学会誌	26	2	4	12
	2023年4月	Chie Koh, Kaori Watanabe, Nao Sonoda, Risa Yasumoto, Chikage Tsuzuki, Akiko Morimoto	Relationships between knowledge of postmenopausal lifestyle-related symptoms, stages of health behavior change, and physical examination participation among middle-aged Japanese women	日本女性医学学会雑誌	30	3	365	375
	2022年8月	Akiko Morimoto, Chie Koh, Risa Yasumoto , Hideaki Furuki, Kaori Watanabe , Chikage Tsuzuki , Nao Sonoda	Relationship between communicative and critical health literacy, health information sources, and participation in health checkups among middle-aged Japanese community residents.	Preventive Medicine	161	August	107	112
	2022年8月	藤本 優子, 山下 正, 都筑 千景	委託型地域包括支援センターが立案する事業目標の根拠となるデータとその具体的提示方法	日本公衆衛生看護学会誌	11	2	126	133

名前	出版年月	著者	タイトル	出版機関・掲載誌名	巻	号	開始ページ	終了ページ
都筑 千景	2022年4月	Sonoda Nao, Koh Chie, Yasumoto Risa, Li Meng, Watanabe Kaori, Tsuzuki Chikage, Morimoto Akiko	国民健康保険に加入する地域在住中年者における保健師・医療関係者・家族からの勧めと健康診断受診との関連(Association between Recommendations from Public Health Nurses, Medical Professionals, and Family Members and Participation in Health Checkups among Middle-aged Community Residents with National Health Insurance)	JMA Journal	5	2	199	206
土肥 美子	2024年12月	勝山愛, 細田泰子, 根岸まゆみ, 金山悠, 北島洋子, 土肥美子, 片山由加里	看護学生と新人看護師の教育指導者における経験学習の関連要因	日本医学看護学教育学会誌	33	2	12	20
	2024年7月	西千秋, 土肥美子	看護系大学を卒業した2年目看護師の看護実践能力と社会人基礎力の関連	木村看護教育振興財団看護研究集録		31	61	75
	2024年10月	北島洋子, 細田泰子, 根岸まゆみ, 片山由加里, 土肥美子, Kathie Lasater, Ann Nielsen	ラサター臨床判断ルーブリック日本語版 (LCJR-J) の信頼性と活用可能性の検討	日本看護科学学会誌	44	—	228	238
	2023年3月	土肥美子, 細田泰子	看護系大学に所属する若手教員の看護大学教員能力の関連要因	日本医学看護学教育学会誌	31	4	39	48
	2023年3月	土肥美子, 細田泰子, 長野弥生, 片山由加里, 北島洋子, 根岸まゆみ	教育指導担当者が行う学習支援が学習ニーズに及ぼす影響	大阪医科薬科大学看護研究雑誌	13	—	15	24
	2023年3月	細田 泰子, 勝山 愛, 金山 悠, 北島洋子, 根岸 まゆみ, 片山 由加里, 土肥 美子	教育指導者による看護学習者の臨床判断能力の評価と支援の必要性－測定用具の信頼性・妥当性の検討－	日本医学看護学教育学会誌	31	3	21	30
	2022年10月	土肥美子	看護系大学に所属する若手教員の能力開発	看護教育	65	5	618	621
	2022年7月	二宮早苗, 川北敬美, 土肥美子, 赤崎美美, 宮島多映子	同時双方向型オンライン授業による採血の基礎看護技術演習の試みと今後の課題	日本シミュレーション医療教育学	10	—	64	69
富川 順子	2025年3月	富川順子	訪問看護を受ける統合失調症で慢性閉塞性肺疾患のある人の地域生活の現状	大阪公立大学看護学雑誌	3	—	18	25
	2024年11月	奥野裕子,河野あゆみ,大平幸子, 牧野耕次,佐藤史教,富川順子	看護基礎教育機関における精神看護学実習に関する実態調査（第一報）精神看護学における課題整理	精神保健看護学会誌	33	2	133	139
	2024年6月	河野あゆみ,松田光信,牧野耕次, 奥野裕子,佐藤史教,大平幸子,富川順子	精神医療機関における新人看護職員の研修に関する実態調査 施設の特徴と研修内容との関連	精神保健看護学会誌	33	1	125	137
	2024年3月	矢守麻里,富川順子	精神科熟練看護師が捉える非従来型うつ病患者の看護上の問題	大阪公立大学看護学雑誌	2	—	9	18
	2023年7月	村上嶺,富川順子	うつ病患者における乳酸菌飲料の摂取による腸内細菌叢の変化－症例による予備的検討	浅香山病院医学雑誌	2	—	98	102
	2023年6月	柱谷久美子,富川順子	救急医療機関における精神障害を有する自殺未遂患者に対する回復期の看護実践上の困難	高知女子大学看護学雑誌	48	2	46	56
	2023年3月	富川 順子, 島津 聖子	精神科救急入院科病棟において看護師が行う退院調整：アクションリサーチの第一サイクル	大阪公立大学看護学雑誌	1	—	43	50
	2022年11月	森脇 勉一, 富川 順子	急性期症状により精神科救急病棟の保護室に入室している統合失調症患者への看護実践	日本精神保健看護学会誌	31	2	28	37
長畑 多代	2025年1月	中村マミ,九津見雅美,長畑多代	介護老人保健施設での医療行為において認知症高齢者の personhood を維持する看護実践	日本老年看護学会・老年看護学	29	2	61	69
	2024年12月	長野弥生,長畑多代,九津見雅美, 山内加絵	老年看護学実習におけるルーブリックの使用が自己調整学習に及ぼす影響	日本看護学教育学会誌	31	45717	35	43
	2024年11月	Sonoko Kabaya, Tayo Nagahata, Gede Juanamasta	The Dementia Certified Nurse Process for Acquiring Knowledge for Care of Older Adult Patients with Dementia in Acute Care Hospitals : Qualitative Descriptive Study	Jurnal Ners	19	4	509	519
	2023年3月	原田 かおる,長畑 多代	Covid-19感染症流行期における高齢者への訪問看護で訪問看護ステーション管理者が感じた困難	日本在宅ケア学会誌	26	2	120	127

名前	出版年月	著者	タイトル	出版機関・掲載誌名	巻	号	開始ページ	終了ページ
長畑 多代	2023年3月	三好あや,長畑多代,九津見雅美	インスリン注射をしている2型糖尿病のセルフマネジメントの様相	大阪公立大学看護学雑誌	1	—	21	31
	2023年3月	笹谷真由美,長畑多代	特別養護老人ホームに勤務する看護師の看護実践能力に関連する要因	日本看護福祉学会誌	28	2	69	74
中山 美由紀	2025年3月	佐藤 美樹,中山 美由紀,井上 敦子	思春期の子どもの子育てと老親介護のダブルケアをする家族の体験 ダブルケア当事者の語りを通して	家族看護学研究	30	—	87	98
	2024年12月	新井 希理,中山 美由紀	ポストクリティカル期へ移行する患者の家族への支援における困難感 救急搬送され集中治療室に入室した患者の家族に焦点を当てて	日本クリティカルケア看護学会誌	20	—	40	50
	2024年3月	池田 真理,村本 美由希,キタ 幸子,森崎 真由美,佐藤 伊織,大城 怜,菊池 良太,副島 亮史,目 麻里子,荒木田 美香子,藤田 千春,深堀 浩樹,上別府 圭子,藤岡 寛,井上 玲子,中山 美由紀,法橋 尚宏,西垣 佳織,小林 京子,松澤 明美,鈴木 征吾	新型コロナウイルス感染症流行下の看護職における家族看護の困難と技 日本家族看護学会会員を対象とする調査の結果概要・進捗報告	家族看護学研究	29	—	108	114
	2023年7月	小泉智恵,中山美由紀,松本公平	新しい心理社会的ケアの在り方 多職種が様々なレベルで	日本生殖心理学会誌	9	1	27	37
仁尾 かおり	2024年3月	仁尾 かおり,藤澤盛樹,澤田 唯	先天性心疾患をもつ人の就労支援に関する当事者と同僚・上司の認識	大阪公立大学看護学雑誌	2	—	19	29
	2024年3月	藤澤盛樹,仁尾かおり,澤田唯	先天性心疾患をもつ人の学校生活上の支援に関する当事者と友達の認識	四天王寺大学紀要	73	—	105	119
	2022年12月	Hiro Matsumoto,Kaori Nio,Tomoyuki Kawamura,Yoko Obayashi,Yuko Hotta,Yoshihiko Yuyama,Naoko Nishikawa	Perceptions of diabetes management among adolescents with type 1 diabetes and their caregivers: development and validation of the Japanese version of the diabetes family responsibility questionnaire	Diabetology International	14	2	155	164
	2022年9月	澤田 唯,仁尾 かおり	思春期発症の小児血液・腫瘍疾患経験者における退院後の環境適応への対処方法	小児保健研究	81	5	455	463
旗持 知恵子	2025年2月	武田真弓,旗持知恵子	心疾患患者の仕事と療養の両立の様相 ～ 再就職し就労継続している事例の分析を通して	日本慢性看護学会誌	19	1	33	42
	2022年12月	乾彰弘,旗持知恵子,南村二美代	抗TNF- α 抗体療法中の男性クローン病患者における食生活の実態	日本難病看護学会誌	27	3	74	85
	2022年8月	Katsuhito Asai, Chieko Hatamochi ,Fumiyo Minamimura	Association Between Illness Perception and Care-Seeking Intention in Patients With Chronic Heart Failure	Clinical Nursing Research	32	3	669	676
平谷 優子	2025年3月	宮原真二,平谷優子,田中勝治	在宅重症心身障害児を養育する家族の家族機能	家族看護学研究	30	—	62	75
	2023年12月	小倉あゆみ, 平谷優子	1型糖尿病をもつ幼児期・学童期の子どものセルフケアに関する文献レビュー	日本小児看護学会誌	32	—	231	238
	2023年12月	平谷優子, 伊瀬薫, 石本晶子, 川村智行	1型糖尿病をもつ女性の妊娠に対する思いに関する文献レビュー	日本糖尿病教育・看護学会誌	27	2	39	46
	2023年3月	平谷優子, 西元康世, 法橋尚宏	入院中の病児をもつ家族を対象とする家族機能尺度の開発と信頼性・妥当性の検討	家族看護学研究	28	2	65	76
	2022年9月	岡本綾子, 平谷優子, 時政定雄	小児がんの病児をもつ家族が看護師に希望する家族支援	日本看護科学会誌	42	—	131	139
細田 泰子	2025年3月	水引智央, 細田泰子	新人レベル看護師の多重課題におけるセルフモニタリングの様相とその実効	日本看護科学会誌	44	—	940	949
	2025年2月	Ai Katsuyama,Yasuko Hosoda	Engagement in learning activities for newly graduated nurses: Development and psychometric testing of a scale	Journal of International Nursing Research	4	1	e2024	0006
	2024年12月	勝山愛, 細田泰子, 根岸まゆみ, 金山悠, 北島洋子, 土肥美子, 片山由加里	看護学生と新人看護師の教育指導者における経験学習の関連要因	日本医学看護学教育学会誌	33	2	12	20

名前	出版年月	著者	タイトル	出版機関・掲載誌名	巻	号	開始ページ	終了ページ
細田 泰子	2024年12月	Yayoi Nagano,Yasuko Hosoda	Development and psychometric testing of the modeling scale for novice nurses: a cross-sectional survey design	BMC Nursing	23	－	894(1-9)	－
	2024年12月	細田泰子	臨床判断能力育成の現在地をとらえる：「臨床判断モデル」と「ラサター臨床判断ルーブリック」を基軸として	看護教育（医学書院）	65	6	638	645
	2024年12月	水引智央, 細田泰子	新人レベルにある看護師の多重課題におけるセルフモニタリングと臨床判断の促進：看護管理者からの支援	看護管理（医学書院）	34	12	1076	1082
	2024年10月	北島洋子,細田泰子,根岸まゆみ, 片山由加里,赤崎美美,土肥美子, Kathie Lasater,Ann Nielsen	ラサター臨床判断ルーブリック日本語版（LCJR-J）の信頼性と活用可能性の検討	日本看護学会誌	44	－	228	238
	2024年10月	Chihiro Mizuhiki, Yasuko Hosoda	Surface and content validity of an Advanced Beginner Nurse's Self-Monitoring Scale While Multitasking	Open Journal of Nursing	14	－	491	502
	2024年9月	Toshimi Kawakita,asuko Hosoda	Work-family enrichment among parent nurses: a cross-sectional scale development and validation study	BMC Nursing	23	－	665(1-12)	－
	2024年8月	Aimi Furukawa, Yasuko Hosoda	Surface and content validity of the Mentoring Function Scale for Novice Nurses	Open Journal of Nursing	14	8	401	411
	2023年11月	相原ひろみ, 細田泰子	看護大学生の日常生活経験と道徳的感受性が看護実践における倫理的行動に及ぼす影響	日本看護学会誌	43	－	392	398
	2023年10月	米田真央, 細田泰子, 紙野雪香	コンピテントナースの看護実践におけるアンラーニングの過程	日本看護学教育学会誌	33	2	29	41
	2023年8月	卯川久美, 細田泰子	新人看護師の組織社会化におけるプロアクティブ行動が職場適応状態に及ぼす影響	日本看護学会誌	43	－	117	125
	2023年3月	土肥美子, 細田泰子	看護系大学に所属する若手教員の看護大学教員能力の関連要因	日本医学看護学教育学会誌	31	4	39	48
	2023年3月	土肥美子, 細田泰子, 長野弥生, 片山由加里, 北島洋子, 根岸まゆみ	教育指導者が行う学習支援が学習ニーズに及ぼす影響	大阪医科薬科大学看護研究雑誌	13	－	15	24
	2023年1月	Toshimi Kawakita, Yasuko Hosoda	Assessing the content validity of the Work-Family Enrichment Scale for Parent Nurses	Japanese Journal of Medical and Nursing Education	31	3	48	56
	2023年1月	細田泰子, 勝山愛, 金山悠, 北島洋子, 根岸まゆみ, 片山由加里, 土肥美子	教育指導者による看護学習者の臨床判断能力の評価と支援の必要性－測定用具の信頼性・妥当性の検討－	日本医学看護学教育学会誌	31	3	21	30
	2022年10月	川北敬美, 細田泰子	子育て期にある女性看護師におけるワーク・ファミリー・エンリッチメントの資源の検討	日本看護学会誌	42	－	196	203
	2022年7月	古川亜衣美, 細田泰子	新人期看護師におけるメンタリング機能の検討	日本看護学教育学会誌	32	1	13	25
	2022年5月	水引智央, 細田泰子, 紙野雪香	看護実践と学習を結ぶセルフモニタリング支援	看護展望（メデカルフレンド社）	47	6	78	83
	2022年4月	北島洋子, 細田泰子	新人看護師の職場適応尺度の開発－職場適応行動と職場適応状態－	日本看護研究学会雑誌	45	1	29	40
松田 光信	2024年11月	奥野裕子,河野あゆみ,大平幸子, 牧野耕次,佐藤史教,富川順子,松田光信	看護基礎教育機関における精神看護学実習に関する実態調査(第1報)～精神看護学における課題整理～	日本精神保健看護学会誌	33	2	133	139
	2024年6月	河野あゆみ,松田光信,牧野耕次, 奥野裕子,佐藤史教,大平幸子,富川順子	精神医療機関における新人看護職員の研修に関する実態調査 ～施設の特徴と研修内容との関連～	日本精神保健看護学会誌	33	1	125	137

名前	出版年月	著者	タイトル	出版機関・掲載誌名	巻	号	開始ページ	終了ページ
三輪 恭子	2025年2月	深山華織,三輪恭子	訪問看護師の栄養アセスメント・モニタリングシート活用および管理栄養士との事例検討による成果	日本在宅看護学会誌	13	2	29	37
	2022年12月	三輪恭子,河野あゆみ	地域ケアにおける看護職によるコミュニティ・エンパワメントの過程とコンピテンシー	日本看護科学学会雑誌	42	-	899	907
森本 明子	2025年1月	Morimoto A, Sonoda N.	Dissemination of information to foreigners in preparation for natural disasters: Response to a letter to the editor	JMA Journal	8	2	660	661
	2024年10月	Koike R, Sonoda N, Furuki H, Morimoto A.	Individual preparedness for large-scale earthquakes among international students in Japan: A cross-sectional questionnaire survey	JMA Journal	7	4	496	505
	2024年8月	Sonoda N, Fujii K, Morimoto A.	Feasibility of non-contact noise cancellation for medical device alarms in intensive care unit: An in vitro experiment	Journal of Modern Nursing Practice and Research	4	3	1	7
	2023年4月	Koh C, Watanabe K, Sonoda N, Yasumoto R, Tsuzuki C, Morimoto A.	Relationships between knowledge of postmenopausal lifestyle-related symptoms, stages of health behavior change, and physical examination participation among middle-aged Japanese women	Journal of the Japan Society for Menopause and Women's Health	30	3	365	375
	2023年2月	Furuki H, Sonoda N, Morimoto A.	Factors related to the knowledge and skills of evidence-based practice among nurses worldwide: A scoping review	Worldviews on Evidence-Based Nursing	20	1	16	26
	2023年1月	Koh C, Chiba T, Yoshida R, Kato M, Mori M, Morimoto A, Nakajima Y, Yamada K, Furuyama M, Saho M, Watanabe K.	Differences in gestational weight gain in accordance with Japanese and Institute of Medicine guidelines between Japanese and non-Japanese Asian pregnant women at a perinatal medical center in Japan	Journal of International Health	37	4	179	188
	2022年12月	Hayashi R, Sonoda N, Morimoto A.	Mothers' decisional conflict and information needs regarding breastfeeding continuation or termination: A cross-sectional questionnaire survey	International Journal of Nursing and Health Care Research	5	12	1	10
	2022年8月	Li M, Sonoda N, Koh C, Yasumoto R, Morimoto A.	Meta-analysis of the association between health literacy and smoking	Population Medicine	4	August	1	11
	2022年6月	Morimoto A, Koh C, Yasumoto R, Hideaki F, Watanabe K, Tsuzuki C, Sonoda N.	Relationship between communicative and critical health literacy, health information sources, and participation in health checkups among middle-aged Japanese community residents	Preventive Medicine	161	August	1	7
	2022年5月	Li M, Sonoda N, Koh C, Yasumoto R, Morimoto A.	Association between health literacy and current smoking among middle-aged Japanese ever smokers	Public Health Toxicology	2	2	1	7
	2022年4月	Sonoda N, Koh C, Yasumoto R, Li M, Watanabe K, Tsuzuki C, Morimoto A.	Association between recommendations from public health nurses, medical professionals, and family members and participation in health checkups among middle-aged community residents with National Health Insurance	JMA Journal	5	2	199	206
山口 曜子	2023年7月	岩崎賢一,山口曜子	ICUで交替制勤務に従事する看護師の睡眠の質に影響する生活行動時刻の把握	日本看護科学学会誌	43	—	63	70
横山 美江	2024年12月	Yokoyama Y, Ogata Y, Silventoinen K	Risk Factor for Child Maltreatment at 3 Years of Age in Japanese Multiples and Singletons: A Population-Based Study.	Twin research and human genetics : the official journal of the International Society	27	6	1	7
	2024年11月	緒方 靖恵, 横山 美江	1歳6ヵ月児を持つ母親の経済不安と主観的健康感および身体的疲労感との関連	日本公衆衛生雑誌	71	11	673	681
	2024年11月	緒方 靖恵, 横山 美江	相対的貧困と3歳児のテレビ等動画視聴時間との関連	佛教大学紀要	19	-	3	14
	2024年10月	Yokoyama Y, Ogata Y, Suzuki K, Kanaoka S, Furushou K, Masuda R, Horiuchi S, Yamagata Z, Kondo N, Silventoinen K	Continuous Support from the Same Public Health Nurse and Parental Perception and Use of Health Care Services: A Retrospective Observational Study.	Maternal and child health journal	28	10	1726	1736
	2024年1月	緒方 靖恵, 上原 里程, 横山 美江	3ヵ月児健診時における母親の経済不安と気分および子どもとの生活への思いとの関連 乳児健診データを用いた横断研究	日本公衆衛生雑誌	71	1	33	40
	2022年12月	堀内 清華, 秋山 有佳, 杉浦 至郎, 松浦 賢長, 永光 信一郎, 横山 美江, 鈴木 孝太, 市川 香織, 近藤 尚己, 川口 晴菜, 上原 里程, 山縣 然太郎	市区町村における母子保健情報の電子化および利活用の現状と課題	日本公衆衛生雑誌	69	12	948	956

名前	出版年月	著者	タイトル	出版機関・掲載誌名	巻	号	開始ページ	終了ページ
横山 美江	2022年10月	Silventoinen K, Li W, Jelenkovic A, Sund R, Yokoyama Y, Aantonen S, Piirtola M, Sugawara M, Tanaka M, Matsumoto S, Baker LA, Tuvblad C, Tynelius P, Rasmussen F, Craig JM, Saffery R, Willemssen G, Bartels M, van Beijsterveldt CEM, Martin NG, Medland SE, Montgomery GW, Lichtenstein P, Krueger RF, McGue M, Pahlen S, Christensen K, Skytthe A, Kyvik KO, Saudino KJ, Dubois L, Boivin M, Brendgen M, Dionne G, Vitaro F, Ullemar V, Almqvist C, Magnusson PKE, Corley RP, Huibregtse BM, Knafo-Noam A, Mankuta D, Abramson L, Haworth CMA, Plomin R, Bjerregaard-Andersen M, Back-Nielsen H, Sodemann M, Duncan GE, Buchwald D, Burt SA, Klump KL, Llewellyn CH, Fisher A, Boomsma DI, Sørensen TIA, Kaprio J.	Changing genetic architecture of body mass index from infancy to early adulthood: an individual based pooled analysis of 25 twin cohorts.	International Journal of Obesity	46	10	1901	1909
	2022年5月	横山美江, 畠山典子, 村上菜々美	継続支援システムを取り入れた自治体における保健師の母子保健活動への認識の変化 フィンランドのネウボラの基盤システムの導入	日本公衆衛生雑誌	69	5	357	367
渡邊 香織	2025年1月	小寺 樹里 古山 美穂 渡邊 香織	発達障害特性を有する女性の第1子における妊娠・子育ての体験	母性衛生	65	4	636	644
	2025年1月	金谷真美 佐保美奈子 高知恵 渡邊 香織	産後1ヵ月における授乳に関わる夫の思いと行動	母性衛生	65	4	405	412
	2024年4月	三浦 恭子, 古山 美穂, 渡邊 香織	周期閉経期女性における避妊の意思決定と妊孕性の低下の認識の関連	日本助産学会誌	advpub	0	70	80
	2024年3月	古山美穂 高知恵 山田加奈子 中嶋有加里 佐保美奈子 渡邊 香織	学士課程助産師教育修了時における助産実践能力に対する学生の自己評価後	大阪公立大学看護学雑誌	2	1	41	47
	2024年1月	Koh Chie, Watanabe Kaori, Saho Minako, Nakajima Yukari, Furuyama Miho, Yamada Kanako, Nakai Yuichirou	Factors Related to Satisfaction with Decision-making Regarding Human Papillomavirus Vaccination Behavior among Female University Students in Japan(タイトル和訳中)	JMA Journal	7	1	30	39
	2023年11月	高知恵, 千葉 貴子, 中根 祥子, 谷口 朱子, 北條 涉, 中嶋 有加里, 古山 美穂, 山田 加奈子, 渡邊 香織	在留外国人褥婦への保健指導を実践する助産師の思いと心理的ストレス 尿中バイオピリンと心理尺度による横断的研究	国際臨床医学会雑誌	7	1	22	28
	2023年8月	菊川 佳世, 古山 美穂, 渡邊 香織	つわりに対する情報提供を主とした看護支援の効果に関するシステマティックレビュー	日本助産学会誌	37	2	194	205
	2023年4月	高知恵, 渡邊 香織, 園田 奈央, 安本 理抄, 都筑 千景, 森本 明子	中高年女性の閉経後の生活習慣病に関連する症状の知識と行動変容ステージ,特定健診受診との関連 (Relationships between knowledge of postmenopausal lifestyle-related symptoms, stages of health behavior change, and physical examination participation among middle-aged Japanese women)	日本女性医学学会雑誌	30	3	365	375
	2022年10月	渡邊 香織, 川村 千恵子	就労女性のプレコンセプションケアの現状と栄養摂取状態との関連性	日本母性看護学会誌	23	1	17	24

(准教授)								
名前	出版年月日	著者	タイトル	出版機関・掲載誌名	巻	号	開始ページ	終了ページ
益 加代子	2023年3月	安居真知子,益加代子, 志田京子	学童期の子どもをもつ女性看護師の就業継続を妨げる要因	大阪公立大学看護学雑誌	1		1	10
	2023年3月	山口舞子,益加代子,志田京子	360度カメラを用いた多重課題シミュレーション演習の実践報告	大阪公立大学看護学雑誌	1		51	55
岡野 明美	2024年12月	岡野明美	認知症高齢者の生活支援に向けた地域包括支援センターのコーディネーションの関連要因	日本地域看護学会	27	3	26	34
	2024年12月	岡野明美	委託型地域包括支援センターに 地区診断導入を目指した研修の取組み	日本公衆衛生看護学会	13	3	234	243
	2024年9月	岡野明美	認知症高齢者の生活支援に向けた地域包括支援センターのコーディネーションの 現状と各職種の特徴	厚生 の指標	71	11	7	13

名前	出版年月	著者	タイトル	出版機関・掲載誌名	巻	号	開始ページ	終了ページ
岡野 明美	2023年12月	岡野明美	地域包括支援センター保健師職交流会の成果と課題	保健師ジャーナル	79	6	484	491
	2023年8月	岡野明美	保健師を対象とした認知症高齢者の生活支援に向けた地域包括支援センターのコーディネーション尺度の3職種への適用可能性の検討	日本公衆衛生看護学会	12	2	109	118
	2022年4月	岡野明美	認知症高齢者の生活支援に向けた地域包括支援センター保健師のコーディネーションの現状と課題	日本地域看護学会	25	1	40	47
	2024年4月	岡野明美	認知症高齢者の生活支援に向けた地域包括支援センターのコーディネーションを困難にする要因と教育ニーズ	日本地域看護学会	27	1	33	41
奥野 裕子	2024年11月	奥野 裕子, 河野 あゆみ, 大平 幸子, 牧野 耕次, 佐藤 史教, 富川 順子, 松田 光信, 精神保健看護学会教育の質向上委員会	看護基礎教育機関における精神看護学実習に関する実態調査（第1報）	日本精神保健看護学会誌	33	2	133	139
	2024年6月	河野 あゆみ, 松田 光信, 牧野 耕次, 奥野 裕子, 佐藤 史教, 大平 幸子, 富川 順子, 精神保健看護学会教育の質向上委員会	精神医療機関における新人看護職員の研修に関する実態調査	日本精神保健看護学会誌	33	1	125	137
	2024年3月	吉田 絢香, 藤野 陽生, 山本 知加, 石井 篤子, 毛利 育子, 奥野 裕子	自閉スペクトラム症児における社会的相互作用の動画視聴時の視線と脳血流量の変化	日本心理学会大会発表論文集	87回	-	772	772
	2024年3月	河野あゆみ, 松田光信, 牧野耕次, 奥野裕子, 佐藤史教, 大平幸子, 富川 順子	精神医療機関における新人看護職員の研修に関する実態調査～施設の特徴と研修内容との関連～	日本精神保健看護学会誌	33	1	125	137
	2024年2月	Hatakeyama Yoshiko, Haruo, Fujino Tomoka, Yamamoto Atsuko, Ishii Hiroko Okuno	Effects of Classroom-Based Social Problem-Solving Training on Elementary School Children: Investigating the Moderating Role of Executive Function.	Psychology in the Schools	-	-	-	-
勝山 愛	2025年2月	Katsuyama Ai, Hosoda Yasuko	Engagement in learning activities for newly graduated nurses: Development and psychometric testing of a scale	Journal of International Nursing Research	4	1	e2024-0006	e2024-0006
	2024年12月	細田泰子, 根岸まゆみ, 金山悠, 北島洋子, 土肥美子, 片山由加里	看護学生と新人看護師の教育指導者における経験学習の関連要因	日本医学看護学教育学会誌	33	2	12	20
	2023年1月	細田泰子, 勝山愛, 金山悠, 北島洋子, 根岸まゆみ, 片山由加里, 土肥美子	教育指導者による看護学習者の臨床判断能力の評価と支援の必要性―測定用具の信頼性・妥当性の検討―	日本医学看護学教育学会誌	31	3	21	30
九津見 雅美	2025年1月	中村 マミ, 九津見雅美, 長畑多代	介護老人保健施設での医療行為において認知症高齢者の personhood を維持する看護実践	老年看護学雑誌	29	2	61	69
	2024年12月	長野 弥生, 長畑 多代, 九津見雅美, 山内 加絵	老年看護学実習におけるルーブリックの使用が自己調整学習に及ぼす影響	日本看護学教育学会誌	34	45717	35	43
	2023年3月	三好あや, 長畑多代, 九津見雅美	インスリン注射をしている2型糖尿病を有する高齢者のセルフマネジメントの様相	大阪公立大学看護学雑誌	1	—	21	31
河野 あゆみ (精神看護学)	2024年11月	奥野 裕子, 河野 あゆみ, 大平 幸子, 牧野 耕次, 佐藤 史教, 富川 順子, 松田 光信, 精神保健看護学会教育の質向上委員会	看護基礎教育機関における精神看護学実習に関する実態調査（第1報）	日本精神保健看護学会誌	33	2	133	139
	2024年6月	河野 あゆみ, 松田 光信, 牧野 耕次, 奥野 裕子, 佐藤 史教, 大平 幸子, 富川 順子, 精神保健看護学会教育の質向上委員会	精神医療機関における新人看護職員の研修に関する実態調査～施設の特徴と研修内容との関連～	日本精神保健看護学会誌	33	1	125	137
小西 円	2024年3月	西山 里枝, 上田 裕子, 小西 円, 玉井 寿枝, 木原 知穂, 永易 裕子, 西田 佳世	看護系大学1年次の睡眠の実態と日中の眠気や生活習慣との関連	聖カタリナ大学聖カタリナ大学短期大学部研究紀要	—	36	1	13
	2024年1月	益満智美 佐々木八千代 手塚 菜葉 小西円 白井みどり	新型コロナウイルス感染症パンデミック下の地域在住高齢者における抑うつと関連要因の変化	日本健康医学会雑誌	32	4	400	408
	2022年7月	小西 円, 佐々木 八千代, 白井 みどり	尿意を表出できる施設入所高齢者の中途覚醒と夜間おむつ交換の関係	老年看護学	27	1	37	45
佐竹 陽子	2024年9月	堀井 えりな, 石澤 美保子, 佐竹 陽子, 小川 智永, 満尻 由美, 松田 雅江	高齢者の爪白癬罹患の認識と生活状況（環境・ケア）との関連	日本フットケア・足病医学会誌	5	3	181	185
	2023年10月	佐竹 陽子, 石澤 美保子, 森脇 裕美, 升田 茂章, 土田 敏恵, 貝谷 敏子, 田中 結華	在宅療養者における医療関連機器圧迫創傷の有病状況とケアの現状 全国指定訪問看護ステーションの実態調査から	日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌	27	3	503	514
	2023年9月	松田 雅江, 石澤 美保子, 佐竹 陽子, 満尻 由美, 堀井 えりな	砕石位における手術開始前の仙骨部位圧値と関節角度の検討および体圧分散ウレタンフォームによる仙骨部位圧値の検証	奈良県立医科大学看護研究ジャーナル	19	—	22	32

名前	出版年月	著者	タイトル	出版機関・掲載誌名	巻	号	開始ページ	終了ページ
佐竹 陽子	2022年6月	森脇 裕美, 石澤 美保子, 佐竹 陽子	ICU看護師の深部静脈血栓症(Deep vein thrombosis:DVT)予防用医療機器の着脱時間の実際	日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌	26	1	36	42
清水 彩	2025年1月	AYA Shimizu, Takeshi Arimitsu, Kana Harada, Mio Ozawa	Parental intentions and requests to provide pain care for their infants in neonatal intensive care units	Frontiers in pediatrics	12	—	01	09
	2022年12月	野島 敬祐, 川村 晃右, 松本 賢哉, 清水 彩, 梶谷 佳子, 奥野 信行, 岡田 純子	臨床実習前シミュレーション教育で使用した教育用電子カルテに対する学生の評価	看護教育研究学会誌	14	2	41	48
	2022年5月	小澤 未緒, 清水 彩, 米澤 かおり, 有光 威志, 諫山 哲哉, 窪田 昭男, 側島 久典, 田中 広輔, 田村 高子, 遠山 恒史, 原田 香奈, 福原 里恵	「NICUに入院している新生児の痛みのケアガイドライン」委員会 ガイドライン普及に関する全国調査	日本新生児看護学会誌	28	—	11	15
	2022年5月	清水 彩, 宇藤 裕子, 内田 美恵子, 木下 千鶴, 小西 美樹, 関森 みゆき, 藤本 紗央里, 村木 ゆかり	全国の周産期母子医療センター新生児集中治療室の看護体制とケア実践に関する実態調査	日本新生児看護学会誌	28	—	16	23
園田 奈央	2025年1月	Morimoto A, Sonoda N.	Dissemination of information to foreigners in preparation for natural disasters: Response to a letter to the editor	JMA Journal	8	2	660	661
	2024年10月	Koike R, Sonoda N, Furuki H, Morimoto A.	Individual preparedness for large-scale earthquakes among international students in Japan: A cross-sectional questionnaire survey	JMA Journal	7	4	496	505
	2024年8月	Sonoda N, Fujii K, Morimoto A.	Feasibility of non-contact noise cancellation for medical device alarms in intensive care unit: An in vitro experiment	Journal of Modern Nursing Practice and Research	4	3	1	7
	2023年4月	Koh C, Watanabe K, Sonoda N, Yasumoto R, Tsuzuki C, Morimoto A.	Relationships between knowledge of postmenopausal lifestyle-related symptoms, stages of health behavior change, and physical examination participation among middle-aged Japanese women	Journal of the Japan Society for Menopause and Women's Health	30	3	365	375
	2023年2月	Furuki H, Sonoda N, Morimoto A.	Factors related to the knowledge and skills of evidence-based practice among nurses worldwide: A scoping review	Worldviews on Evidence-Based Nursing	20	1	16	26
	2022年12月	Hayashi R, Sonoda N, Morimoto A.	Mothers' decisional conflict and information needs regarding breastfeeding continuation or termination: A cross-sectional questionnaire survey	International Journal of Nursing and Health Care Research	5	12	1	10
	2022年8月	Li M, Sonoda N, Koh C, Yasumoto R, Morimoto A.	Meta-analysis of the association between health literacy and smoking	Population Medicine	4	August	1	11
	2022年6月	Morimoto A, Koh C, Yasumoto R, Hideaki F, Watanabe K, Tsuzuki C, Sonoda N.	Relationship between communicative and critical health literacy, health information sources, and participation in health checkups among middle-aged Japanese community residents	Preventive Medicine	161	August	1	7
	2022年5月	Li M, Sonoda N, Koh C, Yasumoto R, Morimoto A.	Association between health literacy and current smoking among middle-aged Japanese ever smokers	Public Health Toxicology	2	2	1	7
田中 健太郎	2023年3月	田中 健太郎, 石原 多佳子, 額邇 朋弥, 小林 和成	中山間地域在住の高齢者における移動販売車の有用性について	地域志向学研究	7	—	25	35
	2022年6月	岡本 名珠子, 小林 和成, 西田 友子, 田中 健太郎, 額邇 朋弥	保健師課程学生の「保健師に求められる実践能力と卒業時の到達度」：学生自己評価の分析とCOVID-19感染拡大下における教育の現状と課題	岐阜看護学ジャーナル	1	1	47	56
藤田 寿一	2024年12月	Takahashi M, Mizuno-Kamiya M, Rahman S, Tsuruta H, Ikeno K, Kawaki H, Nakamura G, Muramatsu Y, Nikaido T, Fujita Ando M, Takahashi M, Mizuno-Kamiya M, Morimoto-Ito H, Ikeno K, Ueno K, Takayama E, Kawaki H, Nakamura G.	Productions of Th2 cytokines, IL-4 and IL-10, were enhanced via the function of IL-2 from anti-CD3 antibody-stimulated mouse spleen cells treated with caffeic acid phenethyl ester.	Journal of oral bioscience	66	4	34	40
	2023年12月	Ando M, Takahashi M, Mizuno-Kamiya M, Morimoto-Ito H, Ikeno K, Ueno K, Takayama E, Kawaki H, Nakamura G.	Enhanced production of IL-2 from anti-CD3 antibody-stimulated mouse spleen cells by caffeic acid phenethyl ester, a major component of Chinese propolis.	Journal of oral bioscience	65	4	386	394
	2022年9月	Tsuruta H, Mizuno-Kamiya M, Takahashi M, Ando M, Ikeno K, Ueno K, Takayama E, Kawaki H, Nakamura G, Nikaido T.	Enhanced production of IL-2 from anti-CD3 antibody-stimulated mouse spleen cells by artemisinin C, a major component of Brazilian green propolis.	Journal of oral bioscience	64	3	366	375
古山 美穂	2025年1月	小寺 樹里, 古山 美穂, 渡邊 香織	発達障害特性を有する女性の第1子における妊娠・子育ての体験	母性衛生	65	4	636	644
	2024年4月	三浦 恭子, 古山 美穂, 渡邊 香織	周期経期女性における避妊の意思決定と妊孕性の低下の認識の関連	日本助産学会誌	38	1	70	80
	2024年3月	古山 美穂, 高知恵, 山田 加奈子, 中嶋 有加里, 佐保 美奈子, 渡邊 香織	学士課程助産師教育修了時における助産実践能力に対する学生の自己評価	大阪公立大学看護学雑誌	2	なし	41	47

名前	出版年月	著者	タイトル	出版機関・掲載誌名	巻	号	開始ページ	終了ページ
古山 美穂	2024年1月	Koh Chie, Watanabe Kaori, Saho Minako, Nakajima Yukari, Furuyama Miho, Yamada Kanako, Nakai Yuichirou	日本の女子大学生におけるヒトパピローマウイルスワクチン接種行動に関する意思決定の満足度に関連する要因 (Factors Related to Satisfaction with Decision-making Regarding Human Papillomavirus Vaccination)	JMA Journal	7	1	30	39
	2023年11月	高知恵, 千葉貴子, 中根祥子, 谷口朱子, 北條涉, 中嶋有加里, 古山美穂, 山田加奈子, 渡邊香織	在留外国人妊婦への保健指導を実践する助産師の思いと心理的ストレス-尿中バイオピリンと心理尺度による横断的研究	国際臨床医学会雑誌	7	1	22	28
	2023年8月	菊川 佳世, 古山 美穂, 渡邊 香織	つわりに対する情報提供を主とした看護支援の効果に関するシステマティックレビュー	日本助産学会誌	37	2	194	205
	2023年6月	高 知恵, 古山 美穂, 宮下 ルリ子, 渡邊 香織	コリアンコミュニティに居住する育児期在日コリアン母親の家族形成と育児を支えるソーシャル・キャピタルの醸成	国際保健医療	38	2	43	52
	2022年8月	吉田 涼子, 高 知恵, 加藤 美里, 森真穂, 千葉 貴子, 山田 加奈子, 古山 美穂, 佐保 美奈子, 渡邊 香織	外国人妊婦の日本及び国際ガイドラインに沿った妊娠中の体重増加と分娩様式、分娩時出血、児体重との関連	母性衛生	63	3	234	234
細名 水生	2025年3月	Mio Hosona, Yuko Uesugi, Keiko Sekido	Impact of electronic media use on sleep quality and fatigue: Comparison between shift work nurses and nursing students	Open Journal of Nursing	15	3	137	151
	2025年3月	Mio Hosona	Comparison of sleep quality and fatigue among shift work nurses across different age group in Japan	Health	17	3	233	245
	2024年2月	中川 優花, 上杉 裕子, 細名 水生	女子大学生に対するアロマセラピーによる月経周期期症状への効果	医学と生物学	164	1	1	14
	2023年3月	Mio Hosona, Yuko Uesugi	The Effect of Stress, Fatigue, and Sleep Quality on Shift-Work Nurses in Japan	Health	15	3	239	250
	2022年7月	Akiko Yamaguchi, Atsue Ishii, Haruna Fukushige, Yoshiaki Inoue, Izumi Akada, Rie Mitani, Akiko Ito, Mio Hosona, Savaka	Opportunities for Interactive Communication in Mechanically Ventilated Critically Ill Patients: A Video-Based Observational Study	Nursing Research and Practice	2022	1	1	11
南村 二美代	2022年12月	乾 彰弘, 旗持 知恵子, 南村 二美代	抗TNF- α 抗治療法中の男性クローン病患者における食生活の実態	日本難病看護学会誌	27	3	74	85
	2022年8月	Asai K, Hatamochi C, Minamimura F	Association Between Illness Perception and Care-Seeking Intention in Patients with Chronic Heart Failure.	Clinical nursing research	32	3	669	676

(講師)								
名前	出版年月日	著者	タイトル	出版機関・掲載誌名	巻	号	開始ページ	終了ページ
池田 直隆	2023年12月	島本 あかり, 河野 あゆみ, 池田直隆	住民ボランティアのICT機器の使用頻度、使用自信感と地域高齢者見守り自己効力感、見守り訪問頻度との関連	日本看護科学会誌	43	-	71	78
	2023年12月	渡部 有人, 河野 あゆみ, 池田直隆	中高年住民における情報通信技術(ICT)を利用した交流と社会活動、うつとの関連	厚生 の指標	70	15	20	26
大槻 奈緒子	2025年1月	Naoko Otsuki, Tomoaki Mamen, Yuya Kanie, Masahiro Wada, Maki Shinzawa, Kazunori Ikebe, Ryohei Yamamoto	Number of teeth and incidence of hip fracture in older adults aged ≥ 75 years: the OHSAKA study	Journal of Epidemiology	35	7	313	320
	2024年11月	Tomoaki Mamen, Naoko Otsuki, Satoko Takeuchi, Ryohei Yamamoto, Kazunori Ikebe	Removable denture use, fit, and all-cause mortality in older adults with reduced occlusal support: The OHSAKA study	Journal of Prosthetic Dentistry	133	6	1505	1511
	2024年7月	Rika Mori, Ryohei Yamamoto, Maki Shinzawa, Naoko Otsuki, Yuichiro Matsumura, Yuko Nakamura, Qinyan Li, Yusuke Sakaguchi, Isao Matsui, Masayuki Mizui, Haruki Shinomiya, Chisaki Ishibashi, Kaori Nakanishi, Daisuke Kanayama, Izumi Nagatomo.	Breakfast frequency and smoking initiation in university students: a retrospective cohort study.	Nutrients	16	(-)	2361	(-)
	2024年6月	Tomoaki Mamen, Naoko Otsuki, Masahiro Wada, Ryohei Yamamoto, Kazunori Ikebe	Association between posterior occlusal support and tooth loss in a population-based cohort: The OHSAKA study	Journal of Dentistry	148	(-)	105144	(-)
	2024年4月	Qinyan Li, Ryohei Yamamoto, Maki Shinzawa, Naoko Otsuki, Yuichiro Matsumura, Yuko Nakamura, Masayuki Mizui, Isao Matsui, Yusuke Sakaguchi, Haruki Shinomiya, Chisaki Ishibashi, Hiroyoshi Adachi, Kaori Nakanishi & Izumi Nagatomo	Short sleep duration and smoking initiation in university students: a retrospective cohort study	Sleep and Breathing	28	4	1839	1846

名前	出版年月	著者	タイトル	出版機関・掲載誌名	巻	号	開始ページ	終了ページ
大槻 奈緒子	2024年1月	豆野 智昭, 大槻 奈緒子, 山本 駿平, 池邊 一典	リアルワールドデータの歯科における活用 大規模コホート研究から欠損歯列を考察する リアルワールドデータの活用	日本補綴歯科学会誌	16	1	22	27
	2023年12月	Yuichiro Matsumura Ryohei Yamamoto Maki Shinzawa Naoko Otsuki Masayuki Mizui Isao Matsui Yusuke Sakaguchi Makoto Nishida Kaori Nakanishi Seiko Ide Chisaki Ishibashi Takashi Kudo Keiko Yamauchi-Takahara Izumi Nagatomo Toshiki Moriyama	Living Arrangements Predict Frequent Alcohol Consumption Among University Students: A Retrospective Cohort Study	American Journal of Health Promotion	38	4	478	482
	2023年3月	Ryohei Yamamoto, Qinyan Li, Naoko Otsuki, Maki Shinzawa, Makoto Yamaguchi, Minako Wakasugi, Yasuyuki Nagasawa, Yoshitaka Isaka	A Dose-Dependent Association between Alcohol Consumption and Incidence of Proteinuria and Low Glomerular Filtration Rate: A Systematic Review and Meta-Analysis of Cohort Studies	Nutrients	15	7	1592	(-)
	2023年2月	Ryuichi Yoshimura, Ryohei Yamamoto, Naoko Otsuki, Maki Shinzawa, Rie Kataoka, Nami Ikeguchi, Suzuna Kanda, Yuki Nii, Hiroshi Toki, Toshiki Moriyama	Long-Term Care Needs and Incidence of End-Stage Kidney Disease: A Retrospective Cohort Study	Journal of the American Medical Directors Association	24	3	402	404
	2022年6月	Yuichiro Matsumura Ryohei Yamamoto Maki Shinzawa Taisuke Matsushita Ryuichi Yoshimura Naoko Otsuki Masayuki Mizui Isao Matsui Junya Kaimori Yusuke Sakaguchi Chisaki Ishibashi Seiko Ide Kaori Nakanishi Makoto Nishida Takashi Kudo Keiko Yamauchi-Takahara Izumi Nagatomo Toshiki Moriyama	Skipping breakfast and incidence of frequent drinking in university students: A retrospective cohort study	Nutrients	14	13	2657	(-)
大野 志保	2025年3月	六水ゆかり, 大野志保, 續橋淳子, 永津利衣	学生の「消えたい」体験, 希死念慮, 自傷行為と, 死生観, 幸福感, 死別経験の関連	拓殖大学人文科学研究 所紀要 人文, 自然, 人間科学研究	-	53	40	60
	2025年3月	大野志保	学校で生徒を亡くす経験をするということー養護教諭の経験と感情の変化に焦点をあてて	質的心理学研究	-	25	278	290
緒方 靖恵	2025年3月	田野中 恭子, 佐藤 純, 土田 幸子, 緒方 靖恵	精神疾患の親をもつ子どもの「支え」に対する気持ち	保健医療技術学部論集	-	19	25	34
	2025年3月	緒方靖恵, 横山美江	相対的貧困と3歳児のテレビ等動画視聴時間との関連	佛教大学保健医療技術 学部論集	-	19	3	14
	2025年2月	福田 早苗, 緒方 靖恵, 小川 優, 横山 美江	双子間の関係性と母親の精神的健康状態に関する研究	総合福祉科学研究	-	16	9	17
	2024年12月	Yokoyama Y., Ogata Y., K. Silventoinen	Risk Factor for Child Maltreatment at 3 Years of Age in Japanese Multiples and Singletons: A Population-Based Study	Twin Research and Human Genetics	27	6	311	317
	2024年11月	緒方 靖恵, 横山 美江	1歳6ヵ月児を持つ母親の経済不安と主観的健康感および身体的疲労感との関連	日本公衆衛生雑誌	71	11	673	681
	2024年11月	濱吉 美穂, 浜崎 優子, 阿部 慈美, 岡田 朱民, 早瀬 麻子, 植村 小夜子, 田野中 恭子, 緒方 靖恵, 高岡 寿江, 安居 幸一郎	ARシミュレーターを用いた認知症患者に対するコミュニケーション技術演習の学習効果の検討	日本看護学教育学会誌	34	2	35	46
	2024年10月	Yokoyama Y., Ogata Y., Suzuki K., Kanaoka S., Furushou K., Masuda R., Horiuchi S., Yamagata Z., Kondo N., K. Silventoinen	Continuous Support from the Same Public Health Nurse and Parental Perception and Use of Health Care Services: A Retrospective Observational Study	Maternal and Child Health Journal	28	10	1726	1736
	2024年1月	緒方 靖恵, 上原 里程, 横山 美江	3ヵ月児健診時における母親の経済不安と気分および子どもとの生活への思いとの関連 乳児健診データを用いた横断研究	日本公衆衛生雑誌	71	1	33	40
喜田 雅彦	2025年3月	佐藤 淑子, 平尾 百合子, 喜田 雅彦, 邊木園 幸	感染対策向上加算1および外来感染対策向上加算の取得状況と感染管理認定看護師および感染症看護専門看護師の登録状況からみた感染対策に関する地域連携の現状	大阪公立大学看護学雑誌	3	-	11	17
	2024年12月	Masahiko Kita	Evaluation of information available on the web to patients undergoing splenectomy in Japan	PEC Innovation	6	100367	-	-

名前	出版年月	著者	タイトル	出版機関・掲載誌名	巻	号	開始ページ	終了ページ
喜田 雅彦	2022年10月	喜田 雅彦, 平尾 百合子, 佐藤 淑子	薬剤耐性(Antimicrobial Resistance:AMR)に関する情報発信の現状 新聞記事の内容分析を目指して	医療の質, 安全学会誌	17	4	424	430
高 知恵	2025年1月	金谷真美, 佐保美奈子, 高知恵, 渡邊香織	産後1か月における授乳に関わる夫の思いと行動	母性衛生	65	4	405	412
	2024年11月	中根祥子, 千葉貴子, 高知恵	外国人妊産婦への看護上の体験とより良い看護実践のための助産師, 看護師の希望	国際臨床医学会雑誌	8	1	37	43
	2024年8月	高 知恵, 千葉 貴子, 中根 祥子, 藤川 陽子, 吉田 有希, 土井 智恵子, 菊川 佳世, 宇田川 直子, 宮下 ルリ子, 前田 隆代	大阪府下周産期母子医療センターにおける在留外国人妊産婦看護実践の現状と課題	国際保健医療	39	2	21	32
	2024年1月	Chie Koh, Kaori Watanabe, Minako Saho, Yukari Nakajima, Miho Furuyama, Kanako Yamada, Yuichirou Nakai	Factors Related to Satisfaction with Decision-making Regarding Human Papillomavirus Vaccination Behavior among Female University Students in Japan	JMA Journal	7	1	30	39
	2023年11月	高知恵, 千葉貴子, 中根祥子, 谷口朱子, 北條洙, 中嶋有加里, 古山美穂, 山田加奈子, 渡邊香織	在留外国人褥婦への保健指導を実践する助産師の思いと心理的ストレス-尿中バイオピリンと心理尺度による横断的研究-	国際臨床医学会雑誌	7	1	22	28
	2023年6月	高 知恵, 古山 美穂, 宮下 ルリ子, 渡邊 香織	コリアンコミュニティに居住する育児期在日コリアン母親の家族形成と育児を支えるソーシャル, キャピタルの醸成	国際保健医療	38	2	43	52
	2023年4月	Chie Koh, Kaori Watanabe, Nao Sonoda, Risa Yasumoto, Chikage Tsuzuki, Akiko Morimoto	Relationships between knowledge of postmenopausal lifestyle-related symptoms, stages of health behavior change, and physical examination participation among middle-aged Japanese women	Journal of the Japan Society for Menopause and Women's Health	30	3	365	375
	2023年1月	Chie Koh, Takako Chiba, Ryoko Yoshida, Misato Kato, Maho Mori, Akiko Morimoto, Yukari Nakajima, Kanako Yamada, Miho Furuyama, Minako Saho, Kaori Watanabe	Differences in gestational weight gain in accordance with Japanese and Institute of Medicine guidelines between Japanese and non-Japanese Asian pregnant women at a perinatal medical center in Japan	Journal of International Health	37	4	179	188
	2022年8月	Meng Li, Nao Sonoda, Chie Koh, Risa Yasumoto, Akiko Morimoto	Meta-analysis of the association between health literacy and smoking	Population Medicine	4	22	-	-
	2022年6月	Akiko Morimoto, Chie Koh, Risa Yasumoto, Hideaki Furuki, Kaori Watanabe, Chikage Tsuzuki, Nao Sonoda	Relationship between communicative and critical health literacy, health information sources, and participation in health checkups among middle-aged Japanese community residents	Preventive Medicine	161	107112	-	-
	2022年4月	Nao Sonoda, Chie Koh, Risa Yasumoto, Meng Li, Kaori Watanabe, Chikage Tsuzuki, Akiko Morimoto	Association between Recommendations from Public Health Nurses, Medical Professionals, and Family Members and Participation in Health Checkups among Middle-aged Community Residents with National Health Insurance	JMA Journal	5	2	199	206
	2022年4月	Meng Li, Nao Sonoda, Chie Koh, Risa Yasumoto, Akiko Morimoto	Association between health literacy and current smoking among middle-aged Japanese ever-smokers	Public Health and Toxicology	2	2	8	-
呉代 華容	2025年1月	Hiroko Yoshida, Mai Kabayama, Michiko Kido, Kayo Godai, Yuya Akagi, Yaya Li, Hiroshi Akasaka, Yoichi Takami, Saori Yasumoto, Madoka Ogawa, Takeshi Nakagawa, Kazunori Ikebe, Yasumichi Arai, Yukie Masui, Takumi Hirata, Yasuyuki Gondo, Koichi Yamamoto, Kei Kamide	Association between salt intake and blood pressure among community-dwelling older adults based on their physical frailty status	Hypertension Research	48	4	1399	1408
	2024年10月	久保 心櫻, 辻本 美香, 北川 温子, 呉代 華容, 和田 ありさ, 神出 計, 樺山 舞	非肥満者における循環器疾患危険因子の保有が脳血管疾患および虚血性心疾患の新規発症に及ぼす影響 肥満者との比較検討	日本循環器病予防学会誌	59	3	209	219
	2024年9月	Mariko Hosokawa, Mai Kabayama, Kayo Godai, Yuya Akagi, Yuka Tachibana, Yasuyuki Gondo, Saori Yasumoto, Yukie Masui, Takumi Hirata, Tatsuro Ishizaki, Hiroshi Akasaka, Yasushi Takeya, Yoichi Takami, Koichi Yamamoto, Masahiro Kitamura, Kazunori Ikebe, Yasumichi Arai, Hiromi Rakugi, Kei Kamide	Cross-sectional association between high-sensitivity C-reactive protein and cognitive function in community-dwelling older adults: the SONIC study	BMC Geriatrics	24	1	756	-

名前	出版年月	著者	タイトル	出版機関・掲載誌名	巻	号	開始ページ	終了ページ
呉代 華容	2024年8月	Yuka Tachibana, Kayo Godai, Mai Kabayama, Yuya Akagi, Michiko Kido, Mariko Hosokawa, Hiroshi Akasaka, Yoichi Takami, Koichi Yamamoto, Saori Yasumoto, Yukie Masui, Kazunori Ikebe, Yasumichi Arai, Tatsuro Ishizaki, Yasuyuki Gondo, Kei Kamide	Relationship between respiratory function assessed by spirometry and mild cognitive impairment among community-dwelling older adults.	Geriatrics & gerontology international	24	10	1001	1007
	2024年8月	Yuri Onishi, Hiroshi Akasaka, Kodai Hatta, Ken Terashima, Shino Yoshida, Yukiko Yasunobe, Taku Fujimoto, Masaaki Isaka, Kayo Godai, Michiko Kido, Mai Kabayama, Ken Sugimoto, Yukie Masui, Kiyooki Matsumoto, Saori Yasumoto, Madoka Ogawa, Takeshi Nakagawa, Yasumichi Arai, Tatsuro Ishizaki, Yasuyuki Gondo, Kazunori Ikebe, Kei Kamide, Koichi Yamamoto	Association between serum vitamin D levels and skeletal muscle indices in an older Japanese population: The SONIC study	Geriatrics & gerontology International	24	9	898	903
	2024年8月	Yuka Ohata, Kayo Godai, Mai Kabayama, Michiko Kido, Yuya Akagi, Winston Tseng, Marlon Maus, Hiroshi Akasaka, Yoichi Takami, Koichi Yamamoto, Yasuyuki Gondo, Saori Yasumoto, Madoka Ogawa, Ayaka Kasuga, Kiyooki Matsumoto, Yukie Masui, Kazunori Ikebe, Yasumichi Arai, Tatsuro Ishizaki, Kei Kamide	Risk factors predicting subtypes of physical frailty incidence stratified by musculoskeletal diseases in community-dwelling older adults: The SONIC study.	Geriatrics & gerontology international	24	8	797	805
	2024年4月	Wen Fang, Kayo Godai, Mai Kabayama, Yuya Akagi, Michiko Kido, Hiroshi Akasaka, Yoichi Takami, Kazunori Ikebe, Yasumichi Arai, Yukie Masui, Tatsuro Ishizaki, Saori Yasumoto, Yasuyuki Gondo, Koichi Yamamoto, Yasuharu Tabara, Kei Kamide	Usefulness of the serum creatinine/cystatin C ratio as a blood biomarker for sarcopenia components among age groups in community-dwelling older people: The SONIC study.	Geriatrics & gerontology international	24	6	529	536
	2024年3月	Kayo Godai, Mizuki Kawahara, Azusa Shima, Hideo Tanaka, Tomonori Okamura, Eiji Mekata, Yoshie Matsumura, Yukako Tatsumi, Tomofumi Nishikawa, Takashi Kimura, Yuichiro Kawatsu, Naomi Miyamatsu	Effect of Emotional Information on Breast Cancer Screening Attendance among Never-Screened Female Japanese Employees: a Cluster-Randomized Controlled Trial	滋賀医科大学雑誌	37	1	20	27
	2024年1月	Naoko Murakami, Mai Kabayama, Tomoko Yano, Chika Nakamura, Yuka Fukata, Chihiro Morioka, Wen Fang, Yumiko Nako, Yuki Omichi, Eriko Koujiya, Kayo Godai, Michiko Kido, Winston Tseng, Taizo Wada, Toshinori Nakamura, Atsushi Hirotnani, Toshio Fukuda, Michio Tamatani, Yoshinari Okuda, Masashi Ikushima, Yoshichika Baba, Masahiro Nagano, Yukio Nakamura, Hiromi Rakugi, Kei Kamide	Actual conditions for returning home after hospitalization among older patients receiving home medical care in Japan: OHCARE Study	Geriatrics & Gerontology International	24	suppl1	320	326
	2024年1月	Naoko Murakami, Mai Kabayama, Tomoko Yano, Chika Nakamura, Yuka Fukata, Chihiro Morioka, Wen Fang, Yumiko Nako, Yuki Omichi, Eriko Koujiya, Kayo Godai, Michiko Kido, Winston Tseng, Toshinori Nakamura, Atsushi Hirotnani, Toshio Fukuda, Michio Tamatani, Yoshinari Okuda, Masashi Ikushima, Yoshichika Baba, Masahiro Nagano, Yukio Nakamura, Hiromi Rakugi, Kei Kamide	Understanding the Relationship Between Adverse Medication Use and Falls Among Older Patients Receiving Home Medical Care: OHCARE study	Gerontology and Geriatric Medicine	10	-	-	-

名前	出版年月	著者	タイトル	出版機関・掲載誌名	巻	号	開始ページ	終了ページ
呉代 華容	2023年12月	Yaya Li, Makoto Fujii, Yuko Ohno, Asuka Ikeda, Kayo Godai, Yuko Nakamura, Yuya Akagi, Daisuke Yabe, Kazuyo Tsushita, Naoki Kashiwara, Kei Kamide, Mai Kabayama	Lifestyle factors associated with a rapid decline in the estimated glomerular filtration rate over two years in older adults with type 2 diabetes—Evidence from a large national database in Japan	PLOS ONE	18	12	e0295235	-
	2023年12月	Arisa Wada, Mai Kabayama, Kayo Godai, Michiko Kido, Yuka Ohata, Naoko Murakami, Yuko Nakamura, Hiroko Yoshida, Sumiyo Hashimoto, Makiko Higashi, Hiromi Hatanaka, Takeshi Kikuchi, Keiji Terauchi, Sho Nagayoshi, Fumie Matsuno, Noboru Shinomiya, Kei Asayama, Takayoshi Ohkubo, Hiromi Rakugi, Yasuharu Tabara, Kei Kamide	Factors influencing the continuation of home blood pressure measurement in community-dwelling older adults: the NOSE study.	Journal of hypertension	42	4	694	700
	2023年5月	Tomoko Yano, Kayo Godai, Mai Kabayama, Hiroshi Akasaka, Yasushi Takeya, Koichi Yamamoto, Saori Yasumoto, Yukie Masui, Yasumichi Arai, Kazunori Ikebe, Tatsuro Ishizaki, Yasuyuki Gondo, Hiromi Rakugi, Kei Kamide	Factors associated with weight loss by age among community-dwelling older people.	BMC Geriatrics	23	1	277	—
	2023年4月	Yuko Nakamura, Mai Kabayama, Kayo Godai, Winston Tseng, Hiroshi Akasaka, Koichi Yamamoto, Yoichi Takami, Yasushi Takeya, Yasuyuki Gondo, Saori Yasumoto, Madoka Ogawa, Ayaka Kasuga, Yukie Masui, Kazunori Ikebe, Yasumichi Arai, Tatsuro Ishizaki, Hiromi Rakugi, Kei Kamide	Longitudinal association of hypertension and dyslipidemia with cognitive function in community-dwelling older adults: the SONIC study	Hypertension Research	46	8	1829	1839
	2023年3月	Asuka Ikeda, Makoto Fujii, Yuko Ohno, Kayo Godai, Yaya Li, Yuko Nakamura, Daisuke Yabe, Kazuyo Tsushita, Naoki Kashiwara, Kei Kamide, Mai Kabayama	Effect of the Diabetic Nephropathy Aggravation Prevention Program on medical visit behavior in individuals under the municipal national health insurance.	Journal of diabetes investigation	14	6	782	791
	2023年3月	Tomoko Noma, Godai Kayo, Mai Kabayama, Yasuyuki Gondo, Saori Yasumoto, Yukie Masui, Ken Sugimoto, Hiroshi Akasaka, Yoichi Takami, Yasushi Takeya, Koichi Yamamoto, Kazunori Ikebe, Yasumichi Arai, Tatsuro Ishizaki, Hiromi Rakugi, Kei Kamide	Lower cognitive function as a risk factor for anemia among older Japanese women from the longitudinal observation in the SONIC study	Geriatrics & Gerontology International	23	5	334	340
	2023年2月	Makoto Fujii, Yuko Ohno, Asuka Ikeda, Kayo Godai, Yaya Li, Yuko Nakamura, Daisuke Yabe, Kazuyo Tsushita, Naoki Kashiwara, Kei Kamide, Mai Kabayama	Current status of the rapid decline in renal function due to diabetes mellitus and its associated factors: analysis using the National Database of Health Checkups in Japan.	Hypertension research	46	5	1075	1089
	2023年2月	Toshiaki Sekiguchi, Mai Kabayama, Kayo Godai, Hiroshi Akasaka, Kazunori Ikebe, Yukie Masui, Yasuyuki Gondo, Yasumichi Arai, Tatsuro Ishizaki, Kei Kamide	Reply to comment on "Association between protein intake and changes in renal function among Japanese community-dwelling older people: The SONIC study".	Geriatrics & gerontology international	23	2	156	157
	2023年1月	Azusa Shima, Hideo Tanaka, Tomonori Okamura, Tomofumi Nishikawa, Ayumi Morino, Kayo Godai, Yukako Tatsumi, Mizuki Kawahara, Maiko Kiyohara, Yuichiro Kawatsu, Takashi Kimura, Naomi Miyamatsu	Offering on - site mammography in workplaces improved screening rates: Cluster randomized controlled trial	Journal of Occupational Health	65	1	e12389	-
	2022年4月	Jinmei Tuo, Kayo Godai, Mai Kabayama, Yuya Akagi, Hiroshi Akasaka, Yoichi Takami, Yasushi Takeya, Koichi Yamamoto, Ken Sugimoto, Saori Yasumoto, Yukie Masui, Yasumichi Arai, Kazunori Ikebe, Yasuyuki Gondo, Tatsuro Ishizaki, Hiromi Rakugi, Kei Kamide	Self-Monitoring Home Blood Pressure in Community-Dwelling Older People: Age Differences in White-Coat and Masked Phenomena and Related Factors—The SONIC Study	International Journal of Hypertension	2022	—	1	9

名前	出版年月	著者	タイトル	出版機関・掲載誌名	巻	号	開始ページ	終了ページ
呉代 華容	2022年4月	Yaya Li, Kayo Godai, Michiko Kido, Susumu Komori, Ryoichi Shima, Kei Kamide, Mai Kabayama	Cognitive decline and poor social relationship in older adults during COVID-19 pandemic: can information and communications technology (ICT) use helps?	BMC geriatrics	22	1	375	375
	2022年4月	Ayaka Kasuga, Saori Yasumoto, Takeshi Nakagawa, Yoshiko Ishioka, Akari Kikuchi, Hiroki Inagaki, Madoka Ogawa, Noriko Hori, Yukie Masui, Hwang Choe, Hiroyuki Muto, Mai Kabayama, Kayo Godai, Kazunori Ikebe, Kei Kamide, Tatsuro Ishizaki, Yasuyuki Gondo	Older Adults' Resilience Against Impact of Lifestyle Changes During the COVID-19 Pandemic	Gerontology and Geriatric Medicine	8	-	-	-
	2022年4月	Toshiaki Sekiguchi, Mai Kabayama, Hirochika Ryuno, Kentaro Tanaka, Eri Kiyoshige, Yuya Akagi, Kayo Godai, Ken Sugimoto, Hiroshi Akasaka, Yoichi Takami, Yasushi Takeya, Koichi Yamamoto, Saori Yasumoto, Yukie Masui, Kazunori Ikebe, Yasuyuki Gondo, Yasumichi Arai, Tatsuro Ishizaki, Hiromi Rakugi, Kei Kamide	Association between protein intake and changes in renal function among Japanese community-dwelling older people: The SONIC study.	Geriatrics & gerontology international	22	4	286	291
篠原 真咲	2024年4月	Yuichiro Ii, Hidehiro Ishikawa, Akisato Nishigaki, Takaya Utsunomiya, Naoko Nakamura, Yoshinori Hirata, Hirofumi Matsuyama, Hiroyuki Kajikawa, Keita Matsuura, Kana Matsuda, Masaki Shinohara, Seiya Kishi, Ryota Kogue, Maki Umino, Masayuki Maeda, Hidekazu Tomimoto, Akihiro Shindo	Superficial small cerebellar infarcts in cerebral amyloid angiopathy on 3 T MRI: A preliminary study.	Journal of the neurological sciences	459	-	122975	122975
	2023年8月	Kana Matsuda , Masaki Shinohara , Yuichiro Ii , Ken-Ichi Tabei , Yukito Ueda , Naoko Nakamura , Yoshinori Hirata , Hidehiro Ishikawa , Hirofumi Matsuyama , Keita Matsuura , Masayuki Satoh , Masayuki Maeda , Ryo Momosaki , Hidekazu Tomimoto , Akihiro Shindo	Magnetic resonance imaging and neuropsychological findings for predicting of cognitive deterioration in memory clinic patients	Frontiers in aging neuroscience	15	-	-	-
	2023年3月	Masaki Shinohara , Kana Matsuda , Yuichiro Ii , Ken-Ichi Tabei , Naoko Nakamura , Yoshinori Hirata , Hidehiro Ishikawa , Hirofumi Matsuyama , Keita Matsuura , Masayuki Maeda , Hidekazu Tomimoto , Akihiro Shindo	Association between behavioral and psychological symptoms and cerebral small vessel disease MRI findings in memory clinic patients	Frontiers in aging neuroscience	15	-	-	-
	2023年7月	六角 僚子 , 坂田信裕, 榎市ひろみ, 吉田和樹, 関 由香里, 林 幸子, 松岡千代, 篠原 真咲	【「デジタルトランスフォーメーション(DX)が変える老年看護学教育, 実践. 研究のいま」】コロナ禍でのオンライン世代間交流と表情分析を用いた研究, 実践へのDXの活用	老年看護学	28	1	10	17
	2022年7月	篠原真咲	認知症の地域包括ケア チーム, オレンジと一緒に立ち上げよう	神経治療学	39	4	675	679
清水 彬礼	2022年4月	Hiddenari Nomura, Cheol Son, Daisuke Aotani, Yoshiyuki Shimizu, Goro Katsuura, Michio Noguchi, Toru Kusakabe, Tomohiro Tanaka, Takashi Miyazawa, Kiminori Hosoda, Kazuwa Nakao	Impaired leptin responsiveness in the nucleus accumbens of leptin-overexpressing transgenic mice with dysregulated sucrose and lipid preference independent of obesity.	Neuroscience research	177	—	94	102
高尾 鮎美	2024年11月	Aoki M, Yamamoto S, Takao A, Tamura S, Kizawa Y, Arai H	Identifying physicians' needs in community-based palliative care consultation for cancer patients in palliative care specialist-deficient settings: a qualitative study.	Japanese journal of clinical oncology	55	2	131	139
	2024年10月	太田 有咲, 青木 美和, 山本 瀬奈, 高尾 鮎美, 田村 沙織, 木澤 義之, 荒尾 晴恵	緩和ケアの専門家が不在の施設に所属する医師が抱くがん患者への緩和ケア提供上の困難	日本緩和医療学会誌	19	4	307	316
	2024年7月	Ayumi Takao Harue Arai Sena Yamamoto Miwa Aoki Katsuyasu Kouda Tatsuya Morita Yoshiyuki Kizawa Satoru Tsuneto Yasuo Shima Kento Masukawa Mitsunori Miyashita	Good Death and Quality of End-of-Life Care in Patients with Coexisting Cancer and Dementia: Perspective of Bereaved Families.	Palliative medicine reports	5	1	215	224

名前	出版年月	著者	タイトル	出版機関・掲載誌名	巻	号	開始ページ	終了ページ
高尾 鮎美	2024年1月	高尾 鮎美, 田村 沙織, 青木 美和, 山本 瀬奈, 木澤 義之, 荒尾 晴恵	緩和ケアの専門家がない環境で質の高い緩和ケアを提供するための方略：スコopingレビュー	Palliative Care Research	20	1	9	21
	2023年6月	Miwa Aoki, Sena Yamamoto, Yukiko Tatsumi, Akiko Hatakeyama, Yoko Minamiguchi, Masayo Toki, Ayumi Takao, Naomi Fujikawa, Kouta Asano, Harue Arai	Mastery and Stress in Patients with Advanced or Recurrent Colorectal Cancer During Treatment: A Multicenter Cross-sectional Study	Cancer Care Research Online	3	3	e042	e042
	2023年4月	Ayumi Takao Harue Arai Sena Yamamoto Miwa Aoki Katsuyasu Kouda Tatsuya Morita Yoshiyuki Kizawa Satoru Tsuneto Yasuo Shima Kento Masukawa Mitsunori Miyashita	Nationwide Survey on Caregiver Burden When Supporting Terminal Cancer Patients with Dementia: Bereaved Family Members' Perspective.	Journal of palliative care	38	3	326	335
戸田 まどか	2022年12月	M.Toda	Longitudinal Changes and Features of Sleep Patterns of Mothers with Preterm Infants during the Early Postpartum Period	Kobe Journal of Medical Sciences	67	1	11	22
富澤 理恵	2024年9月	Kido H, Saeki S, Hiraiwa M, Yasunaga M, Tomizawa R, Honda C, Fukuoka T, Minamitani K,	Plain language in the healthcare of Japan: a systematic review of "plain Japanese"	Global Health Journal	8	3	113	118
	2023年4月	Saeki S, Kurosawa Y, Tomiyama K, Tomizawa R, Honda C, Minamitani K	Foreign Patients Visiting the Emergency Department: A Systematic Review of Studies in Japan.	JMA journal	6	2	95	103
	2023年4月	Saeki Soichiro, Kurosawa Yohei, Tomiyama Koichiro, Tomizawa Rie, Honda Chika, Minamitani Kaori	救急診療部を受診する外国人患者 日本における研究のシステマティックレビュー (Foreign Patients Visiting the Emergency Department: A Systematic Review of Studies in Japan)	JMA Journal	6	2	95	103
	2022年12月	Saeki S, Iwata M, Tomizawa R, Minamitani K	Challenges and the potential of promoting remote medical interpreting during COVID-19.	Global health & medicine	4	6	341	346
	2022年11月	Saeki S, Yamamoto K, Tomizawa R, Meszaros S, Horvath C, Zoldi L, Szabo H, Tarnoki AD, Tarnoki DL, Ishida T, Honda C	Utilizing Graphical Analysis of Chest Radiographs for Primary Screening of Osteoporosis.	Medicina (Kaunas, Lithuania)	58	12	-	-
	2022年9月	Saeki S, Szabo H, Tomizawa R, Tarnoki AD, Tarnoki DL, Watanabe Y, Osaka Twin Research Group, Honda C	Lobular Difference in Heritability of Brain Atrophy among Elderly Japanese: A Twin Study.	Medicina (Kaunas, Lithuania)	58	9	-	-
仲井 あや	2023年11月	Aya Nakai, Hiroko Iwata, Kaori Sakai, Yumika Kashiwagi	Noninvasive respiratory support in extremely premature infants: A scoping review protocol	Journal of Neonatal Nursing	30	2	126	129
	2023年5月	中村 仲枝, 水野 芳子, 奥 朋子, 川西 智美, 眞嶋 朋子, 仲井 あや	10年以上の活動経験をもつ専門看護師の認定後5年目以降の活動の変化と認識する専門看護師の役割	日本CNS看護学会誌	10	—	1	8
	2022年5月	中村 仲枝, 水野 芳子, 奥 朋子, 瀬尾 智美, 眞嶋 朋子, 仲井 あや	10 年以上の活動経験をもつ専門看護師の認定から 5 年目までの活動の広がり と 自己教育—文化の視点からの一考察—	文化看護学会誌	14	1	11	20
長野 弥生	2024年12月	長野 弥生, 長畑 多代, 九津見 雅美, 山内 加絵	老年看護学実習におけるルーブリックの使用が自己調整学習に及ぼす影響	日本看護学教育学会誌	34	3-1	35	43
	2024年12月	Yayoi Nagano, Yasuko Hosoda	Development and Psychometric Testing of the Modeling Scale for Novice Nurses: A cross-sectional survey design	BMC Nursing	23	-	-	-
	2023年3月	土肥 美子, 細田 泰子, 長野 弥生, 片山 由加里, 北島 洋子, 根岸 まゆみ,	教育指導者が行う学習支援が学習ニーズに及ぼす影響	大阪医科薬科大学看護研究雑誌	13	-	15	24
根来 佐由美	2022年4月	廣地 彩香, 上野 昌江, 大川 聡子, 根来 佐由美	独居高齢者の低栄養の高リスクと身体的、心理社会的健康との関連 — 食会参加者への調査をととして —	日本地域看護学会誌	25	1	31	39
林 里沙子	2024年2月	Moto Takeshita, Keita Saito, Yuya Suzuki, Wataru Yoshimasa, Risako Hayashi, Yoko Chiba	Measurement of luteinizing hormone surge in vaginal discharge: a potential biomarker that enables simple, non-invasive prediction of the periovulatory period	BMC Women's Health	24	1	132	—
	2023年12月	Yoko Chiba, Risako Hayashi, Hidehiro Hayashi, Ting-Fang Kuo, Wataru Hojo, Takuya Iwabuchi	Urinary Biopyrrin Levels and Their Relationship with the Menstrual Cycle and Concomitant Symptoms Among Healthy Nonpregnant Women of Reproductive Age: A Cohort Study	Women's health reports (New Rochelle, N.Y.)	4	1	671	679
	2023年8月	Yoko Chiba, Risako Hayashi, Yuri Kita, Mai Takeshita	Care provided by midwives and the unmet needs of pregnant and postpartum women: A qualitative study of Japanese mothers	Heliyon	9	8	e18747	-
	2022年12月	Risako Hayashi, Nao Sonoda, Akiko Morimoto	Mothers' Decisional Conflict and Information Needs Regarding Breastfeeding Continuation or Termination: a Cross-Sectional Questionnaire Survey	International Journal of Nursing and Health Care Research	5	12	1372	-
松本 昶史	2025年2月	松本 昶史	「探究的学習」理論への誘い—看護学分野における活用可能性	オン, ナーシング	4	1	83	86

名前	出版年月	著者	タイトル	出版機関・掲載誌名	巻	号	開始ページ	終了ページ
松本 赳史	2025年1月	Matsumoto Takeshi	Concept Analysis of the Utilization of Artifacts in Nursing Practice Instruction	Open Journal of Nursing	15	1	21	29
	2022年7月	梅田亜矢, 井上智子, 松本赳史	COVID-19禍で入職する新人看護師への職場適応支援プログラム開発に向けた基礎研究	医療の広場	62	9	21	27
水引 智央	2024年12月	水引 智央	国内文献からみる多重課題の教育の現状とこれからの展望	オン, ナーシング	3	6	76	85
	2024年12月	水引 智央, 細田 泰子	新人レベルにある看護師の多重課題におけるセルフモニタリングと臨床判断の促進―看護管理者からの支援	看護管理	34	12	1076	1082
	2024年10月	Chihiro Mizuhiki, Yasuko Hosoda	Surface and Content Validity of an Advanced Beginner Nurse's Self-Monitoring Scale While Multitasking	Open Journal of Nursing	14	10	-	-
	2024年10月	水引 智央, 細田 泰子	新人レベル看護師の多重課題におけるセルフモニタリングの様相とその実効	日本看護学会誌	44	-	940	949
	2022年5月	水引 智央, 細田 泰子, 紙野雪香	看護実践と学習を結ぶセルフモニタリング支援	看護展望	47	6	78	83
安本 理抄	2024年4月	佐藤晶子, 安本理抄	第二次世界大戦後の感染症対策としての産学官連携スキーム：結核対策を事例として	makoto	206	-	2	7
	2023年8月	松島美穂, 都筑千景, 大川聡子, 安本理抄	地域包括ケアシステム構築において保健所保健師が行う市町村支援とその意図	日本地域看護学会誌	26	2	4	12
	2023年4月	Chie Koh, Kaori Watanabe, Nao Sonoda, Risa Yasumoto, Chikage Tsuzuki, Akiko Morimoto	Relationships between knowledge of postmenopausal lifestyle-related symptoms, stages of health behavior change, and physical examination participation among middle-aged Japanese women	Journal of the Japan Society for Menopause and Women's Health	30	3	365	375
	2022年8月	Meng Li ,Nao Sonoda,Chie Koh,Risa Yasumoto,Akiko Morimoto	Meta-analysis of the association between health literacy and smoking	Population Medicine	4	August	1	11
	2022年6月	Morimoto A, Koh C, Yasumoto R, Furuki H, Watanabe K, Tsuzuki C, Sonoda N	Relationship between communicative and critical health literacy, health information sources, and participation in health checkups among middle-aged Japanese community residents.	Preventive medicine	161	August	1	7
	2022年5月	Li M, Sonoda N, Koh C, Yasumoto R, Morimoto A.	Association between health literacy and current smoking among middle-aged Japanese ever smokers	Public Health Toxicology	2	2	1	7
	2022年4月	Sonoda Nao, Koh Chie, Yasumoto Risa, Li Meng, Watanabe Kaori, Tsuzuki Chikage, Morimoto Akiko	Association between Recommendations from Public Health Nurses, Medical Professionals, and Family Members and Participation in Health Checkups among Middle-aged Community Residents with National Health Insurance	JMA Journal	5	2	199	206

(助教)

名前	出版年月日	著者	タイトル	出版機関・掲載誌名	巻	号	開始ページ	終了ページ
塚部 千佳子	2025年3月	塚部千佳子	日本の医療観察法病棟における社会復帰を支える看護ケアに関する文献検討	大阪公立大学看護学雑誌	3	-	1	10
	2024年3月	塚部千佳子, 富川順子	医療観察法病棟で実施される社会復帰を促進する看護	-	-	-	-	-

講演・口頭発表等（教授）

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
伊藤 一弥	2023年2月	迎 恵美子, 福島 若葉, 森川 佐依子, 中田 恵子, 廣井 聡, 松本 一寛, 前田 章子, 近藤 亨子, 伊藤 一弥, 加瀬 哲男, 大藤 さとこ, 廣田 良夫	小児におけるインフルエンザワクチン接種とインフルエンザ診断時鼻汁ウイルス量の関連	Journal of Epidemiology
北村 愛子	2023年12月	北村愛子,江川幸二	集中治療室における急性心不全による活動耐性低下患者の回復を促進するための看護プログラムの開発	第43回日本看護科学学会学術集会
	2023年12月	北村愛子	日本集中治療医学会教育講座 終末期における緩和ケア	集中治療と臨床倫理－倫理的・法的・社会的問題への対応
	2023年9月	北村愛子,江川幸二	A病院の集中治療室において急性心不全により活動大生低下を呈した患者の経験および希望する看護援助	第20回日本循環器看護学会学術集会
	2023年7月	北村愛子	クリティカルケア領域における終末期ケアに対するスピリチュアルケア	第19回日本クリティカルケア看護学会学術集会
	2023年7月	小磯 崇司, 北村 愛子, 佐竹 陽子	集中治療室における人工呼吸器離脱過程にある患者のセルフコントロール感覚を支える看護実践	第18回 日本クリティカルケア看護学会学術集会
	2023年3月	北村愛子	重症患者と家族の意思を支えるメディエーション	第50回日本集中治療医学会学術集会
	2022年6月	岡本 武士, 北村 愛子	重症心不全患者のスピリチュアルケアの概念分析	第18回 日本クリティカルケア看護学会学術集会
	2022年4月	梶山 智世, 北村 愛子	集中治療室で終末期を迎える患者の治療選択における家族の解放的意思決定を支える看護実践	第15回 日本看護倫理学会年次大会
河野 あゆみ (地域包括ケア科学)	2024年12月	松原みゆき,河野あゆみ	新人訪問看護師の6か月後における離職者の特徴	日本看護科学学会学術集会
	2024年12月	丸山加寿子,河野あゆみ	訪問看護を利用する慢性疾患高齢者のヘルスリテラシーの特徴	日本看護科学学会学術集会
	2024年9月	河野あゆみ	説明モデルと予測モデルを用いた研究の実例：変数選択の考え方を知ろう！因果推論のすすめ	日本看護科学学会 第24回JANSセミナー
	2024年8月	河野あゆみ	地域で取り組む新卒訪問看護師育成：大阪府訪問看護ステーション協会の取り組みと大学の役割	岐阜県看護協会 令和6年度「新卒訪問看護師確保事業」に係る研修会
	2024年8月	河野あゆみ	在宅ケア分野におけるリアルワールドデータ解析の実際と課題：在宅ケアにおけるビッグデータ/リアルワールドデータの活用と今後の展望	日本在宅ケア学会学術集会シンポジウム

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
河野 あゆみ (地域包括ケア科学)	2024年8月	門野杏子,河野あゆみ,岡本双美子	在宅看護学実習前後におけるARシミュレーター演習中のダブルタスク下でのコミュニケーションスキルの変化に対するKH Coderを用いた分析	日本在宅ケア学会学術集会
	2024年8月	三浦剛,河野あゆみ	新規要支援高齢者の5年間介護保険支出額と障害調整生命年を用いた費用効果分析	日本在宅ケア学会学術集会
	2024年8月	Yoko Tanaka, Ayumi Kono	Attachment support scale for severely disabled children and their families: A pilot study	World Cogress of the International Association for the Scientific Study of Intellectual and Developmental Disabiities (IASSIDD2024)
	2024年7月	Yoko Tanaka, Ayumi Kono	Pilot study on the development of pediatric at-home care support satisfaction scale	International Congress of Psychology
	2024年3月	河野あゆみ	日本地域看護関連3学会の取り組みと本会の人材育成の方向性	2023年度全国公衆衛生関連学協会連絡協議会学術集会
	2024年3月	Kyoko Kadono, Ayumi Kono, Fumiko Okamoto, Miho Hamayoshi	Effects of communication skills on the double task of nursing students pre- and post-home health practical training	East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS)
	2024年3月	Miyuki Matsubara, Ayumi Kono	Association between On-the-Job Training and characteristics of work engagement at a 6-month follow-up on novice home-visiting nurses	East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS)
	2024年3月	Kazuko Maruyama, Ayumi Kono	Effectiveness of health literacy education delivered by visiting nurses to older individuals with chronic illnesses	East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS)
	2024年1月	大槻奈緒子, 山本陵平, 河野あゆみ	要支援高齢者の抑うつと要介護移行の関連：the Southern Osaka Health and Aging(SOHA)Study	日本疫学会学術集会
	2023年12月	丸山加寿子, 河野あゆみ	訪問看護師による高齢慢性疾患療養者へのヘルスリテラシー教育プログラムの介入終了3ヵ月後の継続効果	日本看護科学学会学術集会講演集
	2023年12月	松原みゆき, 河野あゆみ	訪問看護師が新人期に提供された職場内教育が6ヵ月後の単独訪問の実施に与える影響	日本看護科学学会学術集会講演集
	2023年12月	池田直隆, 河野あゆみ	在宅医療介護体制が在宅死の発生に及ぼす影響の検討	日本看護科学学会学術集会講演集
	2023年11月	松原みゆき, 河野あゆみ	訪問看護師が新人期に提供された職場内教育と6ヵ月後のワーク・エンゲイジメントとの関連	日本在宅ケア学会学術集会
	2023年11月	井上高博, 江啓発, 河野あゆみ	長崎県離島に住む要支援高齢者の社会的ネットワークによる食品摂取多様性の違い	日本在宅ケア学会学術集会

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
河野 あゆみ (地域包括ケア科学)	2023年11月	丸山加寿子, 河野あゆみ	訪問看護師による高齢慢性疾患療養者へのヘルスリテラシー教育プログラムの介入直後の効果	日本在宅ケア学会学術集会
	2023年10月	三浦剛, 河野あゆみ	新規要支援認定を受けた高齢者の介護サービスの費用効果分析	日本公衆衛生学会総会抄録集
	2023年9月	河野あゆみ	地域包括ケアシステムと訪問看護のこれから：協働とデータ活用	日本地域看護学会学術集会[教育講演]
	2023年6月	Kazuko Maruyama, Ayumi Kono	Characteristics of older adults receiving long-term physical therapy by frequency of nurse visits	IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023
	2023年6月	Noriko Yoshiyuki, Ayumi Kono, Takuma Ishihara, Naomi Fukushima, Takeshi Miura, Katsunori Kaneko	Does the Veterans Affairs Frailty Index predict mortality and hospitalization in older adults with low care needs using Japanese medical claims?	IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023
	2023年6月	Takeshi Miura, Ayumi Kono, Naomi Fukushima, Katsunori Kaneko, Takuma Ishihara	Claims data based classification of patterns of long-term care service use in the first year following care support certification, and their impact on Disability Adjusted Life Years (DALYs) 5 years later	IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023
	2023年6月	Kaori Fukayama, Ayumi Kono	Support status of working caregivers in relation to work-family conflict	IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023
	2023年6月	Ayumi Kono, Noriko Yoshiyuki, Takuma Ishihara, Naomi Fukushima, Takeshi Miura, Katsunori Kaneko	Delaying the onset of frailty in older adults with low care needs through adult day services	IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023
	2023年6月	大西 輝幸, 河野 あゆみ, 岡本 双美子	救命・集中治療領域における生命維持管理装置を取り扱う医療スタッフの倫理的課題に関する実態調査	日本臨床工学技士会会誌
	2023年5月	新開 省二, 安田 誠史, 北村 明彦, 藤原 佳典, 岸 恵美子, 河野 あゆみ, 清野 諭	領域横断的なフレイル, ロコモ対策の推進 フレイル・ロコモの現状と公衆衛生対策	日本老年医学会雑誌
	2023年3月	Kyoko Miwa, Ayumi Kono	Competencies of nurses for community empowerment in community-based care	East Asian Forum of Nursing Scholars (26th EAFONS)
	2023年3月	Kaori Fukayama, Ayumi Kono	How caregivers with outside jobs are influenced by work and at-home caregiving conflicts when deciding on continuing outside work	East Asian Forum of Nursing Scholars (26th EAFONS)
	2023年3月	Teruyuki Ounishi, Ayumi Kono, Fumiko Okamoto	Relationship between multidisciplinary cooperation of medical staff and moral distress in the field of emergency and intensive care	East Asian Forum of Nursing Scholars (26th EAFONS)
	2022年12月	鳥本 あかり, 河野 あゆみ, 池田直隆	住民ボランティアのICT機器の使用が地域高齢者見守りに及ぼす影響	日本看護科学学会学術集会講演集

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
河野 あゆみ (地域包括ケア科学)	2022年12月	宮下光令, 河野あゆみ, 春名めぐみ	JANS和文誌の投稿規程・査読ガイドライン改定の概要と最近の話題	日本看護科学学会学術集会
	2022年12月	三輪 恭子, 河野 あゆみ	住民育成活動を行うコミュニティヘルス・ナースの活動プロセス	日本看護科学学会学術集会講演集
	2022年12月	田中 陽子, 河野 あゆみ	在宅重症心身障害児とその家族への愛着形成支援尺度の開発におけるパイロットスタディ	日本看護科学学会学術集会講演集
	2022年12月	松原 みゆき, 河野 あゆみ	新人訪問看護師のワーク・エンゲイジメントと職場内教育との関連	日本看護科学学会学術集会講演集
	2022年12月	松下有実子, 河野あゆみ	精神および行動の問題をもつ児童の受療中断とその関連要因	日本看護科学学会学術集会講演集
	2022年10月	Ayumi Kono, Takuma Ishihara, Naomi Fukushima, Takeshi Miura, Noriko Yoshiyuki, Katsunori Kaneko	Chronic diseases effect long-term care needs in ambulatory frail older adults	International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (7th WANS)
	2022年10月	Naotaka Ikeda, Ayumi Kono	The relationship between medical expenditure and biological data among more than 1 year after kidney transplantation	International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (7th WANS)
	2022年10月	Yoko Tanaka, Ayumi Kono	Content validity of a rating scale for assessing the support needs of home caregivers who are having difficulty establishing attachment relationships with children with severe physical and mental disabilities	International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (7th WANS)
	2022年8月	三輪恭子, 河野あゆみ	暮らしの場で広がる新しい看護活動の実際：コミュニティヘルス・ナースの活動の展開プロセスを知る	日本地域看護学会第25回学術集会ワークショップ
	2022年7月	河野 あゆみ	要支援高齢者の認定時における介護予防サービスの利用とフレイル予防の効果	日本看護管理学会学術集会抄録集
	2022年7月	松下有実子, 河野あゆみ	児童精神科外来における受療中断児童の特徴：受療継続児童との比較	日本在宅ケア学会学術集会
	2022年6月	山野陽子, 河野あゆみ	急性期病院看護師に対する高齢者のためのおむつに関するアセスメント強化型教育の効果	日本老年看護学会学術集会
作田 裕美	2024年9月	浅田裕美, 大串晃弘, 堀田昇吾, 作田裕美, 野戸結花, 太田勝正, 市田隆雄, 五十嵐隆元, 西丸英治, 奥田保男, 石田隆行	病院における放射線防護・安全教育を効果的・効率的に推進する上での影響要因（第1報）―実施するうえでの困難	第13回日本放射線看護学会学術集会

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
作田 裕美	2024年9月	堀田昇吾, 大串晃弘, 浅田裕美, 作田裕美, 野戸結花, 太田勝正, 市田隆雄, 五十嵐隆元, 西丸英治, 奥田保男, 石田隆行	病院における放射線防護・安全教育を効果的・効率的に推進する上での影響要因（第2報）－効率的な教育の運営	第13回日本放射線看護学会学術集会
	2024年9月	大串晃弘, 堀田昇吾, 浅田裕美, 作田裕美, 野戸結花, 太田勝正, 市田隆雄, 五十嵐隆元, 西丸英治, 奥田保男, 石田隆行	病院における放射線防護・安全教育を効果的・効率的に推進する上での影響要因（第3報）－教育を効果的に行うための工夫	第13回日本放射線看護学会学術集会
	2024年9月	作田裕美, 堀田昇吾, 大串晃弘, 浅田裕美, 野戸結花, 太田勝正, 市田隆雄, 五十嵐隆元, 望月純二, 松原孝祐, 石田隆行	病院において実施される放射線防護・安全教育を効果的・効率的に推進する上で“影響する要因”について語ろう！	第13回日本放射線看護学会学術集会
	2024年9月	Mika Nishiyama, Hiromi Sakuda, Hiromi Kawasaki , Pete D'Angelo	Increasing trends in mental health problems in Japanese university students resulting in suicide.	ICN NP/APN Network Conference 2024
	2023年10月	作田裕美	がんと向き合い、共に生きるために:AYAがん支援と新たな希望 AYA世代のがん治療後リンパ浮腫	第61回日本癌治療学会学術集会
	2023年6月	Mika Nishiyama, Hiromi Sakuda, Hiromi Kawasaki , Pete D'Angelo	An increase in School Absents, and Low Vaccine Coverage Among Japanese School Children	School Nurse International Conference 2023
	2023年3月	新井恵津子, 作田 裕美	多理論統合モデルを援用したリンパ浮腫患者のセルフケア再獲得教育プログラム	第6回日本リンパ浮腫学会総会
	2023年3月	服部聖子, 小倉知子, 山本珠緒, 森みどり, 渡邊めぐみ, 小寺利美, 作田 裕美	リンパ浮腫外来の保険診療化に向けた組織体制構築のプロセス	第6回日本リンパ浮腫学会総会
	2023年3月	作田裕美	リンパ浮腫患者とレジリエンス再考 患者・家族・医療者・組織	第6回日本リンパ浮腫学会総会
	2022年12月	上野 寿子, 榎木 政子, 永井 春歌, 作田 裕美, 新井 直子, 新井 龍, 坂口 桃子	フライトナースのコンピテンシー 評価尺度の開発	第42回日本看護科学学会学術集会
	2022年10月	大串 晃弘, 野村 宜伸, 平野 絵美, 作田 裕美	急性心筋梗塞を発症した喫煙者が医療機関を受診するまでのプロセス	第24回日本救急看護学会学術集会
	2022年9月	Mika Nishiyama, Hiromi Sakuda, Hiromi Kawasaki, Pete D'Angelo	The impact on the mental health of Japanese children due to COVID-19	22nd International Mental Health Conference
	2022年9月	堀田 昇吾, 作田 裕美, 五十嵐 隆元, 岩永 秀幸, 市田 隆雄, 奥田 保男, 白石 順二	病院所属の放射線業務従事者に対する放射線防護・安全教育の実態	第50回日本放射線技術学会秋季学術大会
	2022年9月	作田 裕美, 堀田 昇吾, 上野 寿子, 新井 龍, 桜井 礼子, 太田 勝正, 草間 朋子, 五十嵐 隆元, 岩永 秀幸, 市田 隆雄, 奥田 保男, 白石 順二	放射線防護・安全教育の実態と課題	第11回日本放射線看護学会学術集会

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
作田 裕美	2022年6月	樫木政子,作田裕美	在宅高齢の難治性リンパ浮腫のケア介入と制度の限界1事例を通して	第7回日本がんサポーターケア学会学術集会
	2022年	新井 龍, 新井 直子, 作田 裕美	看護学科4年生の褥瘡危険因子・発生後のアセスメントに対する自信度の評価	第33回日本医学看護学教育学会学術学会
佐藤 淑子	2025年7月	梅本智,佐藤淑子	感染対策が必要な看護補助業務の指示の在り方に関する研究	第40回日本環境感染学会総会・学術集会
	2024年7月	宮下美香,佐藤淑子	外国出生の結核患者の治療継続に向けた外来看護師の看護実践	第39回日本環境感染学会総会・学術集会
	2023年7月	宇佐見巳弥,佐藤淑子	新型コロナウイルス感染症流行下での分娩間接介助を行う助産師の個人防護具着用に関する認識	第38回 日本環境感染学会総会・学術集会
	2023年7月	鶴田愛,佐藤淑子	感染対策としての面会制限による影響に関する看護師の認識と関わり	第38回 日本環境感染学会総会・学術集会
志田 京子	2024年3月	志田 京子	大学統合を機に国際交流活動のシナジーを目指す：大阪公立大学の取り組み	JANPU国際交流推進委員会主催セミナー
	2023年12月	岡田純子, 志田京子	経験2～3年を有する看護師のクリニカルリーズニング向上支援プログラムの開発	第43回日本看護科学学会学術集会
	2023年11月	志田 京子	社会人看護職から「問い」を引き出す研究指導	大阪公立大学看護学研究科FDセミナー
	2023年10月	志田 京子	大学でのリブランディングの試み	第13回看護経済・政策研究学会
	2023年10月	Qinyan Bi, Kyoko Shica	The Effects of Organizational Commitment and Job Satisfaction on Intentions to Leave among Chinese Nurses Working in Japan	13th conference Japan Society of Nursing Economics and Policies
	2023年9月	志田 京子	論文審査・編集委員会企画「論文執筆のポイント」	第54回日本看護学会学術集会
	2023年3月	Kita M, Eki K, Aibara H, Shida K, Maneesriwongul W	Relationship of COVID-19 vaccination behavior with attitudes, opinions, and vaccine literacy in Japan	EAFONS23
	2023年3月	Kita M, Eki K, Aibara H, Shida K, Maneesriwongul W	COVID-19 Vaccine Literacy, Attitudes, and Factors Associated with Child Vaccination Behavior of Parents With 5- to 16-year-old Children	EAFONS23
	2022年12月	相原ひろみ、喜田雅彦、益加代子、志田京子	日本語版COVID-19ワクチンリテラシー尺度の信頼性・妥当性の検証	第42回日本看護科学学会

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
志田 京子	2022年8月	林千冬、緒方泰子、朝倉京子、安部陽子、志田京子、中川典子、平木民子、廣島麻揚、山田 覚	査読者と執筆者のコラボレーションーより良い論文にするために	第26回日本看護管理学会学術集会
	2022年8月	安居真知子, 益加代子, 志田京子	学童期の子どもをもつ女性看護師の就業継続を妨げる要因	第26回日本看護管理学会学術集会
	2022年8月	水本英佑, 益加代子, 志田京子	他部署の男性看護師による支援と新卒男性看護師の不安および職務継続意思との関連	第26回日本看護管理学会学術集会
白井 みどり	2025年2月	Sasaki Y, Masumitsu T, Akiyama Y, Shirai M	Characteristics related to the variety of ICT use among community-dwelling older adults living on the islands	28th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2024年12月	小西 円, 佐々木 八千代, 手塚 菜菜, 白井 みどり	施設に入所する男性高齢者の夜間のおむつ交換回数を減らすことによる中途覚醒への影響	第44回日本看護科学学会学術集会
	2024年10月	白井 みどり, 秋山 庸子, 佐々木 八千代, 小西 円	60歳以上の健康女性における車椅子座位位置と座面圧力、体格、主観的評価の関連	第33回日本健康医学会総会
	2024年10月	小西 円, 佐々木 八千代, 手塚 菜菜, 白井 みどり	施設改修による入所高齢者の夜間睡眠の変化	第33回日本健康医学会総会
	2024年10月	埋田 実可子, 小西 円, 白井 みどり	施設入所高齢者の座位時間と座位時の生活行動・環境の実態	第33回日本健康医学会総会
	2024年7月	益満 智美, 白井 みどり, 秋山 庸子, 佐々木 八千代	地域在住高齢者における情報通信機器(ICT)利用時間と睡眠の関連	日本睡眠学会第48回定期学術集会
	2024年3月	Yachiyo Sasaki, Tomomi Masumitsu , Yoko Akiyama , Midori Shirai	Relationship between information and communication technology (ICT) use and psychological and social health among community-dwelling older adults living in remote islands	27th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2023年10月	佐々木八千代、益満智美、秋山庸子、白井みどり	離島で生活する地域在住高齢者のICT利活用の実態	第31回日本健康医学会総会
	2023年10月	小西 円, 佐々木 八千代, 古田 菜菜, 白井 みどり	施設入所高齢者の居室移動前後における睡眠の実態	第31回日本健康医学会総会
	2023年3月	Yachiyo Sasaki, Kanna Furuta , Saori Noda , Midori Shirai	Factors associated with development of locomotive syndrome for community-dwelling elderly people in Japan during COVID-19 pandemic	26th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2023年3月	Kanna Furuta , Yachiyo Sasaki , Saori Noda , Midori Shirai	Changes in Frequency of Outings of Community-dwelling Elderly People and Related Factors Due to the COVID-19 Pandemic	26th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2022年10月	白井 みどり, 佐々木 八千代, 秋山庸子	要介護高齢者の座位からの転落に対する施設職員の認識	第31回日本健康医学会総会

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
白井 みどり	2022年10月	廣瀬 彩音, 佐々木 八千代, 秋山 庸子, 白井 みどり	施設入所高齢者の車椅子からベッドへの移乗動作の特徴	第31回日本健康医学会総会
	2022年10月	佐々木 八千代, 古田 栞奈, 野田 さおり, 白井 みどり	コロナ禍にある地域在住高齢者の生活状況	第31回日本健康医学会総会
田中 京子	2025年2月	岡根絵美里、田中京子、林田裕美、徳岡良恵	認知機能低下のある高齢がん患者に対する訪問看護師の疼痛アセスメント	第39回日本がん看護学会学術集会
	2025年2月	弥永果歩、田中京子、林田裕美、徳岡良恵	思春期がん患者が妊孕性温存について自律的に選択することを支える看護援助	第39回日本がん看護学会学術集会
	2024年2月	上口望、田中京子、林田裕美、徳岡良恵	新型コロナウイルス感染症流行下において肺部分切除術を受けたがん患者への退院に向けた看護援助	第38回日本がん看護学会学術集会
	2024年2月	竹嶋佳織、田中京子、林田裕美、徳岡良恵	がん薬物療法による末梢神経障害を抱える若年成人 がん患者が就労を継続する上での困難への取り組み	第38回日本がん看護学会学術集会
	2024年2月	赤澤奈那、田中京子、林田裕美、徳岡良恵	がん遺伝子パネル検査の受検を検討する患者の意思決定を支えるスペシャリストナースによる看護援助	第38回日本がん看護学会学術集会
	2023年12月	竹嶋 佳織、田中 京子、林田 裕美、徳岡 良恵	がん薬物療法による末梢神経障害を抱える若年成人 がん患者が就労を継続する上での困難	第43回日本看護科学学会学術集会
	2023年2月	松永有貴、田中京子、林田裕美、徳岡良恵	治療の見極めが難しい時期にある進行・再発がん患者のその人らしい生き方を支えるがん看護専門看護師の実践	第37回日本がん看護学会学術集会
	2023年2月	谷口麻帆、田中京子、林田裕美、徳岡良恵	診断・治療期のAYA世代がん患者をケアする看護師が直面する困難	第37回日本がん看護学会学術集会
	2023年2月	川上喜美江、田中京子、林田裕美、徳岡良恵	妊孕性温存が不確かな中でがん薬物療法を受ける若年女性がん患者への看護実践	第37回日本がん看護学会学術集会
玉上 麻美	2024年12月	岸和田谷悠子、玉上麻美	助産師の在留外国人妊産婦対応に関する文献検討	第63回大阪母性衛生学会学術集会
	2024年12月	渡邊亜紀、玉上麻美	就労女性の月経随伴症状に関する文献検討	第63回大阪母性衛生学会学術集会
	2023年12月	木下茜、玉上麻美	高等学校における性教育の実態に関する文献検討	第62回大阪母性衛生学会学術集会
	2023年12月	木下千紗都、玉上麻美	高年初産婦の産後4 ヶ月における育児サポート資源利用および夫の育児介入への満足度の実態	第62回大阪母性衛生学会学術集会

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
玉上 麻美	2023年9月	岡野 あすか, 玉上 麻美, 橘 大介	分娩取扱のない産科医療施設における支援を要する妊産婦への対応と課題	第64回日本母性衛生学会総会・学術集会
	2023年9月	木下 千紗都, 玉上 麻美	初産婦の産後4ヵ月における夫の育児介入への満足度に関連する要因	第64回日本母性衛生学会総会・学術集会
都筑 千景	2024年10月	西嶋紗永、志野まなみ、中根鈴奈、田中健太郎、根来佐由美、安本理抄、大野志保、都筑千景	ナッジを用いた地域住民への防災啓発(第一報)—災害の備えに着目して—	第83回日本公衆衛生学会総会
	2024年10月	志野まなみ、西嶋紗永、中根鈴奈、田中健太郎、根来佐由美、安本理抄、大野志保、都筑千景	ナッジを用いた地域住民への防災啓発(第二報)—医療的ケア児の避難に着目して—	第83回日本公衆衛生学会総会
	2024年10月	野田 瑞穂、安本 理抄、田中 健太郎、都筑 千景	熟練保健師の結核患者への積極的疫学調査から接触者健診対象候補者選定の支援技術	第83回日本公衆衛生学会総会
	2024年10月	都筑 千景、薮本 初音、藤本 優子、渡井 いずみ、高部 さやか、尾崎 伊都子、津下 一代	地域・職域連携推進体制の現状と課題（第1報）～政策への位置づけとの関連～	第83回日本公衆衛生学会総会
	2024年10月	高部 さやか、渡井 いずみ、尾崎 伊都子、都筑 千景、藤本 優子、薮本 初音、津下 一代	地域・職域連携推進に向けた方策の検討（第3報）～ICT導入状況～	第83回日本公衆衛生学会総会
	2024年10月	薮本 初音、都筑 千景、藤本 優子、渡井 いずみ、高部 さやか、尾崎 伊都子、津下 一代	地域・職域連携推進体制の現状と課題（第2報）～自治体種別ごとの特徴～	第83回日本公衆衛生学会総会
	2024年10月	尾崎 伊都子、高部 さやか、渡井 いずみ、都筑 千景、藤本 優子、薮本 初音、津下 一代	地域・職域連携推進に向けた方策の検討 ICT活用のためのチェックリスト作成（第4報）	第83回日本公衆衛生学会総会
	2024年10月	渡井 いずみ、尾崎 伊都子、高部 さやか、都筑 千景、藤本 優子、薮本 初音、津下 一代	地域・職域連携推進に向けた方策の検討（第5報）～協会けんぽの連携事業への関わり～	第83回日本公衆衛生学会総会
	2024年10月	眞壁美香、都筑千景、田中健太郎	乳幼児の安全のための保護者の事故予防実践尺度の開発	第83回日本公衆衛生学会総会
	2024年10月	津下一代、都筑千景、横山徹爾、渡井いずみ、尾崎伊都子	厚生労働科学研究地域・職域連携推進研究班「働く世代の健康づくり～知ろう、語ろう、やってみよう～」自由集会	第83回日本公衆衛生学会総会
	2024年10月	曾我部 理々子、田中 健太郎、都筑 千景	離島在住高齢者の社会生活の実態と精神的健康との関連	第83回日本公衆衛生学会総会
	2024年1月	澤田 恵津子、都筑 千景、安本 理抄	災害時において保健所を有する自治体の統括保健師が行う自組織外との連携と調整	第12回日本公衆衛生看護学会学術集会
	2024年1月	都筑 千景	育児期女性におけるQOLの経時的変化～子どもが4か月から5歳までの縦断的調査～	第12回日本公衆衛生看護学会学術集会

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
都筑 千景	2024年9月	津下一代、都筑千景、横山徹爾、渡井いずみ、尾崎伊都子	講演「全国の担当者アンケート結果について」 講演「地域・職域連携の体制づくりと取り組み」進行・まとめ グループワークファシリテーター	2024年度 厚生労働科学研究 健康寿命につながる地域・職域連携推進のための研究班ワークショップ
	2024年6月	松永 篤志、都筑 千景、山下 典子、澤田 恵津子、中野 久美子、岩本 萌、原 ゆかり、新家 静、大森 純子	社会的包摂を志向する保健師活動原理モデル普及の教育プログラムの考案	日本地域看護学会第27回学術集会
	2023年10月	葛本 奈美、都筑 千景、安本 理抄	高校教員の食生活習慣の実態と労働時間との関連	第82回日本公衆衛生学会総会
	2023年10月	渡井 いずみ、尾崎 伊都子、高部 さやか、都筑 千景、藤本 優子、薮本 初音、津下一代	地域・職域連携推進に向けた方策の検討（第二報）～自治体におけるICT活用状況～	第82回日本公衆衛生学会総会
	2023年10月	藤本 優子、都筑 千景、薮本 初音、渡井 いずみ、尾崎 伊都子、高部 さやか、津下一代	地域・職域連携推進に向けた方策の検討（第一報）～自治体における協議会活用の実態～	第82回日本公衆衛生学会総会
	2023年9月	森 由衣、都筑 千景	大学生のスマホ利用時間と生活習慣の実態	日本地域看護学会第26回学術集会
	2023年9月	今井 茜音、都筑 千景	一般大学生の虐待に対する認識に関する実態	日本地域看護学会第26回学術集会
	2023年8月	津下一代、都筑千景、横山徹爾、渡井いずみ	講演「都道府県・二次医療圏・市町村における連携と協議」進行・まとめ グループワークファシリテーター	2023年度 地域・職域連携推進ガイドラインを活用した保健事業の展開に関する評価及び連携強化のための研究班ワークショップ
	2022年12月	松永 篤志、白岩 憲子、岩本 萌、酒井 太一、都筑 千景、竹田 香織、平野 美千代、望月 宗一郎、川崎 涼子、田口 敦子、山下 留理子、大森 純子	社会的包摂を志向する公衆衛生看護活動のロジック・モデルの考案	第11回日本公衆衛生看護学会学術集会
	2022年12月	都筑千景、薮本初音、藤本優子、風間昌美	地域・職域連携推進に向けた効果的な協議会のあり方について考える ～職域の健康づくりを地域の健康づくりへ～「自治体担当者の現状と効果的な協議会のあり方について」	第11回日本公衆衛生看護学会学術集会 ワークショップ
	2022年12月	大森純子、田口敦子、望月宗一郎、都筑千景、松永篤志、岩本萌、中野久美子、原ゆかり	社会的包摂を志向する公衆衛生看護について考える会 「住まいに問題がある結核患者への支援」	第11回日本公衆衛生看護学会学術集会 ワークショップ
	2022年9月	津下一代、都筑千景、横山徹爾、渡井いずみ	グループワークファシリテーター	2022年度 地域・職域連携推進ガイドラインを活用した保健事業の展開に関する評価及び連携強化のための研究班ワークショップ

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
都筑 千景	2022年6月	Yuko, FUJIMOTO, Chikage, TSUZUKI Yumi, SAKAGAMI, Kaoru, KONISHI	Conceptual Structure of Mothers' Needs for Grandmothers' Childcare Support and Development of Measurement Tools in Japan	The 7th ICCHNR conference
	2022年4月	R. Yasumoto, C. Tsuzuki, N. Sonoda, C. Koh, M. Li, K. Watanabe and A. Morimoto	RELATIONSHIP BETWEEN ECONOMIC STATUS AND HEALTH-RELATED BEHAVIORS AMONG MIDDLE-AGED JAPANESE COMMUNITY RESIDENTS	EAFONS2022
土肥 美子	2024年3月	Chihiro Mizuhiki, Yasuko Hosoda, Mayumi Negishi, Ai Katsuyama, Yukari Katayama, Yoshiko Doi, Yoko Kitajima, Takeshi Matsumoto	Evaluation of a clinical learning environment design support program that cultivate clinical judgment competency	27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference
	2024年3月	Yu Kanayama, Yasuko Hosoda, Ai Katsuyama, Yoshiko Doi, Yoko Kitajima, Mayumi Negishi, Yukari Katayama	Developing clinical judgment skills in novice nurses: A survey among nursing educators	27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference
	2023年12月	細田泰子, 水引智央, 根岸まゆみ, 勝山愛, 北島洋子, 土肥美子, 片山由加里, 松本赧史	育指導者に対する臨床学習環境づくり支援プログラムの開発	第43回日本看護科学学会学術集会
	2023年10月	関恵子, 杉本吉恵, 相原ひろみ, 土肥美子	地域在住高齢女性の運動機能が下肢骨格筋へおよぼす影響と生活習慣との関連	日本看護技術学会第21回学術集会
	2023年3月	Yoko Kitajima, Yasuko Hosoda, Ai Katsuyama, Yoshiko Doi, Yukari Katayama, Mayumi Negishi Yu Kanayama	Factors associated with improving the workplace competence of educational instructors who support nursing learners	The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2022年12月	金山悠, 細田泰子, 勝山愛, 北島洋子, 根岸まゆみ, 片山由加里, 土肥美子	看護学生における臨床判断の能力開発に向けた教育指導者の取り組み	第42回日本看護科学学会学術集会
	2022年12月	細田泰子, 勝山愛, 根岸まゆみ, 土肥美子, 片山由加里, 北島洋子, 金山悠	看護学実習における臨床学習環境に影響を与える教育指導者の組織要因の検討	第42回日本看護科学学会学術集会
	2022年12月	土肥美子, 細田泰子	看護系大学に所属する若手教員の看護大学教員能力における学習ニーズの傾向	第42回日本看護科学学会学術集会
	2022年11月	Miyuki Matsukami, Etsuko Ikenishi, Yoshiko Doi	Relationships between individual/organizational attributes of assistant nurse managers and nurse manager competencies	The 6th Korea China Japan Nursing Conference
	2022年8月	Yoko Kitajima, Mayumi Negishi, Yukari Katayama, Yasuko Hosoda, Fumi Akasaki, Yoshiko Doi, Kathie Lasater, Ann Nielsen	A qualitative analysis of the Lasater Clinical Judgment Rubric: Japanese Version by nursing students	The 33rd International Nursing Research Congress
	2022年8月	松上美由紀, 池西悦子, 土肥美子	組織特性および上司の支援が副看護師長の看護管理者コンピテンシーに及ぼす影響	第26回日本看護管理学会学術集会
	2022年8月	Yoshiko Doi, Yasuko Hosoda	Educational support that contributes to building and enhancing the junior faculty members' competency	The 33rd International Nursing Research Congress

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
土肥 美子	2022年8月	Yasuko Hosoda, Mayumi Negishi, Fumi Akasaki, Yukari Katayama, Yoko Kitajima, Yoshiko Doi, Kathie Lasater, Ann Nielsen	Assessing the reliability of the Japanese Version of the Lasater Clinical Judgment Rubric	The 33rd International Nursing Research Congress
	2022年8月	片山由加里, 細田泰子, 勝山愛, 土肥美子, 金山悠, 北島洋子, 根岸まゆみ	教育指導者の新人看護師と看護学生への学習支援に関連する背景的特徴	日本看護学教育学会第32回学術集会
	2022年8月	勝山愛, 細田泰子, 根岸まゆみ, 金山悠, 北島洋子, 土肥美子, 片山由加里	教育指導者における経験学習の関連要因と背景的特徴の検討	日本看護学教育学会第32回学術集会
	2022年8月	松上美由紀, 池西悦子, 土肥美子	自己決定型学習準備性と経験学習が副看護師長の看護管理者コンピテンシーに及ぼす影響	日本看護研究学会第48回学術集会
富川 順子	2022年6月	柱谷 久美子, 富川 順子	救急医療機関における自殺未遂者に対するリエゾン精神看護専門看護師による支援 リエゾン精神看護専門看護師が看護師に行う支援	日本保健医療行動科学会学術大会プログラム・抄録集
	2022年6月	柱谷 久美子, 富川 順子	救急医療機関における自殺未遂者に対するリエゾン精神看護専門看護師による支援 リエゾン精神看護専門看護師が自殺未遂者に行う患者ケアと調整	日本保健医療行動科学会学術大会プログラム・抄録集
	2022年5月	八田 篤郎, 富川 順子	精神科病棟の新人期看護師が看護実践で体験する困難	日本精神保健看護学会学術集会・総会プログラム・抄録集
長畑 多代	2024年6月	清本亜子、長畑多代、九津見雅美	急性期病院に入院する高齢者の身体拘束解除に向けた看護師の行動	日本老年看護学会第29回学術集会
	2024年6月	吉本佳世、長畑多代、九津見雅美	大腿骨近位部骨折をおこし手術を受ける認知症高齢者のADL低下を防ぐ看護実践	日本老年看護学会第29回学術集会
	2024年6月	山田律子、田所良之、長畑多代	本学会誌への論文投稿に関連する最新情報と査読のポイント	日本老年看護学会第29回学術集会
	2023年12月	長野弥生、山内加絵、九津見雅美、長畑多代	老年看護学実習のルーブリック使用頻度と自己調整学習の関連	第43回日本看護科学学会学術集会
	2023年6月	Tayo Nagahata , Mayumi Sasatani, Chitose Matsuda, Sachie Sumigawa	Negative emotions experienced by professionals caring for older people with dementia	IAGG-Agia/Oceania Congress 2023
	2023年6月	Yayoi Nagano,Tayo Nagahata, Masami Kutsumi,Kae Yamauchi	Online Exchange for the Study Group on Long Term Care Facilities duaring the COVID-19 Pandemic	IAGG-Agia/Oceania Congress 2023
	2023年6月	Kae Yamauchi, Tayo Nagahata, Masami Kutsumi,Yayoi Nagano	Difficulties Experienced by Nursing Professionals at Intensive Care Homes for Older People during the COVID-19 Pandemic	IAGG-Agia/Oceania Congress 2023
	2023年6月	大前笑美、九津見雅美、長畑多代	高齢心不全患者の退院後の生活を見据えた病棟看護師による自己管理支援	日本老年看護学会第28回学術集会

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
長畑 多代	2022年6月	長畑多代、橋本智江、元女貴久乃、相場健一、石原昌代	介護保険施設におけるCovid-19対応から考える「新しいケア様式」	日本老年看護学会第27回学術集会
	2022年6月	宮崎佳代子、長畑多代、九津見雅美	意思疎通困難な脳卒中急性期にある高齢者の身体体験を捉えた看護実践	日本老年看護学会第27回学術集会
中山 美由紀	2024年12月	九津見雅美、中山美由紀、井上敦子、阿川勇太	家族看護に関する知識と看護師が受けた教育経験との関連	第44回日本看護科学学会学術集会
	2024年9月	山口望、中山美由紀	急性期病院一般病棟に緊急入院した患者の家族の面会制限に伴う体験	第30回家族看護学会学術集会
	2024年9月	中山美由紀、井上敦子	臨床における家族看護実践評価尺度の開発	第30回家族看護学会学術集会
	2024年9月	藪内亜希、中山美由紀、井上敦子	高齢心不全患者とともに過ごす家族の心不全診断後の移行期における生活の変化への対処	第30回家族看護学会学術集会
	2024年6月	新井希理、中山美由紀	救急外来で“待つ”家族への熟練看護師の思考と実践プロセス	第20回クリティカルケア看護学会
	2023年9月	中山美由紀、井上敦子	一般看護師の家族看護実践における困難感尺度の開発	日本家族看護学会第30回学術集会
	2023年9月	蓮見歩、中山美由紀	入職時から面会制限を経験している若手看護師の家族へのかかわりに対する思い	日本家族看護学会第30回学術集会
	2023年9月	佐藤美樹、中山美由紀、井上敦子	思春期の子どもの子育てと老親介護のダブルケアをする家族の体験	日本家族看護学会第30回学術集会
	2023年9月	早田有希、井上敦子、中山美由紀	認知症高齢者と家族の生活を支える訪問看護師の実践	日本家族看護学会第30回学術集会
	2023年3月	Miyuki Nakayama, Atsuko Inoue	The difficulties faced by general nurses in practicing family nursing as recognized by certified nurse specialists in family health nursing (FCNS)	EAFONS2023
	2022年9月	黒田真可、中山美由紀、井上敦子	維持透析が困難となった慢性腎臓病患者の家族への看護実践	日本家族看護学会第29回学術集会
	2022年9月	井上敦子、中山美由紀	家族支援専門看護師が認識している一般看護師に必要な家族看護実践	日本家族看護学会第29回学術集会
仁尾 かおり	2024年12月	仁尾かおり,北村千章,澤田唯,松本宙	先天性心疾患をもつ思春期の子どもの病気認知に関する質的研究	第44回日本看護科学学会学術集会

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
仁尾 かおり	2024年7月	平山柚香,仁尾かおり,中山祐一	NICU/GCUにおける保育士の活動に関する保育士と看護師の認識	日本小児看護学会第34回学術集会
	2023年12月	山崎啓子,水野芳子,仁尾かおり,黒田光恵,森貞敦子,川上直子,中村伸枝	小児科外来における小児期発症慢性疾患患者への成人移行期支援体制の現状－第2報－	第43回日本看護科学学会学術集会
	2023年11月	川上直子, 黒田光恵,水野 芳子,仁尾かおり, 山崎啓子, 森貞敦子,西村あをい,小出沙由紀,檜垣高史	小児診療科に通院する重症心身障害者の親の通院及び入院に関する思いと要望	第48回日本重症心身障害学会学術集会
	2023年7月	仁尾かおり,西田みゆき,野間口千香穂,及川郁子,小柴梨恵,安真里,相原優花,菅野芳美	テーマセッション 「小児慢性疾患をもつ子ども達の保育園・幼稚園への就園支援－『これならできる！』を目指して－」	日本小児看護学会 第33回学術集会
	2022年12月	水野芳子,仁尾かおり,山崎啓子,中村伸枝,黒田光恵,森貞敦子,栗田直央子,川上直子,内海加奈子,小出沙由紀	小児科外来における小児期発症慢性疾患患者への成人移行期支援体制の現状	第42回日本看護科学学会学術集会
	2022年11月	川上 直子, 黒田 光恵, 水野 芳子, 仁尾 かおり, 山崎 啓子, 森貞 敦子, 西村 あをい, 小出 沙由紀, 檜垣 高史	小児診療科に通院する重症心身障害者の親の通院および入院に関する思いと要望	第47回日本重症心身障害学会学術集会
	2022年9月	中野綾美,瓜生浩子,関根光枝,中村由美子,藤井淳子,山口桂子,浅岡裕子,柄澤清美,新村直子,仁尾かおり	教育促進委員会企画 家族看護実践力の基盤をつくる看護基礎教育の充実－家族のニーズをとらえる力を高めるために－	日本家族看護学会第29回学術集会
	2022年7月	仁尾かおり,西田みゆき,野間口千香穂,小柴梨恵,大戸真紀子	テーマセッション 小児慢性疾患をもつ子どもの保育園・幼稚園への就園支援を考えよう！「保育所等における小児慢性特定疾病児童の就園に関する実態の報告」	日本小児看護学会 第32回学術集会
	2022年7月	栗田直央子,森貞敦子,黒田光恵,川上直子,水野芳子,仁尾かおり,山崎啓子,内海加奈子,中村伸枝,西村あをい	小児を対象にした診療科に通院・入院する 小児期発症の慢性疾患患者の親の思いと要望	日本小児看護学会 第32回学術集会
	2022年6月	森貞 敦子, 栗田 直央子, 黒田 光恵, 川上 直子, 水野 芳子, 仁尾 かおり, 山崎 啓子, 内海 加奈子, 中村 伸枝, 檜垣 高史, 西村 あをい	小児を対象とした診療科に通院する成人期の小児期発症慢性疾患患者の通院及び入院に関する思いと要望	第69回日本小児保健協会学術集会
	2022年6月	中谷 三佳, 仁尾 かおり, 大林 陽子	NICU入院児の母親の直接授乳開始後1ヵ月の母乳育児自己効力感を高めた要因	第69回日本小児保健協会学術集会
	2022年6月	小林 絵美, 中谷 有希, 仁尾 かおり, 河俣 あゆみ, 中川 乃梨子, 冨田 真由	NICUに入院経験がある児をもつ両親の育児不安に関する文献検討	第69回日本小児保健協会学術集会
旗持 知恵子	2024年9月	小西 利佳, 旗持 知恵子, 南村 二美代	熟練看護師による虚血性心疾患と糖尿病を併せ持つ患者の自己管理に関する移行支援	第29回日本糖尿病教育・看護学会学術集会

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
旗持 知恵子	2024年8月	福間 綾, 旗持 知恵子, 南村 二美代	心臓リハビリテーション維持期におけるPCI術後患者へのICTを活用したセルフケア支援 事例に基づく評価	第18回日本慢性看護学会学術集会
	2024年3月	Masami Nakamura, Chieko Hatamochi, Fumiyo Minamimura	Empowerment in the Medical Treatment Life of Patients with Chronic Kidney Disease	27th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2024年3月	Katsuhito Asai, Chieko Hatamochi, Fumiyo Minamimura	Development of the Help-Seeking Behavior Scale for Older Adult Persons with Heart Failure	27th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2023年9月	武田真弓, 旗持知恵子	心疾患患者の仕事と療養の両立の様相～再就職し就労継続している事例の分析を通して～	第17回日本慢性看護学会学術集会
	2023年9月	門前結, 旗持知恵子, 南村二美代	慢性閉塞性肺疾患患者の栄養障害予防に関する看護支援の実態	第17回日本慢性看護学会学術集会
	2023年9月	布谷麻耶, 南村二美代, 旗持知恵子	慢性看護学の知の創出への道：査読者が心がけていることとは	第17回日本慢性看護学会学術集会
	2022年11月	Emiko Nishi, Chieko Hatamochi	Coping behaviors for older adults with dysphagia as perceived by certified nurses in dysphagia nursing : Toward the drafting of a checklist	The 6th Korea China Japan Nursing Conference
	2022年10月	Katsuhito Asai, Chieko Hatamochi	Help-Seeking Behavior in Self-Care of Heart Failure Patients in Elderly Household	The 7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science
	2022年10月	Masami Nakamura, Chieko Hatamochi	A Concept Analysis of Empowerment in Patients with Chronic Kidney disease	The 7th Asian Nephrology Nursing Symposium
平谷 優子	2022年8月	太田佳織、旗持知恵子、南村二美代	熟練看護師が捉える特発性肺線維症患者への情報提供に関する支援	第16回日本慢性看護学会学術集会
	2025年3月	Yuko Hiratani, Ayako Okamoto, Tomoyuki Kawamura, Yoshihiko Yuyama	Self-Care Support Needed To Prevent Unplanned Pregnancy For Adolescent Type 1 Diabetes Females	17th Scientific Meeting of Asian Association for the Study of Diabetes
	2024年8月	法橋尚宏, 渡邊幹生, 平谷優子, 西元康世, 芹澤のり子	未来を拓く仏教家族看護理論の開発と被災した家族事例への応用	日本看護研究学会第50回学術集会
	2024年7月	永瀬亜紀, 平谷優子	小児臨床看護における看護師が認識する倫理的問題	日本小児看護学会第34回学術集会
	2024年7月	西元康世, 平谷優子, 法橋尚宏	家族支援シチュエーションの構造化とインタビュープロトコル構築	日本小児看護学会第34回学術集会
	2024年3月	平谷優子, 松木洋人	離婚や別居により子どもと離れて生活する別居親の健康	文化看護学会第16回学術集会

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
平谷 優子	2023年12月	平谷優子, 伊瀬薫	看護学生が認識する学習効果を高めるための小児看護学実習指導	第43回日本看護科学学会学術集会
	2023年9月	宮原真二, 平谷優子, 田中勝治	在宅で暮らす重症心身障害児をもつ家族の家族機能	日本家族看護学会第30回学術集会
	2023年8月	法橋尚宏, 渡邊幹生, 島田なつき, 伊藤咲季, 西元康世, 平谷優子	家族症候学の確立と家族症候チェックリストの意義	日本看護研究学会第49回学術集会
	2023年8月	平谷優子, 伊瀬薫	臨床実習指導者が「当院に就職してほしい」と思う看護学生の特徴	日本看護研究学会第49回学術集会
	2023年3月	Yasuyo Nishimoto, Yuko Hiratani, Naohiro Hohashi	Literature Review of Situations in which Pediatric Nurses Recognize the Need for Family Nursing	26th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS)
	2022年12月	平谷優子, 伊瀬薫, 石本晶子	1型糖尿病をもつ女性の妊娠に対する思いに関する文献レビュー	第42回日本看護科学学会学術集会
	2022年11月	堀田優子, 柚山賀彦, 西川直子, 伊瀬薫, 石本晶子, 平谷優子, 川村智行	1型糖尿病合併妊娠における非計画妊娠の発生率の時代変化の検討	第38回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会
	2022年10月	Ayumi Ogura, Yuko Hiratani, Tomoyuki kawamura, Naoko Nishikawa-Nakamura, Yoshihiko Yuyama, Yuko Hotta	A study about the parental involvement for the transition from family management to self-care in childhood type 1 diabetes	International Society for Pediatric and Adolescent Diabetes 48th Annual Conference
	2022年9月	平谷優子, 西元康世, 法橋尚宏	入院中の病児をもつ家族を対象とする家族機能尺度の開発と信頼性・妥当性の検討	日本家族看護学会第29回学術集会
	2022年8月	法橋尚宏, 渡邊幹生, 島田なつき, 伊藤咲季, 西元康世, 平谷優子	“家族システムユニットの三元理論”の提唱と家族スピリチュアリティ支援へのトランスレーション	日本看護研究学会第48回学術集会
	2025年3月	日高朋美, 細田泰子	新人看護師教育における実地指導者のメタ認知の抽出	第35回日本医学看護学教育学会学術学会
	2025年3月	北島洋子, 細田泰子	新人看護師のトランジションを支援するための学習ニーズの実態調査	第35回日本医学看護学教育学会学術学会
	2025年2月	Yumi Tanaka, Yasuko Hosoda	Clinical judgment process for visiting nurses responding to emergency telephone calls: Case of patients in the terminal stage of cancer	15th International Nursing Conference (INC) & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
平谷 優子	2025年2月	Yu Kanayama, Yasuko Hosoda	An examination of the content validity index of the Self-Assessment Scale for Perspective-taking in Preceptors	15th International Nursing Conference (INC) & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference
細田 泰子	2024年12月	細田泰子, 根岸まゆみ, 水引智央, 北島洋子, 赤崎芙美, 勝山愛, 土肥美子, 片山由加里, 松本赳史	交流集会：臨床的思考を育む学習環境デザインー臨床判断モデルとルーブリックの活用可能性ー	第44回日本看護科学学会学術集会
	2024年12月	松本赳史, 細田泰子	アーティファクトの活用を基軸とした探究的学習プログラムの内容妥当性・実用性・有益性・実効性の検討	第44回日本看護科学学会学術集会
	2024年12月	金山悠, 細田泰子	実地指導者の視点取得自己評価尺度項目の表面妥当性と内容妥当性の検討	第44回日本看護科学学会学術集会
	2024年12月	勝山愛, 細田泰子	新人看護師の学習活動におけるエンゲージメントと臨床判断能力の関連	第44回日本看護科学学会学術集会
	2024年12月	川北敬美, 日高朋美, 小西由起子, 細田泰子	子育て期にある看護師の自己調整学習の様相	第44回日本看護科学学会学術集会
	2024年12月	赤崎芙美, 細田泰子	看護師のナレッジブローカリング自己評価尺度の信頼性・妥当性の検討	第44回日本看護科学学会学術集会
	2024年9月	細田泰子	招待講演Ⅰ：保健医療を学ぶ学生への プロフェッショナルリズム教育：学習環境デザインを基軸として	第13回日本栄養学教育学会総会
	2024年6月	宮下佳代子, 細田泰子	子ども医療に従事する看護師が認識するTNに必要な相談能力に関する質的研究	第71回日本小児保健協会学術集会
	2024年3月	Yu Kanayama, Yasuko Hosoda, Ai Katsuyama, Yoshiko Doi, Yoko Kitajima, Mayumi Negishi, Yukari Katayama	Developing clinical judgment skills in novice nurses: A survey among nursing educators	27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference
	2024年3月	Chihiro Mizuhiki, Yasuko Hosoda, Mayumi Negishi, Ai Katsuyama, Yukari Katayama, Yoshiko Doi, Yoko Kitajima, Takeshi Matsumoto	Evaluation of a clinical learning environment design support program that cultivate clinical judgment competency	27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference
	2023年12月	細田泰子	シンポジウム「看護臨床判断のパースペクティブー教育から研究へー」：臨床判断を拓くルーブリックの活用と学習環境デザイン	第43回日本看護科学学会学術集会
	2023年12月	水引智央, 細田泰子	新人レベルにある看護師の多重課題におけるセルフモニタリング測定尺度の開発ー信頼性・妥当性の検討ー	第43回日本看護科学学会学術集会
	2023年12月	細田泰子, 水引智央, 根岸まゆみ, 勝山愛, 北島洋子, 土肥美子, 片山由加里, 松本赳史	教育指導者に対する臨床学習環境づくり支援プログラムの開発	第43回日本看護科学学会学術集会

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
細田 泰子	2023年8月	水引智央, 細田泰子	新人レベルにある看護師の多重課題におけるセルフモニタリング測定尺度の開発:I-CVIIによる内容妥当性の検討	日本看護学教育学会第33回学術集会
	2023年8月	金山悠, 細田泰子	指導場面における実地指導者の視点取得の様相	日本看護研究学会第49回学術集会
	2023年5月	Chihiro Mizuhiki, Yasuko Hosoda	Surface and content validity of an Advanced Beginner Nurses' Self-Monitoring Scale while Multitasking	10th International Nursing Conference
	2023年3月	Yoko Kitajima, Yasuko Hosoda, Ai Katsuyama, Yoshiko Doi, Yukari Katayama, Mayumi Negishi, Yu Kanayama	Factors associated with improving the workplace competence of educational instructors who support nursing learners	26th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference
	2023年3月	Toshimi Kawakita, Yasuko Hosoda	Effects of work-family enrichment on intentions to leave work among female nurses raising preschool children	26th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference
	2022年12月	金山悠, 細田泰子, 勝山愛, 北島洋子, 根岸まゆみ, 片山由加里, 土肥美子	看護学生における臨床判断の能力開発に向けた教育指導者の取り組み	第42回日本看護科学学会学術集会
	2022年12月	細田泰子, 勝山愛, 根岸まゆみ, 土肥美子, 片山由加里, 北島洋子, 金山悠	看護学実習における臨床学習環境に影響を与える教育指導者の組織要因の検討	第42回日本看護科学学会学術集会
	2022年12月	土肥美子, 細田泰子	看護系大学に所属する若手教員の看護大学教員能力における学習ニーズの傾向	第42回日本看護科学学会学術集会
	2022年8月	勝山愛, 細田泰子	新人看護師の学習活動におけるエンゲージメントの関連要因の検討	日本看護研究学会第48回学術集会
	2022年8月	片山由加里, 細田泰子, 勝山愛, 土肥美子, 金山悠, 北島洋子, 根岸まゆみ	教育指導者の新人看護師と看護学生への学習支援に関連する背景的特徴	日本看護学教育学会第32回学術集会
	2022年8月	水引智央, 細田泰子	新人レベルにある看護師の多重課題におけるセルフモニタリングの実効	日本看護学教育学会第32回学術集会
	2022年8月	勝山愛, 細田泰子, 根岸まゆみ, 金山悠, 北島洋子, 土肥美子, 片山由加里	教育指導者における経験学習の関連要因と背景的特徴の検討	日本看護学教育学会第32回学術集会
	2022年8月	Yasuko Hosoda, Mayumi Negishi, Fumi Akasaki, Yukari Katayama, Yoko Kitajima, Yoshiko Doi, Kathie Lasater, Ann Nielsen	Assessing the reliability of the Japanese version of the Lasater Clinical Judgment Rubric	The 33rd International Nursing Research Congress 2022 (STTI)
	2022年8月	Chihiro Mizuhiki, Yasuko Hosoda	Aspects of self-monitoring of advanced beginner nurses while multitasking	The 33rd International Nursing Research Congress 2022 (STTI)

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
細田 泰子	2022年8月	Yoshiko Doi, Yasuko Hosoda	Educational support that contributes to building and enhancing the junior faculty members' competency	The 33rd International Nursing Research Congress 2022 (STTI)
	2022年8月	Fumi Akasaki, Yasuko Hosoda	Face and content validity of a self-assessment scale on knowledge brokering for Nurses	The 33rd International Nursing Research Congress 2022 (STTI)
	2022年8月	Yoko Kitajima, Mayumi Negishi, Yukari Katayama, Yasuko Hosoda, Fumi Akasaki, Yoshiko Doi, Kathie Lasater, Ann Nielsen	A qualitative analysis of the Lasater Clinical Judgment Rubric: Japanese version by nursing students	The 33rd International Nursing Research Congress 2022 (STTI)
	2022年4月	Fumi Akasaki, Yasuko Hosoda	Assessing the content validity of a self-assessment scale on knowledge brokering for nurses	25th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference
松田 光信	2024年3月	秋保寧音、松田光信	地域で暮らす精神障害者のパーソナルリカバリーとセルフスティグマ、所属感、楽観性との関連～基礎的研究～	日本看護研究学会第37回近畿・北陸地方会学術集会
	2023年12月	松田光信、河野あゆみ、佐藤史教、大平幸子	精神科訪問看護セルフケアモジュールの活用に向けた研修会の有用性に関する基礎研究	第43回日本看護科学学会学術集会
	2023年12月	河野あゆみ、松田光信	ストレングスの視点を活用した精神科看護実践トレーニングプログラムの開発	第43回日本看護科学学会学術集会
	2022年12月	大平幸子、松田光信、河野あゆみ	統合失調症をもちながら地域で暮らす当事者に対して訪問看護師が行うレジリエンス支援の開発過程	第42回日本看護科学学会学術集会
三輪 恭子	2024年8月	中川智恵,岡野明美,三輪恭子	幼児期の医療的ケア児に対する訪問看護師による発達支援	第29回日本在宅ケア学会学術集会
	2024年8月	山本初美,岡野明美,三輪恭子	訪問看護師による高齢者の快便に向けた多職種連携の実践	第29回日本在宅ケア学会学術集会
	2023年6月	三輪恭子	病院と地域をつなぐシステム構築に向けた地域看護CNSの実践	第10回日本CNS看護学会
	2023年3月	kyoko Miwa,Ayumi Kono	Competencies of Nurses for Community Empowerment in Community-based Care	26th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2022年12月	三輪恭子,河野あゆみ	住民育成活動を行うコミュニティヘルス・ナースの活動プロセス	第42回日本看護科学学会学術集会
	2022年8月	三輪恭子,河野あゆみ	暮らしの場で広がる新しい看護活動の実践ーコミュニティヘルス・ナースの活動の展開プロセスを知る	日本地域看護学会第25回学術集会
	2022年7月	深山華織,三輪恭子	訪問看護師による栄養アセスメントシート及びモニタリングシート活用の成果	第27回日本在宅ケア学会学術集会

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
三輪 恭子	2022年7月	遠藤優希,三輪恭子,岡野明美	壮年期がん終末期療養者の療養生活の意向を捉える訪問看護師の関わり	第27回日本在宅ケア学会学術集会
	2022年7月	堀田洋子,三輪恭子,岡野明美	看護小規模多機能型居宅介護における看護師のエンドオブライフケア	第27回日本在宅ケア学会学術集会
森本 明子	2025年3月	朝倉祥太, 田中範佳, 園田奈央, 森本明子	心臓カテーテル検査・治療を受ける患者の術前不安に対する保温ベスト着用の有効性の検討：無作為化比較試験	日本看護研究学会第29回東海地方会学術集会
	2025年3月	雷麗利, 園田奈央, 古木秀明, 宮田愛奈, 森本明子	Factors associated with current smoking among middle-aged Japanese men and women	STROKE2025・第50回日本脳卒中学会学術集会
	2025年3月	宮田愛奈, 園田奈央, 古木秀明, 雷麗利, 森本明子	Factors associated with underweight among middle-aged Japanese men and women	STROKE2025・第50回日本脳卒中学会学術集会
	2024年12月	園田奈央, 森本明子	行動変容理論を活用した減災行動促進プログラムの効果：大学生を対象とした無作為化比較試験	第44回日本看護科学学会学術集会
	2024年8月	森本明子, 園田奈央, 古木秀明	看護データサイエンス教育とEBP教育 ～看護の質向上のためにリアルワールドデータや最新のエビデンスを活用できる人材の育成～	日本看護研究学会第50回学術集会
	2024年2月	小池里彩、園田奈央、森本明子	外国人留学生における大地震への備えについての実態調査	第29回日本災害医学会総会
	2024年2月	森本明子、古木秀明、小池里彩、園田奈央	Risk of low health literacy and precontemplation stage for non-participation in health checkups	第34回日本疫学会学術総会
	2024年2月	園田奈央、古木秀明、小池里彩、森本明子	Factors associated with physical inactivity among middle-aged Japanese community residents	第34回日本疫学会学術総会
	2023年3月	Sonoda N, Furuki H, Morimoto A	Relationship between health literacy and regular exercise among healthy Japanese people	26th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2023年3月	Sonoda N, Morimoto A	A fundamental experiment for developing non-contact noise cancellation to reduce the noise level in the intensive care unit	26th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2023年3月	Hayashi R, Sonoda N, Morimoto A	Relationship between health literacy and decisional conflict regarding breastfeeding continuation or termination among mothers	26th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2023年3月	Fujikawa N, Sonoda N, Morimoto A	Relationship between critical thinking disposition and health literacy among university students	26th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2023年3月	Fukumitsu M, Furuki H, Sonoda N, Morimoto A	Effect of a training program based on the PPDAC cycle on competency of thinking ability among head nurses	26th East Asian Forum of Nursing Scholars

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
森本 明子	2023年3月	Furuki H, Sonoda N, Morimoto A	Factors related to the knowledge and skills of evidence-based practice among nurses worldwide: A scoping review	26th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2023年3月	Furuki H, Sonoda N, Morimoto A	Relationship between organizational attitude toward EBP and knowledge and skills of EBP among registered nurses in Japan	26th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2023年3月	Koike R, Sonoda N, Furuki H, Morimoto A	Necessary personal preparedness for large earthquakes in Japan: A literature review	26th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2023年3月	Koike R, Sonoda N, Furuki H, Morimoto A	Actual situation of personal preparedness for large earthquakes among university students in Japan: A literature review	26th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2023年3月	Koh C, Watanabe K, Sonoda N, Yasumoto R, Tsuzuki C, Morimoto A	Factors related to non-consultation with medical institutions among middle-aged Japanese women with menopausal symptoms	26th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2023年3月	Morimoto A	Health data science in practice and importance of health data science education in nursing.	26th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2022年10月	Morimoto A, Furuki H, Sonoda N	Relationship between socioeconomic status and health literacy among healthy Japanese people	29th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension
	2022年10月	Furuki H, Sonoda N, Morimoto A	Relationship between education level and obesity among healthy Japanese people	29th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension
	2022年10月	Sonoda N, Furuki H, Morimoto A	Factors related to participation in health checkups among middle-aged Japanese community residents in the precontemplation stage	29th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension
	2022年10月	園田 奈央, 森本 明子	特定健診実施医療機関向けの受診勧奨資材の開発 ヘルスコミュニケーションの実践報告	第81回日本公衆衛生学会総会
	2022年10月	林 里沙子, 園田 奈央, 森本 明子	周産期の女性の意思決定葛藤への意思決定ガイドを用いた支援 文献レビュー	第81回日本公衆衛生学会総会
	2022年10月	森本 明子, 園田 奈央	ヘルスリテラシーを考慮した受診勧奨資材の開発 ヘルスコミュニケーションの実践報告	第81回日本公衆衛生学会総会
	2022年4月	Hayashi R, Sonoda N, Morimoto A	A survey of decisional conflict regarding continuation or termination of breastfeeding among mothers	25th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2022年4月	Sonoda N, Koh C, Yasumoto R, Li M, Watanabe K, Tsuzuki C, Morimoto A	Association between recommendations from public health nurses, medical professionals, and family members and participation in health checkups	25th East Asian Forum of Nursing Scholars

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
森本 明子	2022年4月	Sakamoto H, Sonoda N, Morimoto A	Association between psychological safety and teamwork among nurses	25th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2022年4月	Yasumoto R, Tsuzuki C, Sonoda N, Koh C, Li M, Watanabe K, Morimoto A	Relationship between economic status and health-related behaviors among middle-aged Japanese community residents	25th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2022年4月	Morimoto A, Koh C, Yasumoto R, Li M, Watanabe K, Tsuzuki C, Sonoda N	Association between health literacy and stages of health behavior change among healthy Japanese people	25th East Asian Forum of Nursing Scholars
山口 曜子	2025年2月	山口曜子,森木ゆう子	Sleep Quality and Lifestyle Habits of Japanese Nursing Students Based on Chronotype	15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference
	2024年3月	NURFANDI,山口曜子	インドネシアのPUSKESMASにおける2型糖尿病教育の現状	日本看護研究学会第37回近畿・北陸地方会学術集会
	2023年7月	山口曜子	セミナー：自分の睡眠、意識していますか？－看護師の生体リズムを考える－	第24回 医療情報学会看護学術集会
	2023年3月	岩崎賢一,久田沙織,スルファンディ,森木ゆう子,山口曜子	Association of sleep quality and chronotype with skipping breakfast among undergraduate nursing students	26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023 Conference
	2022年12月	岩崎賢一,山口曜子	交替勤務看護師の概日リズム是正に注目した「睡眠の質を確保する生活行動モデル」の実行性の検討	第42回日本看護科学学会学術集会
	2022年6月	岩崎賢一,山口曜子,作田裕美	国内における慢性浮腫の看護に関する研究動向	第7回日本がんサポーターブケア学会学術集会
	2022年4月	岩崎賢一,山口曜子	INFLUCNCE OF TAKING NAPS DURING NIGHT SHIFTS ON NIGHT SLEEP QUALITY AFTER NIGHT SHIFTS OF NURSES WORKING SHIFTS	25th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference
横山 美江	2025年2月	横山 美江 with CODA Twins Project	出生体重と乳幼児期から成人期における身長との関連	日本双生児研究学会第39回学術講演会
	2025年1月	Hiomi Sasaki,Yoshie Yokoyama	A literature review on social isolation and loneliness among child-rearing mothers in Japan	Triple Burdens of Disease Conference 2025
	2024年10月	野正佳余、横山 美江	ハンチントン病患者や家族への遺伝的リスクを踏まえた看護に関する文献的考察	第83回日本公衆衛生学会総会
	2024年10月	畠山典子、横山美江	乳幼児家庭における防災意識の調査”災害時に一番困ると思うこと”自由記述項目の分析	第83回日本公衆衛生学会総会
	2024年10月	緒方靖恵、横山美江	家庭の経済状況と3歳児のテレビ等の視聴時間との関連	第83回日本公衆衛生学会総会

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
横山 美江	2024年10月	横山 美江、緒方靖恵、畑中陽子、金岡節子、古荘久実、兼岩美穂	全ての子育て家族への担当保健師による継続支援と7か月児相談時の母親の育児状況	第83回日本公衆衛生学会総会
	2024年9月	Yoshie Yokoyama,Yasue Ogata,Karri Silventoinen	Risk factors for maltreatment of children at 3 years of age in Japan:A population-based study	19th congress of the International Society for Twin Studies
	2024年6月	横山 美江、緒方靖恵、金岡節子、古荘久実、鈴木仁枝	担当保健師による全ての子育て家族への継続支援と母親の育児状況との関連：ポピュレーションアプローチの効果	日本地域看護学会 第27回学術学会
	2024年6月	笹木ひとみ、横山美江	育児中の母親の社会的孤立の要因に関する文献検討	日本地域看護学会第27回学術集会
	2024年2月	横山 美江	【基調講演】フィンランドにおけるネウボラの基盤システムとその効果	令和5年度 高知母性衛生学会総会・学術集会
	2024年1月	乾 愛、福永 淑江、永石 真知子、横山美江	大阪市A区保健福祉センターにおける乳がんに関する個別啓発活動効果検証	日本公衆衛生看護学会学術集会講演集
	2023年11月	横山 美江	【教育講演】ネウボラに学ぶ日本の児童虐待防止システムづくり	日本子ども虐待防止学会 第29回学術集会
	2023年11月	鈴木 孝太、横山美江	【シンポジウム座長】親子保健・学校保健における孤独・孤立の影響	第82回 日本公衆衛生学会総会
	2023年11月	横山 美江	同じ担当保健師の継続支援を受ける子育て家族の母子保健サービスへの認識に関する研究	第82回 日本公衆衛生学会総会
	2023年10月	緒方 靖恵、横山 美江	保護者の経済不安と1歳6か月児の言語発達との関連	第82回 日本公衆衛生学会総会
	2023年10月	畠山 典子、横山美江	多胎児家庭における育児の現状と課題－養育者の健康状態に関する文献的レビュー	第82回 日本公衆衛生学会総会
	2023年10月	緒方 靖恵、横山 美江	保護者の経済不安と1歳6ヵ月児の言語発達との関連	日本公衆衛生学会総会抄録集
	2023年10月	横山 美江	親子保健・学校保健における孤独・孤立の影響 妊娠・出産・子育て期の母親の孤独・孤立にどう向き合うか	日本公衆衛生学会総会抄録集
	2023年10月	畠山 典子、横山 美江	多胎児家庭における育児の現状と課題 養育者の健康状態に関する文献的レビュー	日本公衆衛生学会総会抄録集
	2023年10月	横山 美江、緒方 靖恵、鈴木 仁枝、堀内 清華、近藤 尚己、山縣 然太郎	同じ担当保健師の継続支援を受ける子育て家族の母子保健サービスへの認識に関する研究	日本公衆衛生学会総会抄録集

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
横山 美江	2023年10月	横山 美江、緒方靖恵、鈴木仁枝、堀内清華、近藤尚己、山縣然太朗	同じ担当保健師の継続支援を受ける子育て家族の母子保健サービスへの認識に関する研究	第82回日本公衆衛生学会総会
	2023年8月	横山 美江	英語論文執筆に必要な英語力の磨き方（英文誌編集委員会 委員会企画3）	日本看護研究学会 第49回学術集会
	2023年8月	横山 美江	地域保健活動の展開	令和5年度 中堅期保健師等研修会
	2023年1月	横山 美江	2022年度研修	No.78 看護研究の基礎
	2023年1月	横山 美江	母子保健研修会	双胎児・多胎児家庭の課題と支援ポイント
	2022年12月	横山 美江	妊婦・子育て家庭への伴走型相談支援等に関する研修	松山市保健所
	2022年12月	緒方 靖恵, 横山 美江	経済不安と3ヵ月児健診までの病気・けがとの関連	第11回 日本公衆衛生看護学会学術集会
	2022年12月	緒方 靖恵, 横山 美江	経済不安と3ヵ月児健診までの病気・けがとの関連	日本公衆衛生看護学会学術集会講演集
	2022年11月	横山 美江	島田市版ネウボラの成果について	島田市保健福祉センター
	2022年11月	横山 美江	フィンランドのネウボラから学ぶこれからのポピュレーションアプローチ	ひろしま版ネウボラ人材育成研修会
	2022年10月	横山 美江	子育て支援包括支援センターに活かすネウボラのエッセンス	保健師・助産師職能合同研修会
	2022年10月	横山 美江	母子保健施策を通じた児童虐待予防に関する研修「ハイリスク母子への対応及び母子保健と児童福祉部門の連携の実際」	令和4年度 厚生労働省母子保健指導者養成研修会
	2022年10月	鈴木 仁枝, 横山 美江	担当保健師による継続支援システムを導入した保健師活動の実際：ネウボラの基盤	第81回日本公衆衛生学会総会
	2022年10月	緒方 靖恵, 横山 美江, 上原 里程	経済不安と乳児を持つ母親の心身の状況との関連	第81回日本公衆衛生学会総会
	2022年10月	畠山 典子, 村上 奈々美, 横山 美江	担当保健師による継続支援体制を導入した自治体保健師のモチベーションに関する研究	第81回日本公衆衛生学会総会

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
横山 美江	2022年10月	横山 美江, 緒方 靖恵, 鈴木 仁枝	担当保健師による継続支援システムを導入した保健師活動の効果検証：ネウボラの基盤	第81回日本公衆衛生学会総会
	2022年9月	緒方 靖恵, 横山 美江, 上原 里程	経済不安と乳児を持つ母親の心身の状況との関連	日本公衆衛生学会総会抄録集
	2022年9月	畠山 典子, 村上 奈々美, 横山 美江	担当保健師による継続支援体制を導入した自治体保健師のモチベーションに関する研究	日本公衆衛生学会総会抄録集
	2022年9月	鈴木 仁枝, 横山 美江	担当保健師による継続支援システムを導入した保健師活動の実際 ネウボラの基盤	日本公衆衛生学会総会抄録集
	2022年9月	横山 美江, 緒方 靖恵, 鈴木 仁枝	担当保健師による継続支援システムを導入した保健師活動の効果検証 ネウボラの基盤	日本公衆衛生学会総会抄録集
	2022年7月	横山 美江	多胎児家庭育児支援研修会	
	2022年5月	横山 美江	子育て支援包括支援センターに活かすネウボラのエッセンス	大阪府助産師会定例研修会
渡邊 香織	2024年9月	細川 桃子, 清水 彩, 渡邊 香織	微量栄養素を主とした女性の栄養課題と月経困難症との関連に関する文献検討	母性衛生
	2024年9月	石黒 遥子, 清水 彩, 渡邊 香織	妊娠期における睡眠の質への影響要因に関する文献検討	母性衛生
	2023年11月	高 知恵, 千葉 貴子, 中根 祥子, 谷口 朱子, 北條 渉, 中嶋 有加里, 古山 美穂, 山田 加奈子, 渡邊 香織	在留外国人褥婦への保健指導を実践する経験3年目以下助産師の思いと看護体験および心理的ストレス	グローバルヘルス合同大会プログラム・抄録集
	2023年10月	高 知恵, 渡邊 香織, 園田 奈央, 安本 理抄, 都筑 千景, 森本 明子	中高年女性の閉経後の生活習慣病に関連する症状の知識と行動変容ステージ,特定健診受診との関連	日本女性医学学会雑誌
	2023年9月	金谷 真美, 佐保 美奈子, 高 知恵, 渡邊 香織	産後1ヵ月における授乳に関わる夫の思いと行動	母性衛生
	2023年9月	小寺 樹里, 渡邊 香織, 古山 美穂	発達障害特性を有する女性が産前産後に体験する心身や生活環境の変化	母性衛生
	2023年9月	古山 美穂, 渡邊 香織, 佐保 美奈子, 中嶋 有加里, 高 知恵, 山田 加奈子	養育者が認知する心身障がい児の性行動の実態と心配度	母性衛生
	2023年9月	三浦 恭子, 渡邊 香織, 古山 美穂	妊娠を望まない周閉経期女性における避妊の意思決定と妊孕性の低下の認識の関連	母性衛生

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
渡邊 香織	2023年9月	勝木 美帆, 渡邊 香織, 中嶋 有加里	20代・30代女性の食生活リテラシーと栄養バランスのよい食生活との関連	母性衛生
	2023年9月	田仲 宏帆, 渡邊 香織, 古山 美穂	ペリネイタルロスのケアを経験した新人期助産師の思い	母性衛生
	2023年8月	渡邊香織	いつかママになりたい・なるかもしれない女性のための食生活と月経の上手なケア	第32回日本リウマチ学会近畿支部学術集会
	2023年3月	C. Koh, K. Watanabe, M. Saho, Y. Nakajima, M. Furuyama, K. Yamada, T. Hina and Y. Nakai	HPV vaccination decision-making among female university students in Japan: Factors related to satisfaction with HPV vaccination behavior	The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2023年3月	K. Watanabe, C. Koh, M. Saho, Y. Nakajima, M. Furuyama, K. Yamada, T. Hina and Y. Nakai	Factors related to HPV vaccination behavior among female university students in Japan	The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars, Tokyo
	2023年	Koh Chie, Furuyama Miho, Miyashita Ruriko, Watanabe Kaori	在日コリアンコミュニティに居住する母親の育児を支えるソーシャル・キャピタル(Social Capital to Support Childcare for Mothers Residing in Korean Communities in Japan)	国際保健医療
	2023年	Koh Chie, Furuyama Miho, Miyashita Ruriko, Watanabe Kaori	Social Capital to Support Childcare for Mothers Residing in Korean Communities in Japan(タイトル和訳中)	国際保健医療
	2022年12月	渡邊 香織, 川村 千恵子, 清水 美樹	女性のプレコンセプションケアの認識と栄養摂取状態、およびビタミンB6.B12の血清濃度との関連	第42回日本看護科学学会学術集会
	2022年8月	谷口 朱子, 渡邊 香織, 高 知恵	日本における外国人妊婦のストレスとその関連要因に関する文献検討	母性衛生
	2022年8月	三浦 恭子, 渡邊 香織, 古山 美穂	周閉経期の妊娠を望まない女性における避妊の意思決定と避妊行動の関連	母性衛生
	2022年8月	吉田 涼子, 高 知恵, 加藤 美里, 森 真穂, 千葉 貴子, 山田 加奈子, 古山 美穂, 佐保 美奈子, 渡邊 香織	外国人妊婦の日本及び国際ガイドラインに沿った妊娠中の体重増加と分娩様式、分娩時出血、児体重との関連	母性衛生
	2022年8月	高 知恵, 渡邊 香織, 佐保 美奈子, 中嶋 有加里, 古山 美穂, 山田 加奈子, 比名 朋子, 中井 祐一郎	女子大学生のHPVワクチン接種意思とセクシュアリティに関する認知・行動 看護系と一般学部生の比較	母性衛生
	2022年	Koh Chie, Chiba Takako, Yoshida Ryoko, Kato Misato, Mori Maho, Yamada Kanako, Furuyama Miho, Nakajima Yukari, Saho Minako, Morimoto Akiko, Watanabe Kaori	日本在住のアジア人妊婦を対象とした国籍別にみた分娩時間(Delivery periods by nationality among pregnant Asian women residing in Japan)	国際保健医療

(准教授)

名前	発表年月日	講演者	タイトル	会議名
益加代子	2025年2月	益加代子	外国人介護職の見た日本の介護	日本保健医療社会学会 第51回大会連動企画 (関西定例研究会／看護・ケア研究部会／立命館大学生存学研究所共催)
岡野 明美	2025年2月	岡野明美	constructing an educational program for the coordination of community general support centers regarding life support provided to older adults with dementia	15 t h INC & 28thEAFONS
	2025年1月	岡野明美	地域包括支援センター活動のリフレクション	東大阪市地域包括ケア課
	2024年10月	岡野明美	地区診断の手法	大阪市障害福祉課
	2024年8月	岡野明美	口演座長	第27回地域看護学会学術集会講演集
	2024年8月	山本初美,岡野明美	訪問看護師による高齢者の快便に向けた多職種連携の実践	日本在宅ケア学第29回学術集会
	2024年8月	中川智恵,岡野明美	幼児期の医療的ケア児に対する訪問看護師による発達支援	日本在宅ケア学第29回学術集会
	2024年4月	岡野明美	在宅看護で求められる調整の実践	大阪府委託事業
	2023年10月	岡野明美	フレイル（口腔機能）	羽曳野市市民フォーラム
	2023年9月	岡野明美	地域包括支援センター職員が捉える認知症高齢者のコーディネートが困難となる要因と教育ニーズ	第26回地域看護学会学術集会講演集
	2022年～ 2024年11月	岡野明美	地域看護領域におけるコンサルテーション	兵庫医科大学看護学研究科
	2022年7月	岡野明美	看護小規模多機能型居宅介護における 看護師のエンド・オブ・ライフケア	日本在宅ケア学第27回学術集会
	2022年7月	堀田洋子,岡野明美	看護小規模多機能型居宅介護における 看護師のエンド・オブ・ライフケア	日本在宅ケア学第27回学術集会
奥野 裕子	2024年7月	奥野裕子	「発達障がいのあるこどもの親への支援」招待講演	第34回日本小児看護学会シンポジウム

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
奥野 裕子	2023年9月	吉田絢香,藤野陽生,山本知加,石井篤子,毛利育子,奥野裕子	自閉スペクトラム症児における社会的相互作用の動画視聴時の視線と脳血流量の変化	日本心理学会第87回大会
	2023年9月	奥野裕子	大阪公立大学精神看護分野オンライン研修会	大阪公立大学精神看護分野オンライン研修会2回目
	2023年8月	奥野裕子	大阪公立大学精神看護分野オンライン研修会	大阪公立大学精神看護分野オンライン研修会1回目
	2023年7月	奥野裕子	大阪公立大学市民公開講座 「発達障がいをもつ子どもへの支援ーペアレントトレーニングを通してー」	大阪公立大学市民公開講座
	2023年5月	Tomoka Yamamoto, Aika Tatsumi, Ikuko Mohri, Arika Yoshizaki, Haruo Fujino, Hiroko Okuno	Examining Possible Sex Differences in the Effectiveness of Social Skills Enhancement Programs	The 11th Congress of The Asian Society for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions (ASCAPAP) (in Kyoto)
	2023年5月	Nanako Matsumura , Haruo Fujino , Tomoka Yamamoto , Atsuko Ishii , Mariko Nakanishi , Masaya Tachibana , Ikuko Mohri , Hiroko Okuno	Evaluating the Impact of the Waiting Period on the Effectiveness of a Parent Training Program for Parents of Adolescents with Autism Spectrum Disorder	The 11th Congress of The Asian Society for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions (ASCAPAP) (in Kyoto)
	2023年5月	Nanako Matsumura, Haruo Fujino, Tomoka Yamamoto, Atsuko Ishii, Mariko Nakanishi, Masaya Tachibana, Ikuko Mohri, Hiroko Okuno	Evaluating the Impact of the Waiting Period on the Effectiveness of a Parent Training Program for Parents of Adolescents with Autism Spectrum Disorder	The 11th Congress of The Asian Society for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions(ASCAPAP) (in Kyoto)
	2023年5月	Tomoka Yamamoto, Aika Tatsumi, Ikuko Mohri, Arika Yoshizaki, Haruo Fujino, Hiroko Okuno	Examining Possible Sex Differences in the Effectiveness of Social Skills Enhancement Programs	The 11th Congress of The Asian Society for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions(ASCAPAP) (in Kyoto)
	2022年11月	畠山佳子, 藤野陽生, 山本知加, 谷田勇樹, 石井篤子, 奥野裕子	学級で行う高学年児童への社会的問題解決訓練の効果と実行機能の影響	一般社団法人日本学校保健学会第68回学術大会
	2022年11月	畠山佳子, 藤野陽生, 山本知加, 谷田勇樹, 石井篤子, 奥野裕子	学級で行う高学年児童への社会的問題解決訓練の効果と実行機能の影響	日本学校保健学会第68回学術大会
	2022年9月	安本卓也, 藤野陽生, 石井篤子, 山本知加, 奥野裕子	服薬場面における養育者と慢性疾患児との相互作用の特徴-かかわり指標の適応可能性の検討-	日本家族看護学会 第29回学術集会
	2022年8月	安本 卓也, 藤野 陽生, 石井 篤子, 山本 知加, 奥野 裕子	服薬場面における慢性疾患を持つ子どもと養育者の相互作用の特徴 かかわり指標の適用可能性の検討	日本家族看護学会学術集会プログラム・抄録集

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
勝山 愛	2024年12月	勝山愛 細田泰子	新人看護師の学習活動におけるエンゲージメントと臨床判断能力の関連	第44回日本看護科学学会学術集会
	2024年3月	Yu Kanayama, Yasuko Hosoda, Ai Katsuyama, Yoshiko Dohi, Yoko Kitajima, Mayumi Negishi, Yukari Katayama	Developing Clinical Judgment Skills in Novice Nurses: A Survey Among Nursing Educators	27th East Asian Forum of Nursing Scholars 2024
	2024年3月	Chirhiro Mizuhiki, Yasuko Hosoda, Mayumi Negishi, Ai Katsuyama, Yukari Katayama, Yoshiko Doi, Yoko Kitajima, Takeshi Matsumoto	Evaluation of a Clinical Learning Environment Design Support Program That Cultivate Clinical Judgment Competency	27th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2023年12月	細田 泰子, 水引 智央, 根岸 まゆみ, 勝山 愛, 北島 洋子, 土肥 美子, 片山 由加里, 松本 赳史	教育指導者に対する臨床学習環境づくり支援プログラムの開発	第43回日本看護科学学会学術集会
	2023年3月	Kitajima Y, Hosoda Y, Katsuyama A, Doi Y, Katayama Y, Negishi M, Kanayama Y	Factors associated with improving the workplace competence of educational instructors who support nursing learners	26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023
	2022年12月	細田泰子, 勝山愛, 根岸まゆみ, 土肥美子, 片山由加里, 北島洋子, 金山悠	看護学実習における臨床学習環境に影響を与える教育指導者の組織要因の検討	第42回日本看護科学学会学術集会
	2022年12月	金山悠, 細田泰子, 勝山愛, 北島洋子, 根岸まゆみ, 片山由加里, 土肥美子	看護学生における臨床判断の能力開発に向けた教育指導者の取り組み	第42回日本看護科学学会学術集会
	2022年10月	勝山 愛, 細田 泰子	新人看護師の学習活動におけるエンゲージメントの関連要因の検討	日本看護研究学会雑誌
	2022年8月	片山 由加里, 細田 泰子, 勝山 愛, 土肥 美子, 金山 悠, 北島 洋子, 根岸 まゆみ	教育指導者の新人看護師と看護学生への学習支援に関連する背景的特徴	日本看護学教育学会誌
	2022年8月	勝山 愛, 細田 泰子, 根岸 まゆみ, 金山 悠, 北島 洋子, 土肥 美子, 片山 由加里	教育指導者における経験学習の関連要因と背景的特徴の検討	日本看護学教育学会誌
九津見 雅美	2024年12月	九津見雅美, 中山美由紀, 井上敦子, 阿川勇太	家族看護に関する知識と看護師が受けた教育経験との関連	看護科学学会学術集会
	2024年10月	加藤 泰子, 九津見 雅美, 久保田 真美, 古和 久朋	臨床的活用に向けたレビー小体型認知症の認知機能変動観察指標改訂版の作成	日本認知症学会
	2023年12月	長野弥生, 山内加絵, 九津見雅美, 長畑多代	老年看護学実習のルーブリック使用頻度と自己調整学習の関連	第43回日本看護科学学会学術集会
	2023年6月	Yayoi Nagano, Tayo Nagahata, Masami Kutsumi, Kae Yamauchi	Online Exchange for the Study Group on Long Term Care Facilities During the COVID 19 Pandemic	IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
九津見 雅美	2023年6月	Kae Yamauchi, Tayo Nagahata, Masami Kutsumi , Yayoi Nagano	Difficulties Experienced by Nursing Professionals at Intensive Care Homes for Older People during the COVID-19 Pandemic	IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023
	2023年6月	Masami Kutsumi, Yasuko Kato, Mami Sumi, Midori Kawasaki, Hisatomo Kowa, Fumio Kanda, Yasushi Morimura6, Masashi Shibata	Relation between cognitive fluctuation and sleep quality data in a person with dementia with Lewy bodies: a case report	IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023
	2023年6月	大前笑美,九津見雅美,長畑多代	高齢心不全患者の退院後の生活を見据えた病棟看護師による自己管理支援	日本老年看護学会第28回学術集会
	2023年3月	Kutsumi M, Kato Y, Kubota M, Kawasaki M , Sumi M , Kowa H, Kanda F, Morimura Y	Improving the quality of support network's conferences for dementia with Lewy bodies	EAFONS2023
	2022年6月	宮崎佳代子,長畑多代,九津見雅美	意思疎通困難な脳卒中急性期にある高齢者の身体体験を捉えた看護実践	日本老年看護学会第27回学術集会
河野 あゆみ (精神看護学)	2023年12月	松田 光信,河野 あゆみ,佐藤 史教,大平 幸子	精神科訪問看護セルフケアモジュールの活用に向けた研修会の有用性に関する基礎研究	第43回日本看護科学学会学術集会
	2023年12月	河野 あゆみ,松田 光信	ストレングスの視点を活用した精神科看護実践トレーニングプログラムの開発	第43回日本看護科学学会学術集会
	2023年3月	Junko Kondo, Ayumi Kohno, Tomoko Fukuyama, Miyuki Onoi	Relationship between the attitude of independent learning among nursing students and the implementation of active learning educational methods	the 26th East Asian Forum of Nursing Scholars: EAFONS
	2022年12月	大平 幸子, 松田 光信, 河野 あゆみ	統合失調症をもちながら地域で暮らす当事者に対して訪問看護師が行うレジリエンス支援の開発過程	第42回日本看護科学学会学術集会
小西 円	2024年12月	小西円 佐々木八千代 手塚菜菜 白井みどり	施設に入所する男性高齢者の夜間のおむつ交換回数を減らすことによる中途覚醒への影響	第44回日本看護科学学会学術集会
	2024年10月	白井 みどり, 秋山 庸子, 佐々木 八千代, 小西 円	60歳以上の健康女性における車椅子座位位置と座面圧力,体格,主観的評価の関連	日本健康医学会雑誌
	2024年10月	小西 円, 佐々木 八千代, 手塚 菜菜, 白井 みどり	施設改修による入所高齢者の夜間睡眠の変化	日本健康医学会雑誌
	2024年10月	埋田 実可子, 小西 円, 白井 みどり	施設入所高齢者の座位時間と座位時の生活行動・環境の実態	日本健康医学会雑誌
	2023年10月	小西 円, 佐々木 八千代, 古田 菜菜, 白井 みどり	施設入所高齢者の居室移動前後における睡眠の実態	日本健康医学会雑誌
	2023年3月	Rie N , Madoka K, Ueda Y, Kihara C, Tamai T, Nagayasu Y, Nishida K	Seasonal Changes in Health Levels and Life Habits of First-Year Nursing Students	the 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
小西 円	2022年12月	西山里枝,小西円,上田裕子,玉井寿枝,木原知穂, 西田佳世	大学1年生の眠気や睡眠の実態	第42回日本看護科学学会学術集会
	2022年10月	西山 里枝, 小西 円, 玉井 寿枝, 木原 知穂, 上田 裕子, 西田 佳世	コロナ禍における看護系大学生の生活習慣の実態	日本看護研究学会雑誌
	2022年10月	小西 円, 西山 里枝, 木原 知穂, 玉井 寿枝, 上田 裕子, 西田 佳世	看護大学1年生の学期の進行に伴う睡眠状況の推移	日本看護研究学会雑誌
	2022年8月	小西 円, 西山 里枝, 玉井 寿枝, 木原 知穂, 西田 佳世	看護系大学生における入学後の睡眠習慣の実態	日本看護学教育学会誌
佐竹 陽子	2024年6月	堀池 美希,佐竹 陽子,北村 愛子	集中治療室で人工呼吸器離脱困難を呈する患者のスピリチュアルペインに対する看護実践	第20回日本クリティカルケア看護学会学術集会
	2024年6月	佐竹 陽子,森口 真吾,市村 健二,井上 奈々,北村 愛子	開発途上国の集中治療看護師へのテレコンサルテーションを実践する看護師の困難	第20回日本クリティカルケア看護学会学術集会
	2024年6月	芝田 美佳,佐竹 陽子,北村 愛子	長期集中治療を受け無力感を呈する患者への看護実践	第20回日本クリティカルケア看護学会学術集会
	2024年6月	藤井 文香,北村 愛子,佐竹 陽子	中治療室で意識障害が遷延する心停止蘇生後患者のその人らしさを支える看護実践	第20回日本クリティカルケア看護学会学術集会
	2023年7月	津矢田浩代, 中島綾子, 吉田真希, 西林直子, 佐竹陽子	急性呼吸窮迫症候群患者に対する腹臥位時褥瘡予防プロトコル実施効果の検討 過去起点コホート研究	日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会
	2023年7月	小磯崇司, 北村愛子, 佐竹陽子	集中治療室における人工呼吸器離脱過程にある患者のセルフコントロール感覚を支える看護実践	日本クリティカルケア看護学会学術集会
	2023年3月	西村佳剛, 佐竹陽子, 須河裕也, 河野恵	新型コロナウイルス感染症に罹患した患者家族のオンライン面会に対する思い	第50回日本集中治療医学会学術集会
	2022年12月	佐竹陽子, 升田茂章, 石澤美保子	救急領域に入院する終末期患者の外見（アピアランス）の問題	第42回日本看護科学学会学術集会
	2022年8月	溝尻 由美, 石澤 美保子, 佐竹 陽子, 堀井 えりな, 濱本 真理子	「重症度,医療・看護必要度」を用いた褥瘡発生予測の検討	日本褥瘡学会誌
清水 彩	2025年2月	Aya Shimizu, Atsue Ishii, Naoya Yamamoto, Shima Okada	Monitoring premature infants' body movements before, during, and after tube feeding.	EAFONS (East Asian Forum of Nursing Scholars) Conference 2025
	2024年10月	清水 彩, 有光 威志, 原田 香奈, 小澤 未緒	家族と協働する痛みのケアと医療者の教育 NICUでの痛みのケアに対する両親の希望や価値観	日本新生児成育医学会雑誌

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
清水 彩	2024年9月	細川 桃子, 清水 彩, 渡邊 香織	微量栄養素を主とした女性の栄養課題と月経困難症との関連に関する文献検討	母性衛生
	2024年9月	石黒 遥子, 清水 彩, 渡邊 香織	妊娠期における睡眠の質への影響要因に関する文献検討	母性衛生
	2024年8月	Naoya Yamamoto, Masanobu Manno, Yusuke Sakae, Masaaki Makikawa, Aya Shimizu, Atsue Ishii, Shima Okada	Workshop 12: Advances in Sensor Applications, Completely Non-Contact Detection of NICU Neonates in Need of Care via Video Analysis	The 1st International Conference on AI Sensors & The 10th International Symposium on Sensor Science
	2024年6月	清水 彩	痛みのケアガイドライン-2025年改訂に向けての新たなエビデンスと推奨草案- 術後痛に対する非薬理的緩和法に関するエビデンスと推奨草案	日本新生児成育医学会雑誌
	2024年3月	Aya Shimizu, Atsue Ishii, Naoya Yamamoto, Shima Okada	Exploring the Evidence-Practice Gap Through Body Movements in Preterm Infants	27th east asian forum of nursing scholars
	2023年11月	清水 彩, 木下 眞里, 津野崎 絹代, 藤本 智久	痛みのケアガイドライン:改訂に向けての新たなエビデンスと推奨草案 術後痛に対する非薬理的緩和法に関するエビデンスと推奨草案	日本新生児看護学会講演集
	2023年11月	小澤 未緒, 清水 彩, 諫山 哲哉, 福原 里恵, 山田 恭聖	痛みのケアガイドライン:改訂に向けての新たなエビデンスと推奨草案 エビデンスの強さと推奨草案	日本新生児看護学会講演集
	2023年10月	清水 彩, 木下 眞里, 津野崎 絹代, 藤本 智久	「痛みのケアガイドライン:改訂に向けての新たなエビデンスと推奨草案」 術後痛に対する非薬理的緩和法に関するエビデンスと推奨草案	日本新生児成育医学会雑誌
	2023年10月	小澤 未緒, 清水 彩, 諫山 哲哉, 福原 里恵, 山田 恭聖	「痛みのケアガイドライン:改訂に向けての新たなエビデンスと推奨草案」 エビデンスの強さと推奨草案	日本新生児成育医学会雑誌
	2023年9月	山本直哉,岡田志麻,万野真伸,清水彩,石井豊恵	動画によるNICU早産児の動作の特徴抽出手法の提案	SICEライフエンジニアリング部門シンポジウム2023(LE2023)
	2023年6月	Akio Kubota, Mio Ozawa, Norie Yamazaki, Aya Shimizu, Satoshi Toyama, Mari Kinoshita	Assessment and Management of Postoperative Pain in Neonates	第60回日本小児外科学会学術集会
	2023年3月	Ishii Miyuki, Shimoda Yuko. Ueno Maki. Kurotaki Akiko. Shimizu Aya, Takada Satoshi.	Outcome of Postpartum Home Vist for High-Risk Mothers of Child Maltreatment by Public Health Nurses in Japan: A Literature Review	26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023
	2022年12月	野島 敬祐, 川村 晃右, 松本 賢哉, 奥野 信行, 清水 彩, 梶谷 佳子	臨床実習前シミュレーション教育で使用した教育用電子カルテに対する学生の評価	日本看護科学学会学術集会講演集
	2022年11月	森本 紗代, 清水 彩	光線療法(LED)による周囲環境への影響	日本新生児看護学会講演集
	2022年11月	小澤未緒 米澤かおり 清水彩	痛みのケアガイドライン普及に関する全国調査：術後痛に関する調査結果	第31回日本新生児看護学会学術集会

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
園田 奈央	2025年3月	朝倉祥太, 田中範佳, 園田奈央, 森本明子	心臓カテーテル検査・治療を受ける患者の術前不安に対する保温ベスト着用の有効性の検討：無作為化比較試験	日本看護研究学会第29回東海地方会学術集会
	2025年3月	雷麗利, 園田奈央, 古木秀明, 宮田愛奈, 森本明子	Factors associated with current smoking among middle-aged Japanese men and women	STROKE2025・第50回日本脳卒中学会学術集会
	2025年3月	宮田愛奈, 園田奈央, 古木秀明, 雷麗利, 森本明子	Factors associated with underweight among middle-aged Japanese men and women	STROKE2025・第50回日本脳卒中学会学術集会
	2024年12月	園田奈央, 森本明子	行動変容理論を活用した減災行動促進プログラムの効果：大学生を対象とした無作為化比較試験	第44回日本看護科学学会学術集会
	2024年8月	森本明子, 園田奈央, 古木秀明	看護データサイエンス教育とEBP教育 ～看護の質向上のためにリアルワールドデータや最新のエビデンスを活用できる人材の育成～	日本看護研究学会第50回学術集会
	2024年2月	小池里彩, 園田奈央, 森本明子	外国人留学生における大地震への備えについての実態調査	第29回日本災害医学会総会
	2024年2月	森本明子, 古木秀明, 小池里彩, 園田奈央	Risk of low health literacy and precontemplation stage for non-participation in health checkups	第34回日本疫学会学術総会
	2024年2月	園田奈央, 古木秀明, 小池里彩, 森本明子	Factors associated with physical inactivity among middle-aged Japanese community residents	第34回日本疫学会学術総会
	2023年3月	Sonoda N, Furuki H, Morimoto A	Relationship between health literacy and regular exercise among healthy Japanese people	26th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2023年3月	Sonoda N, Morimoto A	A fundamental experiment for developing non-contact noise cancellation to reduce the noise level in the intensive care unit	26th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2023年3月	Hayashi R, Sonoda N, Morimoto A	Relationship between health literacy and decisional conflict regarding breastfeeding continuation or termination among mothers	26th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2023年3月	Fujikawa N, Sonoda N, Morimoto A	Relationship between critical thinking disposition and health literacy among university students	26th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2023年3月	Fukumitsu M, Furuki H, Sonoda N, Morimoto A	Effect of a training program based on the PPDAC cycle on competency of thinking ability among head nurses	26th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2023年3月	Furuki H, Sonoda N, Morimoto A	Factors related to the knowledge and skills of evidence-based practice among nurses worldwide: A scoping review	26th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2023年3月	Furuki H, Sonoda N, Morimoto A	Relationship between organizational attitude toward EBP and knowledge and skills of EBP among registered nurses in Japan	26th East Asian Forum of Nursing Scholars

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
園田 奈央	2023年3月	Koike R, Sonoda N, Furuki H, Morimoto A	Necessary personal preparedness for large earthquakes in Japan: A literature review	26th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2023年3月	Koike R, Sonoda N, Furuki H, Morimoto A	Actual situation of personal preparedness for large earthquakes among university students in Japan: A literature review	26th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2023年3月	Koh C, Watanabe K, Sonoda N, Yasumoto R, Tsuzuki C, Morimoto A	Factors related to non-consultation with medical institutions among middle-aged Japanese women with menopausal symptoms	26th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2022年10月	園田 奈央, 森本 明子	特定健診実施医療機関向けの受診勧奨資材の開発 ヘルスコミュニケーションの実践報告	第81回日本公衆衛生学会総会
	2022年10月	林 里沙子, 園田 奈央, 森本 明子	周産期の女性の意思決定葛藤への意思決定ガイドを用いた支援 文献レビュー	第81回日本公衆衛生学会総会
	2022年10月	森本 明子, 園田 奈央	ヘルスリテラシーを考慮した受診勧奨資材の開発 ヘルスコミュニケーションの実践報告	第81回日本公衆衛生学会総会
	2022年10月	Morimoto A, Furuki H, Sonoda N	Relationship between socioeconomic status and health literacy among healthy Japanese people	29th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension
	2022年10月	Furuki H, Sonoda N, Morimoto A	Relationship between education level and obesity among healthy Japanese people	29th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension
	2022年10月	Sonoda N, Furuki H, Morimoto A	Factors related to participation in health checkups among middle-aged Japanese community residents in the precontemplation stage	29th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension
	2022年4月	Hayashi R, Sonoda N, Morimoto A	A survey of decisional conflict regarding continuation or termination of breastfeeding among mothers	25th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2022年4月	Hayashi R, Sonoda N, Morimoto A	A survey of decisional conflict regarding continuation or termination of breastfeeding among mothers	25th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2022年4月	Sonoda N, Koh C, Yasumoto R, Li M, Watanabe K, Tsuzuki C, Morimoto A	Association between recommendations from public health nurses, medical professionals, and family members and participation in health checkups	25th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2022年4月	Sakamoto H, Sonoda N, Morimoto A	Association between psychological safety and teamwork among nurses	25th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2022年4月	Yasumoto R, Tsuzuki C, Sonoda N, Koh C, Li M, Watanabe K, Morimoto A	Relationship between economic status and health-related behaviors among middle-aged Japanese community residents	25th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2022年4月	Morimoto A, Koh C, Yasumoto R, Li M, Watanabe K, Tsuzuki C, Sonoda N	Association between health literacy and stages of health behavior change among healthy Japanese people	25th East Asian Forum of Nursing Scholars

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
田中 健太郎	2024年10月	志野 まなみ, 西嶋 紗永, 中根 鈴奈, 田中 健太郎, 根来 佐由美, 安本 理抄, 大野 志保, 都筑 千景	ナッジを用いた地域住民への防災啓発(第二報)－医療的ケア児の避難に着目して－	第83回日本公衆衛生学会総会
	2024年10月	西嶋 紗永, 志野 まなみ, 中根 鈴奈, 田中 健太郎, 根来 佐由美, 安本 理抄, 大野 志保, 都筑 千景	ナッジを用いた地域住民への防災啓発(第一報)－災害の備えに着目して－	第83回日本公衆衛生学会総会
	2024年10月	眞壁 美香, 都筑 千景, 田中 健太郎	乳幼児の安全のための保護者の事故予防実践尺度の開発	第83回日本公衆衛生学会総会
	2024年10月	野田 瑞穂, 安本 理抄, 田中 健太郎, 都筑 千景	熟練保健師の結核患者への積極的疫学調査から接触者健診対象候補者選定の支援技術	第83回日本公衆衛生学会総会
	2024年10月	曾我部 理々子, 田中 健太郎, 都筑 千景	離島在住高齢者の社会生活の実態と精神的健康との関連	第83回日本公衆衛生学会総会
	2024年6月	堀池 諒, 青崎 聖花, 小松 清か, 二宮 遥, 川井 ゆう, 松本 若菜, 板谷 智也, 佐々 木亮平, 中井 寿雄, 田中 健太郎, 高橋 裕太郎	WebGIS を用いた能登半島地震における保健師活動支援マップの作成	第27回日本地域看護学会学術集会
	2023年11月	板谷 智也, 堀池 諒, 中井 寿雄, 田中 健太郎	ウルトラトレイルマウントフジ実測データとGISによる勾配と移動速度の可視化の試み	第82回日本公衆衛生学会総会
	2023年11月	堀池 諒, 板谷 智也, 中井 寿雄, 田中 健太郎	GISと気候変動観測衛星を用いた熱中症対策の地域別介入優先順位決定方法の検討	第82回日本公衆衛生学会総会
林田 裕美	2025年2月	岡根絵美里,田中京子,林田裕美,徳岡良恵	認知機能低下のある高齢がん患者に対する訪問看護師の疼痛アセスメント	第39回日本がん看護学会学術集会
	2025年2月	弥永果歩,田中京子,林田裕美,徳岡良恵	思春期がん患者が妊孕性温存について自律的に選択することを支える看護援助	第39回日本がん看護学会学術集会
	2024年2月	上口望,田中京子,林田裕美,徳岡良恵	新型コロナウイルス感染症流行下において肺部分切除術を受けたがん患者への退院に向けた看護援助	第38回日本がん看護学会学術集会
	2024年2月	竹嶋佳織,田中京子,林田裕美,徳岡良恵	がん薬物療法による末梢神経障害を抱える若年成人 がん患者が就労を継続する上での困難への取り組み	第38回日本がん看護学会学術集会
	2024年2月	赤澤奈那,田中京子,林田裕美,徳岡良恵	がん遺伝子パネル検査の受検を検討する患者の意思決定を支えるスペシャリストナースによる看護援助	第38回日本がん看護学会学術集会
	2023年12月	竹嶋 佳織,田中 京子,林田 裕美,徳岡 良恵	がん薬物療法による末梢神経障害を抱える若年成人 がん患者が就労を継続する上での困難	第43回日本看護科学学会学術集会
	2023年2月	谷口麻帆,田中京子,林田裕美,徳岡良恵	診断・治療期のAYA世代がん患者をケアする看護師が直面する困難	第37回日本がん看護学会学術集会

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
林田 裕美	2023年2月	川上喜美江,田中京子,林田裕美,徳岡良恵	妊孕性温存が不確かな中でがん薬物療法を受ける若年女性がん患者への看護実践	第37回日本がん看護学会学術集会
	2023年2月	松永有貴,田中京子,林田裕美,徳岡良恵	治療の見極めが難しい時期にある進行・再発がん患者のその人らしい生き方を支えるがん看護専門看護師の実践	第37回日本がん看護学会学術集会
藤田 寿一	2024年7月	Hisakazu Fujita	Suppression of cell growth by the phosphorylation deficient human Mcl-1 mutant gene	48th FEBS Congress-FEBS 2024
	2023年3月	Hisakazu Fujita	Functional conversion of Mcl-1 protein from pro-survival to pro-apoptotic by amino acid substitutions	4th International Conference on Cancer Science and Radiology
古山 美穂	2024年7月	Chie Koh,Kaori Watanabe,Miho Furuyama,Kanako Yamada	Relationship between Human papillomavirus(HPV) vaccination behavior and knowledge of HPV and cervical cancer among female university students in Japan	Utokyo Nursing International Conference(UTNIC)2024
	2024年6月	高 知恵,古山 美穂	女子大生のHPVワクチン接種状況と子宮頸がんやHPVワクチンに対する知識,セクシュアリティとの関連	第43回日本思春期学会学術集会
	2023年11月	高知恵,千葉貴子,中根祥子,谷口朱子,北條渉,中嶋有加里,古山美穂,山田加奈子,渡邊香織	在留外国人褥婦への保健指導を実践する経験3年目以下助産師の思いと看護体験および心理的ストレス	グローバルヘルス合同大会2023
	2023年10月	小寺樹里,渡邊香織,古山美穂	発達障害特性を有する女性が産前産後に体験する心身や生活環境の変化	第64回日本母性衛生学会学術集会
	2023年10月	田仲宏帆,渡邊香織,古山美穂	ベリネイタルロスのケアを経験した新人期助産師の思い	第64回日本母性衛生学会学術集会
	2023年10月	三浦恭子,渡邊香織,古山美穂	妊娠を望まない周閉経期女性における避妊の意思決定と妊孕性の低下の認識の関連	第64回日本母性衛生学会学術集会
	2023年10月	古山美穂,渡邊香織,佐保美奈子,中嶋有加里,高知恵,山田加奈子	養育者が認知する心身障がい児の性行動の実態と心配度	第64回日本母性衛生学会学術集会
	2023年3月	C.Koh,K.Watanabe,M.Saho,Y.Nakajima,M.Furuyama,K.Yamada,T.Hina and Y.Nakai	HPV vaccination decision-making among female university students in japan:Factors related to satisfaction with HPV vaccination behavior	The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars,Tokyo
	2023年3月	K.Watanabe,C.Koh,M.Saho,Y.Nakajima,M.Furuyama,K.Yamada,T.Hina and Y.Nakai	Factors related to HPV vaccination behavior among female university students in japan	The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars,Tokyo
	2023年3月	Koh Chie,Furuyama Miho,K.Yamada,Miyashita Ruriko,Watanabe Kaori	在日コリアンコミュニティに居住する母親の育児を支えるソーシャル・キャピタル (Social Capital to Support Childcare for Mothers Residing in Korean Communities in Japan)	国際保健医療
	2022年9月	高知恵,渡邊香織,佐保美奈子,中嶋有加里,古山美穂,山田加奈子,比名朋子,中井祐一郎	女子大学生のHPVワクチン接種意思とセクシュアリティに関する認知・行動一看護系と一般学部生の比較ー	第63回日本母性衛生学会学術集会

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
古山 美穂	2022年9月	三浦恭子, 渡邊香織, 古山美穂	周閉経期の妊娠を望まない女性における避妊の意思決定と避妊行動の関連	第63回日本母性衛生学会学術集会
	2022年9月	吉田涼子, 高知恵, 加藤美里, 森真穂, 千葉貴子, 山田加奈子, 古山美穂, 佐保美奈子, 渡邊香織	外国人妊婦の日本及び国際ガイドラインに沿った妊娠中の体重増加と分娩様式, 分娩時出血, 児体重との関連	第63回日本母性衛生学会学術集会
	2022年	Koh Chie, Chiba Takako, Yoshida Ryoko, Kato Misato, Mori Maho, Yamada Kanako, Furuyama Miho, Nakajima Yukari, Saho Minako, Morimoto Akiko, Watanabe Kaori	日本在住のアジア人妊婦を対象とした国籍別にみた分娩時間(Delivery periods by nationality among pregnant Asian women residing in Japan)	国際保健医療
細名 水生	2024年3月	Mio Hosona, Keiko Sakai	The Frequency of Food Intake and Influence on Health of Shift Work Nurses in Japan	27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS 2024) Conference
	2024年3月	Mio Hosona	Relationship between dietary habits and obesity among shift work nurses in Japan	The fifth research conference of the International Society of Caring & Peace
	2023年12月	細名 水生	交代制勤務の看護師の運動・活動と健康との関連における海外の研究の動向	第43回日本看護科学学会学術集会
	2023年8月	細名 水生	交代制勤務者の食事と心身の健康に関する海外の研究の動向	日本看護研究学会第49回学術集会
	2023年3月	Mio Hosona, Yuko Uesugi	Literature review on research promotion for evidence-based practice among nurses	26th East Asia Forum of Nursing Scholars
	2023年3月	Mio Hosona, Yuko Uesugi	Literature review on utilization of research among clinical nurses	26th East Asia Forum of Nursing Scholars
南村 二美代	2024年9月	小西 利佳, 旗持 知恵子, 南村 二美代	熟練看護師による虚血性心疾患と糖尿病を併せ持つ患者の自己管理に関する移行支援	第29回日本糖尿病教育・看護学会学術集会
	2024年8月	福岡 綾, 旗持 知恵子, 南村 二美代	心臓リハビリテーション維持期におけるPCI術後患者へのICTを活用したセルフケア支援 事例に基づく評価	第18回日本慢性看護学会学術集会
	2024年3月	Masami Nakamura, Chieko Hatamochi, Fumiyo Minamimura	Empowerment in the medical treatment life of patients with chronic kidney disease	the 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS)
	2024年3月	Katsuhito Asai, Chieko Hatamochi, Fumiyo Minamimura	Development of the Help-Seeking Behavior Scale for Older Adult Persons with Heart Failure	the 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS)
	2023年9月	布谷麻耶, 南村二美代, 旗持知恵子, 田中真琴, 柴山大賀, 森本美智子, 下村晃子, 落合亮太, 森菊子	慢性看護学の知の創出への道：査読者が心がけていることとは	第17回日本慢性看護学会学術集会

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
南村 二美代	2023年9月	門前結, 旗持知恵子, 南村二美代	慢性閉塞性肺疾患患者の栄養障害予防に関する看護支援の実態	第17回日本慢性看護学会学術集会
	2022年8月	太田 佳織, 旗持 知恵子, 南村 二美代	熟練看護師が捉える特発性肺線維症患者への情報提供に関する支援	第16回日本慢性看護学会学術集会
森木 ゆう子	2025年3月	明石恵子, 澤田美和, 森木ゆう子 他	医療従事者の倫理的行動に関する質問紙の開発	日本臨床倫理学会第12回年次大会
	2025年2月	YOKO YAMAGUCHI, YUKO MORIKI	Sleep Quality and Lifestyle Habits of Japanese Nursing Students Based on Chronotype	15th INC & 28th EAFONS 2025
	2024年3月	中神克之, 松田麗子, 澤田美和, 森木ゆう子 他	「医療従事者の倫理的行動」の概念分析	日本臨床倫理学会 第11回年次大会
	2023年3月	Kenichi Iwasaki, Saori Hisada, Nurfandi, Yuko Moriki, Yoko Yamaguchi	Association of sleep quality and chronotype with skipping breakfast among undergraduate nursing students	EAFONS 2023
和木 明日香	2025年1月	Asuka WAKI, Mie SHIRAISHI, Hiroko WATANABE	Effectiveness of SP6(san yin jiao) acupressure during the first stage of labor on duration of labor : Systematic review and meta-analysis	Triple Burden of diseases
	2024年9月	Rumi NOHARA, Asuka WAKI	Proficiency and Challenges in Practical Training to Support Postpartum Women and Newborns Among Nursing Students Before Enrolling in Midwifery Training Programs	Global Health Recalibration Conference 2024

(講師)				
名前	発表年月日	講演者	タイトル	会議名
池田 直隆	2022年12月	鳥本 あかり, 河野 あゆみ, 池田直隆	住民ボランティアのICT機器の使用が地域高齢者見守りに及ぼす影響	日本看護科学学会学術集会講演集
	2023年12月	池田 直隆, 河野 あゆみ	在宅医療介護体制が在宅死の発生に及ぼす影響の検討	日本看護科学学会学術集会講演集
	2022年10月	Naotaka Ikeda	The relationship between medical expenditure and biological data among more than 1 year after kidney transplantation	The 7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science
井上 敦子	2024年9月	井上敦子, 藤原真弓, 浅井桃子, 米田愛, 永野晶子, 阿川勇太, 山口望, 蓮見歩, 黒田真可, 佐藤美樹, 藪内亜希, 中山美由紀	【交流集会】家族支援専門看護師と考える"かかわりが難しいと感じる家族"への支援	日本家族看護学会第31回学術集会
	2023年9月	井上敦子, 藤原真弓, 米田愛, 永野晶子, 阿川勇太, 山口望, 蓮見歩, 黒田真可, 佐藤美樹, 早田早紀, 中山美由紀	【交流集会】家族支援専門看護師と考える病状説明の場における家族支援	日本家族看護学会第30回学術集会
	2023年9月	中山美由紀, 井上敦子	一般看護師の家族看護実践における困難感尺度の開発	日本家族看護学会第30回学術集会

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
井上 敦子	2023年9月	佐藤美樹, 中山美由紀, 井上敦子	思春期の子どもの子育てと老親介護のダブルケアをする家族の体験	日本家族看護学会第30回学術集会
	2022年8月	黒田 真可, 中山 美由紀, 井上 敦子	維持透析が困難となった慢性腎臓病患者の家族への看護実践	日本家族看護学会学術集会プログラム, 抄録集
	2022年8月	井上 敦子, 藤原 真弓, 児玉 久仁子, 井上 玲子, 志村 友理	実践促進委員会 活動報告 家族看護実践オンラインセミナー基礎編開催の概要と評価	日本家族看護学会学術集会プログラム, 抄録集
	2022年8月	井上 敦子, 中山 美由紀	家族支援専門看護師が認識している一般看護師に必要な家族看護実践	日本家族看護学会学術集会プログラム, 抄録集
	2022年8月	児玉 久仁子, 藤原 真弓, 井上 敦子, 井上 玲子, 志村 友理	家族看護実践促進委員会活動報告 家族看護実践オンラインセミナー応用編の評価 家族カウンセリング入門	日本家族看護学会学術集会プログラム, 抄録集
井上 奈々	2024年6月	佐竹 陽子, 森口 真吾, 市村 健二, 井上 奈々, 北村 愛子	開発途上国の集中治療看護師へのテレコンサルテーションを実践する看護師の困難	第20回日本クリティカルケア看護学会学術集会
	2023年7月	野島敬祐 井上奈々 吉田友美	ICT化における看護の取り組みはここまでできている！遠隔ICU，遠隔教育，オンライン面会の取り組み」	第19回日本クリティカルケア看護学会学術集会
	2023年3月	Nana Inoue, Aiko Kitamura	Telenursing needed to connect critically ill patients in isolation in intensive care to their families	EAFONS 2023
大槻 奈緒子	2024年12月	奥田昌子, 相島美彌, 恋中理恵, 山本陵平, 大槻奈緒子	外来2型糖尿病患者の心疾患合併予防教育とHbA1c自己把握の関連	第44回日本看護科学学会学術集会
	2024年12月	大槻奈緒子, 山本陵平	大阪府後期高齢者歯科健診受診者の歯数と医療費，介護費：OHSAKA study	第44回日本看護科学学会学術集会
	2024年10月	Kazunori Ikebe, Satoko Takeuchi, Tomoaki Mamen, Naoko Otsuki, Kotaro Higashi, Masahiro Wada, Kazunori Nozaki, Hirotsuka Fukata, Ryohei Yamamoto	Association Between Oral Frailty and Mortality in Older Adults Aged ≥75 Years: The OHSAKA study.	10th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia 2024 (Bangkok)
	2024年11月	Naoko Otsuki, Tomoaki Mamen, Satoko Takeuchi, Kazunori Ikebe, Ayumi Kono, Ryohei Yamamoto	Oral Hygiene and the Incidence of Functional Decline in Older Adults Aged ≥75 Years: The OHSAKA Study	The Gerontological Society of America (Seattle)
	2024年11月	Naoko Otsuki, Ryohei Yamamoto, Ayumi Kono	Sleeping Medications and Prevention of Functional Disability in Older Adults With Low Care Needs: The SOHA Study	The Gerontological Society of America (Seattle)
	2024年11月	山川有美, 川北ひさ, 近藤史子, 神保昌世, 大槻奈緒子	先取り看護，プラスONE対応の提供とナースコール頻度の関連	第19回医療の質，安全学会学術集会
	2024年11月	高松万由実, 土井めぐみ, 神保昌世, 大槻奈緒子	救急，手術室，HCU，脳外科病棟看護師におけるNIHSS評価困難感の関連要因の検討.	第26回日本救急看護学会学術集会

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
大槻 奈緒子	2024年8月	相島美彌, 奥田昌子, 恋中理恵, 神保昌世, 宮田佳穂里, 高水佳代, 岡本麻里, 田中君枝, 岡田泰臣, 菊山教子, 小西敬一, 岩角麻衣, 廣西和代, 東本桂, 柏木知美, 西未知子, 山本陵平, 大槻奈緒子	在宅療養中の2型糖尿病患者における患者教育の継続がHbA1cに与える影響	第29回日本在宅ケア学会学術集会
	2024年8月	大槻奈緒子	ラダーII研修：ケーススタディ	橋本市市民病院看護部
	2024年1月	大槻 奈緒子, 山本 陵平, 河野 あゆみ	要支援高齢者の抑うつと要介護移行の関連 the Southern Osaka Health and Aging(SOHA)Study	Journal of Epidemiology
	2023年2月	山本 陵平, 大槻 奈緒子, 中西 香織, 井手 盛子, 石橋 千咲, 西田 誠, 瀧原 圭子, 長友 泉, 守山 敏樹	大学生の朝食摂取頻度と喫煙	Journal of Epidemiology
	2023年2月	大槻 奈緒子, 山本 陵平, 松下 泰祐, 松村 雄一郎, 新澤 真紀, 守山 敏樹	大阪府後期高齢者の歯数と要介護の関連 後向きコホート研究	Journal of Epidemiology
	2022年12月	内堀 真弓, 野々村 ゆかり, 大槻 奈緒子, 相島 美彌, 福井 小紀子	膝関節術後患者のフレイル予防に向けたIoTデバイスの活用を探索基礎的研究	日本看護科学学会学術集会講演集
	2022年12月	野々村 ゆかり, 内堀 真弓, 大槻 奈緒子, 相島 美彌, 福井 小紀子	人工膝関節置換術を受けた患者のフレイル予防に対するIoT技術の活用 測定方法の妥当性と測定結果のフィードバック効果の探索的検討	日本看護科学学会学術集会講演集
大野 志保	2024年12月	大川聡子, 横山直子, 田中千尋, 林田一子, 大野志保, 中本明世, 小路浩子	複線径路, 等至性アプローチ (TEA) の看護研究および実践における発展一対象者理解, 看護職理解のツールとして	第44回日本看護科学学会学術集会
	2024年11月	大野志保	学校行事での重大事故に遭遇した養護教諭の体験の検討	日本学校メンタルヘルス学会第28回大会
	2024年10月	志野まなみ, 西嶋紗永, 中根鈴奈, 田中健太郎, 根来佐由美, 安本理抄, 大野志保, 都筑千景	ナッジを用いた地域住民への防災啓発 (第二報) —医療的ケア児の避難に着目して—	第83回日本公衆衛生学会総会
	2024年10月	西嶋紗永, 志野まなみ, 中根鈴奈, 田中健太郎, 根来佐由美, 安本理抄, 大野志保, 都筑千景	ナッジを用いた地域住民への防災啓発 (第一報) —災害の備えに着目して—	第83回日本公衆衛生学会総会
	2024年9月	永津利衣, 大野志保, 續橋淳子, 穴水ゆかり	看護師, 保育者, 教員養成課程の学生にみられる死生観と幸福感—「死の準備教育」プログラム作成に向けた予備的調査—	日本教育心理学会第66回総会
	2024年9月	穴水ゆかり, 大野志保, 永津利衣, 續橋淳子	学生の自傷行為, 「消えたい」体験, 希死念慮とその関連要因についての予備的調査—死生観, 幸福感, 死別経験との関連—	日本教育心理学会第66回総会
	2024年9月	大野志保	学校での重大事故に遭遇した養護教諭の体験の検討—夏季休業中の課外活動での事例から—	日本学校心理学会第26回東京大会
	2024年9月	大野志保, 柴田一匡, 大山卓, 水野康樹, 窪田由紀	チーム学校の視点から組織としての心理的支援を考える (5) —学校における多職種連携の視点から—	日本学校心理学会第26回東京大会

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
大野 志保	2023年9月	大野志保, 柴田一匡, 大山卓, 水野康樹, 窪田由紀	チーム学校の視点から組織としての心理的支援を考える (4) -心理危機対応における協働支援-	日本学校心理学会第25回富山大会
	2022年10月	大川聡子, 中本明世, 大野志保, 小路浩子, 伊東美智子, 田中千尋, 横山直子	看護実践とTEA: 対象者理解, 看護職理解のツールとして	TEAと質的探究学会第1回大会
	2022年8月	大野志保, 柴田一匡, 大山卓, 水野康樹, 窪田由紀	チーム学校の視点から組織としての心理的支援を考える (3) -支援者の研修, 養成の視点から-	日本学校心理学会第24回オンライン大会
緒方 靖恵	2024年10月	田野中 恭子, 緒方 靖恵, 佐藤 純, 土田 幸子	精神疾患の親がいる高校生以上向け情報誌の有効性検討	日本公衆衛生学会総会抄録集
	2024年10月	緒方 靖恵, 横山 美江	家庭の経済状況と3歳児のテレビ等の視聴時間との関連	日本公衆衛生学会総会抄録集
	2024年10月	横山 美江, 緒方 靖恵, 畑中 陽子, 金岡 節子, 古荘 久実, 兼岩 美穂	全ての子育て家族への担当保健師による継続支援と7ヵ月児相談時の母親の育児状況	日本公衆衛生学会総会抄録集
	2024年1月	寺村 輝, 森 未帆, 大槻 風梨, 押栗泰代, 押栗 良輔, 田野中 恭子, 緒方 靖恵, 浜崎 優子	保健師学生による地震発生直後の看護系大学キャンパスの避難所運営計画の立案と報告会の開催	日本公衆衛生看護学会学術集会講演集
	2024年1月	森 未帆, 寺村 輝, 大槻 風梨, 田野中 恭子, 緒方 靖恵, 浜崎 優子, 押栗 良輔, 押栗 泰代	新卒保健師と考える健康危機管理のあり方 避難所運営ゲーム(HUG)の体験を通して考える平常時からの災害対策とは	日本公衆衛生看護学会学術集会講演集
	2024年1月	浜崎 優子, 緒方 靖恵, 田野中 恭子, 押栗 泰代	保健師学生を対象とした地震発生直後の避難所運営シミュレーション演習の効果	日本公衆衛生看護学会学術集会講演集
	2023年10月	緒方靖恵,横山美江	保護者の経済不安と1歳6か月児の言語発達との関連	日本公衆衛生学会総会抄録集
	2023年10月	田野中恭子,佐藤純, 土田幸子,緒方靖恵	精神疾患の親がいる子どもの支えに対する気持ち	日本公衆衛生学会総会抄録集
	2023年10月	横山美江,緒方靖恵, 鈴木仁枝,堀内清華, 近藤尚己,山縣然太郎	同じ担当保健師の継続支援を受ける 子育て家族の母子保健サービスへの 認識に関する研究	日本公衆衛生学会総会抄録集
	2022年12月	緒方靖恵, 横山美江	経済不安と3か月児健診までの病気, けがとの関連	日本公衆衛生看護学会学術集会講演集
	2022年12月	緒方靖恵, 岡田朱民, 早瀬麻子, 阿部あかね, 阿部慈美, 石堂たまき, 植村小夜子, 高岡寿江, 田野中恭子, 手島弘恵, 濱吉美穂, 安居幸一郎, 浜崎優子	ARシミュレーターを用いたマルチモーダルケアコミュニケーション教育 の効果 第1報 学生と模擬患者の評価から	日本看護科学学会学術集会講演集
	2022年12月	植村小夜子, 阿部あかね, 濱吉美穂, 阿部慈美, 石堂たまき, 岡田朱民, 緒方靖恵, 高岡寿江, 田野中恭子, 手島弘恵, 早瀬麻子, 安居幸一郎, 浜崎優子	ARシミュレーターを用いたマルチモーダルケアコミュニケーション教育の効果(第2報) 訓練前後の単語の変化	日本看護科学学会学術集会講演集

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
緒方 靖恵	2022年12月	阿部慈美, 石堂たまき, 高岡寿江, 田野中恭子, 手島弘恵, 阿部あかね, 植村小夜子, 岡田朱民, 緒方靖恵, 濱吉美穂, 早瀬麻子, 安居幸一郎, 浜崎優子	ARシミュレーターを用いたマルチモーダルケアコミュニケーション教育の効果 第3報 看護学生の記述分析	日本看護科学学会学術集会講演集
	2022年9月	田野中恭子, 佐藤純, 緒方靖恵, 土田幸子	ヤングケアラー, 精神疾患の親とその子どもに関する学校教員への講習効果の検証	日本公衆衛生学会総会抄録集
	2022年9月	横山美江, 緒方靖恵, 鈴木仁枝	担当保健師による継続支援システムを導入した保健師活動の効果検証: ネウボラの基盤	日本公衆衛生学会総会抄録集
	2022年9月	緒方靖恵, 横山美江, 上原里程	経済不安と乳児を持つ母親の心身の状況との関連	日本公衆衛生学会総会抄録集
喜田 雅彦	2025年3月	喜田雅彦, 森田諒, 白野倫徳	脾臓摘出術を受けた患者向け教育資料の作成と評価	日本教育工学会 2025年春季全国大会
	2024年7月	喜田雅彦	脾臓摘出後の注意点が記載されたwebサイトの評価(リビート演題)	第39回日本環境感染学会総会, 学術集会
	2024年3月	Masahiko Kita	Evaluation of Website Information for Splenectomy Patients in Japan	EAFONS2024
	2023年3月	Kayoko Eki, Masahiko Kita, Kyoko Shida, Hiromi Aibara,	COVID-19 Vaccine Literacy, Attitudes, and Factors Associated with Child Vaccination Behavior of Parents With 5- to 16-year-old Children	EAFONS2023
	2023年3月	Masahiko Kita, Kayoko Eki, Hiromi Aibara, Kyoko Shida, WantanaManeesriwongul	Relationship of COVID-19 vaccination behavior with attitudes, opinions, and vaccine literacy in Japan	EAFONS2023
	2022年12月	相原ひろみ, 喜田雅彦, 益加代子, 志田京子	日本語版COVID-19ワクチンリテラシー尺度の信頼性, 妥当性の検証	第42回日本看護科学学会学術集会
	2022年6月	神山 剛論, 喜田 雅彦	当センターICUにおける重症COVID-19患者の人工呼吸器関連肺炎(VAP)発生率と関連要因の検討	日本環境感染学会総会プログラム, 抄録集
高 知恵	2025年3月	高 知恵	外国人妊産褥婦の患者満足度向上を目指した支援, (シンポジウム)	第43回日本国際保健医療学会西日本地方会
	2025年2月	Yuki Yoshida, Chie Koh, Ruriko Miyashita	Experiences and difficulties in nursing care of foreign pregnant and postpartum women at perinatal medical center in Osaka, Japan	The 28th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS)
	2025年2月	Ruriko Miyashita, Chie Koh, MIho Arima, Keiko Kanagawa, Yoko Okuyama, Tadayuki Iida	Cognition, behavioral, and physical determinants in lifestyle disease prevention among working women in Japan	The 28th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS)
	2024年11月	高知恵, 中根祥子, 藤川陽子, 吉田有希, 土井智恵子, 前田隆代	周産期施設で勤務する助産師, 看護師の在留外国人妊産褥婦看護のための学習ニーズ	第9回国際臨床医学会学術集会

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
高 知恵	2024年11月	高知恵, 前田一枝, 田村恵理, 千葉貴子	ハイリスク要因のある外国人女性への支援：周産期母子医療センターにおける母と子への最前線の看護実践	グローバルヘルス合同大会2024
	2024年11月	中根祥子, 千葉貴子, 高知恵	外国人妊産褥婦への看護上の体験とより良い看護実践のための助産師, 看護師の希望	グローバルヘルス合同大会2024
	2024年11月	高知恵, 千葉貴子, 中根祥子, 藤川陽子, 吉田有希, 菊川佳世, 宇田川直子, 土井智恵子, 宮下ルリ子, 前田隆代	大阪府下周産期母子医療センターでの在留外国人妊産褥婦看護の現状	グローバルヘルス合同大会2024
	2024年11月	高知恵, 中根祥子, 千葉貴子, 前田隆代	大阪府下周産期母子医療センター看護職の外国人妊産褥婦看護実践時の意識に関連する要因	グローバルヘルス合同大会2024
	2024年8月	高知恵, 古山美穂	女子大学生のHPVワクチン接種状況と子宮頸がんやHPVワクチンに関する知識, セクシュアリティとの関連	第43回日本思春期学会学術集会
	2024年7月	千葉貴子, 高知恵, 上原玲, 早田憲司	A病院における未受診妊婦の社会的背景の検討	第60回日本周産期, 新生児医学会学術集会
	2024年7月	Chie Koh, Kaori Watanabe, Miho Furuyama, Kanako Yamada	Relationship between Human papillomavirus (HPV) vaccination behavior and knowledge of HPV and cervical cancer among female university students in Japan	UTokyo Nursing International Conference (UTNIC) 2024
	2024年7月	Chie Koh, Ruriko Miyashita, Takayo Maeda	Use of interpreters in nursing care for foreign pregnant and postpartum women at perinatal medical centers in Osaka, Japan	UTokyo Nursing International Conference (UTNIC) 2024
	2023年11月	高知恵, 千葉貴子, 中根祥子, 谷口朱子, 北條渉, 中嶋有加里, 古山美穂, 山田加奈子, 渡邊香織	在留外国人褥婦への保健指導を実践する経験3年目以下助産師の思いと看護体験および心理的ストレス	グローバルヘルス合同大会2023
	2023年11月	高知恵, 前田隆代, 中根祥子, 土井智恵子, 菊川佳世	大阪府下の周産期母子医療センターにおけるNiNA助産師（日本国際看護師）および母性看護専門看護師（CNS）としての取り組み～外国人妊産褥婦支援および看護職者への支援～	グローバルヘルス合同大会2023
	2023年10月	古山美穂, 渡邊香織, 佐保美奈子, 中嶋有加里, 高知恵, 山田加奈子	養育者が認知する心身障がい児の性行動の実態と心配度	第64回日本母性衛生学会学術集会
	2023年10月	金谷真美, 佐保美奈子, 高知恵, 渡邊香織	産後1か月における授乳に関わる夫の思いと行動	第64回日本母性衛生学会学術集会
	2023年3月	Chie Koh, Kaori Watanabe, Nao Sonoda, Risa Yasumoto, Meng Li, Chikage Tsuzuki, Akiko Morimoto	Factors related to non-consultation with medical institutions among middle-aged Japanese women with menopausal symptoms	The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS)
	2023年3月	Chie Koh, Kaori Watanabe, Minako Saho, Yukari Nakajima, Miho Furuyama, Kanako Yamada Tomoko Hina, Yuichiro Nakai	HPV vaccination decision-making among female university students in Japan: Factors related to satisfaction with HPV vaccination behavior	The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS)
	2023年3月	Kaori Watanabe, Chie Koh, Minako Saho, Yukari Nakajima, Miho Furuyama, Kanako Yamada Tomoko Hina, Yuichiro Nakai	Factors related to HPV vaccination behavior among female university students in Japan	The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS)

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
高 知恵	2022年12月	高知恵	HPVワクチン接種をめぐる対象者中心の意思決定支援のための研究	第29回ヘルスリサーチフォーラム
	2022年11月	高知恵, 古山美穂, 宮下ルリ子, 渡邊香織	コリアンコミュニティに居住する在日コリアン母親の育児を支えるソーシャル, キャピタル	第37回日本国際保健医療学会学術集会
	2022年11月	田中祐子, 小寺さやか, 高知恵, 千場直美, 奥田紀久子, 石井有美子	外国にルーツをもつ思春期児童, 生徒の身体的, 精神的健康に関する実態	第37回日本国際保健医療学会学術集会
	2022年10月	Yuko Tanaka, Sayaka Kotera, Chie Koh, Naomi Senba, Kikuko Okuda, Yumiko Ishii	Malaise of Adolescent Students in Japan Who Have Foreign Roots related with Coping Behavior and the Major Factors	The 4th IJCNS
	2022年9月	谷口朱子, 渡邊香織, 高知恵	日本における外国人妊婦のストレスとその関連要因に関する文献検討	第63回日本母性衛生学会学術集会
	2022年9月	吉田涼子, 高知恵, 加藤美里, 森真穂, 千葉貴子, 山田加奈子, 古山美穂, 佐保美奈子, 渡邊香織	外国人妊婦の日本及び国際ガイドラインに沿った妊娠中の体重増加と分娩様式, 分娩時出血, 児体重との関連	第63回日本母性衛生学会学術集会
	2022年9月	高知恵, 渡邊香織, 佐保美奈子, 中嶋有加里, 古山美穂, 山田加奈子, 比名朋子, 中井祐一郎	女子大学生のHPVワクチン接種意思とセクシュアリティに関する認知, 行動一看護系と一般学部生の比較一	第63回日本母性衛生学会学術集会
	2022年4月	Chie Koh, Tomoko Hina, Kaori Watanabe, Minako Saho, Yukari Nakajima, Miho Furuyama, Kanako Yamada, Yuichiro Nakai	Current knowledge levels, behavior, and other factors influencing HPV vaccination in female university students in Japan	The 25TH East Asian Forum of Nursing Scholars Conference (EAFONS)
	2022年4月	Akiko Morimoto, Chie Koh, Risa Yasumoto, Meng Li, Kaori Watanabe, Chikage Tsuzuki, Nao Sonoda	Association between health literacy and stages of health behavior change among Japanese healthy people	The 25TH East Asian Forum of Nursing Scholars Conference (EAFONS)
	2022年4月	Risa Yasumoto, Chikage Tsuzuki, Nao Sonoda, Chie Koh, Meng Li, Kaori Watanabe, Akiko Morimoto	Relationship between economic status and health-related behaviors among middle-aged Japanese community residents	The 25TH East Asian Forum of Nursing Scholars Conference (EAFONS)
	2022年4月	Nao Sonoda, Chie Koh, Risa Yasumoto, Meng Li, Kaori Watanabe, Chikage Tsuzuki, Akiko Morimoto	Association between recommendations from public health nurses, medical professionals, and family members and participation in health checkups	The 25TH East Asian Forum of Nursing Scholars Conference (EAFONS)
呉代 華容	2024年11月	水野稔基, 呉代 華容, 細川真梨子, 木戸倫子, 赤木優也, 井坂昌明, 龍野洋慶, 樋上容子, 樺山 舞, 神出 計	施設入所高齢者における身体組成, 身体機能と客観的な睡眠パラメータとの関連	第35回日本老年医学会近畿地方会
	2024年6月	村上 尚子, 呉代 華容, Tseng Winston, 神出 計	高齢患者の退院支援における病床規模ごとの実態 無記名式Webアンケート調査	第66回日本老年医学会学術集会
	2024年6月	利光 由衣, 呉代 華容, 樺山 舞, 赤坂 憲, 権藤 恭之, 増井 幸恵, 新井康通, 石崎 達郎, 山本 浩一, 神出 計	糖尿病を有する地域在住高齢者における年代別の腎機能障害の実態	第66回日本老年医学会学術集会

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
呉代 華容	2024年6月	師 麗玉, Yaya Li, 木戸 倫子, 呉代 華容, 和田 ありさ, 吉田 寛子, 田原 康玄, 樂木 宏実, 神出 計, 樺山 舞	地域在住高齢者の夜間頻尿と老年症候群の関連性 NOSE 研究	第66回日本老年医学会 学術集会
	2024年6月	橘 由香, 呉代 華容, 赤木 優也, 樺山 舞, 赤坂 憲, 池邊 一典, 榎藤 恭之, 神出 計	地域在住高齢者の呼吸機能と認知機能の関連についての縦断的検討	第66回日本老年医学会 学術集会
	2024年6月	吉田 寛子, 樺山 舞, 木戸 倫子, 呉代 華容, 赤坂 憲, 増井 幸恵, 榎藤 恭之, 石崎 達郎, 山本 浩一, 神出 計	地域在住高齢者における食塩摂取量と血圧との関連について フレイル, 降圧薬内服有無別の検討 SONIC研究	第66回日本老年医学会 学術集会
	2024年6月	寺田 沙耶, 呉代 華容, 樺山 舞, 赤木 優也, 赤坂 憲, 山本 浩一, 榎藤 恭之, 新井 康通, 石崎 達郎, 神出 計	地域在住高齢者における血清NT-proBNP値とフレイルとの関係	第66回日本老年医学会 学術集会
	2024年6月	横川 玲奈, 呉代 華容, 樺山 舞, 赤坂 憲, 榎藤 恭之, 増井 幸恵, 新井 康通, 石崎 達郎, 山本 浩一, 神出 計	地域在住高齢者における脳卒中既往と精神的不健康との関連性の検討 SONIC研究	第66回日本老年医学会 学術集会
	2024年6月	細川 真梨子, 呉代 華容, 樺山 舞, 木戸 倫子, 榎藤 恭之, 赤坂 憲, 北村 正博, 池邊 一典, 山本 浩一, 神出 計	地域在住高齢者における脂質異常症有無別の血清高感度CRPと6年後の認知機能の関連 SONIC研究	第66回日本老年医学会 学術集会
	2024年6月	堀 千里, 呉代 華容, 樺山 舞, 赤坂 憲, 榎藤 恭之, 増井 幸恵, 新井 康通, 石崎 達郎, 山本 浩一, 神出 計	地域在住高齢者におけるサルコペニアスクリーニングのための下腿周囲長の変化の実態 SONIC研究	第66回日本老年医学会 学術集会
	2024年6月	三谷 茉矢, 呉代 華容, 樺山 舞, 赤坂 憲, 榎藤 恭之, 増井 幸恵, 池邊 一典, 石崎 達郎, 山本 浩一, 神出 計	地域在住高齢者における,フレイル指標と自宅近隣環境との関連性	第66回日本老年医学会 学術集会
	2024年3月	Riko Kinjo, Kayo Godai, Mai Kabayama, Hiroshi Akasaka, Yasuyuki Gondo, Madoka Ogawa, Yukie Masui, Yasumichi Arai, Tatsuro Ishizaki, Kei Kamide.	Investigation of the Influence of Living Area on the Maintenance of Cognitive Functioning in a Community Dwelling Older People.	27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS)
	2024年3月	Yuka Fukata, Yumiko Nako, Mariko Yamamoto, Chika Nakamura, Tomoko Yano, Naoko Murakami, Kayo Godai, Michiko Kido, Mai Kabayama, Kei Kamide.	Increased ACP Discussions and Contributing Factors After ACP Promotion Program Intervention in Community-Dwelling Older Adults.	27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS)
	2024年3月	Sayaka Terada, Kayo Godai, Mai Kabayama, Yuya Akagi, Hiroshi Akasaka, Koichi Yamamoto, Yasuyuki Gondo, Yasumichi Arai, Tatsuro Ishizaki, Kei Kamide.	The characteristics of N-Terminal pro-B type Natriuretic Peptide (NT-proBNP) levels and their related factors in community-dwelling elderly people.	13th Hong Kong International Nursing Forum
	2024年1月	呉代 華容, 志摩 梓, 木村 隆, 宮松 直美	高血圧有無別の喫煙状況とその後の体重変化	第34回日本疫学会学術総会
	2024年1月	新田 美怜, 永井 春歌, 宮原 恵理, 大石 めぐみ, 仲間 いずみ, 呉代 華容, 岡本 玲子	2歳6ヵ月児を育てる親支援に向けた全数調査(第2報) ロジスティック回帰分析	第12回日本公衆衛生看護学会学術集会

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
呉代 華容	2024年1月	永井 春歌, 新田 美怜, 宮原 恵理, 大石 めぐみ, 仲間 いずみ, 呉代 華容, 岡本 玲子	2歳6ヵ月児を育てる親支援に向けた全数調査(第1報) 単純集計に見る実態	第12回日本公衆衛生看護学会学術集会
	2023年10月	木戸 倫子, 赤木 優也, 榎藤 恭之, 呉代 華容, Li Yaya, 赤坂 憲, 安元 佐織, 増井 幸恵, 石崎 達郎, 樺山 舞, 神出 計	地域在住高齢者における地域別にみた受動喫煙と認知機能の関連の検討(SONIC研究)	第18回日本応用老年学会大会
	2023年9月	Yuka Ohata, Kayo Godai, Mai Kabayama, Arisa Wada, Michiko Kido, Kei Asayama, Takayoshi Ohkubo, Hiromi Rakugi, Yasuharu Tabara, Kei Kamide.	Home blood pressure values by frailty classification, Seasonal variation among community-dwelling older adults-NOSE STUDY	Proceedings of the 2023 IDACO/IDHOCO/IDCARs/ UPRIGHT-HTM Osaka Consortium Meeting
	2023年9月	志摩 梓, 呉代 華容, 清原 麻衣子, 木村 隆, 宮松 直美	禁煙後の血圧は体重増加が大きいと上昇しやすいか	第45回日本高血圧学会総会
	2023年9月	吉田 寛子, 赤木 優也, 木戸 倫子, 呉代 華容, 赤坂 憲, 山本 浩一, 樂木 宏実, 樺山 舞, 神出 計	地域在住高齢者における食塩摂取量と高血圧の関連, 年齢階級, フレイル有無別の検討 SONIC研究	第45回日本高血圧学会総会
	2023年9月	八田 薫, 呉代 華容, 樺山 舞, 木戸 倫子, 赤坂 憲, 山本 浩一, 樂木 宏実, 神出 計	地域在住高齢者における降圧剤処方別3群の認知機能に与える影響の検討	第45回日本高血圧学会総会
	2023年9月	大畑 裕可, 呉代 華容, 樺山 舞, 和田 ありさ, 木戸 倫子, 浅山 敬, 大久保 孝義, 樂木 宏実, 田原 康玄, 神出 計	地域在住高齢者におけるフレイル分類別の家庭血圧値, 季節変動	第45回日本高血圧学会総会
	2023年6月	久保 心櫻, 辻本 美香, 北川 温子, 呉代 華容, 神出 計, 樺山 舞	非肥満者における循環器疾患危険因子の保有が脳血管疾患および虚血性心疾患の新規発症に及ぼす影響 肥満者との比較検討	第59回日本循環器病予防学会学術集会
	2023年6月	藤原 菜摘, リ, アア, 呉代 華容, 木戸 倫子, 神出 計, 樺山 舞	コロナ禍における高齢者の外出行動の地域差の検討	第65回日本老年医学会学術集会
	2023年6月	横山 優夏, 呉代 華容, 樺山 舞, 木戸 倫子, 畑中 裕美, 向井 咲乃, 和田 ありさ, 菊池 健, 百々 孝之, 神出 計	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のために地域在住高齢者の介護予防活動自粛によって生じた身体機能の変化についての検討	第65回日本老年医学会学術集会
	2023年6月	矢野 朋子, 村上 尚子, 高井 悠花, 中村 千賀, 森岡 千尋, 方 聞, 奈古由美子, 呉代 華容, 樺山 舞, 神出 計	在宅医療受療中高齢者の血清アルブミン値減少と2年後生命予後との関連	第65回日本老年医学会学術集会
	2023年6月	方 聞, 呉代 華容, 樺山 舞, 関口 敏彰, 赤木 優也, 赤坂 憲, 榎藤 恭之, 新井 康通, 石崎 達郎, 神出 計	後期高齢者, 超高齢者のサルコペニアに関連する年代別血清要因の検討	第65回日本老年医学会学術集会
	2023年6月	八田 薫, 呉代 華容, 樺山 舞, 赤坂 憲, 榎藤 恭之, 増井 幸恵, 新井 康通, 石崎 達郎, 樂木 宏実, 神出 計	地域在住高齢者における降圧薬の処方動向に関する調査	第65回日本老年医学会学術集会
	2023年6月	金城 理子, 呉代 華容, 樺山 舞, 赤坂 憲, 増井 幸恵, 池邊 一典, 石崎 達郎, 榎藤 恭之, 樂木 宏実, 神出 計	地域在住高齢者における認知機能, フレイル指標, 生活習慣病有所見率における居住地域の関連性	第65回日本老年医学会学術集会

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
呉代 華容	2023年6月	木戸 倫子, 赤木 優也, 榎藤 恭之, 呉代 華容, 赤坂 憲, 安元 佐織, 増井 幸恵, 石崎 達郎, 樺山 舞, 神出 計	地域在住高齢者における受動喫煙と認知機能の関連の検討(SONIC研究)	第65回日本老年医学会学術集会
	2023年6月	森岡 千尋, 村上 尚子, 高井 悠花, 方 聞, 中村 千賀, 矢野 朋子, 奈古由美子, 呉代 華容, 樺山 舞, 神出 計	在宅医療受療者における食事形態の実態と老年症候群との関連 OHCARE研究	第65回日本老年医学会学術集会
	2022年12月	Mio Kubo, Kayo Godai, Mai Kabayama, Arisa Wada, Michiko Kido, Sumiyo Hashimoto, Makiko Higashi, Hiromi Hatanaka, Takeshi Kikuchi, Takayuki Dodo, Yasuharu Tabara, Kei Asayama, Takayoshi Ohkubo, Hiromi Rakugi, Kei Kamide	Within-week variability of the home blood pressure in the NOSE study.	The 29th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension
	2022年12月	Godai K, Kubo M, Kabayama M, Wada A, Kido M, Hashimoto S, Higashi M, Hatanaka H, Kikuchi T, Dodo T, Tabara Y, Asayama K, Ohkubo T, Rakugi H, Kamide K.	Association between blood pressure related indicators and physical frailty among the Japanese community-dwelling older adults: the Nose study	The 29th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension
	2022年11月	藤井 誠, 大野 ゆう子, 池田 明日香, 呉代 華容, Li Yaya, 中村 祐子, 神出 計, 樺山 舞	レセプト情報, 特定健診等情報データベースを用いた糖尿病性腎症の有病率に関する現状報告	第42回医療情報学連合大会
	2022年11月	池田 明日香, 藤井 誠, 大野 ゆう子, Li Yaya, 中村 祐子, 呉代 華容, 神出 計, 樺山 舞	糖尿病性腎症重症化予防プログラム効果検討のためのNDBビッグデータの利用について	第42回医療情報学連合大会
	2022年9月	池田 明日香, 藤井 誠, 大野 ゆう子, Li Yaya, 中村 祐子, 呉代 華容, 神出 計, 樺山 舞	NDBデータを用いた市町村国保における糖尿病性腎症重症化予防プログラム効果の検討	日本公衆衛生学会総会抄録集
	2022年9月	藤井 誠, 大野 ゆう子, 池田 明日香, Li Yaya, 中村 祐子, 呉代 華容, 神出 計, 樺山 舞	NDBデータに基づく推算糸球体濾過量, 尿蛋白を用いた腎機能や腎障害に関する実態報告	第81回日本公衆衛生学会総会
	2022年9月	藤原 菜摘, 木戸 倫子, 呉代 華容, 石月 眞名, 神出 計, 樺山 舞	糖尿病性腎症重症化予防事業における望ましい連携についての検討	第81回日本公衆衛生学会総会
	2022年6月	久保 心櫻, 呉代 華容, 樺山 舞, 和田 ありさ, 木戸 倫子, 浅山 敬, 大久保 孝義, 田原 康玄, 神出 計	長期家庭血圧測定における週内, 季節変動の特徴 能勢健康長寿研究	第10回臨床高血圧フォーラム
	2022年6月	水野 稔基, 呉代 華容, 樺山 舞, 井坂 昌明, 榎藤 恭之, 小川 まどか, 池邊 一典, 増井 幸恵, 新井 康通, 石崎 達郎, 楽木 宏実, 神出 計	地域在住高齢者における高血圧の有無による睡眠状態とフレイルの関連性の検討 SONIC研究	第10回臨床高血圧フォーラム
	2022年5月	小林 慶吾, 呉代 華容, 樺山 舞, 赤坂 憲, 榎藤 恭之, 増井 幸恵, 新井 康通, 石崎 達郎, 楽木 宏実, 神出 計	地域在住高齢者の高血圧, 糖尿病の合併とうつ傾向の関連	第64回日本老年医学会学術集会

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
呉代 華容	2022年5月	菊池 晴奈, 呉代 華容, 樺山 舞, 赤坂 憲, 池邊 一典, 新井 康通, 石崎 達郎, 榎藤 恭之, 楽木 宏実, 神出 計	地域在住高齢者における糖尿病とアテローム性動脈硬化症の関連性 SONIC研究	第64回日本老年医学会 学術集会
	2022年5月	水野 稔基, 呉代 華容, 樺山 舞, 榎藤 恭之, 小川 まどか, 増井 幸恵, 新井 康通, 石崎 達郎, 楽木 宏実, 神出 計	地域在住高齢者における睡眠薬使用, 睡眠状態とフレイルの関連性は年代別で異なる SONIC研究	第64回日本老年医学会 学術集会
	2022年5月	田村 彩乃, 樺山 舞, 呉代 華容, 赤坂 憲, 榎藤 恭之, 増井 幸恵, 新井 康通, 石崎 達郎, 楽木 宏実, 神出 計	地域在住高齢者における疾患への罹患と主観的健康感の関連についての検討	第64回日本老年医学会 学術集会
	2022年5月	久保 心櫻, 呉代 華容, 樺山 舞, 赤坂 憲, 安元 佐織, 増井 幸恵, 石崎 達郎, 榎藤 恭之, 楽木 宏実, 神出 計	地域在住高齢者における70歳以降の就労に関連する要因についての男女別検討	第64回日本老年医学会 学術集会
	2022年5月	高井 悠花, 村上 尚子, 奈古 由美子, 中村 千賀, 矢野 朋子, 梶屋 絵理子, 呉代 華容, 木戸 倫子, 樺山 舞, 神出 計	在宅医療受給者における訪問看護利用者の特性の検討と緊急時における訪問看護ステーションの役割 OHCARE研究	第64回日本老年医学会 学術集会
	2022年5月	樺山 舞, 和田 ありさ, 呉代 華容, 浅山 敬, 大久保 孝義, 楽木 宏実, 田原 康玄, 神出 計	健康寿命延伸に向けた家庭血圧測定による地域介入 地域コホートの立ち上げ 能勢健康長寿研究(のせけん)	第58回日本循環器病予 防学会学術集会
	2022年5月	村上 尚子, 高井 悠花, 大道 友貴, 中村 千賀, 矢野 朋子, 奈古 由美子, 呉代 華容, 樺山 舞, 楽木 宏実, 神出 計	訪問診療受療中の在宅療養高齢者における多剤併用と転倒転落の関連 OHCARE研究	第64回日本老年医学会 学術集会
	2022年5月	吉田 寛子, 樺山 舞, 呉代 華容, 赤坂 憲, 山本 浩一, 池邊 一典, 安元 佐織, 榎藤 恭之, 楽木 宏実, 神出 計	後期高齢者における塩分チェックシートで評価した食塩摂取量と血圧の関連性 SOINC研究	第58回日本循環器病予 防学会学術集会
篠原 真咲	2022年8月	高野幸代, 篠原真咲, 岡田まり, 野口吉文	尾骨部褥瘡に対して家族と施設スタッフ間の軋轢を解消した訪問看護師の調整力	第24回日本褥瘡学会学 術会議
	2022年5月	松田佳奈, 新堂晃大, 篠原真咲, 伊井裕一郎, 上田有紀人, 田部井賢一, 石川英洋, 松浦慶太, 吉丸公子, 谷口彰, 加藤奈津子, 田村麻子, 佐藤正之, 百崎良, 冨本秀和	もの忘れ外来患者における脳小血管病MRIスコアと認知機能の経時的な変化	第63回日本神経治療学 会学術集会
清水 彬礼	2022年9月	齊藤 旬平, 加藤 恵理, 清水 彬礼, 石川 恵子, 宋 霄楊, 加藤 貴雄, 塩見 紘樹, 魚住 龍史, 木村 剛, 任和子	慢性心不全患者における急激な体重増加による症状知覚の要因探索とマネジメント行動の関連	日本心臓病学会学術集 会抄録
高尾 鮎美	2024年6月	太田 有咲, 青木 美和, 山本 瀬奈, 高尾 鮎美, 田村 沙織, 木澤 義之, 荒尾 晴恵, 荒尾 晴恵	緩和ケアの専門家が不在の施設に所属する医師が抱く緩和ケア提供上の困難	Palliative Care Research
	2024年6月	青木 美和, 高尾 鮎美, 山本 瀬奈, 田村 沙織, 木澤 義之, 荒尾 晴恵, 荒尾 晴恵	緩和ケアの専門家が不在の施設に所属する医師のコンサルテーションニーズ	Palliative Care Research
	2024年9月	高尾鮎美, 平山遼, 佐竹陽子, 荒尾晴恵	三次救急医療施設の初療室で看取りを迎える患者の家族に対する看護	日本緩和医療学会第6回 関西支部学術集会

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
高尾 鮎美	2025年2月	高尾鮎美, 中村成美, 山本瀬奈, 荒尾晴恵	遺伝性乳がん患者のアンメットな情報ニーズ	第39回日本がん看護学会学術集会
	2023年6月	臼井あかね, 高尾鮎美, 坂口ひとみ, 青木早苗	喉頭摘出患者の代用音声に関する研究の動向と課題	第頭頸部癌学会
	2023年3月	小川藍, 高尾鮎美, 青木早苗	頭頸部がんにおける看護研究の動向	第33回日本医学看護学会教育学会
	2022年10月	青木 美和, 升谷 英子, 畠山 明子, 高尾 鮎美, 荒尾 晴恵	予後予測1ヵ月と想定された進行がん患者への治療に関わる看護師の意識調査	第60回日本癌治療学会学術集会
	2022年10月	美濃亜美, 高尾鮎美, 大原千園	末期心不全患者のアドバンスケアプランニングに関する文献検討	第19回日本循環器看護学会学術集会
	2022年4月	Sanae Aoki, Ayumi Takao, Sawa Fujita	Challenges in nursing of women with BRCA1 or BRCA2 gene mutation or at genetic risk: a scoping review	The 25th East Asian Forum of Nursing Scholars(EAFONS) Conference
徳岡 良恵	2025年2月	弥永果歩 田中京子 林田裕美 徳岡良恵	思春期がん患者が妊孕性温存について自律的に選択することを支える看護援助	第39回日本がん看護学会学術集会
	2025年2月	岡根絵美里 田中京子 林田裕美 徳岡良恵	認知機能低下のある高齢がん患者に対する訪問看護師の疼痛アセスメント	第39回日本がん看護学会学術集会
戸田まどか	2024年10月	岩崎三佳	助産師教育における全身管理を意識した産科救急演習の学習効果と課題について 学生のアンケートより	日本母性衛生学会
	2024年10月	戸田まどか	産後の母親のQOL（生活の質）に関する文献レビュー	日本助産学会
	2022年9月	戸田まどか	コロナ禍における「対象を理解した看護実践」に繋がるための学内、遠隔での母性看護学実習の検討	日本母性衛生学会
富澤 理恵	2023年	Rie Tomizawa	Microbiome and Health Workshop	ISTS
	2023年	Rie Tomizawa	Microbiome and Health Workshop	ISTS
	2022年9月	佐伯 壮一郎, 岩田 瑞生, 富澤 理恵, 南谷 かおり	COVID-19禍での遠隔医療通訳の変化 系統的文献レビュー	日本渡航医学会誌
仲井 あや	2024年12月	飯野理恵, 高木夏恵, 池崎澄江, 和住淑子, 黒田久美子, 斉藤しのぶ, 銭淑君, 仲井あや, 眞嶋朋子, 中山登志子	看護系大学教員を対象とした課題解決型研修におけるピア、コンサルテーション導入の効果	第44回日本看護科学学会学術集会

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
仲井 あや	2024年11月	上原 和代, 小西 美樹, 黒田 晶子, 仲井 あや	COINN2024参加報告会（学会企画 シンポジウム）	第33回日本新生児看護学会学術集会
	2024年5月	Kazuyo Uehara, Aya Nakai, Akiko Kuroda, Miki Konishi	Unexpected impact of the COINN book, Neonatal Nursing: Global Perspective connecting Japanese readers with global colleagues' challenges opportunities.	COINN 2024, 11th Council of International Neonatal Nurses Conference
	2024年5月	Aya Nakai, Hiroko Iwata, Kaori Sakai, Yumika Kashiwagi	Noninvasive respiratory support for early extubation in extremely premature infants: A scoping review	COINN 2024, 11th Council of International Neonatal Nurses Conference
	2024年2月	石和田 稔彦, 佐藤 奈保, 中水流 彩, 仲井 あや, 大畑 美穂子, 竹内 典子, 長澤 耕男, 竹下 健一, 原木 真名, 深沢 千絵, 染谷 知宏, 篠崎 啓介, 渡邊 哲	新しい予防接種戦略:赤ちゃんを守るための母体へのワクチン接種(Maternal immunization)を知ろう! Maternal immunizationの意義,医療従事者の意識と知識	日本小児科学会雑誌
	2023年12月	齊藤 可紗, 犬山 彩乃, 佐伯 昌俊, 飯田 貴映子, 佐野 元洋, 仲井 あや, 前原 邦江, 齊藤 しのぶ	DX技術を活用したシミュレーション演習による看護基本技術修得の効果	日本看護科学学会学術集会講演集
	2023年12月	高木 夏恵, 飯野 理恵, 池崎 澄江, 和住 淑子, 黒田 久美子, 齊藤 しのぶ, 銭 淑君, 仲井 あや, 中山 登志子, 眞嶋 朋子	看護管理者を対象とした課題解決型オンライン研修の効果 研修前後のコンピテンシーの変化より	日本看護科学学会学術集会講演集
	2023年11月	Amai, K., Nosaki, A., Joshi, S. G., Pimpalekar, S., Ide, N., Sun, J., Asahina, M., Nakaguchi, T., Sekine, Y., Ishibashi, M., Iida, K., Casenove, D., Nakai, A., Ishikawa, M., Ito, S., Kasai, H., Yamauchi, K., Shikino, K., Iwasaki, Y., Nakamura, E., Usui, I., Sakai, I.	GRIP: グローバル地域ケアIPE+創生人材の育成	All Together Better Health Conference 2023
	2023年9月	佐野 元洋, 佐伯 昌俊, 犬山 彩乃, 前原 邦江, 飯田 貴映子, 仲井 あや, 齊藤 可紗, 齊藤 しのぶ	周術期実習における高機能シミュレーターを使用した演習の効果と課題	千葉看護学会第29 回学術集会
	2023年6月	遠藤 健司, 中村 伸枝, 佐藤 奈保, 仲井 あや	発達に特別な支援が必要なアトピー性皮膚炎の幼児, 学童前期の子どもとの養育者の困難と工夫	日本小児看護学会学術集会講演集
	2022年12月	中村 伸枝, 水野 芳子, 奥 朋子, 川西 智美, 眞嶋 朋子, 仲井 あや	新型コロナウイルス感染症拡大のなかでの専門看護師の活動	日本看護科学学会学術集会講演集
	2022年12月	高木 夏恵, 飯野 理恵, 池崎 澄江, 和住 淑子, 黒田 久美子, 齊藤 しのぶ, 銭 淑君, 仲井 あや, 野地 有子, 眞嶋 朋子	看護管理者および中堅看護者を対象としたオンラインによる課題解決型研修の学修効果	日本看護科学学会学術集会講演集
	2022年12月	飯野 理恵, 高木 夏恵, 池崎 澄江, 和住 淑子, 黒田 久美子, 齊藤 しのぶ, 銭 淑君, 仲井 あや, 野地 有子, 眞嶋 朋子	看護系大学教員を対象としたオンラインによる課題解決型研修の学修効果	日本看護科学学会学術集会講演集
	2022年11月	小西美樹, 仲井あや, 中村典子, 上原和代	世界と一緒に創る新生児看護の未来	第31回日本新生児看護学会学術集会

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
仲井 あや	2022年9月	Aya Nakai	The Respiratory Pattern of Preterm Infants and the Mother's Perception at the CA of 33 –37 Weeks: A Case Report	National Neonatal, Advanced Practice & Mother Baby Nurses Conferences
長野 弥生	2023年12月	長野弥生, 長畑多代, 九津見雅美, 山内加絵	老年看護学実習のルーブリック使用頻度と自己調整学習の関連	第43回日本看護科学学会学術集会
	2023年6月	Kae Yamauchi, Tayo Nagahata, Masami Kutsumi, Yayoi Nagano	Difficulties Experienced by Nursing Professionals at Intensive Care Homes for Older People during the COVID-20 Pandemic	IAGG-AOR2023
	2023年6月	Yayoi Nagano, Tayo Nagahata, Masami Kutsumi, Kae Yamauchi	Online Exchange for the Study Group on Long-Term Care Facilities During the COVID-20 Pandemic	IAGG-AOR2023
	2023年3月	Yayoi Nagano	Benefits and difficulties nursing students perceive regarding the use of rubrics in clinical practice	26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023
中村 雅美	2024年3月	Masami Nakamura, Chieko Hatamochi, Fumiyo Minamimura	Empowerment in the medical treatment life of patients with chronic kidney disease	27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS 2024)
	2022年11月	Emiko Nishi, Chieko Hatamochi, Akemi Danjyo, Takako Mouri, Masami Nakamura, Yumiko Kuwaki	Coping behaviours for older adults with dysphagia as perceived by certified nurses in dysphagia nursing: Toward the drafting of a checklist	The 6th Korea China Japan Nursing Conference
	2022年10月	中村 雅美	CKMの実践と克服すべき課題 看護師の立場から	第52回日本腎臓学会東部学術大会
	2022年10月	Masami Nakamura, Chieko Hatamochi	A concept analysis of empowerment in patients with chronic kidney disease	The 7th Asian Nephrology Nursing Symposium
中山 祐一	2024年6月	中山祐一, 山崎あけみ	重症心身障害児とその保護者の特別支援 学校卒業後の生活に向けた進路指導の実践	第71回日本小児保健協会学術集会
	2023年9月	中山祐一	重症心身障害のある成人の一人暮らしに向けた家族のもうひとつのいえづくり ～新しい家族看護のあり方を探る～	第30回日本家族看護学会学術集会
	2023年7月	中山祐一	重症心身障がい児とその保護者が 成人期に向けて準備することとは	大阪小児保健研究会
	2023年6月	中山祐一	日本小児保健協会の魅力を再発見し 未来へつなげる ―若手会員とともに学会活動を考えよう―	第70回日本小児保健協会学術集会
根来 佐由美	2024年10月	志野 まなみ, 西嶋 紗永, 中根 鈴奈, 田中 健太郎, 根来 佐由美, 安本 理抄, 大野 志保, 都筑 千景	ナッジを用いた地域住民への防災啓発(第二報)―医療的ケア児の避難に着目して	第83回日本公衆衛生学会総会
	2024年10月	西嶋 紗永, 志野 まなみ, 中根 鈴奈, 田中 健太郎, 根来 佐由美, 安本 理抄, 大野 志保, 都筑 千景	ナッジを用いた地域住民への防災啓発(第一報)―災害の備えに着目して	第83回日本公衆衛生学会総会

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
根来 佐由美	2022年12月	山村典弘, 根来佐由美, 上野昌江	A 市における“あしゅびプロジェクト”を軸とした介護予防の取り組み ―活動 5 年目を迎えた成果と課題―	第11回日本公衆衛生看護学会学術集会
	2022年12月	根来佐由美	地域包括ケアシステム構築における NPO の役割と課題 ― A 地区にある自治型福祉 NPO 会員の特徴に着目して ―	第11回日本公衆衛生看護学会学術集会
林 里沙子	2024年9月	千葉 陽子, 林 里沙子	産後1年間1ヵ月ごとの尿中バイオピリンの変動と精神健康度との関連性 縦断的観察研究	第65回日本母性衛生学会総会, 学術集会
	2023年3月	Risako Hayashi, Nao Sonoda, Akiko Morimoto	Relationship between health literacy and decisional conflict regarding breastfeeding continuation or termination among mothers	The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference
	2022年10月	林 里沙子, 園田 奈央, 森本 明子	周産期の女性の意思決定葛藤への意思決定ガイドを用いた支援: 文献レビュー	第81回日本公衆衛生学会総会
	2022年4月	Risako Hayashi, Nao Sonoda, Akiko Morimoto	A Survey of Decisional Conflict Regarding Continuation or Termination of Breastfeeding Among Mothers	The 25th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference
松本 赳史	2024年12月	松本赳史, 細田泰子	アーティファクトの活用を基軸とした探究的学習プログラムの内容妥当性, 実用性, 有益性, 実効性の検討	第44回 日本看護科学学会学術集会
	2024年12月	細田 泰子, 根岸 まゆみ, 水引 智央, 北島 洋子, 赤崎 芙美, 勝山 愛, 土肥 美子, 片山 由加里, 松本 赳史	臨床的思考を育む学習環境デザイナー―臨床判断モデルとルーブリックの活用可能性―	第44回 日本看護科学学会学術集会
	2024年3月	Chihiro Mizuhiki, Yasuko Hosoda, Mayumi Negishi, Ai Katsuyama, Yukari Katayama, Yoshiko Doi, Yoko Kitajima, Takeshi Matsumoto	Evaluation of a clinical learning environment design support program that cultivate clinical judgment competency	27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference
	2023年12月	細田泰子, 水引智央, 根岸まゆみ, 勝山愛, 北島洋子, 土肥美子, 片山由加里, 松本赳史	教育指導者に対する臨床学習環境づくり支援プログラムの開発	第43回 日本看護科学学会学術集会
	2023年12月	松本赳史, 高田尚子, 畠山早織, 櫛本真紀, 鈴木茜, 浅利悠子, 照沼桂子, 大木悦子, 亀山千枝, 服部園子, 河野由枝, 堀内香織, 成田綾子, 梅田亜矢	COVID-19禍における新卒看護師の体験―トランジションに焦点を当てて―	第21回 国立病院看護研究学会学術集会
	2022年12月	森下純子, 茂田玲子, 田村里佳, 矢富有見子, 亀山千枝, 松本赳史, 畠山早織, 杉浦光枝, 大木悦子	1年次看護学生を対象とした 基本的コミュニケーション能力向上のための演習に関する実践報告	第20回 国立病院看護研究学会学術集会
	2022年12月	櫛本真紀, 梅田亜矢, 大木悦子, 亀山千枝, 畠山早織, 松本赳史, 浅利悠子, 鈴木茜, 河野由枝, 服部園子, 照沼桂子, 堀内香織, 成田綾子	COVID-19禍が新人看護師教育に及ぼした影響 -研修責任者の視点で-	第20回 国立病院看護研究学会学術集会
	2022年12月	亀山千枝, 宇佐美裕加, 大木悦子, 小柴織愛, 杉浦光枝, 畠山早織, 松本赳史, 西岡みどり, 矢富有見子, 小澤三枝子	COVID-19流行下における看護学統合実習での複数患者受け持ち実習の実践報告	第20回 国立病院看護研究学会学術集会

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
松本 赳史	2022年12月	宇佐美裕加, 簾田愛, 田尾容子, 櫛本真紀, 松本赳史, 矢富有見子, 西岡みどり, 小澤三枝子	オンラインにおける看護学統合実習の動画教材作成	第20回 国立病院看護研究学会学術集会
	2022年12月	鈴木茜, 服部園子, 河野由枝, 梅田亜矢, 櫛本真紀, 大木悦子, 亀山千枝, 畠山早織, 松本赳史, 照沼桂子, 成田綾子, 堀内香織, 浅利悠子	COVID-19禍で新人教育を行う病棟の教育担当者の体験	第20回 国立病院看護研究学会学術集会
	2022年12月	照沼桂子, 堀内香織, 大木悦子, 梅田亜矢, 櫛本真紀, 亀山千枝, 畠山早織, 松本赳史, 浅利悠子, 鈴木茜, 河野由枝, 服部園子, 成田綾子	COVID-19禍で新卒看護師を教育する実地指導者の体験	第20回 国立病院看護研究学会学術集会
	2022年12月	浅利悠子, 亀山千枝, 梅田亜矢, 櫛本真紀, 大木悦子, 松本赳史, 畠山早織, 鈴木茜, 服部園子, 河野由枝, 成田綾子, 堀内香織, 照沼桂子	COVID-19禍での新卒看護師教育を担う受け入れ看護師の教育行動への影響	第20回 国立病院看護研究学会学術集会
	2022年12月	畠山早織, 櫛本真紀, 大木悦子, 亀山千枝, 松本赳史, 浅利悠子, 河野由枝, 服部園子, 鈴木茜, 照沼桂子, 成田綾子, 堀内香織, 梅田亜矢	COVID-19禍が新卒看護師のトランジションに与える影響	第20回 国立病院看護研究学会学術集会
水引 智央	2024年12月	細田泰子, 根岸まゆみ, 水引智央, 北島洋子, 赤崎美美, 勝山愛, 土肥美子, 片山由加里, 松本赳史	臨床的思考を育む学習環境デザインー臨床判断モデルとルーブリックの活用可能性ー	第44回日本看護科学学会学術集会
	2024年3月	Chihiro Mizuhiki, Yasuko Hosoda, Mayumi Negishi, Ai Katsuyama, Yukari Katayama, Yoshiko Doi, Yoko Kitajima, Takeshi Matsumoto	Evaluation of a Clinical Learning Environment Design Support Program That Cultivate Clinical Judgment Competency	27th East Asian Forum of Nursing Scholars
	2023年12月	水引 智央, 細田 泰子	新人レベルにある看護師の多重課題におけるセルフモニタリング測定尺度の開発ー信頼性・妥当性の検討ー	第43回日本看護科学学会学術集会
	2023年12月	細田泰子, 水引智央, 根岸まゆみ, 勝山愛, 北島洋子, 土肥美子, 片山由加里, 松本赳史	教育指導者に対する臨床学習環境づくり支援プログラムの開発	第43回日本看護科学学会学術集会
	2023年12月	植岡敬紹, 水谷美月, 水引智央, 川上美絵子, 堀江英恵	ICU病棟における多職種ラウンドの課題	第43回日本看護科学学会学術集会
	2023年8月	水引 智央, 細田 泰子	新人レベルにある看護師の多重課題におけるセルフモニタリング測定尺度の開発:I-CVIIによる内容妥当性の検討	日本看護教育学会第33回学術集会
	2023年7月	水谷美月, 植岡敬紹, 水引智央, 川上美絵子, 堀江英恵	ICU病棟における多職種ラウンドの効果	第19回日本クリティカルケア看護学会学術集会
	2023年5月	Chihiro Mizuhiki, Yasuko Hosoda	Surface and Content Validity of an Advanced Beginner Nurses' Self-Monitoring Scale while Multitasking	The 10th International Nursing Conference
	2022年8月	Chihiro Mizuhiki, Yasuko Hosoda	Aspects of self-monitoring of advanced beginner nurses while multitasking	The 33rd International Nursing Research Congress

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
水引 智央	2022年8月	水引 智央, 細田 泰子	新人レベルにある看護師の多重課題におけるセルフモニタリングの実効	日本看護学教育学会第32回学術集会
宮下 佳代子	2024年8月	宮下 佳代子 細田 泰子	子ども医療におけるTelephone Nursingに必要な相談能力測定尺度の開発：内容妥当性の検討	第34回 日本看護学教育学会学術集会
	2024年8月	福井 聖子, 宮下 佳代子, 他	【ワークショップ】 電話応対を活用した保護者支援	第33回 日本外来小児科学会学術集会
	2024年5月	宮下 佳代子 細田 泰子	子ども医療に従事する看護師が認識するTNに必要な相談能力に関する質的研究	第71回 日本小児保健協会学術集会
	2022年8月	福井 聖子, 宮下 佳代子, 他	【ワークショップ】 小児救急電話相談から学ぶ電話の対応	第31回 日本外来小児科学会年次集会
	2022年8月	小倉 あゆみ, 宮下 佳代子, 的場 仁美, 他	大阪府#8000における新型コロナウイルス(COVID-19)に関連した相談の報告	第31回 日本外来小児科学会年次集会
	2022年6月	佐藤 寿哲, 新家 一輝, 宮下 佳代子, 他	先天性心疾患を持つAYA世代の自立生活に向けた移行準備の因子構造	第32回 日本小児看護学会学術集会
安本 理抄	2025年2月	Mutsuko Sato,Risa Yasumoto,Yoko Nakahara,Makabe Mika,Masae Ueno	Concept Analysis of Support Skills Used by Japanese Public Health Nurses in Building Supportive Relationships with Parents for Child Abuse Prevention	the 15th International Nursing Conference (INC) and the 28th East Asian Forum of Nursing Scholars(EAFONS)
	2025年2月	Risa Yasumoto	Public Health Nurse Support for Enhancing Medication Adherence among Patients with Recurrent Tuberculosis	the 15th International Nursing Conference (INC) and the 28th East Asian Forum of Nursing Scholars(EAFONS)
	2025年1月	安本理抄	結核対策に関する保健師教育	ストップ結核パートナーシップ関西 第12回ワークショップ
	2024年10月	野田瑞穂,安本理抄,田中健太郎,都筑千景	熟練保健師の結核患者への積極的疫学調査から接触者健診対象候補者選定の支援技術	第83回日本公衆衛生学会総会
	2024年10月	志野まなみ,西嶋紗永,中根鈴奈,田中健太郎,根来佐由美,安本理抄,大野志保,都筑千景	ナッジを用いた地域住民への防災啓発(第二報)ー医療的ケア児の避難に着目してー	第83回日本公衆衛生学会総会
	2024年10月	廣地 彩香,上野昌江,眞壁美香,中原洋子,安本 理抄,水内久美,和泉京子	4か月児健診時における母親の養育体験と育児不安との関連	第83回日本公衆衛生学会総会
	2024年10月	西嶋紗永,志野まなみ,中根鈴奈,田中健太郎,根来佐由美,安本理抄,大野志保,都筑千景	ナッジを用いた地域住民への防災啓発(第一報)ー災害の備えに着目してー	第83回日本公衆衛生学会総会

名前	発表年月	講演者	タイトル	会議名
安本 理抄	2024年1月	澤田恵津子,都筑千景,安本 理抄	災害時において保健所を有する自治体の統括保健師が行う自組織外との連携と調整	第12回日本公衆衛生看護学会学術集会
	2024年1月	中原洋子,安本 理抄,和泉京子,上野 昌江	子育て世代包括支援センターにおける妊娠時の状況およびアセスメントと出産後の母性意識, 育児の自信, 親子関係との関連	第12回日本公衆衛生看護学会学術集会
	2023年10月	中原 洋子,安本 理抄,水内 久美,和泉京子,上野昌江	妊婦の状況と妊娠時の気持ちおよび産後のボンディング, EPDSの関連	第82回日本公衆衛生学会総会
	2023年10月	葛本奈美,都筑千景,安本 理抄	高校教員の食生活習慣の実態と労働時間との関連	第82回日本公衆衛生学会総会
	2023年10月	安本 理抄,中原 洋子,水内 久美,和泉京子,上野昌江	妊娠届出面接時のアセスメントと妊娠時の気持ちおよび産後のボンディング, EPDSの関連	第82回日本公衆衛生学会総会
	2023年3月	安本理抄	各職種 の今後のあり方についてー保健師の立場 からー	ストップ結核パートナーシップ関西 第10回ワークショップ
	2023年3月	C.Koh, K.Watanabe, N.Sonoda, R.Yasumoto, M.Li, C.Tsuzuki and A. Morimoto	Factors related to non-consultation with medical institutions among middle-aged Japanese women with menopausal symptoms	The 26TH East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS)
	2022年12月	安本理抄	感染症と健康管理 ～日常に潜む感染症から健康をまもるために～	シンポジウム「コミュニティ通訳」とは？
	2022年12月	中原洋子,安本 理抄,眞壁美香,水内久美, 大川 聡子,上野 昌江	子育て世代包括支援センターにおける妊娠中からの切れ目ない支援の検討 第1報 – 妊娠届出時の母親の気持ちと生活背景 –	第11回日本公衆衛生看護学会学術集会
	2022年12月	安本 理抄,中原洋子,眞壁美香,水内久美, 大川 聡子,上野 昌江	子育て世代包括支援センターにおける妊娠中からの切れ目ない支援の検討 第2報 – 妊娠届出時面接アセスメント指標からの母親の実態 –	第11回日本公衆衛生看護学会学術集会
	2022年4月	R.Yasumoto, C.Tsuzuki, N.Sonoda, C.Koh, M.Li, K.Watanabe and A. Morimoto	Relationship between economic status and health-related behaviors among middle-aged Japanese community residents	The 25TH East Asian Forum of Nursing Scholars Conference (EAFONS)
	2022年4月	N. Sonoda, C. Koh, R. Yasumoto, M. Li, K. Watanabe, C. Tsuzuki and A. Morimoto	Association between recommendations from public health nurses, medical professionals, and family members and participation in health checkups	The 25TH East Asian Forum of Nursing Scholars Conference (EAFONS)
	2022年4月	A. Morimoto, C. Koh, R. Yasumoto, M. Li, K. Watanabe, C. Tsuzuki and N. Sonoda	Association between health literacy and stages of health behavior change among Japanese healthy people	The 25TH East Asian Forum of Nursing Scholars Conference (EAFONS)

(助教)

名前	発表年月日	講演者	タイトル	会議名
塚部 千佳子	2024年6月	塚部 千佳子	医療観察法病棟で実施される社会復帰を促進する看護ケア	日本精神保健看護学会 学術集会，総会プログラム，抄録集

公的な委員会等（教授）

名前	委嘱先	職務内容
北村 愛子	日本看護倫理学会	代議員
	大阪府看護協会	認定看護師教育課程教員会委員
	堺市	堺市立病院機構評価委員会委員
	日本クリティカルケア看護学会	倫理委員会担当理事
	日本臨床救急医学会	入院時重症患者対応メディエーター養成小委員会委員
河野 あゆみ (地域包括ケア 科学)	岬町	地域福祉計画・地域福祉活動計画推進検討委員会委員長
	岬町	岬町健康づくり委員会委員長
	松原市社会福祉協議会	生活支援体制整備推進協議体メンバー 会長
	松原市	松原市地域福祉計画策定委員会 委員長
	泉大津市	泉大津市地域福祉計画推進委員会委員 副委員長
	泉大津市社会福祉協議会	泉大津市地域福祉活動計画推進委員 副委員長
	泉大津市医師会	令和6年度「大阪府泉州北部在宅医療サービス基盤整備推進事業」における在宅医療推進円滑化委員会委員
	泉大津市医師会	令和6年度「大阪府泉州北部在宅医療サービス基盤整備推進事業」における在宅療養継続検討委員会委員
	宝塚市	宝塚市国民健康保険運営協議会委員
	貝塚市	第4期健康かいつか21策定支援業務に係る委託業務実施事業者選定委員会委員
	泉南市	泉南市地域包括ケア計画推進委員会、泉南市地域包括支援センター運営協議会及び泉南市地域密着型サービスの運営に関する委員会委員長
	泉南市	泉南市要介護認定及び介護給付業務等に伴う業務委託事業者選定に係る公募型プロポーザル選定委員会委員長
	大阪府福祉部高齢介護室	大阪府介護支援専門員研修向上委員会委員
	文部科学省	大学設置・学校法人審議会（大学設置分科会）専門委員（幹事）
	厚生労働省	保健師助産師看護師試験委員

名前	委嘱先	職務内容
河野 あゆみ (地域包括ケア科学)	日本学術振興会	学術システム研究センター専門研究員
	日本在宅ケア学会	編集委員会委員長、理事、第30回学術集会長
	日本地域看護学会	副理事長、査読委員
	日本看護科学学会	和文誌編集長、代議員、選挙管理委員
	日本老年看護学会	代議員、査読委員
	日本老年社会科学会	評議員、研究倫理委員
	日本公衆衛生学会	高齢者の保健福祉に関する委員会委員
	Geriatrics&Gerontology International	編集委員
作田 裕美	日本看護研究学会	理事、評議員、学会賞・奨励賞委員会委員長、学会賞・奨励賞委員会委員
	日本がん看護学会	理事、評議員、編集委員会委員長
	日本看護管理学会	評議員
	日本がんサポーターズケア学会	評議員、リンパ浮腫部会部会長（2023年度まで） 2024年度からリンパ浮腫部会副部会長
	日本放射線看護学会	理事、広報渉外委員会委員長
	International Lymphoedema Framework Japan	理事
	日本リンパ浮腫学会	理事、保険委員会・ガイドライン委員会・教育委員会・ クリニカルパス委員会委員
佐藤 淑子	日本看護系大学協議会	文部科学省委託事業「大学における医療人養成のあり方に関する調査研究」調査事業実行委員会委員
	日本看護系大学協議会	高度実践看護師教育課程認定委員会 感染看護専門分科会副委員長
志田 京子	EAFONS2023	運営委員
白井 みどり	公益社団法人関西シルバーサービス協会	大阪府介護情報・研修センター事業運営会議委員長
	日本シーティング・コンサルタント協会	車椅子シーティング実践ガイドライン2019改訂委員会委員
田中 京子	日本看護系大学協議会	理事 ・ 広報・出版委員会 委員長

名前	委嘱先	職務内容
田中 京子	日本看護系大学協議会	高度実践看護師教育課程認定委員会 がん看護専門分科会委員
	大阪府	大阪府医療審議会委員
	日本がん看護学会	第40回学術集会企画委員 ・ 査読委員
	日本がん看護学会	第39回学術集会2025年度教育セミナー7 座長
	日本がん看護学会	第38回学術集会2024年度教育セミナー 座長
	日本看護科学学会	第43回日本看護科学学会学術集会 座長
玉上 麻美	大阪市・こどもの居場所開設支援事業選定委員	「大阪市こどもの居場所開設支援事業」の選定
都筑 千景	日本公衆衛生看護学会誌	査読委員
	第42回日本看護科学学会学術集会	演題査読委員
	日本地域看護学会実践促進委員会	委員
	第11回日本公衆衛生看護学会学術集会	演題査読委員
	第12回日本公衆衛生看護学会学術集会	演題査読委員
	第26回東アジア研究者フォーラム（EAFONS）	演題査読委員
	日本学術振興会科学研究費委員会	専門委員
	日本公衆衛生看護学会	2023年度学術奨励賞論文 選考委員
	日本公衆衛生学会	代議員
	伊丹市保健医療推進協議会	委員
	日本地域看護学会第26回学術集会	演題査読委員
	日本地域看護学会第27回学術集会	演題査読委員
	日本公衆衛生看護学会表彰委員会	委員
	第44回日本看護科学学会学術集会	演題査読委員

名前	委嘱先	職務内容
都筑 千景	日本小児保健協会「小児保健研究」	編集委員
	日本小児保健協会「小児保健研究」	査読委員
	日本地域看護学会	代議員
	日本地域看護学会編集委員会	委員
	日本看護科学学会和文誌	専任査読委員
	日本公衆衛生雑誌	査読委員
	日本公衆衛生看護学会編集委員会	委員
	厚生労働省 医道審議会専門委員	委員（保健師助産師看護師分科会KV部会委員）
	日本看護科学学会	代議員
	羽曳野市健康づくり推進協議会	委員
	大阪府藤井寺保健所運営協議会	委員
	厚生労働省保健師助産師看護師国家試験委員	試験委員・副試験委員長
	日本公衆衛生看護学会表彰論文選考委員会	委員
	日本公衆衛生看護学会	代議員
土肥 美子	大阪府看護協会	大阪府専任教員養成講習会運営委員会委員
	日本看護科学学会	和文誌専任査読委員
富川 順子	日本精神保健看護学会	教育の質向上委員会 学会員の教育の質向上支援に関する企画・研究
	日本精神科看護協会大阪府支部	投稿論文査読委員
	日本精神保健看護学会	学会誌査読委員
	高知女子大学看護学会	学会誌査読委員
	日本精神保健看護学会	第33回学術集会 投稿論文査読委員

名前	委嘱先	職務内容
富川 順子	羽曳野市	羽曳野市人権委員会 委員長
	大阪府看護協会	倫理審査委員会 研究論文倫理審査委員
長畑 多代	大阪府福祉部高齢介護室	大阪府介護保険審査会委員
	藤井寺市	藤井寺市地域包括支援センター運営協議会及び藤井寺市地域密着型サービス運営委員会委員
	日本老年看護学会	評議員
	日本老年看護学会	学会誌編集委員
	羽曳野市介護認定審査会	委員
	羽曳野市介護保険等推進協議会	会長
	藤井寺市介護認定審査会	委員
中山 美由紀	家族看護学会	家族看護研究編集委員会 家族看護研究編集 委員
	小児保健研究	小児保健研究編集委員会 小児保健研究編集 委員長
	JUNPU日本看護系大学協議会	JANPU高度実践看護師教育課程認定委員会 高度実践看護師教育課程審査 委員
	日本学術振興会	科学研究費審査委員会（2023～2024） 国際研究加速化基金審査 委員
仁尾 かおり	日本小児循環器学会	評議員、多領域専門職委員会委員長、和文誌編集委員会委員
	日本小児看護学会	評議員、編集委員会委員
	日本看護研究学会	評議員
	大阪府移行期医療支援センター	大阪移行期医療推進会議委員
	日本看護学教育評価機構	評価員
旗持 知恵子	日本循環器看護学会	理事、副理事長（2022年9月～2024年9月）、将来構想委員会委員長、学会誌編集委員会委員、倫理委員会委員長、コンピテンシーワーキングオブザーバー、第22回日本循環器看護学会企画委員
	日本慢性看護学会	理事、編集委員会委員長、表彰委員会委員、COI委員会委員、評議員、第18回日本慢性看護学会学術集会企画員

名前	委嘱先	職務内容
旗持 知恵子	日本看護科学学会	和文誌専任査読委員
	日本糖尿病教育・看護学会	専任査読委員
	日本看護研究学会	専任査読委員
	聖路加看護学会	学術交流委員
	日本看護教育学会	評議員、専任査読者
	厚生労働省健康局	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業中間・事後評価委員会 評価委員
	日本看護系大学協議会	高度実践看護師教育課程認定委員会 慢性看護専門分科会委員長・副委員長
平谷 優子	日本重症心身障害福祉協会	重症心身障害看護師認定更新審査会審査委員
	日本看護研究学会	第51回学術集会企画委員
	日本学術振興会	科学研究費委員会専門委員
細田 泰子	科学技術振興機構（JST）	創発的研究支援事業 外部専門家
	日本学術振興会（JSPS）	科学研究費委員会専門委員【挑戦的研究（開拓・萌芽）】幹事（社会医学、看護学およびその関連分野）
	日本看護系大学協議会(JANPU)	高等教育行政対策委員会委員
	日本看護系大学協議会(JANPU)	看護学教育質向上委員会委員
	日本看護学教育評価機構(JABNE)	評価委員会委員
	日本看護学教育評価機構（JABNE）	2023年度評価員（主査）
	日本看護科学学会	代議員
	日本看護科学学会	和文誌編集委員
	日本看護科学学会	和文誌専任査読委員
	日本看護倫理学会	代議員
	日本看護学教育学会	理事

名前	委嘱先	職務内容
細田 泰子	日本看護学教育学会	評議員
	日本看護学教育学会	倫理委員会 委員長
	日本看護学教育学会	利益相反委員会 副委員長
	日本看護学教育学会	学会誌 専任査読者
	日本看護研究学会	評議員
	日本看護研究学会	学会誌 専任査読委員
	The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars	査読委員
松田 光信	大阪医科薬科大学	教育研究内部質保証評価会議構成員
	大阪医科薬科大学	看護学部カリキュラム評価委員会委員
	大阪公立大学大学院医学研究科	大阪公立大学医学系研究等倫理審査委員会委員
	日本看護研究学会	評議員
	日本精神保健看護学会	理事
	日本精神保健看護学会	代議員
	日本精神保健看護学会	教育の質向上委員会・委員長
	日本精神保健看護学会	虐待防止動画制作ワーキンググループ・委員
	日本精神保健看護学会	第33回学術集会・企画運営
	日本看護科学学会	和文誌専任査読委員
	日本看護研究学会	和文誌編集委員会・委員
	日本看護研究学会	査読委員
	日本看護研究学会	第51回学術集会・企画委員
	日本看護学教育学会	評議員

名前	委嘱先	職務内容
松田 光信	日本看護学教育学会	編集委員会・委員
	日本看護学教育学会	専任査読者
	日本看護系大学協議会	看護学教育向上委員会 委員
	大阪市	すこやか大阪21（第2次後期）推進会議委員
	大阪市	すこやか大阪21（第3次）推進会議委員
	日本精神科看護協会	査読委員
三輪 恭子	日本在宅ケア学会	第28回日本在宅ケア学会学術集会運営委員
	大阪府看護協会	地域包括ケア担当理事
	日本専門看護師協議会	第12回日本CNS看護学会企画委員
	日本在宅看護学会	研究倫理委員会副委員長
	日本地域看護学会	実践促進委員会委員
	日本在宅ケア学会	理事，学会活動推進委員会委員長
	日本在宅ケア学会	第30回日本在宅ケア学会学術集会事務局長
森本 明子	日本循環器病予防学会	評議員，査読委員
	糖尿病・生活習慣病ヒューマンデータ学会	発起人，評議員
	独立行政法人日本学術振興会	審査委員
	大阪府	大阪府ヘルスアップ支援事業 委員
	日本医療研究開発機構（AMED）	科学技術調査員
	藤井寺市	藤井寺市一体的地域ケア会議 委員
	26th East Asian Forum of Nursing Scholars 事務局	学会査読委員
	厚生労働省（健康局健康課）	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業 中間・事後評価委員会 委員

名前	委嘱先	職務内容
山口 曜子	日本看護研究学会 日本糖尿病教育看護学会	査読委員
横山 美江	桶谷式母乳育児推進協会	桶谷式倫理審査委員会
	大阪ガス福祉財団	調査・研究助成審査委員会委員
	内閣官房	孤独孤立対策の在り方に関する有識者会議
	内閣官房	孤独・孤立の実態把握に関する研究会委員
	内閣府	孤独孤立対策の在り方に関する有識者会議
	内閣府	孤独・孤立の実態把握に関する研究会委員
	豊中市	建築審査会
	豊中市	保健医療審議会
	日本地域看護学会	日本地域看護学会誌査読委員
	西宮市保健所	双子・三つ子の親になる人のつどい
	大阪市子ども青少年局	子ども・子育て支援会議専門委員
	大阪市子ども青少年局	こどもの居場所開設支援事業選定委員
	大阪市東成区	健康づくり協議会委員（アドバイザー）
	内閣府	孤独孤立対策の在り方に関する有識者会議
	西宮市保健所	双子・三つ子の親になる人のつどい
	日本公衆衛生学会	親子保健・学校保健モニタリンググループ委員
	日本地域看護学会	日本地域看護学会誌査読委員
	日本公衆衛生看護学会	日本公衆衛生看護学会誌査読委員
	日本看護研究学会	Journal of International Nursing Research編集委員
	日本双生児研究学会	理事長

名前	委嘱先	職務内容
横山 美江	International Society of Twin Studies	理事
	内閣府	孤独孤立対策の在り方に関する有識者会議
渡邊 香織	文部科学省	大学設置・学校法人審議会（大学設置分科会）専門委員
	日本母性看護学会	評議員
	文部科学省	大学設置・学校法人審議会（大学設置分科会）専門委員 主査代理

（准教授）

名前	委嘱先	職務内容
岡野 明美	日本在宅ケア学会	日本在宅ケア学第30回学術集会実行委員
	日本地域看護学会	次世代育成員
	日本地域看護学会	実践促進委員会委員
	藤井寺市	地域包括支援センター運営協議会
	藤井寺市	保健福祉計画推進協議会
	羽曳野市	介護認定審査委員
奥野 裕子	日本発達障害ネットワーク(JDDnet)	「ペアレント・トレーニング実施における評価ツールの作成と活用に関する研究」の事業 委員
	大阪府堺市	堺市発達障害者支援センター運営業務；学識経験者による意見聴取委員
	日本精神保健看護学会	第33回学術集会実行委員
	堺市	堺市立こどもリハビリテーションセンター指定管理者選定委員
	日本精神保健看護学会	精神科医療現場における虐待防止のための動画制作WG
	大阪府	大阪府ペアレント・メンター事業運営委員
勝山 愛	大阪公立大学看護同窓会	大阪公立大学同窓会役員
	日本看護学教育学会	編集委員
九津見 雅美	ネットワーク医療と人権	患者家族研究会 研究委員

名前	委嘱先	職務内容
河野 あゆみ (精神看護学)	日本看護科学学会	代議員 (2024年度～)
	日本看護研究学会	評議員 (2021年～2023年度)
	日本精神保健看護学会	教育の質向上委員会 副委員長 (2020年～2024年度)
佐竹 陽子	日本緩和医療学会	学術大会支援メンバーWG WG委員
	日本看護協会	日本看護学会誌 査読委員
	香川大学	看護学雑誌 査読委員
清水 彩	日本新生児看護学会	理事
	日本新生児看護学会	ディベロップメンタルケア委員会 委員
	日本助産学会	専任査読委員
	日本助産学会	編集委員会 委員
	日本新生児看護学会	第33回学術集会日本新生児看護学会・第68回日本新生児成育医学会合同 シンポジウム 座長
	日本助産学会	第38回学術集会 シンポジウム 座長
	日本助産学会	第38回学術集会 シンポジウム 講師
	日本ディベロップメンタルケア研究会	第28回セミナー 講師
園田 奈央	26th East Asian Forum of Nursing Scholars 事務局	学会査読委員
田中 健太郎	日本教育医学学会	査読委員
	日本公衆衛生看護学会	広報委員
	日本衛生学会	第1回キックオフセミナー企画・実行委員
	日本衛生学会	衛生学と看護学の橋渡し連携研究会委員
林田 裕美	大阪府看護協会 教育委員会	委員長
	日本がん看護学会	第39回日本がん看護学会学術集会査読委員

名前	委嘱先	職務内容
古山 美穂	日本学術振興会	科学研究費委員会専門委員
	羽曳野市教育委員会	教育委員
	羽曳野市	羽曳野市表彰審査委員会委員
	羽曳野市	羽曳野市社会福祉協議会理事
	泉カナン会	評議員
	泉カナン会聖愛保育園	苦情解決第三者委員
	河内長野市教育研究会・養護教諭部会	河内長野市教育研究会養護教諭部会講師
	児童虐待防止協会	研究・研修事業部 研修企画・運営担当
	大阪府立学校養護教諭研究会 (大阪府立野崎高等学校)	第4地区養護教諭研究会アドバイザー
細名 水生	大阪府看護協会	2022年度大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会 実習指導方法「基礎看護学実習」講師
	大阪公立大学医学部附属病院看護部	看護研究倫理審査委員会 外部委員
	神戸海星病院	2022年度臨床看護研究非常勤講師
	日本学術振興会	科学研究費委員会専門委員
	大阪府看護協会	2023年度大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会 実習指導方法「基礎看護学実習」講師
	神戸海星病院	2023年度臨床看護研究指導非常勤講師
	大阪府看護協会	学会委員会委員
	神戸海星病院	2024年度臨床看護研究指導
	大阪府看護協会	2024年度大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会 実習指導方法論「基礎看護学実習」
	大阪府看護協会	第12回大阪府看護学会学会委員
	大阪公立大学医学部附属病院看護部	副師長会講義「「後輩に研究を指導できる」研究計画書 を作成する」講師
南村 二美代	日本慢性看護学会	編集委員会委員

名前	委嘱先	職務内容
南村 二美代	大阪府看護協会	学会委員会委員
	第10回大阪府看護学会	学会委員
森木 ゆう子	日本看護協会 看護研修学校	日本看護学会誌査読委員
	香川大学	査読委員
	日本救急看護学会	査読委員
	日本クリティカルケア看護学会	編集委員会
	日本クリティカルケア看護学会	査読委員
和木 明日香	日本助産学会	専任査読委員

(講師)

名前	委嘱先	職務内容
池田 直隆	日本在宅ケア学会	査読委員
	大阪府訪問看護ステーション協会	新卒看護師育成部会
	日本腎臓リハビリテーション学会	ガイドライン作成委員
伊藤 良子	日本フォレンジック看護学会	代議員
井上 奈々	日本看護協会	日本看護学会-急性期看護-論文選考委員
	日本看護協会	日本看護学会-急性期看護-論文選考委員
	日本看護協会	日本看護学会-急性期看護-論文選考委員
大槻 奈緒子	日本在宅ケア学会	在宅ケア学会学術集会企画委員
大野 志保	TEAと質的探究学会	編集委員
	河内長野市教育研究会 養護教諭部会	小・中学校における事例検討会のアドバイザー
	河内長野市教育研究会 養護教諭部会	事例検討会への指導助言
	大阪健康を守るサークル連絡会	学習会講師

名前	委嘱先	職務内容
大野 志保	日本養護教諭教育学会	代議員
	日本養護実践学会	評議員
高 知恵	大阪市生野区 「生きるチカラ学びサポート事業」	講師
呉代 華容	池田市	池田市豊能町能勢町介護認定審査会委員
篠原 真咲	日本在宅ケア学会政策提言検討委員会	政策提言検討委員会
高尾 鮎美	日本がん看護学会	専任査読者
	日本緩和医療学会	学術集会支援WG委員
徳岡 良恵	日本看護協会	日本看護学会誌 査読
	日本がん看護学会	日本がん看護学会 査読
戸田まどか	第11回看護理工学会学術集会 実行委員会 (2023年6月開催)	学術集会開催における会計業務を主とした業務を担当
仲井 あや	文化看護学会	評議員
	文化看護学会	研究活動推進委員会委員
	日本新生児看護学会	評議員
	日本新生児看護学会	国際交流委員会委員
	千葉看護学会	代議員
	千葉看護学会	表彰論文選考委員会委員
	千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター	令和6年度「次世代育成力」の強化を目指す看護系大学教員向けレベル別FD研修
長野 弥生	大阪公立大学看護同窓会	大阪公立大学同窓会役員
	藤井寺市	藤井寺市介護認定審査会委員
中村 雅美	石切生喜病院	非常勤看護師
	日本腎臓病協会腎臓病療養指導しに関する 評価普及委員会	委員

名前	委嘱先	職務内容
中村 雅美	日本慢性看護学会	評議員
	日本腎不全看護学会	理事
	日本腎不全看護学会	専任査読者
中山 祐一	日本家族看護学会	第30回学術集会 企画運営委員
	日本小児保健協会	「小児保健研究」投稿論文査読委員
	日本小児看護学会	専任査読者
根来 佐由美	羽曳野市	羽曳野市介護認定審査会委員
	藤井寺市	藤井寺市健康づくり推進協議会委員
松本 起史	国立病院看護研究学会	国立病院看護研究学会誌査読委員
	国立病院看護研究学会	国立病院看護研究学会誌査読委員
水引 智央	日本看護学教育学会 倫理委員会	委員
	日本看護学教育学会 将来構想検討委員会	未来の看護を創る次世代教育チーム
宮下 佳代子	日本小児血液・がん学会	看護委員会
	日本家族看護学会	第30回日本家族看護学会学術集会 実行委員
	病気の子どものトータルケアセミナーin大阪	代表、企画・運営スタッフ
安本 理抄	羽曳野市	羽曳野市介護認定審査会委員
	大阪府看護協会	府南支部 保健師職能委員
	大阪府四條畷保健所	結核患者治療成績評価検討会講師
	大阪府富田林市保健所	結核患者治療成績評価検討会講師
	一般社団法人日本公衆衛生看護学会	査読委員

受賞（教授）

名前	受賞年月	賞名	授与機関
河野 あゆみ (地域包括ケア 科学)	2023年3月	優秀テキスト賞	大阪公立大学教育後援会
志田 京子	2023年12月	優秀口頭発表賞	経験2～3年を有する看護師のクリニカルリーズニング 向上支援プログラムの開発
白井 みどり	2024年5月	大阪府看護事業功労者表彰	大阪府
玉上 麻美	2022年5月	令和4年度「憲法記念日知事表彰	大阪府
土肥 美子	2022年12月	優秀演題抄録賞	第42回日本看護科学学会学術集会
	2022年12月	ベストティーチャー賞	大阪医科薬科大学
	2022年8月	優秀演題賞（育成部門）	日本看護学教育学会第32回学術集会
	2022年8月	最優秀演題賞（発展部門）	日本看護学教育学会第33回学術集会
長畑 多代	2022年5月	大阪府看護功労賞	大阪府
仁尾 かおり	2022年12月	優秀演題口頭発表賞	日本看護科学学会第42回学術集会
旗持 知恵子	2024年8月	優秀演題賞	日本慢性看護学会
	2024年8月	奨励賞	日本看護研究学会
細田 泰子	2022年8月	最優秀演題賞（発展部門）	日本看護学教育学会（第32回学術集会）
	2022年8月	最優秀演題賞（育成部門）	日本看護学教育学会（第32回学術集会）
	2022年8月	優秀演題賞（育成部門）	日本看護学教育学会（第32回学術集会）
	2022年12月	優秀演題抄録賞	日本看護科学学会（第42回学術集会）
	2023年8月	奨励賞	日本看護研究学会
	2023年12月	若手優秀演題口頭発表賞	日本看護科学学会（第43回学術集会）

名前	受賞年月	賞名	授与機関
細田 泰子	2024年12月	最優秀演題ポスター発表賞	日本看護科学学会（第44回学術集会）
松田 光信	2022年8月	奨励賞	一般社団法人日本看護研究学会
森本 明子	2024年12月	第44回日本看護科学学会学術集会 最優秀演題口頭発表賞	日本看護科学学会
	2023年3月	大阪公立大学 学長表彰	大阪公立大学
横山 美江	2023年12月	大阪公立大学 学長賞（教育分野）	大阪公立大学
	2022年	日本公衆衛生看護学会学術奨励賞	日本公衆衛生看護学会
	2022年	優秀テキスト賞	大阪公立大学

（准教授）

名前	受賞年月	賞名	授与機関
岡野 明美	2025年1月	学術奨励賞	日本公衆衛生看護学会
	2022年8月	最優秀論文賞	日本地域看護学会
勝山 愛	2024年12月	最優秀ポスター演題発表賞	第44回日本看護科学学会学術集会
	2022年12月	優秀演題抄録賞	日本看護科学学会（第42回学術集会）
	2022年8月	最優秀演題賞 発展部門（示説）	日本看護学教育学会（第32回学術集会）
	2022年8月	優秀演題賞 育成部門（示説）	日本看護学教育学会（第32回学術集会）
河野 あゆみ （精神看護学）	2022年8月	日本看護研究学会2021年度奨励賞	日本看護研究学会
佐竹 陽子	2024年6月	最優秀演題賞	第20回日本クリティカルケア看護学会学術集会
	2022年12月	優秀演題ポスター発表賞	日本看護科学学会（第42回学術集会）
園田 奈央	2024年12月	最優秀演題口頭発表賞	第44回日本看護科学学会学術集会

名前	受賞年月	賞名	授与機関
藤田 寿一	2023年3月	Best Oral Presentation	4th International Conference on Cancer Science and Radiology Committee
古山 美穂	2023年11月	日本国際保健医療学会奨励賞	日本国際保健医療学会
	2023年6月	大阪府助産師会会長表彰	大阪府助産師会
細名 水生	2024年3月	The fifth research conference of the International Society of Caring & Peace, Excellent poster award	The fifth research conference of the International Society of Caring & Peace
南村二美代	2024年8月	奨励賞	日本看護研究学会
	2024年8月	優秀演題賞	日本慢性看護学会

（講師）

名前	受賞年月	賞名	授与機関
井上 奈々	2024年6月	最優秀賞	日本クリティカルケア看護学会
大槻 奈緒子	2022年12月	第21回学術論文奨励賞受賞	日本看護科学学会
高 知恵	2023年12月	2022年度水沼賞	日本女性医学学会
	2023年11月	日本国際保健医療学会奨励賞	日本国際保健医療学会
高尾 鮎美	2024年9月	優秀演題賞	日本緩和医療学会関西支部
	2024年2月	大阪大学大学院医学系研究科保健学優秀論文賞	大阪大学大学院医学系研究科
中山 祐一	2024年10月	児童青年精神医学会優秀賞	児童青年精神医学会
根来 佐由美	2024年11月	羽曳野市市民表彰「自治功労者表彰」	羽曳野市
	2024年10月	学長表彰	公立大学法人大阪大阪公立大学
	2024年6月	大阪府看護協会会長表彰	公益社団法人大阪府看護協会
	2024年6月	奨励論文賞	日本地域看護学会
松本 赳史	2023年12月	ポスター（発表動画）賞	国立病院看護研究学会
水引 智央	2024年3月	杏樹賞	大阪府立大学
	2024年3月	学長表彰	大阪府立大学

名前	受賞年月	賞名	授与機関
水引 智央	2023年12月	若手優秀演題口頭発表賞	日本看護科学学会
	2022年12月	学長表彰	大阪府立大学
	2022年8月	最優秀演題賞 育成部門（示説）	日本看護学教育学会

社会貢献活動（教授）

名前	委嘱先	職務内容
北村 愛子	大阪公立大学	クリティカルケア看護実践講座
	奈良県看護協会	災害支援ナース養成研修
	警和会大阪警察病院	医療コンフリクトマネジメント
佐藤 淑子	大阪府看護協会	大阪府看護協会感染管理認定看護師教育課程 講義
	大阪商工会議所事業	大阪商工会議所主催のセミナー講師
志田 京子	南河内看護管理者会	研修講師 新人看護師のための看護倫理
	南河内看護管理者会	看護倫理
	大阪府看護協会	研修講師（大阪府看護協会）
	甲南女子大学	非常勤講師（甲南女子大学）
	奈良県看護協会	研修講師（奈良県看護協会）
	大阪公立大学医学部附属病院看護部	看護管理者研修-概念化スキルを理解する
	大阪公立大学医学部附属病院看護部	コンフリクトマネジメント
	北摂総合病院	倫理的職場風土の醸成
白井 みどり	関西シルバーサービス協会	大阪府介護情報・研修センター事業運営会議
	きつこう会	KHSアクショングランプリ
	大阪介護支援専門員協会	高齢者の「できる」をめざして環境支援を学ぼう
	淀川勤労者厚生協会	介護保険施設における環境支援
玉上 麻美	母子衛生研究会	マタニティセミナー講師
	大阪府助産師会	大阪府助産師会常任理事
	大阪母性衛生学会	大阪母性衛生学会常任理事
	日本母性衛生学会	日本母性衛生学会・代議員
	大阪府助産師会	大阪府助産師会理事(副会長)
都筑 千景	秋田県	秋田県 地域・職域連携推進の理解を深めるための研修会講師
	大阪府健康医療部健康医療総務課	令和4年度 大阪府保健師研修講師「2年目研修」
	大阪府健康医療部健康医療総務課	令和5年度 大阪府保健師研修講師「1年目研修」
	日本公衆衛生看護学会	第12回日本公衆衛生看護学会学術集会一般演題座長
	大阪府健康医療部健康医療総務課	令和5年度 大阪府保健師研修講師「2年目研修」
	秋田県	秋田県 地域・職域連携推進の理解を深めるための研修会講師
	大阪市社会福祉協議会	令和5年 地域包括支援センターワーキング企画研修会講師
	大阪府健康医療部健康医療総務課	令和6年度 大阪府保健師2年目研修①講師
	大阪市社会福祉協議会	令和6年度 大阪市地域包括支援センター職員・総合相談職員合同研修会講師
	大阪市健康局	大阪市健康局 地域職域連携推進にかかる課内検討会への助言

名前	委嘱先	職務内容
都筑 千景	伊丹市	伊丹市 2024年度 包括研修(保健師・看護師)講師
	大阪市健康局	令和6年度 大阪市における地域職域連携推進のための職員研修講師
	大阪府健康医療部健康医療総務課	令和6年度 大阪府保健師 2 年目研修②講師
	大阪市健康局	令和6年度 地域・職域保健実務者会議講師・アドバイザー
土肥 美子	大阪公立大学医学部附属病院	大阪公立大学附属病院看護研究倫理審査委員会外部委員
	大阪府看護協会	大阪府専任教員養成講習会 運営委員会委員
富川 順子	高知女子大学看護学会	高知女子大学看護学会誌査読委員
	大阪公立大学	精神看護オンライン講座
	大阪府看護協会	大阪府看護協会研修 看護倫理,看護師のストレスマネジメント
	羽曳野市	羽曳野市人権審議会 会長
	日本精神保健看護学会	日本精神保健看護学会誌 査読委員
	大阪府看護協会	大阪府看護協会 倫理審査委員会 委員
	日本精神科看護協会	日本精神科看護協会大阪府支部看護研究発表会 査読委員
	湊川病院	湊川病院 看護部倫理委員会 委員
	大阪府看護協会	大阪府看護協会「新人看護職員教育担当者研修」
	訪問看護ステーション ナーシングトラストとの合同開催	精神看護援助特論 7 精神科訪問看護の実際（ナーシングトラストとの共同講義）
	和歌山県看護協会	和歌山県看護協会看護管理者教育課程セカンドレベル「組織看護論 II」
	日本精神保健看護学会	日本精神保健看護学会第33回学術集会 一般演題査読
	浅香山病院	浅香山病院 精神科看護オンライン研修会 講師
	浅香山病院	浅香山病院 看護管理者研修会 講師
長畑 多代	堺市人権教育推進協議会	認知症高齢者への対応 一 家族や知人として地域で支えるにはー
	大阪府高齢者大学校	認知症の症状とその対応
旗持 知恵子	健康と病の語りディベックすジャパン	アドバイザー委員
	大阪はびきの医療センター	看護研究研修会 講師
	国立循環器病研究センター	看護研究研修 講師
	大阪急性期・総合医療センター	メディカルほっとライン16号執筆
平谷 優子	大阪公立大学医学部附属病院	大阪公立大学医学部附属病院看護部主催院内研修「看護研究」講師
	大阪公立大学医学部附属病院	大阪公立大学医学部附属病院看護部主催院内研修「専門領域別研修・看護研究ゼミ」講師
細田 泰子	和歌山県立医科大学保健看護学部	和歌山県立医科大学保健看護学部「看護教育論」非常勤講師
	東京純心大学	東京純心大学 科研費研修会 講師
	大阪府看護協会	2022年度 大阪府専任教員養成講習会 「看護教育評価論」 講師
	大阪公立大学大学院看護学研究科	2022年度看護職のための継続教育実践講座 臨床判断能力の育成と学習環境

名前	委嘱先	職務内容
細田 泰子	大阪府立病院機構	大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター 令和4年度トピック研修講師
	関西国際大学大学院看護学研究科学	関西国際大学大学院看護学研究科博士後期課程「看護学教育論」非常勤講師
	大阪府看護協会	2023年度 大阪府専任教員養成講習会 「看護教育評価論」 講師
	大阪公立大学大学院看護学研究科	2023年度看護職のための継続教育実践講座 臨床判断能力の育成と学習環境
	静岡県立大学看護学部 在宅看護学領域・看護教育研究実践センター	静岡県立大学看護学部 在宅看護学領域・看護教育研究実践センター 共催 訪問看護リカレント研修会 講師
	大阪府看護協会	2024年度 大阪府専任教員養成講習会 「看護教育評価論」 講師
	大阪公立大学大学院看護学研究科	2024年度看護職のための継続教育実践講座 臨床判断モデルとルーブリックの活用
	日本看護系大学協議会	日本看護系大学協議会 Academic Administration研修会（教学マネジメントに関する研修）
松田 光信	住友ファーマ株式会社	これからの在宅医療を考える会：「精神障害者の視座による訪問看護への期待」
	大阪公立大学精神看護学・精神行動ケア科学	【精神看護オンライン研修会】心理教育の基本
	大阪公立大学精神看護学・精神行動ケア科学	【OMU 精神看護オンライン研修会】当事者のニーズに応える精神科訪問看護
	大阪公立大学精神看護学・精神行動ケア科学	【OMU 精神看護オンラインセミナー】企画・運営・講師
三輪 恭子	大阪府看護協会	令和4年度 大阪府看護協会 看護管理者教育課程 セカンドレベル
	メディカ出版	メディカ出版 CandY Link「講義動画EXコース」地域包括ケアシステムの概要
	交野市	令和4年度 交野市 終活セミナー
	筑波大学	令和4年度 厚生労働省委託事業人生の最終段階における医療体制整備事業 本人の意向に沿った意思決定のための研修会 在宅医療・施設ケア従事者版
	宮崎県病院局	令和4年度 宮崎県立病院看護職員研修
	宮崎県看護協会	令和4年度 宮崎県看護協会 病棟看護師が取り組む入退院支援
	大阪府看護協会	令和5年度 大阪府看護協会 看護管理者教育課程 セカンドレベル
	大阪府看護協会	令和5年度 大阪府看護協会 入退院支援強化研修
	大阪府看護協会	令和5年度 大阪府看護協会 実習指導者講習会
	神戸女子大学	令和5年度 神戸女子大学 看護セミナー
	宮崎県看護協会	令和5年度 宮崎県看護協会 入退院支援看護師養成研修
	大阪府看護協会	令和5年度 大阪府看護協会 主任・副師長研修
	交野市	令和5年度 交野市 終活セミナー
	大阪府看護協会	令和6年度 大阪府看護協会 看護管理者教育課程 セカンドレベル
	大阪府看護協会	令和6年度 大阪府看護協会 実習指導者講習会
	大阪府看護協会	令和6年度 大阪府看護協会 主任・副師長研修
	宮崎県看護協会	令和6年度 宮崎県看護協会 入退院支援看護師養成研修
	市立吹田市民病院	令和6年度 看護局管理者研修

名前	委嘱先	職務内容
三輪 恭子	大阪府看護協会	令和6年度 市南支部研修
森本 明子	藤井寺市	藤井寺市一体的地域ケア会議
	国民健康保険ヘルスアップ支援事業 特定健診受診率向上プロジェクト	特定健診の実施方法・受診勧奨方法に関するアンケート調査
	国民健康保険ヘルスアップ支援事業 特定健診受診率向上プロジェクト	特定健診の受診勧奨に関するワークショップ（PDCAサイクル, ドナベディアンモデル）
	国民健康保険ヘルスアップ支援事業 特定健診受診率向上プロジェクト	特定健診の受診勧奨に関する相談会
	国民健康保険ヘルスアップ支援事業 特定健診受診率向上プロジェクト	特定健診の受診勧奨に関するワークショップ（受診勧奨資材）
	大阪府立大学 社会連携課	特定健診受診率向上プロジェクト
	国民健康保険ヘルスアップ支援事業 特定健診受診率向上プロジェクト	特定健診の受診勧奨に関するワークショップ（データの可視化, 評価）
	国民健康保険ヘルスアップ支援事業 特定健診受診率向上プロジェクト	特定健診の受診勧奨に関する相談会
	減災行動促進プロジェクト	漫画冊子：あなたは地震に備えていますか？
	国民健康保険ヘルスアップ支援事業	特定健診の受診勧奨に関するワークショップ（取り組みの共有）
	大阪府立病院機構 大阪はびきの医療センター	看護研究アドバイザー
	訪問看護専門研修事業	Evidence Based Practice 最新のエビデンスを看護実践に活用する！
横山 美江	大阪市健康局健康推進部健康施策課	大阪市保健師人材育成評価検討会
	豊中市保健所 健康医療部 保険安全課 健康総務係	豊中市保健医療審議会
	西宮保健所地域保健課	双子・三つ子の親になる人のつどい
	大阪市西成区役所保健福祉課	子ども食堂支援事業
	島田市健康福祉部健康づくり課	島田市版ネウボラ構築
	大阪市健康局	大阪市3年目保健師研修会
	大阪市西成区役所保健福祉課	子ども食堂支援事業
	西宮市保健所地域保健課	双子・三つ子の親になる人のつどい
	大阪府助産師会	子育て世代包括支援センターに活かすネウボラのエッセンス
	東京都子供政策連携室	【ネウボラの仕組み】検討にあたっての意見聴取 検討ヒアリング
	徳島県看護協会	ネウボラに学ぶ切れ目のない子育て支援～保健師・助産師の連携について～
	松山市保健所健康づくり推進課	妊婦・子育て家庭への伴走型相談支援などに関する研修
	奈良県医療政策局健康推進課	奈良県中堅保健師など研修会
	山口県健康づくり課	双胎児・多胎児課程の課題と支援のポイント
	大阪市こども青少年局	大阪市こどもの居場所開設支援事業選定会議
	大阪府看護協会教育研修部	看護研究の基礎
	東成区役所保健福祉課	東成区地域生活支援システム専門分野別実務者会議

名前	委嘱先	職務内容
横山 美江	日本子ども虐待防止学会	ネウボラに学ぶ日本の児童虐待防止システムづくりについて
	西宮市保健所地域保健課	双子・三つ子の親になる人のつどい
	島田市健康福祉部健康づくり課	島田市版ネウボラ進捗会議
	豊中市都市計画推進部都市計画課	豊中市建築審査会
	大阪市こども青少年局企画課	こども・子育て支援会議 こどもの貧困対策に関する推進計画策定部会
	豊中市保健所 健康医療部 保険安全課	豊中市保健医療審議会
	大阪市東成区役所保健福祉課	東成区地域生活支援システム専門分野実務者会議
	日本家族計画協会	フィンランドのネウボラから学ぶこれからのポピュレーションアプローチ
渡邊 香織	大阪母子医療センター	大阪母子医療センター 看護研究研修
	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社	将来の妊娠に向けて今知っておくべきこととは？20代女性向けプレコンセプションケア・セミナー
	大阪母子医療センター	大阪母子医療センター 看護研究研修
	こども家庭庁委託事業 令和5年度「母子保健指導者養成に関する広報啓発一式」研修	性と健康の相談（プレコンセプションケア）に関する研修
	大阪教育文化振興財団	大阪教育文化振興財団 プレババママ教室講師
	大阪母子医療センター	大阪母子医療センター看護研究研修
	大阪府栄養士会	近畿ブロック研修会
	日本栄養士会	生涯教育実務研修e-ラーニング講師
杉本 吉恵	兵庫県栄養士会	スキルアップ研修
	大阪府立八尾高等学校	看護の魅力

（准教授）

名前	委嘱先	職務内容
奥野 裕子	日本ペアレントトレーニング研究会	日本ペアレントトレーニング研究会 インストラクター養成研修会（SV）
	湊川病院	湊川病院看護研究指導・倫理委員会
	大阪公立大学	大阪公立大学 精神看護分野 オンライン研修
	日本ペアレントトレーニング研究会	日本ペアレントトレーニング研究会 研修SV
	日本ペアレントトレーニング研究会	日本ペアレントトレーニング研究会 研究大会
	日本精神保健看護学会	日本精神保健看護学会第33回学術集会実行委員
	堺市	堺市立こどもリハビリテーションセンター指定管理者選定委員
	大阪公立大学	大阪公立大学市民公開講座 発達障がいをもつ子どもへの支援ーペアレントトレーニングを通してー
	大阪公立大学	2023年度 大阪公立大学大学院看護学研究科 看護実践研究センター 活動支援事業
	大阪公立大学	大阪公立大学精神看護分野 オンライン研修
	日本精神保健看護学会	日本精神保健看護学会 精神科医療現場における虐待防止のための動画制作WG
	日本ペアレントトレーニング研究会	2023年日本ペアレントトレーニング研究会大会

名前	委嘱先	職務内容
奥野 裕子	日本ペアレントトレーニング研究会	日本ペアレントトレーニング研究会 研修会 ファシリテーター
	豊中市	豊中市こども園 保育士研修
	大阪公立大学	2024年度 大阪公立大学大学院看護学研究科 看護実践研究センター 活動支援事業
勝山 愛	大阪公立大学大学院看護学研究科看護実践センター	看護職のための継続教育実践講座
	大阪公立大学	大阪公立大学大学院看護学研究科主催 訪問看護専門研修
	近畿大学奈良病院看護部	近畿大学奈良病院 主任研修
九津見 雅美		レビー小体型認知症サポートネットワーク兵庫 交流会
河野 あゆみ (精神看護学)	大阪公立大学	大阪公立大学大学院看護学研究科 看護実践研究センター 精神看護オンラインセミナーの企画運営
佐竹 陽子	大阪公立大学	クリティカルケア看護実践講座
清水 彩	日本新生児看護学会	NICU に入院している新生児の痛みのケアガイドライン改訂作業
	京都府看護協会	助産師外来と超音波エコー 胎児の成長を共有し妊婦とその家族の絆を育もう
	京都府看護協会	新生児集中治療室で成長とともに変化する早産児と家族とのかかわり
	大阪公立大学はびきのキャンパス	新生児蘇生法 講習会 (Aコース)
園田 奈央	国民健康保険ヘルスアップ支援事業 特定健診受診率向上プロジェクト	特定健診の実施方法・受診勧奨方法に関するアンケート調査
	国民健康保険ヘルスアップ支援事業 特定健診受診率向上プロジェクト	特定健診の受診勧奨に関するワークショップ (PDCAサイクル, ドナベディアンモデル)
	国民健康保険ヘルスアップ支援事業 特定健診受診率向上プロジェクト	特定健診の受診勧奨に関する相談会
	国民健康保険ヘルスアップ支援事業 特定健診受診率向上プロジェクト	特定健診の受診勧奨に関するワークショップ (受診勧奨資材)
	国民健康保険ヘルスアップ支援事業 特定健診受診率向上プロジェクト	特定健診の受診勧奨に関する相談会
	羽曳野市	特定健診へ行こう ～健診は自分のカラダを知るチャンスです～
	大阪府立病院機構 5センター	量的研究のデザインとまとめ方
	国民健康保険ヘルスアップ支援事業 特定健診受診率向上プロジェクト	特定健診の受診勧奨に関する相談会
	国民健康保険ヘルスアップ支援事業 特定健診受診率向上プロジェクト	特定健診の受診勧奨に関するワークショップ (データの可視化, 評価)
	減災行動促進プロジェクト	漫画冊子：あなたは地震に備えていますか？
	国民健康保険ヘルスアップ支援事業 特定健診受診率向上プロジェクト	特定健診の受診勧奨に関するワークショップ (取り組みの共有)
	羽曳野市	特定健診へ行こう！ ～年に1度の健康チェック！！～
田中 健太郎	ロート製薬株式会社	ロート製薬株式会社健康部門従事者研修会
林田 裕美	大阪公立大学 看護学研究科	がん患者のライフステージにおける 課題対応を志向した看護師養成コース (がん看護インテンシブコース)
	大阪公立大学 看護学研究科	がん患者のライフステージにおける 課題対応を志向した看護師養成コース (がん看護インテンシブコース)
	大阪公立大学 看護学研究科	がんとの共生をめざす他職種連携シンポジウム

名前	委嘱先	職務内容
林田 裕美	大阪公立大学 看護学研究科	がん看護講演会 がんとの共生を支えるアピアランスケア
古山 美穂	大阪府教育センター附属高等学校	(出前講義) これから羽ばたく皆さんと考えたい‘生きる’ということ
	河内長野市教育研究会養護教諭部会	小中学校における学校保健に関する指導_ヤングケアラー
	東住吉総合高等学校	(出前講義) 多様な存在を認め合える自分と社会をめざすには？
	河内長野市教育研究会養護教諭部会	事例検討会
細名 水生	神戸海星病院 看護部	神戸海星病院 看護部 研究指導非常勤講師
	大阪府看護協会	大阪府看護協会 実習指導者講習会 「基礎看護学実習」
	大阪公立大学	大阪公立大学看護実践研究センター「看護職を対象とした実践に活かす看護研究セミナー」
	大阪公立大学	大阪公立大学看護実践研究センター「実践に活かす基礎から学ぶ看護研究セミナー」
	大阪公立大学	大阪公立大学看護実践研究センター「未来を拓く！基礎から学ぶ看護研究セミナー」(継続編)
	大阪公立大学	大阪公立大学看護実践研究センター「未来を拓く！基礎から学ぶ看護研究セミナー」(基礎編)
南村 二美代	大阪公立大学	療養学習支援センター ホット＆ハートの会
	メンタルケア協会	メンタルケア・スペシャリスト養成講座 講師
	地方独立行政法人大阪府立病院機構	令和5年度 5医療センター看護研究研修 講師
	地方独立行政法人大阪府立病院機構	令和6年度 5医療センター看護研究研修 講師
森木 ゆう子	大阪公立大学	大阪公立大学看護実践研究センター「看護職を対象とした実践に活かす看護研究セミナー」
	南港病院	南港病院 看護過程講習会
	大阪公立大学	大阪公立大学看護実践研究センター「実践に活かす基礎から学ぶ看護研究セミナー」
	メンタルケア協会	メンタルケア・スペシャリスト養成講座 講師
	大阪公立大学	大阪公立大学看護実践研究センター「実践に活かす基礎から学ぶ看護研究セミナー」
和木 明日香	大阪府看護協会	大阪府看護協会 専任教員養成講習会 看護論演習
		ホワイトトリボンラン淡路島
岡本 双美子	公益社 ひだまりの会	相談担当
	愛達	理事
	兵庫中央病院	研究指導
	おおさか介護サービス相談センター	専門相談員
佐保 美奈子	日本財団	日本財団助成事業「包括的性教育実践助産師の育成」プロジェクト
紙野 雪香	大阪公立大学	大阪公立大学大学院看護学研究科看護実践研究センター 「看護職のための継続教育実践講座」
	大阪国際がんセンター	大阪国際がんセンター トピックス研修(オンライン) 「キャリア開発について～自分の理想に近づけるために～」

名前	委嘱先	職務内容
紙野 雪香	静岡県看護学会	第11回静岡県看護学会（オンライン） 「語り合おう看護の今・未来」

（講師）

名前	委嘱先	職務内容
伊藤 良子	NPOレジリエンス	性暴力被害者支援の講座（SAFERプログラム）および性暴力被害にあった人のためのピアサポートグループの企画・運営
	一般社団法人Broken Rainbow - Japan	理事 講座・研修会の企画・運営、冊子作成、啓発活動
	日本フォレンジック看護学会	教育推進委員 講座・研修会等の企画および運営
	大阪府立高等学校、愛住町人権教育推進協議会、大阪市立みどり小学校	高校生を対象とした性教育、性暴力、デートDV、LGBTQ+等をテーマとした講義、市民を対象とした性暴力・DVに関する講座、および教員研修における性教育に関する講座
	大阪公立大学女性学研究センター	共同研究員 女性学講演会の運営、ジェンダーに関する情報発信を通じて社会への啓発
	大阪公立大学人権問題研究センター	研究員 人権問題に関する会議等に参加し、大阪公立大学における人権に関する取組
井上 敦子	大阪公立大学	家族への看護を考える会（看護実践研究センター活動支援）「家族看護フォーラム：家族とのかかわりの場面から支援の在り方を考える」
	大阪公立大学	家族への看護を考える会（看護実践研究センター活動支援）「家族看護フォーラム：もう一度、家族とのかかわりを始めよう」
	大阪公立大学	家族への看護を考える会（看護実践研究センター活動支援）「家族看護フォーラム：多様な家族への支援を考える」
井上 奈々	大阪公立大学	クリティカルケア看護実践講座2
	大阪公立大学	クリティカルケア看護実践講座1
	大阪公立大学	クリティカルケア看護実践講座
	大阪公立大学	クリティカルケア看護実践講座
大槻 奈緒子	寝屋川市	寝屋川市共同研究協定
	大阪府後期高齢者医療広域連合	大阪府後期高齢者医療広域連合受託研究
	橋本市民病院	橋本市民病院看護研究支援
	松原市	松原市連携協定
	橋本市民病院	橋本市民病院代謝内科・看護部との共同研究
高 知恵	今宮高等学校	出前講義（今宮高等学校） おつきあいのマナーとデートパヨレンス予防
	大阪市生野区北鶴橋小学校	出前講義（北鶴橋小学校） 二次性徴 生命の大切さ
	大阪市生野区小路小学校	出前講義（小路小学校） 二次性徴 生命の大切さ
	大阪市生野区東生野中学校	出前講義（東生野中学校） 性感染症予防
篠原 真咲	大阪公立大学	訪問看護専門研修Aコース 生活を支えるベーシックケア 「おしりの褥瘡ができたからって、座位を制限していませんか？」
	日本シーティング・コンサルタント協会	初心者のためのシーティングセミナー
	溝口クリニック	訪問看護、褥瘡交流会
	日本ストーリーナビリテーション学会	第37回東海ストーリーナビリテーション講習会

名前	委嘱先	職務内容
清水 彬礼	わかば訪問看護・京都大学大学院人間健康科学・ 京都府立医科大学付属病院	第8回 在宅に関わる医療者＆事例検討会 ～慢性疾患患者さんのケア を考える 「肥満の基礎知識 UPDATE」
長野 弥生	大阪公立大学	大阪公立大学看護同窓会
	藤井寺市	藤井寺市介護認定審査会
中山 祐一	日本家族看護学会	日本家族看護学会 企画運営委員
根来 佐由美	羽曳野市	令和4年度はびきの健康フォーラム「フレイル予防について考える」 ～人とのつながりに着目して～
山田 加奈子	大阪府立堺東高等学校	出前講義 （大阪府立堺東高等学校）
	大阪府立みどり清朋高等学校	出前講義 （大阪府立みどり清朋高等学校）
	岸和田市立産業高等学校	出前講義 （岸和田市立産業高等学校）
畠山 典子	こうち男女共同参画センターソレ・高知市	女性防災プロジェクト
	高知県健康対策課	高知県子育て世代包括支援センター連絡調整会議
	高知県	高知県母子保健アドバイザー
	高知県健康対策課	高知県母子保健コーディネーター等現任者研修会
	高知県健康対策課	高知県総合相談窓口スキルアップ研修会
	こうち男女共同参画センター	女性防災プロジェクト
		西日本豪雨災害真備町支援活動
	千葉県	千葉県子育て世代包括支援センタースキルアップ研修会
	土佐清水市健康推進課	土佐清水市子育て世代包括支援連絡協議会アドバイザー（個別ケー ス検討会議）
	大阪市	大阪市保健所感染症対策課保健師（I-HEAT）
	黒潮町	黒潮町産前産後サポート事業研修
	兵庫県	兵庫県防災リーダー養成講座
	兵庫県	令和4年度地域防災リーダー・スキルアップ講座
	土佐清水市	土佐清水市子育て世代包括支援連絡協議会 個別事例検討会
	こうち男女共同参画センター	女性防災プロジェクト 命と健康を守るため、防災を「日常化」さ せましょう
	兵庫県	兵庫県防災リーダースキルアップ講座
	兵庫県	兵庫県防災リーダースキルアップ研修
	高知県	令和5年度母子保健コーディネーター等研修
	黒潮町（高知県）	黒潮町母子保健推進員スキルアップ研修会。
	高知県	令和4年度 母子保健コーディネーター等研修会 ～児童福祉との 連携を視野に入れた 母子保健のアセスメントの視点～
	高知県	高知県母子保健コーディネーター等研修会
	高知県	令和3年度母子保健コーディネーター等研修会 -妊娠期からのポ ピュレーションアプローチCOVID-19禍における母子保健
	大阪公立大学都市科学・防災研究センター	第31回サイエンスカフェ 「女性と防災・減災の可能性～暮らしと 防災の日常化を考える～」

名前	委嘱先	職務内容
畠山 典子	千葉県	千葉県子育て世代包括支援センタースキルアップ研修会 子育て世代包括支援センターにおける健康危機管理 防災の日常化の観点より～
	大阪公立大学	大阪公立大学防災講座
	こうち男女共同参画センター	こうち女性防災プロジェクト（県西部）
	大阪公立大学・大阪府	大阪公立大学防災士養成講座（大阪府）
	南伊豆町・助けあいジャパン	「災害時タイムライン」 災害時の状況を時系列でイメージしよう
	高知県幡多福祉保健所	幡多管内母子保健指導者研修会 こども家庭センターへの移行を見据えた母子保健及び児童福祉の連携強化について
	高砂市福祉部人権福祉室人権推進課	兵庫県高砂市 男女共同参画の視点からの防災講座
	香川県	香川県中讃福祉保健所管内母子担当者会 産後ケア事業の実際と課題、産前産後の支援について考える
	芦屋市	芦屋市防災士養成講座 「感染症を含む複合災害、避難生活と公衆衛生」 コロナ禍での避難所運営について（水害版HUG・ワークショップの実施） 防災士に期待される活動
	高知県黒潮町	黒潮町 母子保健推進員養成研修
	大阪市男女共同参画センター西部館（クレオ大阪西）	男女共同参画「地域出前」セミナー事業 災害時の生活－赤ちゃんとの生活と健康の維持－
	こうち男女共同参画センター	こうち女性防災プロジェクト（県西部）
	千葉県	千葉県子育て世代包括支援センタースキルアップ研修会 子育て世代包括支援センターにおける健康危機管理 防災の日常化の観点より～
	日本災害看護学会先遣隊/調査調整部/能登半島地震支援プロジェクト	令和6年能登半島地震被災地支援活動
安本 理抄	京都外国語大学	非常勤講師（2023-2024年）
	大阪観光大学	非常勤講師（2022年）
	大阪府立大学看護学系同窓会（白鳥会）	同窓会役員（2022-2024年）

編集後記

大阪公立大学看護学部大学院看護学研究科年報第1巻を、各委員会、阿倍野キャンパス学務課、羽曳野キャンパス事務所（2022.4～2025.9 まで）の皆様のご協力により、作成することができましたことを厚く御礼申し上げます。

本報の掲載内容は、2022 年 4 月から 2024 年 3 月までの 3 年間の教育・研究等の内容に関するものです。

編集作業を通して、より一層、本大学看護学部、看護学研究科の充実のために教職員、学生らとともに改善に向け一歩ずつ積み上げる努力が必要であることを痛感いたしました。さらに大阪の社会風土に根ざす開かれた公立大学としての役割を担う、社会に貢献する意義ある教育・学術研究の府としての実績を評価されるよう今後も益々活動していきたいと考えております。

2025 年度 部局評価委員会

委員長	細田 泰子	研究科長	田中 京子
委員	伊藤 一弥	委員	中山 美由紀
委員	仁尾 かおり	委員	松田 光信
委員	三輪 恭子	委員	古山 美穂
委員	南村 二美代		

2024 年度 部局評価委員会

委員長	中山 美由紀	研究科長	田中 京子
委員	伊藤 一弥	委員	仁尾 かおり
委員	細田 泰子	委員	松田 光信
委員	三輪 恭子	委員	古山 美穂
委員	南村 二美代		

